

CONTENTS

学士課程教育プログラム

情報システム学科	4
情報デザイン学科	58
総合情報学科	114

開講科目一覧

情報システム学科	166
情報デザイン学科	171
総合情報学科	176

教職課程

情報システム学科	184
----------	-----

規程	189
----	-----

学士課程教育プログラム

情報学部情報システム学科 学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもって、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。

2 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2. 1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

専門力の育成とは、目まぐるしく変化する情報社会のどこにおいても、情報機器やネットワークの仕組みを理解し、その開発、活用に貢献できる人材を育てることです。

今日の私たちの生活は情報技術なしでは考えられません。パソコンやスマホでいろいろなアプリを使ったり、インターネットで世界中の情報を集めたりするのが当たり前になっています。

また、工場の生産現場ではロボットが大活躍し、鉄道、航空、道路の交通システムの管理や医療、災害対策にも欠かせない存在になっています。そして目には直接見えない形でも、家電製品や自動車にたくさんのコンピュータが組み込まれて私たちを助けてくれています。

こうしてコンピュータシステムやネットワークが現代社会のインフラ(基盤設備)となっているので、それを維持しさらに発展させるためには「使う人」だけでなく「発明する人」、「作る人」、「守る人」が必要なのです。つまり、たくさんのコンピュータを使いこなしてネットワークシステムを組み立て保守する人、あるいは小さなコンピュータを組み込んだ装置を作る人が要るのです。

さらに、新たな情報技術としてIoT (Internet of Things) が注目され、活用されています。IoTのもとでは、いろいろなコンピュータシステムがインターネットにつながり、相互協調や情報処理によって自動化や利便性の向上が実現、提供されています。

IoTを構成する技術としては、計測・制御を含めたコンピュータシステム(端末(モノ))技術と各コンピュータシステムをつなぐ情報ネットワーク技術そしてネットワークに接続された多くのコンピュータシステムから得られる情報をビッグデータやクラウドさらにはAIによって処理・判断するような応用情報技術があります。

このような情報技術の新しい流れに対応するため、情報システム学科では、IoTを構成するコンピュータシステム、情報ネットワークおよび応用情報処理の3つの学びを選択できるようにカリキュラムを構成しています。これらの学びにおいて、情報表現やコンピュータの動作原理、人間と機械のインターフェースなど、情報の基本を学ぶことは共通です。そして情報技術者の最大の武器であるプログラミング能力の習得にも力を入れます。

コンピュータシステムに関しては、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの両面に精通し、計測・制御システム、情報通信機器そして組み込みコンピュータシステムについても学習して、設計から製造、運用・保守まで様々な場面で応用できる知識の習得を目指します。

情報ネットワークに関しては、コンピュータおよびネットワークの両方に精通し、今後も拡大し続けるネットワーク環境に柔軟に対応するための講義・演習を展開することで実践的な能力の習得を目指します。

応用情報に関しては、デジタル信号処理や音声・画像処理等の情報処理技術をはじめとして人工知能等の基礎理論を学び、処理・判断へ応用展開できる学力の習得を目指します。

情報システム学科の卒業生は東海地方を中心に全国の製造業、情報通信業、情報サービス業、そしてアミューズメント業まで多方面に飛びだって行きます。そしてそれぞれの分野において、情報システム学科で学んだ知識とその応用能力を大いに発揮しています。

こうした「頼れる」情報技術者を育成するため、情報システム学科では以下に示す教育目標と人材の養成目標を設定しています。

- ① ハードウェアとソフトウェア、理論と応用の両面を学習し、コンピュータの原理を理解する。
- ② 徹底したプログラミング演習を通して、コンピュータの特性を深く理解する。
- ③ 人工知能、組み込みコンピュータシステム、ネットワークプログラミングなどの高度・先進的なコンピュータ技術を学ぶ。
- ④ 講義と演習による実践的教育により、課題探求能力と課題解決能力を身につける。
- ⑤ 技術者倫理、インターンシップなどの関連科目を学び、社会的使命感・責任感を醸成する。

2. 2 学位授与の方針

情報システム学科では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。
8. 情報学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。

(専門力)

9. 情報学分野における基礎理論を理解し自らの問題に応用できる。
10. 情報学分野の専門知識と理論を理解し他者と深く議論できる。
11. 実験・実習を通して理論と現象を結びつけて分析・理解・説明できる。
12. 課題解決に必要なツールを探索し使いこなす自らのスキルを向上できる。
13. 研究的活動も含め、実験・実習を通して問題発見・課題解決できる。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。情報システム学科の標準教育プログラムは、以下の(1)～(9)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿

勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(3) 情報科学の基礎としての数学、自然科学を活用する力を身に付けることができる

情報科学のさまざまな分野で、多くの自然科学の知識が用いられます。特に、力と動きの関係、熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性と、自然環境を理解するために化学が必要となります。また情報科学の各分野、物理学、化学で用いられる数式を理解し、応用するために数学が必要となります。専門基礎科目群においては、これらの、情報科学系分野の基礎となる数学、物理学、化学を学びます。それぞれの専門分野において、既存の知識を身につけるだけでなく、創造的な仕事をする上でも、これらの基礎知識がしっかり身に付いていることが重要です。

(専門力)

(4) コンピュータの構造や原理、プログラミング技術を学び、コンピュータ技術の基礎を固める

コンピュータおよびその周辺装置は電気回路・電子回路でできています。回路を学ぶことはコンピュータを学ぶ第一歩です。また、コンピュータはプログラムによってその動作が与えられます。プログラムの作成には理論も必要です。回路、コンピュータの構造、OS、プログラミング、理論を学習し、コンピュータ技術の基礎を固めます。電気回路では抵抗、コイル、コンデンサの組み合わせにより各種の回路が構成され、電源の周波数に応じて電流・電圧特性が変化するという基本的な動作原理について理解します。電子回路では能動素子(トランジスタなど)を組み合わせで実現される論理動作を理解します。コンピュータの構造では、コンピュータの命令が演算回路により実行される様子を学習します。OSでは Windows や UNIX などの代表的なOSの構造を学びます。プログラミングではC言語、Java言語などを学び、理論では情報理論、オートマトン・言語理論、アルゴリズムとデータ構造に関する理論などを学びます。また高校における数学、物理の履修履歴が皆さんそれぞれに異なっていますので、数学、物理の基礎的な部分を固めて以後の専門科目の履修に備えます。

(5) コンピュータのハードウェアとソフトウェアを学ぶ

コンピュータには様々な装置が、直接的に、あるいはネットワークを介して接続されます。それらの動作はプログラムによってコントロールされます。様々な装置が接続されたコンピュータシステムは、無駄のない効率的な処理を行なえるように工夫されています。すなわち、ハードウェアの特性や特徴を前提としたハードウェアの制御、プログラムの処理速度やプログラムの異常処理の方法などに関する工夫です。情報技術者を目指す皆さんはこれらの工夫を学ぶことにより、ハードウェアとソフトウェアをバランスよく学習します。

(6) コンピュータを組み込んだ応用システムの構築技術を学ぶ

自動車、家電、情報通信機器などには多数のマイコン(マイクロコンピュータ)が組み込まれています。マイコンもコンピュータですから、その基本原理はコンピュータと同じです。しかし、組み込みコンピュータは、皆さんが普段使っているパソコンとは使

い方が違います。例えば、CPUやOSがパソコンとは違っています。また、組み込みシステムには各種のセンサがつながっていて、センサを通じて外部の情報がマイコンに入力されます。さらに、マイコンの出力が電気信号となって、モータを回転させたり、ライト(LED)を点滅させたりします。このような組み込みシステムの構築について学びます。これには制御工学、計測工学の知識も必要となります。

(7) ネットワークの構造やネットワークプログラミングなどのネットワーク技術を学ぶ

インターネットの発展には目覚ましいものがあります。最近では素人でもインターネットに接続し、利用できるようになりました。単にネットワークを利用するだけならば情報技術の素人にも問題はありません。しかし、情報技術者はそれだけでは済みません。トラブルが起きてすぐ対処できる、システムの改善や改良を立案できる、実行できる、そうした「頼れる」情報技術者は、ネットワークの構造や原理を確実に知っておくことが必要となります。ネットワークを構成するケーブル、無線通信などのハードウェアから、通信方式、通信規約(ネットワークプロトコル)などのネットワークの原理、さらにネットワークプログラムの作り方について学びます。ネットワークプログラムはネットワークに関わるプログラム部品(ライブラリ)を使いますので、ネットワークの原理を知っておくことが必要となります。

(8) 人工知能などの先進的ソフトウェア技術、ハードウェア技術を学び、将来を展望する

コンピュータを人間の代わりとして利用するためには、人間が知覚する画像や音声の情報をコンピュータに処理させることが必要となります。さらに、人工知能などのソフトウェア技術や新しいハードウェアが次々と開発され、これまで考えられていた以上に広い範囲でコンピュータが人間の仕事をできるようになっています。コンピュータの先進的な利用技術を学び、皆さんが将来関わる仕事がどのように変わっていくかを展望します。

(9) コンピュータグラフィックス、Web技術、情報セキュリティ技術を学ぶ

魅力的なWebページは企業にとって重大な関心事となっています。Webページを魅力的なものとするために、コンピュータグラフィックスが活用されています。企業のWebページには、そうした見栄えのよいコンテンツ(情報の中身)だけでなく、注文・生産・発送などの業務処理を実現するためのアプリケーションも組み込まれています。そのようなシステムの実現には、最新のWeb技術や情報セキュリティ技術などが使われています。このような、コンピュータのコンテンツに関わる技術について学びます。

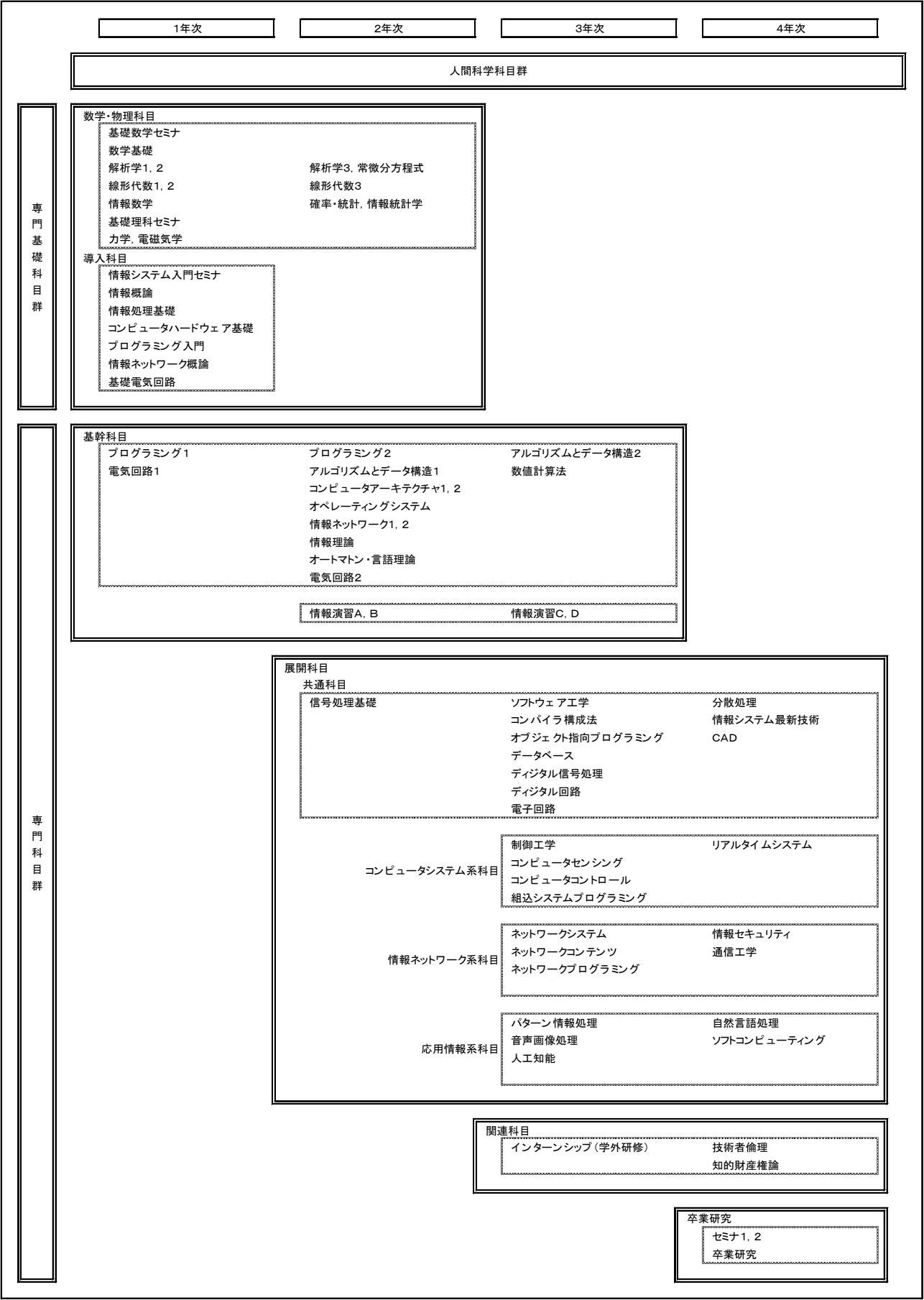
4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

3項で説明した標準教育プログラムは、4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を示したものですので、皆さんが学修を進めていくためには、学修の達成に必要な授業科目が記された教育課程が必要です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、標準教育プログラムに基づく教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

以下にそれぞれの授業科目の授業内容および達成目標について説明します。



図ー1 情報システム学科の教育課程の概念図

4.1 人間科学科目群

(1)教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・ 세미나

ファースト・イヤー・セミナ(First Year Seminar, 略して FYS、初年次セミナ)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「**学習技法 (スタディ・スキルズ)**」を習得してもらう科目です。いわば「**大学での学び方**」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言い換えると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

②外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思いかもしませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語 1・2」と「英語スキル 1・2」、2年次には「英語スキル 3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語 1・2(資格コース)」、「実践英語 1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポ

ーツとして)も運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語セミナ

基礎英語セミナでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目指します。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3 年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4 年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含む A グループと B グループから成り立っています。なかでも B グループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与えることができるようにと工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるように、これが何を措いても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「**コミュニケーション力**」、「**自ら考える力**」それと「**協働力**」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、B グループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは 21 世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなくマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくと同時に、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後は AI(人工知能)や IoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められているのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2 年次、3 年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングや PBL(問題・課題解決型授業)を意識した少人数科目を開設しています。

大学での勉強は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところ楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群

(1) 教育内容

専門基礎科目とは、皆さんが今まで身につけてきた知識や能力を大学での専門教育につなげるための科目です。専門基礎科目群では、数学、物理と専門の導入科目を学習します。これらの科目は、主に1年次の前期(1期)から2年次後期(4期)までに開講されます。

以下では、専門基礎科目群の概要を説明します。なお、各科目で何を学んで、どんな知識を習得するかに関しては、科目別の学修到達目標としてカリキュラムマップにまとめています。

① 導入科目(計7科目)

情報システム入門セミナー、情報概論、情報処理基礎、コンピュータハードウェア基礎、プログラミング入門、情報ネットワーク概論、基礎電気回路

情報システム入門セミナーでは、学科の標準教育プログラムから、安全、キャリア(就職関連)まで大学生活に関わる様々なことを学び、教員の教育研究活動の説明を聞いて専門分野への興味を喚起します。情報概論では、情報の表現方法やコンピュータの仕組みに関するもっとも基礎となる原理から情報科学の面白さを学びます。情報処理基礎では、コンピュータ内部の演算処理である2進数の演算のほか、コンピュータを構成する基本的な論理回路、基本的な動作や命令を学びます。コンピュータハードウェア基礎では、デジタル回路の基礎となる基本論理回路とそれらの組み合わせにより構成される回路、その回路を実現する方法を学びます。プログラミング入門では、コンピュータ操作の基礎(タイピング、電子メールなど)およびHTMLとJavaScriptによるプログラミングの基礎を学びます。情報ネットワーク概論では、情報を送受信する技術を学んだうえで、インターネットで使用するプロトコル(通信規約)について学びます。基礎電気回路では、情報機器を構成する電気回路や電子回路の仕組みを理解するために必要となる基礎を学びます。

② 数学物理科目(計13科目)

線形代数1、線形代数2、線形代数3、数学基礎、解析学1、解析学2、解析学3、常微分方程式、情報数学、確率・統計、情報統計学、力学、電磁気学

線形代数1、線形代数2、線形代数3では、2つのものの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となるのは「比例する」という関係ですが、この比例関係を多くのものの間の関係に拡張したものが、ここで学ぶ線形性と呼ばれる考え方です。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会科学においても重要な、2つ以上のものの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

また、解析学1、解析学2、解析学3、常微分方程式では特に、近代科学技術文明の基礎とも言えるニュートン、ライプニッツに始まる解析学を、段階を追って学習していきます。変化の割合を表す微分法と、面積や体積を求める積分法とがどこでつながるのか。無限とか極限とかいう言葉がよく出てくるが、どういう意味なのか。こういったことをしっかり考えて学習することにより、解析学の基本的な考え方が身につく、数式とその表すものとの関係がわかるようになります。さらに常微分方程式を学ぶと、変化の割合がみえ式より将来を予測することが出来るようになり、自然の中に存在する因果関係(何が原因で何が結果か)にも目が向かうようになるでしょう。

また高等学校までの数学教育の多様化に対応し、他の数学系科目および自然科学、情報学系専門科目への準備となる科目として、数学基礎を開講しています。この科目の受講対象者は入学時に実施する学力試験の結果に基づいて決定され、受講対象者には1年前期に解析学1に先んじて、特に大学での専門教育に直結する基礎的な数学を精選して教授します。

情報数学では、集合論・代数系・グラフ理論など離散数学について学び、情報技術を数学的に捉えて論じる力を身につけます。確率・統計、情報統計学では、確率の性質、確率変数、確率密度関数、正規分布関数などの統計学の基本を学びます。また表計算ソフトウェアの関数機能を使って、実際に統計分析の演習を行ないます。これにより情報を定量的に扱うための基本的な考え方を学びます。

情報学部の特設物理学系科目には、力学と電磁気学があります。力学とは物体の運動を知ることとする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。力学では、ベクトルと微分積分を利用して、力の合成・分解や、物体の運動方程式を解くことで物体の運動を決定する方法を学びます。物事を理路整然と把握する考え方の具体例として、力学を学ぶと良いでしょう。電磁気学という理論体系は、電気回路や有線・無線通信の基礎です。電磁気学では、ベクトルと微分積分を使って電磁気現象の基礎法則の学習を通して、電子機器や電子部品の内部で起きる現象やそのメカニズムを理解する基礎を学びます。なお、電磁気学の中で、力学の考え方を応用する場面が随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に、力学を学んでおく必要があります。

(2)学修到達目標

以上に述べた内容を確実に理解し、自分のものとして活用できるレベルにする必要があります。学修到達目標は、具体的にどのような項目についてそれが達成されるべきかを示したものです。各科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(3)基礎数学セミナ・基礎理科セミナ

ア [数学関係科目](基礎数学セミナ)

基礎数学セミナでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ [物理・化学関係科目](基礎理科セミナ)

大学で学ぶ科目の中には、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

4.3 専門科目群

(1)教育内容

専門科目群の授業科目は、主に2年次と3年次に開講される基幹科目、2年次後期から始まる展開科目、3年次と4年次の関連科目と卒業研究からなります。ここで、基幹科目とは専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を習得するときの土台となる科目です。また、展開科目とは、皆さんの興味や将来の進路に従って、より高度な専門科目の学習ができるように設けられた科目です。そして、この展開科目の選択の仕方によって3つの系統(コンピュータシステム系、情報ネットワーク系、応用情報系)の学びを選択できるように推奨する履修モデルを提示しますので、それに従って科目を選択して下さい。しかし、学年が進むにつれて学びに対する興味や進路希望が多少変わってくることもあると思います。このため、他の系統の推奨科目を選択することも可能となっています。

以下では、専門科目群の教育内容の概要を説明します。なお、各科目で何を学んで、どんな知識を習得するかに関しては、科目別の学修到達目標としてカリキュラムマップにまとめています。

①基幹科目(計18科目)

基幹科目は、1年次の後期(2期)より3年次の後期(6期)までの間に学びます。基幹的な科目であるため、情報科学の主要な学問の大部分が含まれています。また、演習系として情報演習(4科目)を学びます。実際の情報機器を使いながら、実践能力を高める授業を行います。情報演習は、全学生にとって必修な演習です。

基幹科目：プログラミング1、プログラミング2、アルゴリズムとデータ構造1、アルゴリズムとデータ構造2、数値計算法、コンピュータアーキテクチャ1、コンピュータアーキテクチャ2、オペレーティングシステム、情報ネットワーク1、情報ネットワーク2、情報理論、オートマトン・言語理論、電気回路1、電気回路2（計14科目）

プログラミング1、プログラミング2では、C言語を対象にコンピュータ言語の基本的機能を学び、これらの機能を使ったプログラミング実習を通じて、コンピュータの動作とデータ処理の基本を学びます。この場合、ある機能を果たすためには、どのようなデータをいかに処理するかに関する判断が必要となり、より実地的なプログラミング技術が身につきます。アルゴリズムとデータ構造1、アルゴリズムとデータ構造2では、コンピュータを使って問題を解決する方法と手続きを学びます。基本的なアルゴリズムの種類と方法を学びます。数値計算法では、数学的問題に対する数値解法を理解し、数値計算アルゴリズムを習得します。コンピュータアーキテクチャ1、コンピュータアーキテクチャ2では、コンピュータのハードウェアの理解に不可欠な論理素子の動作原理から、コンピュータの頭脳である中央処理ユニット、メモリ、入出力装置などのコンピュータを構成する各部品の役目と機能を理解し、コンピュータの設計手順や構成方法についてマイクロプロセッサなどの実例をもとに学びます。オペレーティングシステムは、コンピュータシステム全体の管理運用を行っている重要なソフトウェアです。オペレーティングシステムでは、コンピュータの起動時の動作、ファイルシステムの構成、プロセスの動作を理解し、オペレーティングシステムの重要性を学びます。情報ネットワーク1、情報ネットワーク2では、コンピュータネットワークの構造、通信規約（プロトコル）、インターネットの成り立ちなどを学ぶとともに、ネットワークのアプリケーションとその正しい利用法を学びます。情報理論では、情報量を理論的に取り扱う基礎としてシャノンがまとめた理論を主体に情報量や通信容量を数学的に取り扱う方法を学び、現代の情報処理の基礎体系を知ることができます。オートマトン・言語理論では、一定の規則に従って並んだ記号列（抽象化した言語）を生成するモデル（言語理論）とそれらの言語を受理する装置（オートマトン）の理論を学びます。電気回路1では、1年次で学習した基礎電気回路をうけて、抵抗、コイル、コンデンサから構成される基本的な交流回路の性質について学びます。電気回路2では、複素数を用いて交流回路の計算を行う方法、回路方程式の立て方や解き方、回路計算に用いられる定理などについて学びます。

演習系科目：情報演習A、情報演習B、情報演習C、情報演習D（計4科目）

情報演習では実際の部品や測定器、コンピュータなどに触れて使用方法やその特性を学び、設計や製作を行ないながら、「もの」を作る楽しさを実感する演習を行います。計測装置の特性に合った計測方法など、実際のデータを評価する能力も培います。また、音声信号の作成・記録方法、音声認識・合成と画像処理プログラミングについても演習によって学びます。さらに、マイクロコンピュータのプログラミングによる機器の制御技術やコンピュータネットワーク機器の操作を通してネットワーク技術を学びます。

②展開科目（計26科目）

基幹科目で情報科学の基幹となる内容を学びますが、その上に積み上げられた学問を修得するのが展開科目です。展開科目としては、以下のものがあります。これらの科目については、3つの系統別に、科目選択の仕方（履修モデル）を決めています。詳細については、6項の履修モデルで説明します。

ソフトウェア工学、コンパイラ構成法、オブジェクト指向プログラミング、データベース、分散処理、信号処理基礎、デジタル信号処理、デジタル回路、電子回路、情報システム最新技術、CAD、制御工学、コンピュータセンシング、コンピュータコントロール、組込システムプログラミング、リアルタイムシステム、ネットワークシステム、ネットワークコンテンツ、ネットワークプログラミング、情報セキュリティ、通信工学、パターン情報処理、音声画像処理、自然言語処理、人工知能、ソフトコンピューティング

ソフトウェア工学では大規模なソフトウェア開発するための工学的アプローチとして構造化、オブジェクト指向などの考え方を学びます。コンパイラ構成法では、高級言語で書かれたプログラムを機械語プログラムに変換するコンパイラの構築技法について学びます。オブジェクト指向プログラミングでは、C言語よりさらに進化してオブジェクト指向モデルに基づいたJava言語によるプログラミングを学びます。データベースでは、データの効率的な格納、高速な検索を実現するための技術について学び、さらにデータベースシステムの設計と保守・運用についても学びます。分散処理では、各種のコンピュータによる各種の分散処理などを取り上げ、それぞれの処理方式のシステム構成やソフトウェア構造などについて学び、さらには処理性能と信頼性などの評価指標・セキュリティについても学びます。信号処理基礎はアナログ信号（連続信号）を扱う基礎として、信号の表現方法やその特徴を把握するための数学を学びます。デジタル信号処理では、音声などの波形信号をデジタル化するためのサンプリング定理や信号解

析を行なう高速フーリエ変換(FFT)の原理とその応用法を学びます。ディジタル回路では、コンピュータや電子機器の中で使われるいろいろなディジタル回路やそれらの設計手法を学びます。電子回路では、半導体素子の性質を理解したうえで、基本的な増幅回路、帰還回路、発振回路などについて学びます。情報システム最新技術では、最新のコンピュータ、ネットワークおよび情報処理技術について、原理、構成、応用、発展可能性などを学びます。CADでは、CAD機能を理解し、CAD作図法の基本について学び、CADを用いた電子回路の作図を通して製図に関する規格、図記号等について学びます。

コンピュータシステム系の科目については、制御工学では、コントロールする対象となる機械やロボットの特性を調べ、これらを思い通りに動かすための技術を学習します。コンピュータセンシングでは、家電やロボットなどの機器に使われるセンサについて、その原理と、センサの信号をディジタル信号に変換してコンピュータに取り込むまでの技術について学びます。コンピュータコントロールでは、コンピュータ制御の基礎となるフィードバック制御から、コンピュータ制御系の構成要素や機能などを学びます。組込システムプログラミングでは、組込コンピュータのハードウェア構成からソフトウェア技術までを学びます。また、組込コンピュータ向けのプログラミング演習も行い、自動車・携帯電話など私たちの身の回りで使われているコンピュータに対する理解を深めます。リアルタイムシステムでは、多数のコンピュータが私たちの身の回りで使われている機器で使われていることを理解し、リアルタイムシステムの基礎概念から構造・処理方式・応用システムの実例までを学びます。

情報ネットワーク系の科目については、ネットワークシステムでは、構内で用いられるローカルエリアネットワーク(LAN)と公衆網を介するワイドエリアネットワーク(WAN)の構成技術を学びます。ネットワークコンテンツでは、インターネットを使った情報発信と情報共有のしくみ、ならびに電子商取引技術・情報セキュリティ・ネットワーク著作権について学びます。ネットワークプログラミングでは、インターネットの中心となっている TCP/IP プロトコルを利用したプログラムを作成し、コンピュータ間の通信を実現する方法を学びます。情報セキュリティでは、情報ネットワークを安全面から支える技術として、暗号理論について学習します。通信工学では、通信で用いられる信号の表現方法を学び、アナログおよびディジタル変復調技術ならびにベースバンド伝送技術について学びます。

応用情報系の科目については、パターン情報処理では、画像や音の特徴を調べたり識別する方法の基本から実際問題の応用まで学びます。音声画像処理では、ディジタル化された時系列の音声データ、および2次元や3次元の画像データを取り上げ、各種データ成分の分析や特徴抽出などに関する数学的な処理方法を学びます。自然言語処理では、自然言語を機械的に処理するための解析手法や知識データベース、それらを用いた応用事例について学びます。人工知能では、コンピュータによる問題解決の基礎となる探索、推論、知識の表現、学習などを学び、さらにその応用事例を学びます。ソフトコンピューティングでは、人間の情報処理能力をモデルとした、コンピュータを高度かつ知的に利用するソフトウェア技術(柔軟な情報処理)について学びます。

③関連科目(3科目)

関連科目は、インターンシップ(学外研修)、技術者倫理、知的財産権論からなります。インターンシップ(学外研修)では、専門に関連した業務を企業などで体験します。技術者倫理では、技術が社会や環境にもたらす影響を考え、平素はもとより重大事故に遭遇したときや過ちを犯したときにも倫理的に正しく行動することについて学びます。知的財産権論では、知的財産権の種類、権利の内容および知的財産権に関する法律を学び、知的財産権の中でも特に重要な特許権に関して、特許権取得までの手続きなどを学びます。

④卒業研究(3科目)

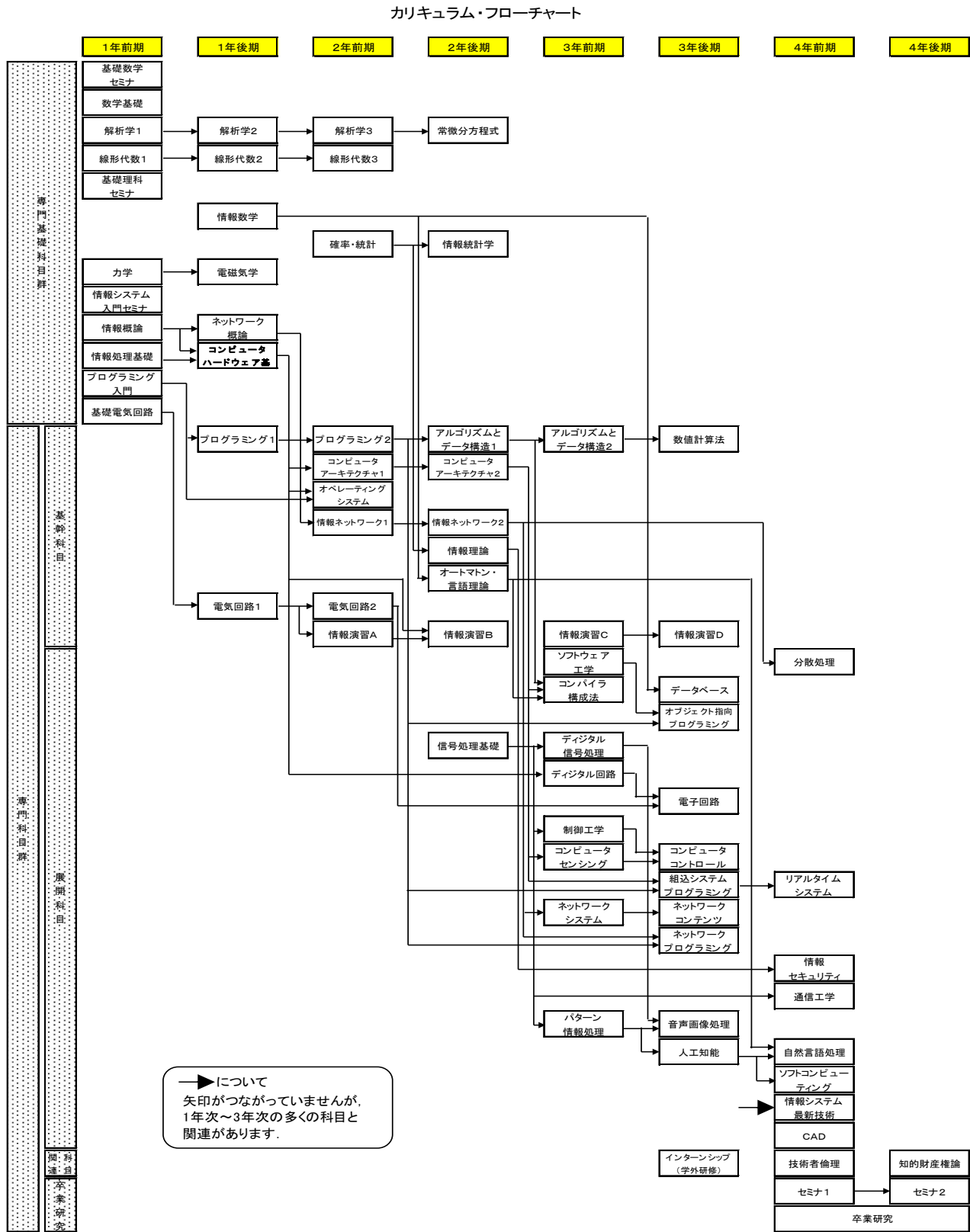
卒業研究に関連する科目は、 세미나1、 세미나2、そして卒業研究からなります。 세미나1では、専門知識の総合的な学習、卒業研究テーマに必要な知識や技術について学び、卒業研究テーマを着手するための準備を行います。 세미나2では、技術者として知っておかなければならない専門用語や表現方法、まとめ方などを学びます。この中には、英語のマニュアルを理解したり作成したりすることも含まれます。卒業研究は4年間の学習の集大成であり、これまで学んできた知識を応用し、実践的な技術の修得を図ります。1人あるいは2人で特定のテーマの研究・調査を行い、未知なる問題に対する解決手段を模索することにより、講義とは異なる研究に対する取り組み方を学び、最後に研究成果を発表します。

(2)学修到達目標

以上に述べた内容を確実に理解し、自分のものとして活用できるレベルにする必要があります。学修到達目標は、具体的にどのような項目についてそれが達成されるべきかを示したものです。各科目の学修到達目標は、カリキュラムマップにまとめて示しています。

5. カリキュラム・フローチャート

1～2年次に開講される専門基礎科目群の授業科目は、情報システム学の基礎となる科目からなります。また、専門科目群の授業科目は、基幹科目・展開科目・関連科目・卒業研究からなります。専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを以下に示します。



6. 履修モデル

情報システム学科では、皆さんの将来の進路を想定して、3つの系統の科目選択推奨パターン(履修モデル)を用意しています。それぞれの履修モデルを図に示します。

卒業要件(卒業に必要な単位数)は、必修科目を全て含み、人間科学科目群として27単位以上、専門基礎科目群として17単位以上、専門基礎・専門科目群(自由科目を除く)として97単位以上、合計124単位以上が必要です。

各履修モデルは卒業要件を満たしつつ、各系統の特徴に合わせてバランスよく構成されています。したがって、なるべく自らが選択した系統の履修モデルに従って科目を選択して下さい。しかし、学年が進むにつれて進路希望が多少変わってくることもあると思います。このため、他系統の推奨科目を選択することも可能となっています。

(1) 履修モデルA(コンピュータシステム系)

コンピュータシステム系では、ハードウェアとソフトウェアを学び、将来様々な分野で活躍できるコンピュータ技術者の養成を目標としています。パソコンや通信用サーバなどの汎用コンピュータの応用分野だけでなく、自動車、家電、工作機械、生産設備などにコンピュータが組み込まれた機器の開発・運用に関わる技術者としての活躍も期待されます。このため、組み込みシステムの開発技術などを履修モデルに取り入れています。

コンピュータシステム系の履修モデルに従って学習を進めていけば、卒業するときには、ハードウェアとソフトウェアの両方の技術を身につけ、コンピュータ関連企業のみでなく、様々な機器製造業に必要とされる技術者になることができます。進路先は、情報通信機器産業、コンピュータ関連機器産業、計測制御機器産業、民生用電子機器産業、医療福祉機器産業、OA機器産業、ベンチャー企業、教員、官公庁、大学院等があります。

(2) 履修モデルB(情報ネットワーク系)

情報ネットワーク系では、ハードウェアとソフトウェアの基礎をしっかりと学んだ上で、普及・発展が目覚ましいネットワーク技術を詳しく学びます。コンピュータの基礎を身につけますので、コンピュータ技術者になることはもちろん、人材ニーズの高いネットワーク技術者として、またネットワーク上に流通するデジタルコンテンツの企画・制作者として活躍することも可能です。このため、履修モデルにはネットワーク科目が十分取り入れられています。

情報ネットワーク系の履修モデルに従って学習を進めていけば、卒業するときには、コンピュータ関連企業や、情報ネットワークベンチャー企業で活躍できる技術者になることができます。進路先は、コンピュータソフトウェア企業、情報通信産業、ネットワークサービス産業、マルチメディア関連産業、アミューズメント産業、広告・流通産業、ベンチャー企業、教員、官公庁、大学院等があります。

(3) 履修モデルC(応用情報系)

応用情報系では、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎を学ぶことについては上記2モデルと同様です。その基礎・基盤を学んだ上で、信号処理技術の基礎からはじまりパターン認識のための情報処理や音声・画像処理等へと学びを展開していきます。また、近年爆発的な進化を遂げているニューラルネットワークやAI等の人工知能に関する内容を詳しく学びます。なお、コンピュータやネットワークの基礎を身につけますので、コンピュータおよびネットワーク技術者になることはもちろん、高い能力を持った情報処理技術者として活躍できます。進路先は、上記2モデルと同様、情報通信機器産業やコンピュータ関連機器産業等はもちろんのこと、ソフトウェアの企画・制作企業やベンチャー企業で技術者として活躍することも可能です。また、教員、官公庁、大学院等もあります。

情報システム学科 履修モデルA(コンピュータシステム系)

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群 27単位								
専門基礎科目群	基礎数学セミナ							必修科目		
	数学基礎							選択科目		
	解析学1	解析学2	解析学3	常微分方程式					自由科目	
	線形代数1	線形代数2	線形代数3					推奨科目		
		情報数学	確率・統計	情報統計学						
	基礎理科セミナ							専門基礎科目：41単位中33単位		
	力学	電磁気学								
	情報システム入門セミナ									
	情報概論	情報ネットワーク概論								
	情報処理基礎	コンピュータハードウェア基礎								
	プログラミング入門									
	基礎電気回路									
	基礎科目		プログラミング1	プログラミング2	アルゴリズムとデータ構造1	アルゴリズムとデータ構造2	数値計算法			
				コンピュータアーキテクチャ1	コンピュータアーキテクチャ2					
			オペレーティングシステム							
			情報ネットワーク1	情報ネットワーク2						
				情報理論						
				オートマトン・言語理論						
		電気回路1	電気回路2							
			情報演習A	情報演習B	情報演習C	情報演習D	履修者の半数は、情報演習D、情報演習Cの順で履修する。			
専門科目群		展開科目	共通科目	ソフトウェア工学	オブジェクト指向プログラミング	分散処理				
				コンパイラ構成法	データベース					
				信号処理基礎	デジタル信号処理					
				デジタル回路	電子回路					
				情報システム最新技術						
				CAD						
	制御工学			組込システムプログラミング	リアルタイムシステム					
	コンピュータセンシング			コンピュータコントロール						
	ネットワークシステム			ネットワークコンテンツ	情報セキュリティ					
	ネットワークプログラミング			通信工学						
	コンピュータシステム系科目	情報ネットワーク系科目	応用情報系科目	パターン情報処理	音声画像処理	自然言語処理				
					人工知能	ソフトコンピューティング				
				インターンシップ(学外研修)	技術者倫理	知的財産権論				
				インターンシップは受入企業がある場合、3年次の夏期休暇中に実施する。						
関連科目										
卒業研究	卒業研究：セミナ1、2を含めて10単位						セミナ1	セミナ2		
								卒業研究		

(注) 網掛け部分の合計単位数(卒業要件) = 124単位

人間科学科目27単位 + 基礎科目33単位 + 基幹科目38単位 + 展開科目16単位 + 卒業研究10単位

情報システム学科 履修モデルB(情報ネットワーク系)

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群 27単位								
専門基礎科目群	基礎数学セミナ							必修科目		
	数学基礎							選択科目		
	解析学1	解析学2	解析学3	常微分方程式					自由科目	
	線形代数1	線形代数2	線形代数3						推奨科目	
		情報数学	確率・統計	情報統計学						
	基礎理科セミナ							専門基礎科目: 41単位中33単位		
	力学	電磁気学								
	情報システム入門セミナ									
	情報概論	情報ネットワーク概論								
	情報処理基礎	コンピュータハードウェア基礎								
プログラミング入門										
基礎電気回路										
基幹科目		プログラミング1	プログラミング2	アルゴリズムとデータ構造1	アルゴリズムとデータ構造2	数値計算法				
			コンピュータアーキテクチャ1	コンピュータアーキテクチャ2						
			オペレーティングシステム	情報ネットワーク1	情報ネットワーク2					
					情報理論					
					オートマトン・言語理論					
		電気回路1	電気回路2							
			情報演習A	情報演習B	情報演習C	情報演習D	履修者の半数は、情報演習D、情報演習Cの順で履修する。			
	展開科目	共通科目			ソフトウェア工学	オブジェクト指向プログラミング	分散処理			
					コンパイラ構成法	データベース				
				信号処理基礎	ディジタル信号処理					
				ディジタル回路	電子回路					
コンピュータシステム系科目				制御工学	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム				
				コンピュータセンシング	コンピュータコントロール					
		情報ネットワーク系科目		ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	情報セキュリティ				
					ネットワークプログラミング	通信工学				
		応用情報系科目		パターン情報処理	音声画像処理	自然言語処理				
			人工知能	ソフトコンピューティング						
関連科目				インターンシップ(学外研修)	技術者倫理	知的財産権論				
	インターンシップは受入企業がある場合、3年次の夏期休暇中に実施する。									
卒業研究	卒業研究: セミナ1, 2を含めて10単位						セミナ1	セミナ2		
									卒業研究	

(注) 網掛け部分の合計単位数(卒業要件) = 124単位

人間科学科目27単位 + 基礎科目33単位 + 基幹科目38単位 + 展開科目16単位 + 卒業研究10単位

情報システム学科 履修モデルC(応用情報系)

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群 27単位								
専門基礎科目群	基礎数学セミナ							必修科目		
	数学基礎							選択科目		
	解析学1	解析学2	解析学3	常微分方程式					自由科目	
	線形代数1	線形代数2	線形代数3					推奨科目		
		情報数学	確率・統計	情報統計学						
	基礎理科セミナ							専門基礎科目: 41単位中33単位		
	力学	電磁気学								
	情報システム入門セミナ									
	情報概論	情報ネットワーク概論								
	情報処理基礎	コンピュータハードウェア基礎								
	プログラミング入門									
	基礎電気回路									
	基幹科目	プログラミング1	プログラミング2	アルゴリズムとデータ構造1	アルゴリズムとデータ構造2	数値計算法				
		コンピュータアーキテクチャ1	コンピュータアーキテクチャ2							
		オペレーティングシステム								
		情報ネットワーク1	情報ネットワーク2							
			情報理論							
			オートマトン・言語理論							
電気回路1		電気回路2								
		情報演習A	情報演習B	情報演習C	情報演習D	履修者の半数は、情報演習D、情報演習Cの順で履修する。				
専門科目群		展開科目: 52単位中16単位	共通科目	ソフトウェア工学	オブジェクト指向プログラミング	分散処理				
				コンパイラ構成法	データベース					
				信号処理基礎	デジタル信号処理					
				デジタル回路	電子回路					
						情報システム最新技術				
						CAD				
		コンピュータシステム系科目	制御工学	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム					
	コンピュータセンシング		コンピュータコントロール							
	情報ネットワーク系科目		ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	情報セキュリティ					
				ネットワークプログラミング	通信工学					
	応用情報系科目		パターン情報処理	音声画像処理	自然言語処理					
			人工知能	ソフトコンピューティング						
	関連科目			インターンシップ(学外研修)	技術者倫理	知的財産権論				
		インターンシップは受入企業がある場合、3年次の夏期休暇中に実施する。								
	卒業研究	卒業研究: セミナ1, 2を含めて10単位						セミナー1	セミナー2	
卒業研究										

(注) 網掛け部分の合計単位数(卒業要件) = 124単位

人間科学科目27単位 + 基礎科目33単位 + 基幹科目38単位 + 展開科目16単位 + 卒業研究10単位

情報学部 情報システム学科 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。
学部の教育研究上の目的
情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。
学科の教育研究上の目的
情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもって、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1	1 [2]	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践。	高校と大学の学びの違いが理解できる。
						ノートの取り方が効果的にできる。
						文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。
						図書館の利用法がわかる。
						レポートの作成の必要手順が分かる。
						基本的なレポートの作成ができる。
						プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。
						プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。
						授業科目の貢献度
		資格英語1	1	1 [2]	この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEIC に出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。
						短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。
						英文を読み、その内容を大まかに理解できる。
		資格英語2	1	2 [3]	この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	基礎的な英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を解くことができる。
						基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができる。
						授業科目の貢献度
		英語スキル1	1	1 [2]	この授業では、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」、「食」、「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。
						題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。

学科の学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 情報学分野における基礎理論を理解し自らの問題に応用できる
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。	J. 情報学分野の専門知識と理論を理解し他者と深く議論できる
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 実験・実習を通して理論と現象を結びつけて分析・理解・説明できる
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 課題解決に必要なツールを探索し使いこなし自らのスキルを向上できる
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	M. 研究的活動も含め、実験・実習を通して問題発見・課題解決できる
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 情報学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。	

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
		10											10
		10											10
		10											10
		10											10
		10											10
		10				10							20
		10											10
		10				10							20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
10	6		2			2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修	選択	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	英語スキル2	1			2 〔3〕	この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」、「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアーワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
								授業科目の貢献度
		英語スキル3	1			3 〔4〕	「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
								授業科目の貢献度
		英語スキル4	1			4 〔5〕	この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
								授業科目の貢献度
		実践英語1（資格コース）	1			5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な最低限の語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容をほぼ理解できる。 英文を読み、その内容をほぼ理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文をほぼ正確に音読することができる。
								授業科目の貢献度
		実践英語1（スキルコース）	1			5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
								授業科目の貢献度
		実践英語2（資格コース）	1			6	この授業では、前期に開講されている実践英語1（資格コース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を短時間に解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。
								授業科目の貢献度
		実践英語2（スキルコース）	1			6	この授業では、前期に開講されている実践英語1（スキルコース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
								授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
10	6		2			2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100
14	6												20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1									20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	2					6							20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	6												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	02	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A〈卓球〉	1		1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							対人ラリーが20球続けられる。
							フォアハンドロングによるラリーができる。
							バックハンドによるショートをつなぎができる。
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
							目的の位置にサービスを打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習A〈バドミントン〉	1		1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。
							オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。
							アンダーハンドストロークが出来る。
							ネットプレーによるつなぎが出来る。
							スマッシュを打つ事が出来る。
							目的の位置にサーブを打つ事が出来る。
							得点の数え方および審判が出来る。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習A〈硬式テニス〉	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							フォアハンドストロークによるラリーができる。
							フォアハンドストロークを打つことができる。
							フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
							バックハンドボレーを打つことができる。
							アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習A〈サッカー・フットサル〉	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。
							自分の体と向きあうことができた。
							ゴール型スポーツの構造を理解できた。
							サッカー・フットサルのルールを理解できた。
		健康科学演習B〈卓球〉	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							対人ラリーが20球続けられる。
							フォアハンドロングによるラリーができる。
							バックハンドによるショートをつなぎができる。
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
							目的の位置にサービスを打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習B〈バドミントン〉	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。
							オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。
							アンダーハンドストロークが出来る。
							ネットプレーによるつなぎが出来る。
							スマッシュを打つ事が出来る。
							目的の位置にサーブを打つ事が出来る。
							得点の数え方および審判が出来る。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 分 (単位)	必修 選択 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習B (硬式テニス)	1		2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							フォアハンドストロークによるラリーができる。
							フォアハンドストロークを打つことができる。
							フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
							バックハンドボレーを打つことができる。
							アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる
							授業科目の貢献度
	Aグループ	健康科学演習B (サッカー・フットサル)	1		2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい	積極的に運動ができた。
							自分の体と向きあうことができた。
							ゴール型スポーツの構造を理解できた。
							サッカー・フットサルのルールを理解できた。
							授業科目の貢献度
							叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
							題材を批評的に検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して文章にまとめる。
							文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。
人間科学科目群	Bグループ	日本文学A	2		3・5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
							文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
							授業科目の貢献度
		日本文学B	2		4・6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
							題材を多角的に検討して自分の考えを持ち、課題に応じて自分の考えを表現する。
							文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。
							日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
							文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
							授業科目の貢献度
		外国文学A	2		1・3・5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。
							文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。
							文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。
							自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。
							文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。
							授業科目の貢献度
		外国文学B	2		2・4・6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。
							文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。
							文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。
							文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。
							文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。
							授業科目の貢献度
		哲学A	2		1・3・5	西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。	プラトン哲学におけるアイデア論について説明できる。
							デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。
							啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。
							西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。
							知的リフレッシュメントを味わうことができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	哲学B		2	2・4・6 モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。
						哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。
						「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。
						おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。
						自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。
						アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
		文化人類学A		2	3・5 さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。
						様々な文化を比較することができる。
						習慣の意味が理解できる。
						形のないものの価値について考えることができる。
						現代社会がかかえる問題点について考えることができる。
						授業科目の貢献度
		文化人類学B		2	4・6 文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて理解できる。
						文化について様々な考え方が理解できる。
						現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。
						「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。
						コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。
						授業科目の貢献度
		歴史学A		2	1・3・5 日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
						国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。
						西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。
						歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
						過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
						授業科目の貢献度
		歴史学B		2	2・4・6 近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
						東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。
						日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。
						歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
						過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
						授業科目の貢献度
		心理学A		2	1・3・5 人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。
						学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。
						欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。
						発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。
						パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。
						授業科目の貢献度
		心理学B		2	2・4・6 他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。
						人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。
						対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。
						集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。
						集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	教育原理		2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。
							近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
							教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。
							近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。
							授業科目の貢献度
		教育心理学		2	3	「教育」という営みをとらえてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのおり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、各発達過程における特徴を把握することができる。
							「青年期」の特徴を理解し、この時期特有の問題について心理学的な観点から考察することができる。
							学習の基礎となる条件づけ、記憶の役割などを踏まえながら、基礎的な学習理論を理解することができる。
							学習へのやる気を高めるために、動機づけ、学習意欲、無気力のメカニズムを理解することができる。
							学校における現代的課題として、いじめ、不登校、発達障害などを取り上げて関連知識を身に付けるとともに、アプローチの仕方について考察することができる。
							教育評価について、基本的な考え方と方法、評価資料収集の技法を理解することができる。
							教師と生徒の望ましい人間関係を理解したうえで、教師の指導行動のあり方について考察することができる。
							授業科目の貢献度
		政治学A		2	1・3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。
							自由民主主義の理論と政治制度について理解する。
							議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。
							政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。
							自分と政治との関わりについて考えることができる。
							授業科目の貢献度
		政治学B		2	2・4・6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。
							現代民主主義の理論的特徴について理解する。
							現代民主主義の制度的特徴について理解する。
							現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。
							授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		経済学A		2	1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。
							資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。
							経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。
							経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		経済学B		2	2・4・6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。
							日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。
							歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。
							日本の企業の特徴・構造について説明できる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		法学A		2	3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。
							授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。
							授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。
							日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				30									30
				30									30
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10										10
			10	10									20
			10										10
			10										10
			10	10									20
			10	10									20
			10										10
0	0	0	70	30	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				10									10
				20									20
				10									10
				30									30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				10									10
				10									10
				30									30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	法学B		2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。
							日本国憲法の基本原則が説明できる。
							日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。
							基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。
							表現の自由とその制約原理を説明できる。
							違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
							授業科目の貢献度
		社会学A		2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ。
							方法論的個人主義（ヴェーバー）と、方法論的集団主義（デュルケム）の違いを理解する。
							社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる。
							「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する。
							東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること。
							授業科目の貢献度
							社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。
		社会学B		2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	個人化という概念について説明できるようになること。
							ネオリベリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。
							非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。
							グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。
							授業科目の貢献度
							社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。
							母集団及び標本抽出について理解する。
		社会調査の方法A		2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。
							統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。
							質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。
							授業科目の貢献度
							社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。
							統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。
							疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。
		社会調査の方法B		2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。
							質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。
							授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。
							担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
							地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
		現代社会論A		2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。
							担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
							地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
							授業科目の貢献度
							自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会的なものの見方によって考察することができる。
		現代社会論B		2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。
							教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。
							学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
							授業科目の貢献度
							自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会的なものの見方によって考察することができる。
							学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。
							教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。
		教育社会学		2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
							授業科目の貢献度

学科（専攻）の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				10									10
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				30									30
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Bグループ	健康科学 A		2	1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。
							発育の仕組みについて理解できる。
							年齢とからだの関係について理解できる。
							健康について理解できる。
							健康に対する取り組みについて理解できる。
							授業科目の貢献度
		健康科学 B		2	2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。
							人体の構造について理解できる。
							障害について理解できる。
							傷害について理解できる。
							体力について理解できる。
							授業科目の貢献度
		認知科学 A		2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。
							知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。
							認知機能の神経機構について説明することができる。
							ヒューマンエラーの原因について説明することができる。
							認知科学の哲学的な問題を説明することができる。
							授業科目の貢献度
		認知科学 B		2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。
							我々が当たり前のように行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。
							記憶のメカニズムや分類について説明することができる。
							自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。
							ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。
							ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる。
							授業科目の貢献度
		環境科学 A		2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。
							地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。
							地球環境問題対策を理解する。
							地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。
							授業科目の貢献度
		環境科学 B		2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総論的に理解する。
							太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。
							生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。
							生命の生存条件を理解する。
							授業科目の貢献度
		自然科学概論 A		2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。
							科学リテラシーの必要性を理解できる。
							近代科学の特徴を説明できる。
							20 世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。
							科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		自然科学概論 B		2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探究する学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。
							物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。
							現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。
							現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。
							未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわりあいを展望できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				10									10
			10	10									20
				10									10
		10	10	10									30
		10	10	10									30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10		10									20
		10		10									20
			10	10									20
			10	10									20
			10	10									20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					10								10
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					40								40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	生物学A		2	3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。
							生物多様性のメカニズムについて説明することができる。
							遺伝的多様性の必要性について説明することができる。
							生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。
							環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。
							授業科目の貢献度
							進化的理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。
		生物学B		2	4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	ヒトの進化史を大まかに説明することができる。
							自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。
							性選択と自然選択の違いについて説明することができる。
							脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。
							授業科目の貢献度
							与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。
		地球科学A		2	3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。
							鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。
							水の特性から生物に与える影響が理解できる。
							古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。
							地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。
							授業科目の貢献度
		地球科学B		2	4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。
							様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。
							地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。
							日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。
							太陽系の進化から地球の未来像を把握する。
							授業科目の貢献度
		リベラルアーツ特別講義		2	集中講義9月	現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。
							問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。
							国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
		リベラルアーツ実践演習A		2	3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	授業科目の貢献度
							学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
							諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
							課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
							自らの課題に対して解決まで導くことができる。
							コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
							授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習B		2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
							諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
							課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
							自らの課題に対して解決まで導くことができる。
							コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					10								10
					20								20
					20								20
					10								10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				40									40
				20									20
					40								40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	教養総合講座A	2		3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠な CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。
							ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
							課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
							これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
							授業科目の貢献度
		教養総合講座B	2		4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。
							ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
							課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
							問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
							授業科目の貢献度
専門基礎科目		数学基礎	2		1 [2]	高等学校の数学から大学の数学への橋渡しとして、三角関数、指数関数、対数関数、集合と命題について学ぶ。	複素数の範囲で、2次方程式および高次方程式を解ける。
							分数式の四則計算と部分分数分解ができる。
							弧度法による一般角の三角関数を説明できる。
							三角関数の加法定理を用いた計算ができる。
							指数法則を理解し、それを用いた計算ができる。
							対数の性質を理解し、それを用いた計算ができる。
							集合の共通部分と合併集合を理解し、公式を用いた要素の個数の計算ができる。
							授業科目の貢献度
		解析学1	2		1 [2]	1変数関数の微分積分の基礎理論と基礎的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の計算に慣れるようにする。	導関数の基本公式(定数倍・四則・合成関数)を説明できる。
							基本関数(べき関数、指数・対数関数、三角・逆三角関数)の微分公式を説明できる。
							初等関数を微分できる。
							不定積分の意味および基本関数の不定積分公式を説明できる。
							置換積分法と部分積分法を理解し、それらを用いることができる。
							定積分と不定積分の関係を理解し、基本的な定積分の計算ができる。
							授業科目の貢献度
		解析学2	2		2 [3]	1変数関数の微分積分の応用理論と発展的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の応用に慣れるようにする。	ライプニッツの公式を理解し、それを積の高階微分計算に応用できる。
							ロピタルの定理を理解し、それを不定形の極限計算に応用できる。
							テーラーの定理を理解し、指数関数・三角関数のテーラー展開がかけられる。
							有理関数の不定積分を計算できる。
							無理関数・三角関数を含む不定積分を置換積分を用いて計算できる。
							定積分の応用として、曲線の長さを計算できる。
							授業科目の貢献度
		解析学3	2		3 [4]	解析学1, 2を基にして、多変数関数(主に2変数関数)の微分、積分法の基礎理論とその応用について学ぶ。	偏導関数の意味を理解し、初等関数の偏導関数を求めることができる。
							2変数関数についての合成関数の微分公式(連鎖律)を理解し、それを応用できる。
							2変数関数の極値を調べることができる。
							2重積分の意味と基本性質を説明できる。
							反復積分公式を使って2重積分を計算できる。
							変数変換公式を用いる2重積分の計算ができる。
							授業科目の貢献度
		常微分方程式	2		4 [5]	解析学1, 2の基本事項を基にして、1変数関数の微分方程式である常微分方程式の解法について学ぶ。	常微分方程式とその解の意味を説明できる。
							変数分離形および同次形の微分方程式が解ける。
							1階線形および完全微分形の微分方程式が解ける。
							斉次線形微分方程式の解の性質を説明できる。
							定数係数斉次線形微分方程式が解ける。
							2階非斉次線形微分方程式の特殊解の求めかたを理解し、それを応用できる。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
						20							20
						20							20
						20							20
						40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					11		5						16
					6		10						16
					5		7						12
					9		5						14
					6		8						14
					6		6						12
					12		4						16
0	0	0	0	0	55	0	45	0	0	0	0	0	100
					10		7						17
					9		6						15
					8		10						18
					8		6						14
					6		12						18
					6		12						18
0	0	0	0	0	47	0	53	0	0	0	0	0	100
					8		7						15
					9		6						15
					10		8						18
					7		13						20
					6		12						18
					6		8						14
0	0	0	0	0	46	0	54	0	0	0	0	0	100
					8		6						14
					6		10						16
					6		14						20
					10		5						15
					5		15						20
					6		9						15
0	0	0	0	0	41	0	59	0	0	0	0	0	100
					9		6						15
					4		12						16
					5		16						21
					10		5						15
					7		10						17
					5		11						16
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群	線形代数1		2	1			行列式および行列の基本性質、演算方法を学び、1次連立方程式の解法に応用する。複素数の基本事項についても学ぶ。	行列式の基本性質を説明できる。
								余因子展開を使って行列式の計算ができる。
								行列の和・積等の計算ができる。
								逆行列を求めることができる。
								クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。
								複素数の極形式を使った計算ができる。
								授業科目の貢献度
	線形代数2		2	2			高等学校で学んだベクトルをさらに詳しく学んだ後、新しくベクトルの外積を学び、空間図形の解析に応用する。	空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。
								内積の定義および演算法則を説明できる。
								成分計算を含め内積を使った計算ができる。
								外積の基本性質を説明できる。
								成分による外積の計算ができる。
								外積を使って、三角形の面積および四面体の体積を計算できる。
								固有直交行列によって表される空間の回転の回転軸を求めることができる。
								授業科目の貢献度
	線形代数3		2	3			情報理系に必要な数学の基礎として、平面・空間のベクトルを一般化した多次元ベクトル空間（線形空間）のとりえ方を学んだ上で、連立一次方程式などへの応用を意図しつつ、行列から直交基底系を生成する方法ならびに行列の固有値分解・対角化について学びます。	一次独立とは何か理解できる。
								ベクトル空間の基底系とは何か理解できる。
								グラム・シュミットの方法で直交基底系を作ることができる。
								正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。
								行列の対角化ができる。
								授業科目の貢献度
								集合、論理、関係の基本概念について理解している。
	情報数学		2	2			情報科学を学ぶためには、数学理論の基礎となる数理理論の思考法を理解することが重要になります。この授業では、情報科学を学ぶ上での基礎的な離散数学の内容として、集合、論理、関数、写像、グラフ理論などの学習を行います。情報科学で必要となる数学的概念や表記法を理解することを目標とします。	数学における基本的な証明を説明することができる。
								集合と要素を記号を用いて表現することができる。
								写像と関数の定義について説明することができる。
								集合間の関係をグラフで表現することができる。
								順序関係を説明することができる。
								授業科目の貢献度
								集合の和と積を説明できる。
	確率・統計		2	3			集合・事象・標本空間など出発点の考え方を知った上で、確率変数と確率密度関数、分布関数、期待値、分散など重要な量とそれらに関わる定理を学びます。また、ポアソン分布・正規分布など代表的な確率分布についても学びます。	順列と組合せを説明できる。
								集合を使って確率を説明できる。
								正規分布の平均と分散を知っている。
								授業科目の貢献度
								Excelで統計の関数が扱える。
								度数分布表を作成できる
								標準偏差を説明できる。
	情報統計学		2	4			この授業では、コンピュータを利用して膨大な情報（データ）を効率的かつ迅速に処理するために必要な統計処理の最も基本的な知識・技術の習得を目的とします。統計に関する講義に加えて表計算ソフトウェアの関数機能を利用した統計処理の演習を行います。	簡単な回帰分析ができる。
								正規分布を説明できる。
								検定方法を説明できる。
								検定方法を説明できる。
								力の合成・分解をベクトルを使って説明できる。
								基本的な力（重力、ばねの力、摩擦力）の法則を説明できる。
								速度、加速度の定義を説明できる。
	力学		2	1			物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。この科目の大きな目標は、 (1) ベクトルに基づいて、力の合成・分解を正確に理解する (2) 微分積分に基づいて、運動方程式を解くことで物体の運動が決定できることを学ぶの二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	力学の3つの基本法則を説明できる。
								単振動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。
								授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
					12		4						16
					10		8						18
					7		8						15
					9		9						18
					6		10						16
					8		9						17
0	0	0	0	0	52	0	48	0	0	0	0	0	100
					14		4						18
					8		2						10
					4		8						12
					8		2						10
					4		8						12
					8		10						18
					10		10						20
0	0	0	0	0	56	0	44	0	0	0	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								15	5				20
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	10				20
								10	5				15
0	0	0	0	0	0	0	0	65	35	0	0	0	100
								25					25
								25					25
								25					25
								25					25
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
											20		20
										10	5		15
							10			5			15
									10	5			15
								10		5			15
								10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	40	30	0	100
					6		14			40			20
					6		14			10			20
					6		14			10			20
					6		14						20
					6		14			10			20
0	0	0	0	0	30	0	70	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択	区分 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		電磁気学	2	2	2	この科目では、電気と磁気を統一的に理解する物理学の一分野である「電磁気学」の基礎を扱います。電磁気学は電流や電気回路などを理解する基礎理論であり、重要な科目です。この科目では、まず「電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること」や「電流は電子の集団の運動であること」など基本的な自然界の姿を学びます。次に、これを踏まえて、電場（電界）や磁場（磁界）といった「場」という概念を学びます。なお、電磁気学の内容には力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	電気力と電場の関係を説明できる。 電位と静電エネルギーを説明できる。 ミクロな視点で電流を説明できる。 ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。 電流が作る磁場（磁束密度）の図を使って説明できる。
						授業科目の貢献度	
		情報システム入門セミナー	1		1	大学生活全般に関わる指導と支援を行うこと、専門課程に対する関心や興味を喚起することを目的として、学士課程教育プログラム、安全教育、キャリア教育、専任教員の教育研究活動などについて学びます。	学士課程教育プログラムを理解している。 安全に学生生活を送るための知識を把握している。 キャリア形成に関わる知識を把握している。 学科教員教育活動または研究室研究活動を概ね理解している。
						授業科目の貢献度	
		情報概論	2		1	情報を科学的にとらえ、コンピュータの仕組みや様々な信号をデジタル信号として扱う方法を概観しながら、今後学ぶ「情報」関連科目の基本原則と考え方を学びます。	コンピュータでは、すべての情報が2進数で表される理由を説明できる。 10進数、2進数、16進数を相互に変換することができる。 アナログ信号をデジタル信号に変換する原理を説明できる。 コンピュータ内で、文字、画像、音などの情報がどのように扱われるか説明できる。 コンピュータでのプログラム実行のしくみを説明できる。
						授業科目の貢献度	
		情報処理基礎	2		1	コンピュータ内での情報の表現方法、情報の表現に必要な2進数およびその演算方法、コンピュータを構成する基本的な論理回路、コンピュータの基本的な仕組みや動作を学びます。	コンピュータ内での情報の表現方法がわかる。 2進数の演算方法がわかる。 基本的な論理演算がわかる。 コンピュータを構成する基本論理回路がわかる。 コンピュータの基本的な仕組み・動作がわかる。
						授業科目の貢献度	
		ハードウェア基礎	2		2	デジタル回路の基礎となる基本論理ゲート、論理式の簡単化、論理回路の実用的な表現方法、真理値表から論理回路を実現する方法、フリップフロップについて学びます。	基本論理ゲートの機能がわかる。 カルノー図を用いて論理式を簡単化することができる。 真理値表を論理式で表すことができる。 フリップフロップの機能がわかる。 フリップフロップのタイミング図を作成することができる。
						授業科目の貢献度	
		プログラミング入門	2		1	情報処理技術者には、コンピュータを利用するだけでなく、そのプログラム作成する技能が要求されています。この授業では、初学者を対象に、HTMLとJavaScriptによるWebプログラミングによる演習を行い、プログラムの基本的な内容について学習します。	情報機器の使用法、コンピュータ・周辺装置の操作、オペレーティングシステムの利用法、テキストエディタの使い方がわる。 ホームページの仕組みが理解でき、ブラウザ上に文字・画像・表を出力させることができる。 プログラムを作成する一連の作業手順がわかる。 変数、処理の分岐、配列、繰り返し処理などの使い方がわかる。 プログラミングに必要な各種演算子の使い方がわかる。 JavaScriptのイベントハンドラを使った動的なホームページを作成することができる。
						授業科目の貢献度	
		情報ネットワーク概論	2		2	身の回りで広く利用されている情報通信サービスがどのような仕組みにより実現されているのかを、インターネットで広く利用されているTCP/IPモデルとその通信プロトコルを中心に学習し、コンピュータネットワークに関する基礎技術について理解を進めます。	インターネットについて説明できる。 クライアント・サーバシステムについて説明できる。 TCP/IPモデル、OSI7層モデルについて説明できる。 IPアドレス、MACアドレスについて説明できる。 インターネット上のコンピュータ同士でデータがやりとりできる仕組みを説明できる。 インターネット利用時のモラルやエチケットを説明でき、実行できる。
						授業科目の貢献度	

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
					8		12						20
					8		12						20
					8		12						20
					8		12						20
					8		12						20
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	100
								20	10				30
								10			10		20
								10			10		20
								20	10				30
0	0	0	0	0	0	0	0	60	20	0	20	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								20					20
								15		5			20
								15		5			20
								15		5			20
								15		5			20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	0	0	100
								20					20
								20		10			30
								10		10			20
								20					20
										10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	30	0	0	100
											15		15
								10			10		20
								10	5	5			20
								10		5			15
								10		5			15
0	0	0	0	0	0	0	0	50	5	20	25	0	100
								10					10
								10	5				15
								15	5				20
								10	5				15
								15	10				25
								5	5	5			15
0	0	0	0	0	0	0	0	65	30	5	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群		基礎電気回路	2		1	回路技術は、あらゆる分野で使われている極めて重要な技術であります。この授業では、情報系学生であっても最低限身につけてもらいたい回路の常識を、直流回路に対する理論を通じて学び、演習を交えて理解を深めます。	電圧と電流の関係がわかる。
							オームの法則を使って電圧、電流、抵抗の値を計算することができる。
							直列接続、並列接続された抵抗の値を計算することができる。
							電力の値を計算することができる。
							分圧・分流の法則がわかる。
							キルヒホッフの法則がわかる
							授業科目の貢献度
専門科目群	基幹科目	プログラミング1	2		2 〔3〕	C言語について、変数、条件分岐、繰り返し処理、配列など、基本的な機能要素・処理要素を学習します。そして、これらを用いたプログラム作成と動作確認を通じて、プログラミングの基礎技術を学びます。	変数の役割、型について説明できる。
							プログラムの実行順序について説明できる。
							分岐処理と繰り返し処理を書くことができる。
							繰り返し処理により配列を操作することができる。
							変数の内容を適切な形で出力できる。
							授業科目の貢献度
		プログラミング2	2		3 〔4〕	C言語について、関数、ポインタ、構造体、ファイル入出力処理を学びます。そして、これらを用いたプログラムの作成と動作確認を通じて、より実用的なプログラムの開発技術を学びます。	関数の定義、仮引数について説明できる。
							関数呼出しを含んだプログラムの実行順序について説明できる。
							ポインタを用いたプログラムの実行結果を説明できる。
							構造体を用いたプログラムを作成できる。
							ファイル入出力処理するプログラムを作成できる。
							授業科目の貢献度
		アルゴリズムとデータ構造1	2		4	コンピュータで問題を解く手順であるアルゴリズムとデータを表現・格納するためのデータ構造について系統的に学びます。計算量を含むアルゴリズムの基本的な考え方、整列・探索アルゴリズムの基本手法などについて学びます。	アルゴリズムとは何か説明ができる。
							計算量について説明ができる。
							関数の再帰的呼び出しが分かる。
							ソートアルゴリズムについて説明ができる。
							リニアサーチ、バイナリサーチについて説明ができる。
							授業科目の貢献度
		アルゴリズムとデータ構造2	2		5	バックトラック法やハッシュ法による探索アルゴリズムの設計方法について学びます。また、アルゴリズムを記述する際に使用されるリスト、スタック、キュー、木（ツリー）などの代表的なデータ構造について学びます。	バックトラッキングについて説明ができる。
							ハッシュ探索について説明ができる。
							リストの構造について説明ができる。
							スタック、キューの構造について説明ができる。
							木構造について説明ができる。
							授業科目の貢献度
		数値計算法	2		6	コンピュータによる数値計算と誤差、補間と近似、非線形方程式、常微分方程式、連立一次方程式、数値積分、数値微分などに対する基礎的・標準的な解法やアルゴリズムを学び、C言語によるプログラミングの演習を通じて身につけます	コンピュータによる数値計算とその誤差について説明できる。
							補間と近似について説明できる。
							非線形方程式の求解（二分法、ニュートン法）の方法について説明できる。
							常微分方程式の求解（オイラー法、ルンゲ・クッタ法）について説明できる。
							連立一次方程式の解法（ガウス方法他）について説明できる。
							授業科目の貢献度
		アーキテクチャ1	2		3	モデルコンピュータとして COMET 2 を取り上げ、コンピュータの設計思想であるコンピュータアーキテクチャについて、ハードウェアとソフトウェアの機能分担を中心に講義します。最初に、コンピュータアーキテクチャの基本となる論理回路について復習します。続いて、コンピュータを構成する算術論理演算装置 (ALU)、メモリ、入出力の実現方式について解説します。	ノイマン・コンピュータの基本構成を理解できる。
							全加算器にて ALU を構成できることが理解できる。
							演算フラグの役割を理解できる。
							命令コードの構成を説明できる。
							簡単な命令の逆アセンブル手順を説明できる。
							授業科目の貢献度
		アーキテクチャ2	2		4	コンピュータアーキテクチャ1に引き続いて、コンピュータの設計手順や構成方法に関する基本的な事項を講義します。ここでは、理解を深めるために、仮想コンピュータ COMET 2 のほか、実際のマイクロプロセッサを取り上げます。	実効アドレスを求める手順を説明できる。
							LD 命令と LAD 命令の区別が説明できる。
							演算命令でフラグが変化する理由を説明できる。
							プログラムカウンタの役割を説明できる。
							スタックポインタの役割を説明できる。
							命令フェッチサイクルの流れを説明できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								20					20
								15		5			20
								10		5			15
								10		5			15
								10		5			15
								10		5			15
0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	25	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
									10	10			20
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	50	30	0	0	100
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	100
									6	6	8		20
									6	6	8		20
									6	6	8		20
									6	6	8		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	30	40	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10	10				20
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	オペレーティングシステム	2	3		OS の役割を説明できる。	OS の役割を説明できる。
						マルチプログラミングを説明できる。	マルチプログラミングを説明できる。
						オペレーティングシステム（OS）の種類と、その基本機能について学びます。特にサーバでよく使われる UNIX-OS のコマンドについて一部実習を通じて学び、パソコン OS(Windows) との違いを具体的に理解します。	割り込みを説明できる。
							メモリ管理手法を説明できる。
							UNIX の代表的なコマンドを列挙できる。
							授業科目の貢献度
		情報ネットワーク 1	2	3		クライアントサーバモデルを説明できる。	クライアントサーバモデルを説明できる。
						パケット交換・回線交換の利点・欠点を説明できる。	パケット交換・回線交換の利点・欠点を説明できる。
						CSI 参照モデル・TCP/IP モデルを説明できる。	CSI 参照モデル・TCP/IP モデルを説明できる。
						MAC アドレスの構成を説明できる。	MAC アドレスの構成を説明できる。
						IP アドレス・ネットワスクの役割を説明できる。	IP アドレス・ネットワスクの役割を説明できる。
							授業科目の貢献度
		情報ネットワーク 2	2	4		ルーティングのしくみについて説明できる。	ルーティングのしくみについて説明できる。
						ポート番号の役割について説明できる。	ポート番号の役割について説明できる。
						DNS の動作について説明できる。	DNS の動作について説明できる。
						電子メールのしくみについて説明できる。	電子メールのしくみについて説明できる。
						ネットワークの主要なコマンドを利用できる。	ネットワークの主要なコマンドを利用できる。
							授業科目の貢献度
		情報理論	2	4		情報の量 (ビット) の定義を行い、情報量の計算をして、自己情報量や平均情報量を算出します。また、効率のよい符号化について学び、さらに、送信されてきた情報を受信側でチェックし誤りのある場合にはそれを受信側で訂正できる符号化法についても学習します。	自己情報量が説明できる。
							エントロピーを求めることができる。
							通信系のモデルについて説明できる。
							マルコフ情報源について説明できる。
							2 元対称通信路について説明できる。
							授業科目の貢献度
		オートマトン・言語理論	2	4		有限オートマトンに対する状態遷移図を構成できる。	有限オートマトンに対する状態遷移図を構成できる。
						非決定性有限オートマトンから等価な決定性有限オートマトンを構成できる。	非決定性有限オートマトンから等価な決定性有限オートマトンを構成できる。
						最簡形の有限オートマンを構成できる。	最簡形の有限オートマンを構成できる。
						有限オートマトンから正規文法を構成できる。	有限オートマトンから正規文法を構成できる。
						正規文法から有限オートマトンを構成できる。	正規文法から有限オートマトンを構成できる。
							授業科目の貢献度
		電気回路 1	2	2		正弦波交流電圧および電流の各波形を描くことができる。	正弦波交流電圧および電流の各波形を描くことができる。
						正弦波交流電圧および電流の実効値が理解できる。	正弦波交流電圧および電流の実効値が理解できる。
						リアクタンスおよびインピーダンスが理解できる。	リアクタンスおよびインピーダンスが理解できる。
						正弦波交流の電圧、電流の位相角が理解できる。	正弦波交流の電圧、電流の位相角が理解できる。
						有効電力、無効電力、皮相電力の関係が理解できる。	有効電力、無効電力、皮相電力の関係が理解できる。
							授業科目の貢献度
		電気回路 2	2	3		複素数の基本的な計算ができる。	複素数の基本的な計算ができる。
						静電容量および自己インダクタンスの複素数表示がわかる。	静電容量および自己インダクタンスの複素数表示がわかる。
						R、L、C の直並列回路の合成インピーダンスおよび合成アドミタンスを求めることができる。	R、L、C の直並列回路の合成インピーダンスおよび合成アドミタンスを求めることができる。
						R、L、C の直列回路および並列回路の共振がわかる。	R、L、C の直列回路および並列回路の共振がわかる。
						交流ブリッジ回路の平衡条件がわかる。	交流ブリッジ回路の平衡条件がわかる。
						閉路電流法および節点電圧法によって回路方程式を求めることができる。	閉路電流法および節点電圧法によって回路方程式を求めることができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
								5	15				20
								5	15				20
								5	15				20
								5	15				20
										15	5		20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	60	15	5	0	100
								2	18				20
								2	18				20
								2	18				20
								2	18				20
								2	18				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	0	0	0	100
								3	20				23
								3	20				23
								2	20				22
								2	20				22
										10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	10	80	10	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10					10
								10	10				20
								10	10				20
								10	5				15
								10	5				15
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門科目群	基幹科目	情報演習 A	4		3	コンピュータを中心とする情報機器の基礎となる電気・電子回路について講義と演習を通して学習します。授業では、基本的な電気・電子回路の動作原理や特性、電圧・電流等の計測手法や計測機器の操作方法について学びます。	抵抗回路の合成抵抗の計算ができる。
							ブリッジ回路の平衡条件がわかる。
							抵抗、コイル、コンデンサの交流特性がわかる。
							ダイオード、トランジスタ、オペアンプの基本的な機能がわかる。
							電圧や電流の測定方法がわかる。
							テスタやオシロスコープの基本的な操作方法がわかる。
							授業科目の貢献度
		情報演習 B	4		4	コンピュータや情報機器を構成する論理回路に関する基礎的な事項について学習します。授業では、講義および演習に加えて、デジタル IC を使用した回路製作の実習を通してハードウェア技術の基礎を体験的に学びます。	ブール代数の定理やカルノー図を用いて論理式を簡単化できる。
							真理値表を論理式で表すことができる。
							フリップフロップの機能がわかる。
							カウンタの機能がわかる。
							基本的なデジタル IC の機能や使用方法がわかる。
		情報演習 C	4		5・[6]	音声信号の作成方法と記録方法、音声の認識と合成、画像処理プログラミングについて学びます。また、発展課題を設けて、調査・研究した事柄についてプレゼンテーション形式で発表します。	平均率音階の周波数を計算できる。
							ファイル内の数値から音声波形を再現できる。
							画像処理の基本的な技術について説明できる。
							顔検出・顔認識プログラムを作成できる。
							プレゼンテーション形式で調査内容を発表できる。
		情報演習 D	4		[5]・6	C 言語によるマイコン搭載ライントレースカーの制御、コンピュータネットワークの接続と設定について学びます。また、発展課題を設けて、調査・研究した事柄についてプレゼンテーション形式で発表します。	マイコン特有の C 言語記述方法を理解できる。
							マイコンによる制御プログラムが作成できる。
							IP アドレスやネットマスクについて説明できる。
							Linux におけるネットワークの設定方法を説明できる。
							プレゼンテーション形式で調査内容を発表できる。
	展開科目	ソフトウェア工学	2		5	大規模なソフトウェアを工学的なアプローチで開発するための方法であるソフトウェア工学について学習します。構造化分析・設計手法とオブジェクト指向分析・設計手法を中心に、ソフトウェア開発に必要な知識を学習します。	ソフトウェア開発プロセスを説明できる。
							要求分析における基本事項を説明できる。
							構造化分析手法の手順を示すことができる。
							オブジェクト指向分析・設計手法の手順を示すことができる。
							ソフトウェアのテスト手法を説明することができる。
		コンパイラ構成法	2		5	コンパイラは、プログラミング言語で記述されたソースプログラムを機械語プログラムに翻訳するソフトウェアです。コンパイラを構成するための技術体系として、コンパイラの構成を理解した後、コンパイラの中核技術となる字句解析・構文解析・意味解析・コード生成の技法について学習します。	コンパイラの構成を説明できる。
							コンパイラの字句解析技法を説明できる。
							コンパイラの構文解析技法を説明できる。
							コンパイラの意味解析技法を説明できる。
							コンパイラのコード生成技法を説明できる。
		オブジェクト指向プログラミング	2		6	Java 言語を用いたプログラミングについて学習します。C 言語に類似した部分と、C 言語にはない部分を理解し、オブジェクト指向プログラミングの技術を学習します。	C 言語と Java 言語の違いのポイントを説明できる。
							メソッドとその多重定義について説明できる。
							クラスとインスタンスの違いを説明できる。
							継承の意味と意義を説明できる。
							オブジェクト指向の意義を説明できる。
	共通	データベース	2		6	データベースのモデル論とシステム論を学習します。モデル論としては、基本概念、関係データモデル、データベース言語 SQL、データベースの設計法を学びます。さらに、システム論として、データベースシステムの主要な構築技術を学びます。	関係データモデルを説明できる
							関係代数の演算を説明できる。
							関係データベース言語 SQL を使って問合せを作成できる。
							関係スキーマを設計できる。
							データベースのシステム化技術を説明できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
										10	10		20
										10	10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	20	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
										10	10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	10	10	0	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
											20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								10	5	5			20
								5	10	5			20
								5	10	5			20
								5	10	5			20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	45	25	0	0	100
									10				20
									20				20
									10	20			20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門科目群	展開科目	共通	分散処理	2	7	分散システムを理論的に捉え、いくつかの問題やそれを解決する分散アルゴリズムについて学習します。分散アルゴリズムの持つ本質的な性質を理解し、分散システム上での新たなサービスの開発や提案のための基礎知識を身に付けます。	分散システムとそのモデルを理解し説明できる。
							分散アルゴリズムとその評価尺度を理解し説明できる。
							分散システム固有の問題とその解決法を列挙できる。
							分散システムの非同期性と局所性を理解し説明できる。
							分散システム上での故障について理解し説明できる
							授業科目の貢献度
							周波数と周期の関係がわかる。
			信号処理基礎	2	4	信号処理とは時間的あるいは空間的に変化する情報を、数学的手法を用いてある目的に適合するように加工することである。この授業では、その基礎的位置づけとして、連続時間（アナログ量）に対する信号の表現方法や、信号の特性を把握するための数学について学びます。	信号の大きさと位相がわかる。
							フーリエ級数展開の物理的意味がわかる。
							オイラーの公式を使って複素正弦波が説明できる。
							フーリエ級数展開を使って周波数スペクトルを求めることができる。
							フーリエ変換の物理的意味がわかる。
							授業科目の貢献度
			デジタル信号処理	2	5	フーリエ変換・ラプラス変換とその離散版および標準化定理など信号処理の基礎を学んだ上で、それらの応用として、周波数分析や離散時間システム（デジタル・フィルタ）について学びます。	離散フーリエ変換を知っている。
							z変換を知っている。
							システムの極と安定性がわかる。
							デジタル・フィルタのブロック図がわかる。
							授業科目の貢献度
			デジタル回路	2	5	情報機器を構成する実用的なデジタル回路の実現に必要な、デコーダやマルチプレクサなどの各種組合せ回路や、カウンタやシフトレジスタなどの順序回路の機能や特徴およびそれらの設計方法について学びます。	エンコーダ、デコーダの機能がわかる。
							マルチプレクサ、デマルチプレクサの機能がわかる。
							非同期式カウンタの仕組みがわかる。
							同期式カウンタの仕組みがわかる。
							シフトレジスタの機能がわかる。
			電子回路	2	6	電子デバイスの基礎となる半導体の性質、電子回路を構成するダイオードやトランジスタなどの電子デバイスの仕組み、基本的な増幅回路の動作原理およびその解析方法、代表的なアナログ IC であるオペアンプについて学びます。	シフトレジスタの機能がわかる。
							ダイオードの仕組みがわかる。
							MOSFET の仕組みがわかる。
							バイポーラトランジスタの仕組みがわかる。
							基本的な増幅回路の動作原理がわかる。
							オペアンプの特徴および主な応用回路がわかる。
							授業科目の貢献度
			情報システム最新技術	2	7	情報システムの中核を成すコンピュータやネットワークおよび情報処理技術は日進月歩で発展し、変化しています。この講義では、最新のコンピュータやネットワークおよび情報処理技術について、原理、構成、応用、発展可能性などを学び、卒業後も継続的に学ぶ姿勢を身につけ、技術者として長く活躍できることを目指します。	コンピュータやネットワークの進歩の歴史を説明できること。
							最新の情報システムの利用動向に関して説明できること。
							最新の情報システムによる制御技術動向について説明できること。
							最新の情報システムの応用技術動向について説明できること。
							授業科目の貢献度
			C A D	2	7	C A D機能の理解とC A D作図法の基本について学び、C A Dを用いた電気・電子回路の作図を通して製図に関する規格や図記号について学びます。	AutoCAD の基本操作ができる。
							製図の基本的なルールがわかる。
							CAD を用いて機械部品を製図することができる。
							CAD を用いて電気・電子回路図を製図することができる。
							授業科目の貢献度
		コンピュータシステム系	制御工学	2	5	制御とは機械やロボットを思い通りに動かすために必要となる要素技術です。この授業では、制御を行なう対象がどのような特性を有するのかを解析する手法と、制御をするための方法について学びます。	制御対象をモデル化することができる。
							状態変数や極の物理的意味がわかる。
							制御ができるための条件がわかる。
							制御系の安定性を確認することができる。
							状態フィードバック制御を使って極を配置することができる。
							制御系を最適化する方法がわかる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								10	5				15
								10	5				15
								10		5		5	20
								10					10
								10			5	5	20
								10		5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	10	10	5	15	100
								10	15				25
								10	15				25
								5	20				25
								5	20				25
0	0	0	0	0	0	0	0	30	70	20	20	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	10	10	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10					10
								30					30
								30					30
								30					30
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
									5	5		5	15
								10	5				15
								10		5			15
								10		5			15
								10	5			5	20
								10	5			5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	20	15	0	15	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択 自由			
専門科目群	展開科目	コンピュータセンシング	2	5	家電製品などの民生品からロボットなどの産業機器に到るまで、あらゆる機器にセンサが組み込まれており、センサは我々の生活を支えています。この講義では、センサの原理から、センサ信号をマイクロコンピュータに取り込むまでの技術について学びます。	センシングの概念や単位・誤差が理解できる。	
						よく使われているセンサの検出原理が理解できる。	
						アナログ量をデジタル量に変換する AD 変換の原理が理解できる。	
						画像によるセンシングの概要が理解できる。	
						センサ信号の入力から表示までのブロック図を描くことができる。	
		授業科目の貢献度					
		コンピュータコントロール	2	6	ロボットをはじめとして、あらゆる機器・装置の制御にはコンピュータが使われています。この講義では、コンピュータ制御の基礎となるフィードバック制御から、コンピュータコントロール系の構成要素や機能などを学びます。	シーケンス制御系の構成要素をあげ、その構成・機能を説明できる。	
						フィードバック制御系の構成要素をあげ、その構成・機能を説明できる。	
						制御装置に制御用コンピュータを使う場合の利点をあげることができる。	
						コンピュータ制御系の基本的構成要素をあげ、その機能を説明できる。	
						マイコン制御の応用事例を説明できる。	
		授業科目の貢献度					
	組込システム プログラミング	2	6	自動車や通信情報機器等私たちの身の回りにはマイクロコンピュータを組込んだシステムが多く導入されています。この講義では、よく利用されている組込みコンピュータを題材として取り上げ、C 言語で記述されたプログラミング手法の理解をとおして、組込み系コンピュータの機能、構造を学びます。	組込システムの基本的な仕組み（ハードウェア構成）を理解できる。		
					マイコン用ヘッダファイルの記述内容が理解できる。		
	リアルタイムシステム	2	7	我々の身近な製品から産業機械にいたるまで、その動作はリアルタイム性が重視され、リアルタイムシステムとしての性質を持っています。本講義では、リアルタイムシステム構築に必要なソフトウェア（リアルタイム OS）技術、ハードウェア技術、システム開発設計手法の基本的な技術内容について学びます。	汎用入出力プログラムの記述内容が理解できる。		
					タイマ制御プログラムの記述内容が理解できる。		
					割込みの動作内容が理解できる。		
					授業科目の貢献度		
					リアルタイム OS の導入メリットについて理解できる。		
	情報ネットワーク系	ネットワークシステム	2	5	TCP/IP プロトコルスタックにおける様々な通信プロトコルの動作について学習します。メールや Web などの代表的なネットワークサービスを例題として、ネットワーク各層の動きを理解します。	リアルタイム OS の機能について理解できる。	
						リアルタイム OS のスケジューリング技法について理解できる。	
						マルチタスクのシーケンス図を表現できる。	
						リアルタイムシステムを構成する基本ハードウェアについて理解できる。	
						授業科目の貢献度	
ネットワークコンテンツ		2	6	インターネットを介した情報発信および情報共有のしくみ、通信と放送の関係について具体例を通してネットワーク活用とその有用性について学びます。電子商取引技術・情報セキュリティ・ネットワーク著作権についても触れます	TCP/IP 4 層モデルの各レイヤの働きを説明できる。		
					メール、Web などのアプリケーション層のプロトコルを説明できる。		
					名前解決システムの構造を説明できる。		
					TCP における輻輳制御の手法を説明できる。		
					マルチキャスト・ルーティング・プロトコルの動作を説明できる。		
授業科目の貢献度							
ネットワーク プログラミング		2	6	TCP/IP に関する理解を深めるために、ソケットの概念、IP アドレス、ポート番号など、ネットワークプログラミングに必要な知識を学習します。さらに、サーバ・クライアント形式のプログラムの作成とその動作確認により、ネットワークプログラミングについて実習します。	漢字コードとその構成を説明できる。		
	HTTP プロトコルについてその動作フローを説明できる。						
	メール転送に利用されるプロトフルの動作フローを説明できる。						
	メール拡張規格 M I M E について説明できる。						
	XML が広い範囲で利用される理由が説明できる。						
情報セキュリティ	2	7	情報ネットワークを安全面から支える情報セキュリティについて学びます。まず、情報セキュリティの基礎となる暗号理論を学びます。暗号理論では、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について学びます。さらに公開鍵基盤について学びます。情報セキュリティでは、実際に利用されている暗号化通信技術とその問題点について学びます。	IP マルチキャストで動作するプロトフルについて説明できる。			
				授業科目の貢献度			
				ネットワークシステムのサーバクライアントモデルの原理が説明できる。			
				TCP/IP の 4 層モデルの説明ができる。			
				TCP と UDP の違いについて説明できる。			

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	10	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								10					10
								10					10
								20		10			30
								20		10			30
								10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	30	0	0	100
								10					10
								20					20
								20					20
								20		20			40
								10					10
0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	0	0	100
								10	10				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	0	0	0	100
								10	5				15
								5	10	5			20
									15	5			20
									15	5			20
									10	5			15
									10				10
0	0	0	0	0	0	0	0	15	65	20	0	0	100
								5	10				15
								5	10				15
								5	10	10			25
									10	15			25
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	15	50	35	0	0	100
								15	15				30
								15	15				30
									10				10
									10				10
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	70	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択 自由			
専門科目群	展開科目	情報ネットワーク系	2	7		情報通信ネットワークのベースとなる情報の伝送、信号の伝送に関する基礎概念の理解と、通信方式に関する知識の習得を目的とし、通信システムの構成、各種アナログ変調・復調方式およびディジタル信号伝送の基礎知識を学びます。	変調と復調の役割がわかる。
							振幅変調がわかる。
							搬送波抑圧振幅変調および単側波帯振幅変調がわかる。
							周波数変調と位相変調がわかる。
		パターン情報処理	2	5	本パターン情報処理講義において、パターン情報処理の基本概念を説明し、基本構成（前処理、特徴量、識別手法な手法）を説明します。これらの基本要素の実問題への適用方法を具体的に説明します。	パターン情報処理における処理過程（前処理、特徴量、識別アルゴリズムなど）を理解する。 パターン情報処理で使用する数理的基礎を理解する。 パターン情報処理における各種アルゴリズムを理解する。 パターン情報処理が適用可能な実問題を理解する。 実問題のパターン情報処理による解決方法を説明する。	パルス符合変調の概要がわかる。
							授業科目の貢献度
							パターン情報処理における処理過程（前処理、特徴量、識別アルゴリズムなど）を理解する。
							パターン情報処理で使用する数理的基礎を理解する。
							パターン情報処理における各種アルゴリズムを理解する。
							パターン情報処理が適用可能な実問題を理解する。
							実問題のパターン情報処理による解決方法を説明する。
		音声画像処理	2	6	ディジタル信号処理の発展として、音声・画像のフーリエ変換、予測、フィルタリング、画像の特徴抽出法などを学び、圧縮・合成・パターン認識など音声画像の豊富な応用技術に向けて視野を広げます。	音声のスペクトルを説明できる。 線形予測分析を理解できる。 画像のフィルタリングを理解できる。 画像特徴抽出の考え方を理解できる。	授業科目の貢献度
							音声のスペクトルを説明できる。
							線形予測分析を理解できる。
							画像のフィルタリングを理解できる。
		自然言語処理	2	7	自然言語処理分野における諸技術として形態素解析・構文解析・意味解析といった解析手法、意味表現・コーパスといった知識の表現方法、情報検索・対話処理といった応用事例について学びます。	形態素解析について説明できる。 構文解析について説明できる。 意味解析について説明できる。 情報検索や対話処理のような応用事例について説明できる。	授業科目の貢献度
							形態素解析について説明できる。
							構文解析について説明できる。
							意味解析について説明できる。
		人工知能	2	6	人工知能の基本的技術である探索、推論、知識の表現、学習などを学び、また応用事例を学ぶことにより、人工知能を一般に使われるようなあいまいなものでなく学術分野で使われるときの意味を理解します。	情報検索や対話処理のような応用事例について説明できる。 言語の関わる諸問題と自然言語処理の技術に関連付けることができる。	人工知能分野における基礎的な諸技術について説明できる。
							状態の適切なモデル化ができる。
							モデル毎の適切な解の探索方法について説明できる。
							機械学習の各種手法について説明できる。
		ソフトウェア	2	7	コンピュータという機械による固い情報処理の限界を破る試みとして、著しい前進を遂げつつある「柔らかな情報処理」ーニューロ・ファジィ・遺伝的アルゴリズムによる情報処理ーについて学びます。	人工知能分野における諸技術と応用事例との関連を説明できる。	人工知能分野における基礎的な諸技術について説明できる。
							状態の適切なモデル化ができる。
							モデル毎の適切な解の探索方法について説明できる。
							機械学習の各種手法について説明できる。
専門科目群	関連科目	インタラシッ (学外研修)	2	6	大学で学んだ専門分野に關係する企業や団体などで実務を体験し、社会で情報技術がどのように活かされているか、また企業や団体の活動がどのように進められているかを理解します。この体験を残された大学での学習に生かすとともに、将来の職業選択に生かします。	社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。 企業や団体の活動がどのように進められているかを理解することができる。 企業や団体での体験を大学での学習に生かすことができる。 企業や団体での体験を将来の職業選択に生かすことができる。	社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。
							企業や団体の活動がどのように進められているかを理解することができる。
							企業や団体での体験を大学での学習に生かすことができる。
							企業や団体での体験を将来の職業選択に生かすことができる。
							授業科目の貢献度
							社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。
		技術者倫理	2	7	技術者には、技術が社会や環境にもたらす影響を考え、倫理的に正しく行動することが求められています。この授業では、討論形式で重大事故や失敗事例の具体的検討を行い、技術者としての対応を探り、技術者の役割と倫理的行動について理解します。	いわゆる「倫理」と「技術者倫理」の違いについて説明できる。 安全、安心、リスクという用語を説明できる。 技術が社会や環境に及ぼす影響を説明できる。 重大事故や失敗事例に対して、技術者としての対応の仕方について討論ができる。 技術者の役割とその倫理的行動について理解できる。	いわゆる「倫理」と「技術者倫理」の違いについて説明できる。
							安全、安心、リスクという用語を説明できる。
							技術が社会や環境に及ぼす影響を説明できる。
							重大事故や失敗事例に対して、技術者としての対応の仕方について討論ができる。
							技術者の役割とその倫理的行動について理解できる。
							授業科目の貢献度
		ソフトウェア	2	7	コンピュータという機械による固い情報処理の限界を破る試みとして、著しい前進を遂げつつある「柔らかな情報処理」ーニューロ・ファジィ・遺伝的アルゴリズムによる情報処理ーについて学びます。	社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。 企業や団体の活動がどのように進められているかを理解することができる。 企業や団体での体験を大学での学習に生かすことができる。 企業や団体での体験を将来の職業選択に生かすことができる。	社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。
							企業や団体の活動がどのように進められているかを理解することができる。
							企業や団体での体験を大学での学習に生かすことができる。
							企業や団体での体験を将来の職業選択に生かすことができる。
							授業科目の貢献度
							社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
									10	5		5	20
								5	5	5	5		25
								10	5	5			20
								5	5	5	5		20
								10	5	5			20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	40	25	20	5	100
								20	10				30
								10	10				20
								10	10				20
								10	5				15
										5	10		15
0	0	0	0	0	0	0	0	50	35	5	10	0	100
								5	20				25
								5	20				25
								5	20				25
0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	0	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	0	0	0	100
									20				20
								10	10				20
								10		10			20
									10	10			20
									10		10		20
									10			10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	20	10	10	100
									10	15			25
										10	10	5	25
										10	10	5	25
										10	10	5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	45	30	15	100
									20				20
									20				20
									20				20
									10			10	20
									10			10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	20	100

科目群	区分	授業科目	履修区分別 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	関連科目	知的財産権論	2		8	知的財産権の種類、権利の内容および知的財産権が守られている法律について鳥瞰し、中でも最も重要な特許権に関し、特許権取得までの手続き、特許権の存続期間、特許実施権について学びます。さらに特許権係争事例を通じて知的財産権の重要性を学びます。	知的財産権の種類と知的財産制度の基礎となる法律がわかる。
							企業での特許制度活用状況がわかる。
							特許権の出願から特許権取得までの手続きがわかる。
							特許権の内容と活用について説明できる。
							実用新案制度、意匠制度、商標制度と特許制度の違いがわかる。
							コンピュータソフト関連の発明を説明できる。
							授業科目の貢献度
	卒業研究	セミナ1	2		7	卒業研究の指導教員の下で、卒業研究に沿ったテーマや、卒業研究に関連した専門分野の知識の向上を図ります。	卒業研究の基礎となる知識や技術がわかる。
							卒業研究に関連したツールや装置を活用できる。
							授業科目の貢献度
		セミナ2	2		8	セミナ1に続いて、卒業研究の指導教員の下で、卒業研究に沿ったテーマや、卒業研究に関連した専門分野の知識の向上を図ります。	卒業研究の基礎となる知識や技術がわかる。
							卒業研究に関連したツールや装置を活用できる。
							授業科目の貢献度
		卒業研究	6		7・8	卒業研究の指導教員の下で特定の研究テーマに関して、実験、シミュレーション、解析、設計、調査等を行い、技術者としてのレベルアップを図ります。卒業研究が進んだ段階では、研究テーマについてのディスカッションや発表を行います。	卒業研究の内容に不可欠な知識や技術を理解している。
							卒業研究の内容を卒業論文にまとめて発表できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
									15				15
									15				15
									15				15
									15				15
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								20	20	20		20	80
											20		20
													0
													0
													0
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
								20	20	20		20	80
											20		20
													0
													0
													0
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
									10	20	20	20	70
									10	10		10	30
													0
													0
													0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	30	20	30	100

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる実学的な専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる研究を通して新たな価値を創造することを目的とする。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針になっています。

2.1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

専門力の育成としては、社会の変化に対応して創造性豊かな情報デザインができる人材を育成することを理念に、下記の**教育方針**を設定しています。【 】は分類項目です。

- (1). **【基礎・基盤】** 学生が情報化社会の特徴や課題を知り、職業観・倫理観を養い、他者と協調・協働して、主体的・積極的に学ぶ。
- (2). **【知識・理解】** 学生が形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料の原理、性質、ならびにそれらの表現法、製作法などに関する知識を得て、活用に向けて理解する。
- (3). **【発想・創造】** 学生が形、色、素材やそれらの組み合わせなどに関する感性、ならびに成り立ちや目的との関わりなどにおける論理性を養い、目標に向けた企画、発案、創作を行う。
- (4). **【表現・制作】** 学生がグラフィック、サウンド、映像、CADなどのソフトウェアやプレゼンテーション、制作、加工の装置を操作し、実践的な技法を習得して、表現・制作活動を行う。

上記教育目標を達成するために、学生は下記のような“道しるべ”となる達成基準を目指して、学びの“青写真”といえる標準教育プログラムにおける“道すじ”を示した履修モデルに沿って学修します(履修モデルについては後で説明します)。そして、このような教育目標達成基準(学科ディプロマ・ポリシー)に達して、合計取得単位数など卒業要件を満たすと卒業となります。

このような教育課程と教育方針・姿勢を含む学科の教育体系を図1に示します。

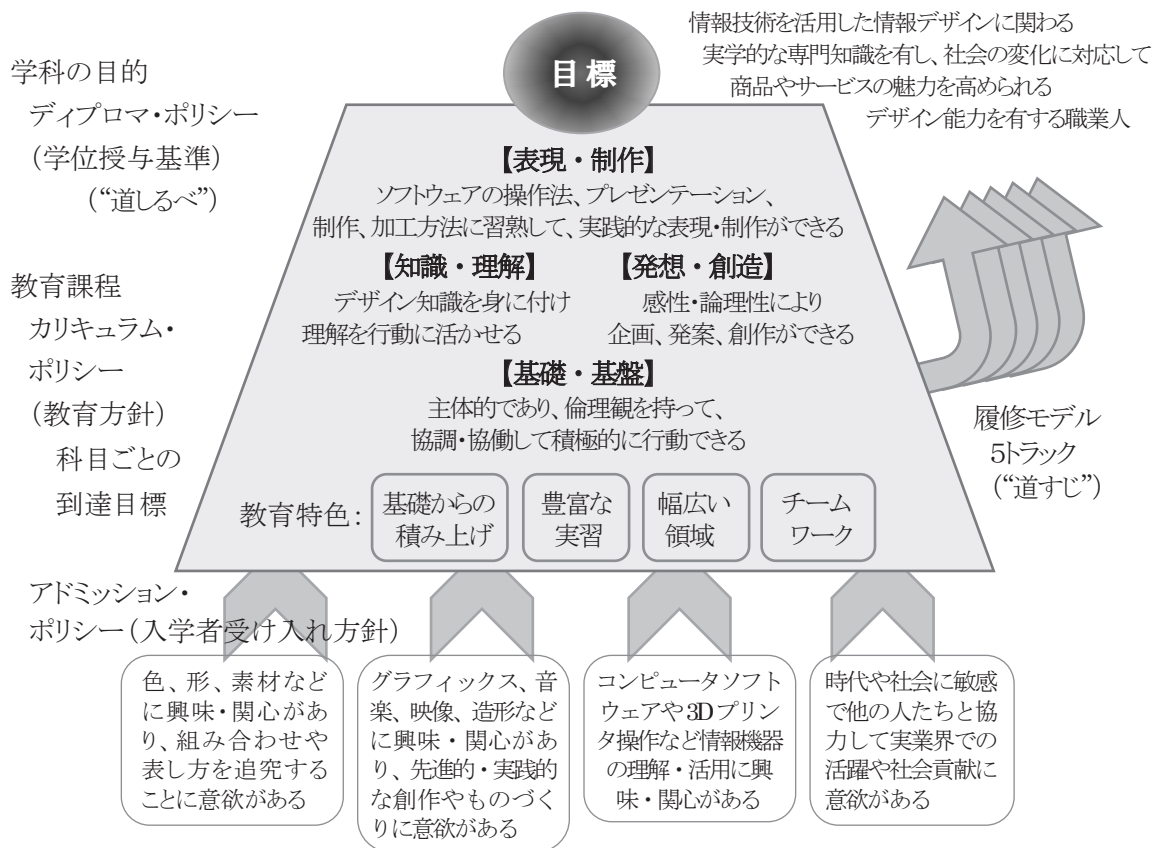


図1. 学科教育体系の概念図

2.2 学位授与の方針

情報デザイン学科では、以下の力を備えた者、すなわち、教育目標に到達した者に学位(情報学士)を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身に付けることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身に付けている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。

(専門力)

8. 主体的な学びの態度が備わり、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、他者と協調・協働して、目標実現のために積極的に行動できる。
9. 形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料、製作法など広くデザインに関する知識を身につけており、的確な分析・評価により、理解を行動に活かせる。
10. 豊かな感性および論理性により、状況に応じて適切に企画、発案ができ、効果的に創作ができる。
11. グラフィック、サウンド、映像、CADなどのソフトウェアの操作法、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟しており、実践的な表現・制作ができる。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身に付けることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。情報デザイン学科の標準教育プログラムは、以下の(1)～(6)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(専門力)

(3) 情報化社会に求められる基礎的人間力を身に付ける

自分自身を知り、行動力や判断力を身に付けます。初めてでも取り組めるようにデザインの基本を一から学ぶとともに、デザインはじめどのような分野に取り組むのにも必要な基本的な知とスキル、およびそれらを高めていく主体的な学習態度が身に付くように、1年次においては学科共通の専門基礎科目を学び、2年次以降は共通に開講される科目を学びます。

(4) 専門知識に基づいた創作力、設計力、構成力を身に付ける

形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料など広くデザインに関する知識を身に付けます。着想したアイデアを実践するために、デザインに関する知識や情報調査分析を学びながら、発展させたり、組み合わせたり、実用のために修整したりできる計画性や実行力を養います。

(5) 状況に応じて柔軟に理解、発想・創造ができる

感性および論理性に基づき、状況を察知して、他者・社会の目的を理解し、解決すべき課題を見つけられるようになります。デッサンや造形などデザインの基礎、自己表現、情報表現、広告・広報などを学び、発想や創造性をみがきます。

(6) 実践的に表現、制作する専門技術を身に付ける

グラフィックス、サウンド、映像、CG(コンピュータを使用したグラフィック作成)、CAD(コンピュータを使用した製図)、Web関連などのソフトウェアの操作法、2D、3Dプリンタによる出力技術、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟します。このようにして学んだことを総合的に用いて実践的な表現・制作に取り組みます。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置付け

本学の教育課程では、標準教育プログラムに基づき、学修の達成に必要な授業科目を順次的・体系的に配置するとともに、授業科目ごとに学修到達目標を定めています。また、授業科目の配置と学位授与の方針との関係を示すために、カリキュラムフローチャートとカリキュラムマップが準備されています。これらは本学の教育課程編成・実施の方針により作成されています。そして、皆さんが進みたい分野に応じて科目を選ぶ参考として履修モデルがあります。これを目安として、将来に向かって学んでください。

図2は標準教育プログラムに基づく教育課程の概念をまとめたものです。教育課程は人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。以下にそれぞれの科目群について説明します。

学年と目あて\目標	人間科学科目群	基礎・基盤	知識・理解	発想・創造	表現・制作
4年次 学んだことを結びつけ、 専門的な力を完成させる		卒業研究			
3年次 専門的な力を身に付け、 社会との関わりを理解する		展開科目	専門科目群 専門的な内容を学ぶ		基幹科目
2年次 専門的な学びに入り、 学びと進路の目標を作る		専門知識・スキルの基本を学ぶ			
1年次 大学における学習活動方法を身に 付け、基礎的な力を付ける		専門基礎科目群	基礎的素養をつちかう		

図2. 情報デザイン学科の教育課程概念図（科目群の位置付けと役割）

4. 1 人間科学科目群

(1)教育内容

a. 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ(First Year Seminar、略してFYS、初年次セミナ)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法(スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言い換えれば皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語 1・2」と「英語スキル 1・2」、2年次には「英語スキル 3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語 1・2(資格コース)」、「実践英語 1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとして)も運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語 세미나

基礎英語 세미나では、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含む A グループと B グループから成り立っています。なかでも B グループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与える

ことができるようにと工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるように、これが何を指しても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」とそれと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、B グループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは 21 世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくと同時に、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後は AI(人工知能)や IoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められていくのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2 年次、3 年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングや PBL(問題・課題解決型授業)を意識した少数科目を開講しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところに楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群 B グループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群と専門科目群

(1) 各専門分野に向けた学年ごとの学び方

「専門基礎科目」は、それぞれの専門分野における根幹となる科目です。「専門科目」は興味や将来の進路を考えて希望する内容を扱う科目です。4年次の「卒業研究」に関連する科目は、3年間で学んだことを活かし、さらに深めて行きます。自分なりのテーマを設定して制作を完成させたり、提案をしたり、論究したりして、集大成として学びを仕上げます。その成果として社会、企業の要求に応える、現場に強い実学的な情報デザイン能力を身に付けられます。

(2) 学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識とスキルを修得するかについて、各授業科目の学修到達目標が学位授与の方針との対応がカリキュラムマップに示されています。

学年進行に伴う履修の流れの概念を図3に示します。

学年\目安	目標に向かう履修の進み方				
履修モデル	グラフィックス クリエイター・ トラック	ムービー・サウン ドクリエイター・ トラック	クリエイティブ ビジネス・ トラック	コンシューマー ビジネス・ トラック	3Dデザイン・ トラック
4年次	卒業研究				
3年次	メディアデザイン分野				3Dデザイン分野
2年次					
1年次	共通の基本				

図3. 履修の進み方の全体概念図

この図3に示した履修の進み方の概念を説明します。

まず、1年次では、学科共通の基本的な内容の専門基礎科目を履修します。また、情報デザイン学科が目指す各分野を学ぶことができる内容も含んでいますので、後の専門分野を選択する際の足がかりにもなります。

2年次では、学生ごとの興味に沿って専門性を身に付けるために1年次の学びを基にして、「メディアデザイン分野」、「3Dデザイン分野」という2つの専門分野から1つを選び、専門的な学びに入っていきます。

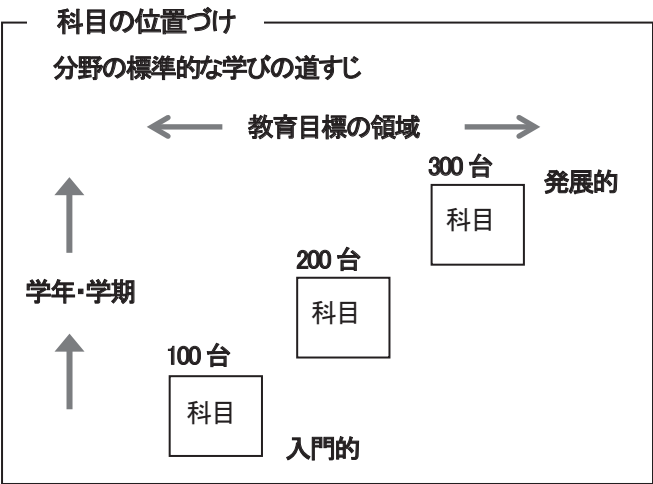
3年次では、それぞれの将来を考えながら、専門的に学びます。2・3年次では、分野ごとの基幹科目と、学科共通の展開科目があり、興味と必要に応じて履修します。

各科目は専門性とカリキュラム上の位置付けにより、共通の基本となったり、各専門を横断的に見たりする、基礎的または複合的な「基盤フィールド」、そして、グラフィックス、ムービー・サウンド、3Dについて特に専門的に学ぶ「グラフィックス・フィールド」、「ムービー・サウンド・フィールド」、「3Dデザイン・フィールド」、さらに、1・2年次では自由科目となる関連科目と3・4年次では学んだことを総合的に活かして取り組む卒業研究科目の「統合化フィールド」があります。それぞれの特色を理解して計画的に履修します。

次に、専門分野ごとに学ぶ内容を具体的に説明します。学科の科目一覧を図4に、その見方を図5に示します。科目には科目番号がついており、対象年次、科目の専門的位置づけ、開講期などが示されています。これにより、科目の領域や目標のレベルが判ります。

4 年次	専門科目群					499 卒業研究 492 情報デザイン研究 2 491 情報デザイン研究 1
	展開科目	334 クリエイティブワーク・プロジェクトB 372 WebデザインB	基幹科目			卒業研究科目
			354 視覚情報デザイン実習B	364 メディアクリエイティブ実習D	384 応用CAD実習B	
	336 社会と情報D		352 デジタルグラフィックス実習B	362 メディアクリエイティブ実習C	382 製品デザイン実習B	
			314 コミュニケーションデザイン論	324 メディアクリエイティブ論D		392 専門 세미나 2
	306 プログラミング 4		312 デジタルデザイン論B	322 メディアクリエイティブ論C	342 デジタルプレゼンテーション論	
3 年次		331 クリエイティブ・ビジネス				
		333 クリエイティブワーク・プロジェクトA				391 専門 세미나 1
		371 WebデザインA				
			353 視覚情報デザイン実習A	363 メディアクリエイティブ実習B	383 応用CAD実習A	
	307 ビジネスコンビューティング		351 デジタルグラフィックス実習A	361 メディアクリエイティブ実習A	381 製品デザイン実習A	関連科目
			313 視覚情報表現論	323 メディアクリエイティブ論B	343 材料と加工法論	394 インターンシップ (学外研修)
	305 プログラミング 3		311 デジタルデザイン論A	321 メディアクリエイティブ論A	341 プロダクトデザイン論	
		254 情報デザイン基礎実習F 252 情報デザイン基礎実習E 256 Webデザイン基礎実習				
	208 プログラミング 2					
	206 社会と情報C		258 CGプログラミング基礎 2	224 映像デザイン基礎 2	282 CAD実習 2	294 情報デザイン特別活動D 293 情報デザイン特別活動C
2 年次	204 自己表現 4			222 コンピュータサウンド 2		
		231 クリエイティブ・ビジネス基礎 2 253 情報デザイン基礎実習D 251 情報デザイン基礎実習C				292 情報デザイン特別活動B 291 情報デザイン特別活動A
	207 プログラミング 1					
	211 基礎デザイン論 3		257 CGプログラミング基礎 1	223 映像デザイン基礎 1	281 CAD実習 1	
	203 自己表現 3		255 3Dグラフィックス基礎実習	221 コンピュータサウンド 1	241 造形制作技法	
		142 造形デザイン演習 2 106 クリエイティブ・ビジネス基礎 1 152 情報デザイン基礎実習B	専門基礎科目群			関連科目
	112 基礎デザイン論 2 104 自己表現 2				154 CAD基礎実習	
1 年次	108 社会と情報B			122 基礎音楽論	142 造形デザイン演習 2	
		141 造形デザイン演習 1 151 情報デザイン基礎実習A				
	111 基礎デザイン論 1 103 自己表現 1 105 社会と情報A 101 情報デザイン入門 세미나		153 2Dグラフィックス基礎実習			191 コンピュータリテラシ
	基盤フィールド		グラフィックスフィールド	ムービー・サウンドフィールド	3Dデザインフィールド	統合化フィールド

図 4. 科目一覧



科目の例

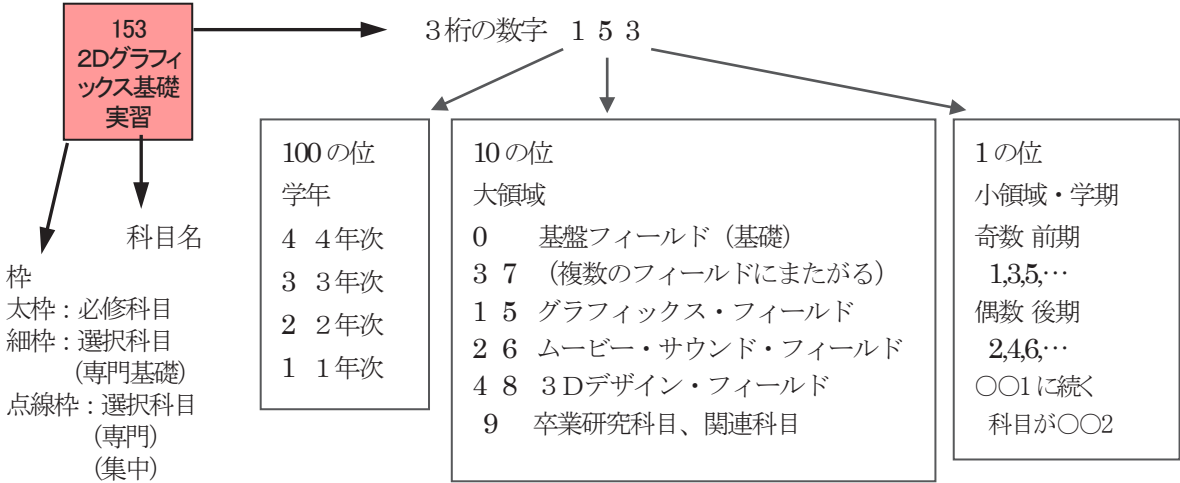


図5. 科目の見方と位置付け

なお、394『インターンシップ(学外研修)』は夏期に企業に出向いて行う実務的な活動の成果を評価する科目です。また、290 番台『情報デザイン特別活動A・B・C・D』は学生の自己設計に基づく自主的な活動の成果を評価する科目です。このように、本学科のカリキュラムには教室外の自発的・積極的な活動への対応も用意されています。

5. カリキュラム・フローチャート

専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図6に示します。

群\期	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
卒業研究							卒業研究	
					専門セミナ1	専門セミナ2	情報デザイン研究1	情報デザイン研究2
専門科目群					デジタルグラフィックス実習A	デジタルグラフィックス実習B		
					視覚情報デザイン実習A	視覚情報デザイン実習B		
					デジタルデザイン論A	デジタルデザイン論B		
					視覚情報表現論	コミュニケーションデザイン論		
					メディアクリエイティブ実習A	メディアクリエイティブ実習C		
					メディアクリエイティブ実習B	メディアクリエイティブ実習D		
					メディアクリエイティブ論A	メディアクリエイティブ論C		
					メディアクリエイティブ論B	メディアクリエイティブ論D		
					クリエイティブ・ワークプロジェクトA	クリエイティブ・ワークプロジェクトB		
					製品デザイン実習A	製品デザイン実習B		
					プロダクトデザイン論			
					材料と加工法論	デジタルプレゼンテーション論		
					ビジネスコンビューティング	インターンシップ(学外研修)		
					WebデザインA	WebデザインB		
					応用CAD実習A	応用CAD実習B		
専門基礎科目群				プログラミング1	プログラミング2	プログラミング3	プログラミング4	
					Webデザイン基礎実習			
		CAD基礎実習	CAD実習1	CAD実習2				
		基礎音楽論	コンピュータサウンド1	コンピュータサウンド2				
			映像デザイン基礎1	映像デザイン基礎2				
			CGプログラミング1	CGプログラミング2				
	2Dグラフィックス基礎実習		3Dグラフィックス基礎実習					
			情報デザイン基礎実習D	情報デザイン基礎実習F				
	情報デザイン基礎実習A	情報デザイン基礎実習B	情報デザイン基礎実習C	情報デザイン基礎実習E				
	造形デザイン演習1	造形デザイン演習2	造形制作技法					
		クリエイティブ・ビジネス基礎1	クリエイティブ・ビジネス基礎2		クリエイティブ・ビジネス			
	基礎デザイン論1	基礎デザイン論2	基礎デザイン論3					
	社会と情報A	社会と情報B		社会と情報C		社会と情報D		見方
	自己表現1	自己表現2	自己表現3	自己表現4				太枠:必修科目
	情報デザイン入門セミナ							細枠:選択科目

図6. 専門科目のカリキュラム・フローチャート

6. 履修モデル

学びの“道すじ”として科目の並びを示した履修モデルは、2年次から2分野に分かれて専門に取り組み、将来を目指すことをみすえて、5つに分かれており、トラックと呼びます。それぞれの興味と目標にしたがって、基本的に履修モデルにそって履修することが推奨されます。

なお、期ごとの登録単位数に上限があります。そのため、例えば2年次に開講される選択科目を上位学年の3年次になってから履修することができます。逆に、2年次用の科目を下位学年の1年次で履修することはできません。

本学科の専門基礎科目・専門科目では、ある科目の履修にあたって先に合格しておかないと履修できないという、いわゆる先修条件はありません。しかし、例えば 150 番台、250 番台の科目で履修しないものがあるのに、それらと同じ専門領域の 350 番台の科目を履修するということは困難ですので、自分の興味と目標を考えて、図4.科目の一覧と以下の履修モデルを参照して、学習計画を立ててください。

2年次以上の専門科目群基幹科目については、各専門分野の科目については原則としてクラス指定の科目を受講して専門性を高めます。学士(情報学)としての総合的な力が付くように、計画的に履修を進めます。

「メディアデザイン分野」「3Dデザイン分野」という2つの分野の特徴が込められた5つの履修モデルを記します。

科目一覧	専門分野	履修モデル
(図4)	メディアデザイン分野	a) グラフィックス クリエーター・トラック
専門基礎科目・ 専門科目		b) ムービー・サウンド クリエーター・トラック
		c) クリエイティブ ビジネス・トラック
		d) コンシューマー ビジネス・トラック
		e) 3Dデザイン・トラック
	3Dデザイン分野	

履修モデル

a) グラフィックス クリエーター・トラック

社会のニーズに対応するための情報を発想・整理し伝達するためのデザイン理論、およびさまざまな造形表現の実践的手法を学び、グラフィックデザインで活躍できることを目指します。

履修モデル： 情報デザイン学科グラフィックス・クリエイター・トラック												
年次	学期	専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目										
4 年次	8 期										402 情報デザイン研究2	499 卒業研究
	7 期										401 情報デザイン研究1	
3 年次	6 期							364 メディアクリエイティブ実習D	314 コミュニケーションデザイン論	354 視覚情報デザイン実習B	372 WebデザインB	394 インターンシップ
								362 メディアクリエイティブ実習C	312 デジタルデザイン論B	352 デジタルグラフィックス実習B		392 専門 세미나2
3 年次	5 期							363 メディアクリエイティブ実習B	313 視覚情報表現論	353 視覚情報デザイン実習A	371 WebデザインA	
						331 クリエイティブビジネス		361 メディアクリエイティブ実習A	311 デジタルデザイン論A	351 デジタルグラフィックス実習A		391 専門 세미나1
2 年次	4 期		208 プログラミング2					254 情報デザイン基礎実習F	258 CGプログラミング2		256 Webデザイン基礎実習	
		204 自己表現4		256 Webデザイン基礎実習			206 社会と情報C	253 情報デザイン基礎実習E				
2 年次	3 期		207 プログラミング1					252 情報デザイン基礎実習D	257 CGプログラミング1	281 CAD実習1		
		203 自己表現3				231 クリエイティブ・ビジネス基礎2	211 基礎デザイン論3	251 情報デザイン基礎実習C	255 3Dグラフィックス基礎実習			
1 年次	2 期	104 自己表現2		112 基礎デザイン論2								
		108 社会と情報B	122 基礎音楽論	142 造形デザイン演習2	106 クリエイティブ・ビジネス基礎1			152 情報デザイン基礎実習B		154 CAD基礎実習		
	1 期	103 自己表現1	105 社会と情報A									
		101 情報デザイン入門セミナー	111 基礎デザイン論1	141 造形デザイン演習1				151 情報デザイン基礎実習A	153 2Dグラフィックス基礎実習			

b) ムービー・サウンドクリエイター・トラック

ムービー、サウンド、CG(2D、3D)などの制作スキルを磨き、多様なニーズに応えられるよう企画・提案を含めたコンテンツ制作を学ぶことで、メディア創作など幅広く活躍できることを目指します。

履修モデル： 情報デザイン学科ムービー・サウンドクリエイター・トラック											
年次	学期	専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目									
4年次	8期									402 情報デザイン研究2	499 卒業研究
	7期									401 情報デザイン研究1	
3年次	6期						324 メディアクリエイティブ論D	364 メディアクリエイティブ実習D		372 WebデザインB	394 インターンシップ
							322 メディアクリエイティブ論C	362 メディアクリエイティブ実習C			392 専門 세미나2
	5期						323 メディアクリエイティブ論B	363 メディアクリエイティブ実習B		371 WebデザインA	
							321 メディアクリエイティブ論A	361 メディアクリエイティブ実習A			391 専門 세미나1
2年次	4期		208 プログラミング2					254 情報デザイン基礎実習F	258 CGプログラミング2		
		204 自己表現4		256 Webデザイン基礎実習		206 社会と情報C	224 映像デザイン基礎2	253 情報デザイン基礎実習E		256 Webデザイン基礎実習	
	3期		207 プログラミング1					252 情報デザイン基礎実習D	257 CGプログラミング1	281 CAD実習1	
		203 自己表現3			231 クリエイティブ・ビジネス基礎2		223 映像デザイン基礎1	251 情報デザイン基礎実習C	255 3Dグラフィックス基礎実習		
1年次	2期	104 自己表現2		112 基礎デザイン論2							
		108 社会と情報B	122 基礎音楽論	142 造形デザイン演習2	106 クリエイティブ・ビジネス基礎1			152 情報デザイン基礎実習B		154 CAD基礎実習	
	1期	103 自己表現1	105 社会と情報A								
		101 情報デザイン入門 세미나	111 基礎デザイン論1	141 造形デザイン演習1				151 情報デザイン基礎実習A	153 2Dグラフィックス基礎実習		

c) クリエイティブビジネス・トラック

広告ビジネス社会で必要とされる、考察力や説明力の習得を重視した、情報デザイン学科内の様々なデザインを包括して横断的に学び、クリエイティブ ビジネスで活躍できることを目指します。

履修モデル： 情報デザイン学科クリエイティブビジネス・トラック												
年次	学期	専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目										
4 年次	8 期										402 情報デザ イン研究2	499 卒業 研究
	7 期										401 情報デザ イン研究1	
3 年次	6 期					336 社会と 情報D					394 インターンシ ップ	
					334 クリエイティ ブ・ワークプ ロジェクトB				314 コミュニケー ションデザイ ン論		392 専 門 セミナ2	
	5 期			305 プログラミン グ3	333 クリエイティ ブ・ワークプ ロジェクトA					371 Webデザイ ンA		
2 年次					331 クリエイティ ブ・ビジネス	307 ビジネスコ ンピューティ ング			313 視覚情報表 現論		391 専 門 セミナ1	
	4 期		208 プログラミン グ2					254 情報デザイ ン基礎実習 F	258 CGプログラ ミング2			
		204 自己表現4		256 Webデザイ ン基礎実習		206 社会と 情報C	224 映像デザイ ン基礎2	253 情報デザイ ン基礎実習 E		256 Webデザイ ン基礎実習		
	3 期		207 プログラミン グ1					252 情報デザイ ン基礎実習 D	257 CGプログラ ミング1	281 CAD 実習1		
1 年次		203 自己表現3			231 クリエイティ ブ・ビジネス 基礎2		223 映像デザイ ン基礎1	251 情報デザイ ン基礎実習 C	255 3Dグラフィッ クス基礎実 習			
	2 期	104 自己表現2		112 基礎デザイ ン論2								
		108 社会と情報 B	122 基礎音楽論	142 造形デザイ ン演習2	106 クリエイティ ブ・ビジネス 基礎1			152 情報デザイ ン基礎実習 B		154 CAD基礎 実習		
	1 期	103 自己表現1	105 社会と情報 A									
		101 情報デザイ ン入門セミ ナ	111 基礎デザイ ン論1	141 造形デザイ ン演習1				151 情報デザイ ン基礎実習 A	153 2Dグラフィ ックス基礎 実習			

d) コンシューマー ビジネス・トラック

発展しつづける情報化社会における生活者の情報の利用の仕方に応じた、ビジネス志向の情報の効果的な出し方、文化、消費行動・心理などの面による特徴的な受け方を学び、コンシューマービジネスで活躍できることを目指します。

履修モデル： 情報デザイン学科コンシューマービジネス・トラック											
年次	学期	専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目									
4 年次	8 期									402 情報デザイン研究2	499 卒業研究
	7 期									401 情報デザイン研究1	
3 年次	6 期		306 プログラミング4			336 社会と情報D			372 WebデザインB	394 インターンシップ	
				334 クリエイティブ・ワークプロジェクトB						392 専門セミナ2	
	5 期		305 プログラミング3	333 クリエイティブ・ワークプロジェクトA					371 WebデザインA		
2 年次				331 クリエイティブ・ビジネス	307 ビジネスコンピュータディニング					391 専門セミナ1	
	4 期		208 プログラミング2					254 情報デザイン基礎実習F	258 CGプログラミング2		
		204 自己表現4		256 Webデザイン基礎実習		206 社会と情報C	224 映像デザイン基礎2	253 情報デザイン基礎実習E		256 Webデザイン基礎実習	
	3 期		207 プログラミング1					252 情報デザイン基礎実習D	257 CGプログラミング1	281 CAD実習1	
1 年次		203 自己表現3			231 クリエイティブ・ビジネス基礎2		223 映像デザイン基礎1	251 情報デザイン基礎実習C	255 3Dグラフィックス基礎実習		
	2 期	104 自己表現2		112 基礎デザイン論2							
		108 社会と情報B	122 基礎音楽論	142 造形デザイン演習2	106 クリエイティブ・ビジネス基礎1			152 情報デザイン基礎実習B		154 CAD基礎実習	
	1 期	103 自己表現1	105 社会と情報A								
		101 情報デザイン入門セミナ	111 基礎デザイン論1	141 造形デザイン演習1				151 情報デザイン基礎実習A	153 2Dグラフィックス基礎実習		

e) 3Dデザイン・トラック

IoT社会ではモノづくり+コトづくり、より良いモノやサービスを提案していくことがデザインの役割になります。デジタルとフィジカル(物質)を総称した“立体を用いたデザイン”を学び、VR、ARなどのバーチャル3Dモデリングの活用から製品デザインまでをカバーし実践的デザイン能力を培い、3Dデザインで活躍できることを目指します。

履修モデル：情報デザイン学科3Dデザイン・トラック														
年次	学期	専門基礎科目・専門科目												
4年次	8期												402 情報デザイン研究2	499 卒業研究
	7期												401 情報デザイン研究1	
3年次	6期								334 クリエイティブ・ワークプロジェクトB		384 応用CAD実習B		394 インターンシップ	
										342 デジタルプレゼンテーション論	382 製品デザイン実習B		392 専門 세미나2	
3年次	5期			305 プログラミング3	331 クリエイティブ・ビジネス				333 クリエイティブ・ワークプロジェクトA	343 材料と加工法論	383 応用CAD実習A			
						307 ビジネスコンピューティング				341 プロダクトデザイン論	381 製品デザイン実習A		391 専門 세미나1	
2年次	4期		208 プログラミング2						254 情報デザイン基礎実習F	258 CGプログラミング基礎2	282 CAD実習2			
		204 自己表現4					206 社会と情報C		253 情報デザイン基礎実習E	241 造形制作技法	241 造形制作技法			
2年次	3期		207 プログラミング1		231 クリエイティブ・ビジネス基礎2				252 情報デザイン基礎実習D	257 CGプログラミング基礎1	281 CAD実習1			
		203 自己表現3						211 基礎デザイン論3	251 情報デザイン基礎実習C					
1年次	2期	104 自己表現2		112 基礎デザイン論2	106 クリエイティブ・ビジネス基礎1									
		108 社会と情報B		142 造形デザイン演習2					152 情報デザイン基礎実習B		154 CAD基礎実習			
1年次	1期	103 自己表現1	105 社会と情報A											
		101 情報デザイン入門セミナー	111 基礎デザイン論1	141 造形デザイン演習1					151 情報デザイン基礎実習A	153 2Dグラフィックス基礎実習				

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン・プロダクトデザイン専攻 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

学部
学部の教育研究上の目的
情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

学科
学科の教育研究上の目的
情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる基礎から応用までの専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力と価値を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標						
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1		1 [2]	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践。	高校と大学の学びの違いが理解できる。						
							ノートの取り方が効果的にできる。						
							文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。						
							図書館の利用法がわかる。						
							レポートの作成の必要手順が分かる。						
							基本的なレポートの作成ができる。						
							プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。						
							プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。						
		授業科目の貢献度											
		資格英語1	1		1 [2]	この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEIC に出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。						
							短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。						
							英文を読み、その内容を大まかに理解できる。						
							基礎的な英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を解くことができる。						
							基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができる。						
							授業科目の貢献度						
							資格英語2	1		2 [3]	この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEIC に出題される語彙の意味を理解できる。	
												短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。	
		英文を読み、その内容を理解できる。											
英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を解くことができる。													
基礎的な英文を正確に音読することができる。													
授業科目の貢献度													
英語スキル1	1		1 [2]	この授業では、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」、「食」、「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。								
					題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。								
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。							
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。							
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。							
						授業科目の貢献度							

学科の学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料、製作法など広くデザインに関する知識を身につけており、的確な分析・評価により、理解を行動に活かせる。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。	J. 豊かな感性および論理性により、状況に応じて適切に企画、発案ができ、効果的に創作ができる。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. グラフィック、サウンド、映像、CAD などのソフトウェアの操作法、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟しており、実践的な表現・制作ができる。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 主体的な学びの態度が備わり、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、他者と協調・協働して、目標実現のために積極的に行動できる。	

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
		10									10
		10									10
		10									10
		10									10
		10									10
		10				10					20
		10									10
		10				10					20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
10	8					2					20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
10	8					2					20
10	6		2			2					20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Aグループ	英語スキル2	1		2 〔3〕	この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」、「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
							題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
		英語スキル3	1		3 〔4〕	「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
							題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
		英語スキル4	1		4 〔5〕	この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
							TOEIC で高得点を取るために必要な最低限の語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容をほぼ理解できる。 英文を読み、その内容をほぼ理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を解くことができる。 基礎的な英文をほぼ正確に音読することができる。
		実践英語1（資格コース）	1		5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する能力の向上を狙います。そのために、TOEIC の問題演習や語彙力の強化をはかります。	授業科目の貢献度
		実践英語1（スキルコース）	1		5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
							授業科目の貢献度
							TOEIC で高得点を取るために必要な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を短時間に解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。
		実践英語2（資格コース）	1		6	この授業では、前期に開講されている実践英語1（資格コース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する能力の向上を狙います。そのために、TOEIC の問題演習や語彙力の強化をはかります。	授業科目の貢献度
							題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
		実践英語2（スキルコース）	1		6	この授業では、前期に開講されている実践英語1（スキルコース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
							題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
12	8										20
12	8										20
12	8										20
10	8					2					20
10	6		2			2					20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	100
14	6										20
12	5					3					20
12	5					3					20
12	5					3					20
12	5					3					20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	100
10	7		2	1							20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	2					6					20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
60	40	0	2	2	0	6	0	0	0	0	100
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8										20
12	8					3					20
60	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (卓球)	1		1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							対人ラリーが20球続けられる。
							フォアハンドロングによるラリーができる。
							バックハンドによるショートをつなぎができる。
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
							目的の位置にサービスを打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
							正確なグリップでラケットを握ることが出来る。
		健康科学演習A (バドミントン)	1		1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。
							アンダーハンドストロークが出来る。
							ネットプレーによるつなぎが出来る。
							スマッシュを打つ事が出来る。
							目的の位置にサーブを打つ事が出来る。
							得点の数え方および審判が出来る。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習A (硬式テニス)	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							フォアハンドストロークによるラリーができる。
							フォアハンドストロークを打つことができる。
							フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
							バックハンドボレーを打つことができる。
							アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習A (サッカー・フットサル)	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。
							自分の体と向きあうことができた。
							ゴール型スポーツの構造を理解できた。
							サッカー・フットサルのルールを理解できた。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習B (卓球)	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							対人ラリーが20球続けられる。
							フォアハンドロングによるラリーができる。
							バックハンドによるショートをつなぎができる。
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
							目的の位置にサービスを打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
		健康科学演習B (バドミントン)	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。
							オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。
							アンダーハンドストロークが出来る。
							ネットプレーによるつなぎが出来る。
							スマッシュを打つ事が出来る。
							目的の位置にサーブを打つ事が出来る。
							得点の数え方および審判が出来る。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
		20									20
		15									15
		10									10
		10									10
		10									10
		15									15
					20						20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	100
		20									20
		15									15
		10									10
		10									10
		10									10
		15									15
					20						20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	100
		20									20
		15									15
		10									10
		10									10
		10									10
		15									15
					20						20
0	0	80	0	0	20	6	0	0	0	0	100
		30									30
		30									30
					20						20
					20						20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	100
		20									20
		15									15
		10									10
		10									10
		10									10
		15									15
					20						20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	100
		20									20
		15									15
		10									10
		10									10
		10									10
		15									15
					20						20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習B (硬式テニス)	1			2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
								フォアハンドストロークによるラリーができる。
								フォアハンドストロークを打つことができる。
								フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
								バックハンドボレーを打つことができる。
								アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
								得点の数え方および審判ができる
								授業科目の貢献度
	Aグループ	健康科学演習B (サッカー・フットサル)	1			2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。
								自分の体と向きあうことができた。
								ゴール型スポーツの構造を理解できた。
								サッカー・フットサルのルールを理解できた。
								授業科目の貢献度
								叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
								題材を批評的に検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して文章にまとめる。
								文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。
	Bグループ	日本文学A	2			3・5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
								文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
								授業科目の貢献度
								叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
								題材を多角的に検討して自分の考えを持ち、課題に応じて自分の考えを表現する。
								文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。
								日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
								文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
	Bグループ	日本文学B	2			4・6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。
								文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。
								文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。
								自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。
								文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。
								授業科目の貢献度
								活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。
								文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。
	Bグループ	外国文学A	2			1・3・5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。
								文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。
								文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。
								授業科目の貢献度
								活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。
								文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。
								文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。
								文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。
	Bグループ	外国文学B	2			2・4・6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。
								授業科目の貢献度
								プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。
								デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。
								啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。
								西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。
								知的リフレッシュメントを味わうことができる。
								授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
		20									20
		15									15
		10									10
		10									10
		10									10
		15									15
					20						20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	100
		30									30
		30									30
					20						20
					20						20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	哲学B		2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。
							哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。
							「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。
							おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。
							自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。
							授業科目の貢献度
							現代における人間像について様々な角度から考えることができる。
		文化人類学A	2		3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	様々な文化を比較することができる。
							習慣の意味が理解できる。
							形のないものの価値について考えることができる。
							現代社会がかかえる問題点について考えることができる
							授業科目の貢献度
							アイデンティティとは何かについて理解できる。
		文化人類学B	2		4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	文化について様々な考え方が理解できる。
							現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。
							「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。
							コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。
							授業科目の貢献度
		歴史学A	2		1・3・5	日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
							国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。
							西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。
							歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
							過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
							授業科目の貢献度
		歴史学B	2		2・4・6	近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
							東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。
							日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。
							歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
							過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
							授業科目の貢献度
		心理学A	2		1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。
							学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。
							欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。
							発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。
							パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。
							授業科目の貢献度
		心理学B	2		2・4・6	他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。
							人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。
							対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。
							集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。
							集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
			20								20
0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	教育原理	2		1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。
							近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
							教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。
							近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。
							授業科目の貢献度
		教育心理学	2		3	「教育」という営みをとらえてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのおり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、各発達過程における特徴を把握することができる。
							「青年期」の特徴を理解し、この時期特有の問題について心理学的な観点から考察することができる。
							学習の基礎となる条件づけ、記憶の役割などを踏まえながら、基礎的な学習理論を理解することができる。
							学習へのやる気を高めるために、動機づけ、学習意欲、無気力のメカニズムを理解することができる。
							学校における現代的課題として、いじめ、不登校、発達障害などを取り上げて関連知識を身に付けるとともに、アプローチの仕方について考察することができる。
							教育評価について、基本的な考え方と方法、評価資料収集の技法を理解することができる。
							教師と生徒の望ましい人間関係を理解したうえで、教師の指導行動のあり方について考察することができる。
							授業科目の貢献度
		政治学A	2		1・3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。
							自由民主主義の理論と政治制度について理解する。
							議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。
							政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。
							自分と政治との関わりについて考えることができる。
							授業科目の貢献度
		政治学B	2		2・4・6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。
							現代民主主義の理論的特徴について理解する。
							現代民主主義の制度的特徴について理解する。
							現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。
							授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		経済学A	2		1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。
							資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。
							経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。
							経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		経済学B	2		2・4・6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。
							日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。
							歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。
							日本の企業の特性・構造について説明できる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		法学A	2		3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。
							授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。
							授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。
							日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
				30							30
				30							30
				20							20
				20							20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
			10								10
			10	10							20
			10								10
			10								10
			10	10							20
			10	10							20
			10								10
0	0	0	70	30	0	0	0	0	0	0	100
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				30							30
				10							10
				20							20
				10							10
				30							30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				30							30
				20							20
				10							10
				10							10
				30							30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				25							25
				25							25
				25							25
				25							25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	法学B	2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。
						日本国憲法の基本原則が説明できる。
						日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。
						基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。
						表現の自由とその制約原理を説明できる。
						違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
						授業科目の貢献度
						社会学のイメージをつかむ。
		社会学A	2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	方法論的個人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケーム）の違いを理解する。
						社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる。
						「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する。
						東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること。
						授業科目の貢献度
						社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。
						個人化という概念について説明できるようになること。
						ネオリベリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。
		社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。
						グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。
						授業科目の貢献度
						社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。
						母集団及び標本抽出について理解する。
						量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。
						統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。
						質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	授業科目の貢献度
						社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。
						統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。
						疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。
						調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。
						質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。
						授業科目の貢献度
		社会調査の方法B	2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。
						統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。
						疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。
						調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。
						質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。
						授業科目の貢献度
		現代社会論A	2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。
						担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
						授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
						地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
						授業科目の貢献度
						授業で扱う国・地域・人物などのついでに基本的な情報を理解する
						担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する
						授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる
		現代社会論B	2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
						授業科目の貢献度
						自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。
						学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。
						教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。
						学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
						授業科目の貢献度
		教育社会学	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。
						学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。
						教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。
						学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
						授業科目の貢献度
						自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。
						学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。
						教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
				10							10
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
				10							10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				30							30
				20							20
				20							20
				20							20
				10							10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				20							20
				20							20
				20							20
				30							30
				10							10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				20							20
				20							20
				20							20
				20							20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				25							25
				25							25
				25							25
				25							25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				25							25
				25							25
				25							25
				25							25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				25							25
				25							25
				25							25
				25							25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	健康科学 A		2	1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。
							発育の仕組みについて理解できる。
							年齢とからだの関係について理解できる。
							健康について理解できる。
							健康に対する取り組みについて理解できる。
							授業科目の貢献度
		健康科学 B		2	2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。
							人体の構造について理解できる。
							障害について理解できる。
							傷害について理解できる。
							体力について理解できる。
							授業科目の貢献度
		認知科学 A		2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。
							知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。
							認知機能の神経機構について説明することができる。
							ヒューマンエラーの原因について説明することができる。
							認知科学の哲学的な問題を説明することができる。
							授業科目の貢献度
		認知科学 B		2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。
							我々が当たり前のように行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。
							記憶のメカニズムや分類について説明することができる。
							自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。
							ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。
							ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる
		環境科学 A		2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	授業科目の貢献度
							地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。
							地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。
							地球環境問題対策を理解する。
							地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。
							授業科目の貢献度
		環境科学 B		2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総論的に理解する。
							太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。
							生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。
							生命の生存条件を理解する。
							授業科目の貢献度
		自然科学概論 A		2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。
							科学リテラシーの必要性を理解できる。
							近代科学の特徴を説明できる。
							20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。
							科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		自然科学概論 B		2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。
							物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。
							現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。
							現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。
							未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわりあいを展望できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
				10							10
			10	10							20
				10							10
		10	10	10							30
		10	10	10							30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	100
		10		10							20
		10		10							20
			10	10							20
			10	10							20
			10	10							20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					10						10
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
					10						10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
					40						40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択 自由			
人間科学科目群	Bグループ	生物学A	2		3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。
							生物多様性のメカニズムについて説明することができる。
							遺伝的多様性の必要性について説明することができる。
							生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。
							環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。
							授業科目の貢献度
		生物学B	2		4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	進化的理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。
							ヒトの進化史を大まかに説明することができる。
							自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。
							性選択と自然選択の違いについて説明することができる。
							脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。
							授業科目の貢献度
		地球科学A	2		3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。
							最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。
							鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。
							水の特性から生物に与える影響が理解できる。
							古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。
							地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。
							授業科目の貢献度
		地球科学B	2		4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。
							様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。
							地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。
							日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。
							太陽系の進化から地球の未来像を把握する。
							授業科目の貢献度
		リベラルアーツ特別講義	2		集中講義9月	現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。
							問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。
							国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
		リベラルアーツ実践演習A	2		3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	授業科目の貢献度
							学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
							諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
							課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
							自らの課題に対して解決まで導くことができる。
							コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
							授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習B	2		4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
							諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
							課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
							自らの課題に対して解決まで導くことができる。
							コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					10						
					20						20
					20						20
					10						10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20						20
					20						20
					20						20
					20						20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
				40							40
				20							20
					40						40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	100
						20					20
						20					20
						20					20
						20					20
						20					20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
						20					20
						20					20
						20					20
						20					20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	教養総合講座A	2		3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠な CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。
							ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
							課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
							これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
							授業科目の貢献度
		教養総合講座B	2		4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。
							ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
							課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
							問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
							授業科目の貢献度
専門基礎科目群		情報デザイン入門セミナー （101）	1		1	情報デザインを学んで行く上で必要となる、この分野の捉え方、学習方法を学び、今後の4年間に情報デザインを学ぶための心構えを身に付けます。	情報デザインの各分野についてどのようなことをおこなうかを理解できる。
							情報デザイン分野の学修方法を理解できる。
							自らの日常生活で情報デザインに関わる種々の問題が存在することが理解できる。
							4年間の学修の道筋が理解できる。
							卒業後に就職した場合のデザイン業務の内容が想像できる。
							授業科目の貢献度
		自己表現（103）	2		1	自分の思いを伝えたり、他者とのコミュニケーションを図る能力を磨きます。まず、正しい発声の仕方や表情の作り方、語彙や話題を増やす方法を学びます。	呼吸の仕方や声の出し方、口の動かし方など、話すための基本的な技術を身につけ実行できる。
							話す際に、顔や声の表情、視線なども大切であると理解し、練習方法を習得できる
							使える言葉を増やし、情感豊かに表現する大切さを理解し、表現力を磨く努力ができる
							自分自身や身の周りのこと、さらに社会に興味を持ち、話題を増やすことができる。
							人前で話す経験を積み、少しでも話すことに慣れることができる。
							授業科目の貢献度
		自己表現2（104）	2		2	思いを伝えたりコミュニケーションを図る能力を高めます。分かりやすく伝えるコツを会得し、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、聞く力を養います。	始めに興味を引きつける、文章を短くするなど、分かりやすく伝えるコツを理解し説明できる。
							声を出し、顔や声の表情をより豊かにして、視線も意識しながら話すことができる。
							使える言葉をさらに増やすとともに、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられる。
							話を聞く力の重要性を理解し、会話を通じて話を引き出すことができる。
							見聞を広め、話題を増やす楽しさを実感できるとともに、多くの人に伝える喜びを感じられる。
							授業科目の貢献度
		自己表現3（203）	2		3	思いを伝えたりコミュニケーションを図る能力をさらに磨きます。文章や見聞きした事柄をまとめて伝える力を養い、豊かに会話できる力の習得を目指します。	文章を要約したり、見聞きした事柄を上手くまとめて話すコツを理解し、実行できる。
							敬語の使い方について再認識し、さまざまな敬語を使いこなせる。
							他者とコミュニケーションを取りながら、身の周りの物事取材し、協力して発表できる。
							グループディスカッションで、自分の意見や考えを自信を持って主張できる。
							使える言葉を駆使し、顔や声の表情に感情を乗せて、自分の知識や思いを豊かに伝えられる。
							授業科目の貢献度
		自己表現4（204）	2		4	言語表現に加え、肉体も使って自己表現する豊かな感性と表現力の獲得を目指します。身体と心のありようを知り、自由に自己を表現する力を磨きます。	話すための基本技術に加え、身体訓練など自己表現に必要な訓練を身につけ、実行できる。
							上記のことにより、改めて自己と向き合い、自分自身の身体と心のありようを知る。
							他者とのコミュニケーション作りから、他者との関係性を図り、自分の思いを的確に他者に伝えられるようにする。
							テーマや題材を元にしての演技創作など、演劇的なワークショップ形式の演習を通して、言葉だけでなく身体を使っでの表現も行い、自己を開放し、自由に自己を表現できるようにする。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
						20					20
						20					20
						20					20
						40					40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
						20					20
						20					20
						20					20
						40					40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
							20	10			30
							20				20
							15				15
							15				15
							20				20
0	0	0	0	0	0	0	90	10	0	0	100
							10	10			20
							10	10			20
								10	10		20
							10	10			20
									10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	30	40	20	10	100
							10	10			20
								10	10		20
								10		10	20
							10		10		20
										10	20
0	0	0	0	0	0	0	20	30	30	20	100
							10	10			20
								10			20
							10			10	20
							10		10		20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	30	30	100
							10	10			20
								10	10		20
							10		10	10	30
									10	20	30
0	0	0	0	0	0	0	20	20	30	30	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群		社会と情報 A (105)		2	1	情報を分類したり、情報を提示する目的や対象を明確化したりといった課題を通して情報を正確に理解する方法を学びます。そして、情報管理や標準化の考え方を知り、情報機器、仮想現実、情報格差など情報化の進展に伴う現代社会の課題について分析して考え、その取り組み方を学びます。	情報リテラシとは何かを説明できる。 テクノ不安およびテクノ依存について具体例をあげて説明できる。 知的財産の主な種類と範囲について具体例をあげて説明できる。 標準化とその標示について具体例をあげて説明できる。 課題解決のために 6W2H により情報を整理できる。 情報間の関係（因果、階層、並行、包含、演繹・帰納）を見つけることができる。 情報を関係構造により分類して、適切な図示により表現できる。 授業科目の貢献度
		社会と情報 B (108)		2	2	社会で見られるものごとについて、データを基に客観的にとらえる方法を学びます。ものごとの起こり方について量的な分析を行うことで、正確に評価したり、関連を見つかったり、判断したりする方法を身に付けます。	収集対象の素性によって目的に合った尺度を作成できる。 母集団からの標本の採り方を理解できる。 データから適切に階級を設定して度数分布表を作成できる。 二項分布の特徴を説明できて、起きる確率を求めることができる。 正規分布の特徴を説明できて、標準正規分布におけるデータの位置を求めることができる。 相関係数により、相関の強さを判断できる。 相関がある場合、回帰分析により、データ間の関係を求めることができる。 帰無仮説を立て、t 検定により 2 群間の差を判定できる。 授業科目の貢献度
		社会と情報 C (206)		2	4	現代情報化社会において働くことの役割や意義を学び、社会での活動に関する考えを広く知り、職業労働観を養います。そして、大学生後半に向けて、自らのキャリアモデルの獲得を図ります。	職業の歴史と現代社会における労働情勢を理解できる。 新聞などのメディア報道を通して、働き方の問題に関心が持てて要点を把握できる。 情報化と国際化が進む社会における働くことの意義と役割を説明できる。 市民としての活動について労働との違いを説明できる。 社会の課題における公共性ならびに非営利活動を説明できる。 動因、誘因、社会的欲求、自己実現欲求を説明できる。 自分のキャリアモデルを持つことができる。 授業科目の貢献度
		造形デザイン演習 1 (141)		4	1	情報デザインを実践していく上で最も基礎的な事柄を学びます。画材の特質、扱い方、立体の捉え方とその描画方法を実習を通じて体得し、基本的なデザイン技法とセンスを身に付けます。	鉛筆や紙といった基礎的な画材の特質を理解できる。 鉛筆などを用いて基礎的な形が描画できる。 対象物の形や質感を捉えることができる。 対象物を立体的に描画できる。 基礎的な形をケント紙などで立体物として制作できる。 造形の要素である点線面による構成を理解し、平面を及び立体を構成できる。 授業科目の貢献度
		造形デザイン演習 2 (142)		4	2	造形デザイン実習 1 の基礎の上に、色彩配色、形態の配置や構成方法などを理論解説の基にして自ら創作することで、体得的な理解を進めます。	身の回りにあるさまざまな形状や素材を陰影を付けてデッサン、スケッチできる。 基礎的な色彩理論を理解し、意図に合わせた配色と構成ができる。 写真撮影の基本的な要素を理解できる。 レイアウトの基本を理解し、簡単なエディトリアルデザインを完成できる。 文字、図形、イラスト、色彩などの要素を用いたデザインを制作できる。 授業科目の貢献度
		基礎デザイン論 1 (111)		2	1	デザインが大きく社会と関わりがあることを学ぶ。(環境、歴史、生命、人間、技術、産業、都市、自然など)	デザインの種類と領域が理解できる。 さまざまなデザインの目的とデザイン活動の広がりが理解できる。 デザインが我々の生活とどのように結びついているのかが理解できる。 さまざまなデザインの流れが説明できる。 デザインが生命や環境に及ぼす影響を考えることができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
								10			10
							5	10			15
							5	10			15
								10			10
								15			15
								20			20
								5	10		15
0	0	0	0	0	0	0	10	80	10	0	100
								10			10
								10			10
								20			20
								10			10
								20			20
								10			10
								10			10
								10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
								15			15
								15			15
							5	10			15
							5	10			15
							5	10			15
							5	10			15
							10				10
0	0	0	0	0	0	0	30	70	0	0	100
							5	5			10
								5		10	15
								5	5	10	20
								5	5	10	20
									10	10	20
								5		10	15
0	0	0	0	0	0	0	5	25	20	50	100
							10	10			20
							10	10			20
							10	10			20
							10	10			20
							10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	100
							10	10			20
							10	10			20
							10	10			20
							10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群		基礎デザイン論Ⅱ(112)		2	2	今日あるデザインがどのように発展して来たか、またデザインの領域や種類を知るとともに、今後どのように発展して行くかを体系づけて学ぶ。	デザイン史の大きな流れが理解できる。 デザインとアートの関連付けができ、重要な思想や運動が理解できる。 デザイン史における重要な作品やデザイナーを理解できる。 他分野のデザインの歴史が理解できる。 今後のデザインにおける課題を考えることができる。 授業科目の貢献度
		基礎デザイン論Ⅲ(211)		2	3	デザインをする上で必要な各分野の知識を、各専門の4項目に分けて学習する。	情報デザインの対象となる制作物の種類とそれに対するデザインの役割を理解できる。 図法の理論とその利用方法を理解できる。 文字書体の種類とそれを用いた編集デザインの基本の考え方を理解できる。 情報を伝達するためのピクトグラム、ダイアグラムの役割を理解できる。 色彩表記方法の理論を理解できる。 授業科目の貢献度
		クリエイティブ・ビジネス基礎Ⅰ(106)		2	2	広告活動に必須である、対象の見方や、発想力・展開力・提案力などからなる、クリエイティブ力を学びます。	主観的な視点から、ユニークな視点を見つけることができる。 相対的な視点から、ユニークな視点を見つけることができる。 客観的な視点から、ユニークな視点を見つけることができる。 ユニークな視点から、コンセプトに変換することができる。 コンセプトから、コミュニケーションのメッセージを作ることができる。 授業科目の貢献度
		情報デザイン基礎実習A(151)		2	1	情報デザインの主な分野のテーマについて入門的な実習を行い、考え方、および制作方法の初歩を学びます。	デジタルサウンドデザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる。 ムービー制作における入門的な考え方、制作の方法が理解できる。 Web デザインにおける入門的な考え方、制作の方法が理解できる。 製品デザインにおける入門的な考え方、制作の方法が理解できる。 授業科目の貢献度
		情報デザイン基礎実習B(152)		2	2	情報デザインの主な分野のテーマについて入門的な実習を行い、考え方、および制作方法の初歩を学びます。	デジタルサウンドデザインについて、入門的な考え方、制作の方法が理解・実行できる。 ムービー制作について、入門的な考え方、制作の方法が理解・実行できる。 Web デザインについて、入門的な考え方、制作の方法が理解・実行できる。 製品デザインについて、入門的な考え方、制作の方法が理解・実行できる。 授業科目の貢献度
		情報デザイン基礎実習C(251)		2	3	1 年次の入門的な実習に続き、3 つのジャンルの中から選択した1 つについて、基本的な制作手法を実習します。グラフィックスではコンピュータを使った視覚表現の基礎、映像・サウンド制作ではテーマ設定、企画から絵コンテを作成し、実写およびCG を使った映像制作の基礎、Web ではHTML を用いた Web サイト構築の基礎を学びます。	メディアテーマ内容の入門的事項を復習して、理解・実行できる。 コンピュータを使い、メディアのテーマ目的に応じた基本的なグラフィックス制作ができる。 視覚表現の基礎を踏まえたグラフィックスデザインができる。 メディアのテーマに沿って、作成する映像内容について基本的な企画・立案ができる。 選択した手法に応じた基本的な映像制作ができる。 HTML を使った Web ページの制作ができる。 Web サイトのインターフェースを制作できる。 授業科目の貢献度
		情報デザイン基礎実習D(253)		2	3	1 年次の入門的な実習に続き、メディアデザインでは2 つのジャンルの中から選択した1 つのジャンルについて、グラフィックスではコンピュータを使った視覚表現の基礎、映像・サウンド制作ではテーマ設定、企画から絵コンテを作成し、実写およびCG を使った映像制作の基礎を学びます。プロダクトデザインでは、発想からモックアップの制作まで一連の基礎を学びます。	デザインテーマ内容の入門的事項を復習して、理解・実行できる。 コンピュータを使い、デザインのテーマ目的に応じた基本的なグラフィックス制作ができる。 視覚表現の基礎を踏まえたグラフィックスデザインができる。 デザインのテーマに沿って、作成する映像内容について企画・立案することができる。 選択した手法に応じた映像制作ができる。 課題に対して複数のデザイン案を発想できる。 複数のデザイン案をひとつにまとめあげることができる。 授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
							5	15			20
							5	15			20
							5	15			20
							5	15			20
								5	15		20
0	0	0	0	0	0	0	20	65	15	0	100
								10	5	5	20
								10	5	5	20
								10	5	5	20
								10	5	5	20
								10	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	25	25	100
							4	4	10	2	20
							4	4	10	2	20
							4	4	10	2	20
							4	4	10	2	20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	50	10	100
							10	10		5	25
							10	10		5	25
							10	10		5	25
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	20	100
							10	10		5	25
							10	10		5	25
							10	10		5	25
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	20	100
							5	5			10
									10		10
								10	10		20
									10		10
								10	10		20
									10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	5	25	40	30	100
							5	5			10
									10		10
								10	10		20
									10		10
									10	10	20
									10		10
									10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	5	15	60	20	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		情報デザイン基礎実習E ^252<	2	4		2 年次前期の基本的な実習に続き、3 つのジャンルのの中から選択した 1 つについて、基本的な内容を実習します。グラフィックスではコンピュータを使った写真データの扱い、およびビクトグラムのデザイン、映像・サウンド制作では映像にナレーションやサウンドエフェト、BGMなどを追加する手法、Web では目的や用途に応じたサイトのデザインやバックエンドの技術を学びます。	メディアテーマ内容に必要な基本的事項を復習して、理解・実行できる。
							コンピュータを使った画像処理・編集ができる。
							コンピュータを使ったビクトグラムデザインができる。
							制作された映像にあわせてナレーションを制作することができる。
							制作された映像にあわせて BGM・SE を制作することができる。
							目的・用途に応じた Web サイトをデザインすることができる。
							Web デザインにおけるフロントエンドとバックエンドの役割について理解できる。
							授業科目の貢献度
		情報デザイン基礎実習F ^254<	2	4		2 年次前期の基本的な実習に続き、メディアデザインでは 3 つのジャンルのの中から選択した 1 つのジャンルについて、グラフィックスではコンピュータを使った写真データの扱い、およびビクトグラムのデザイン、映像・サウンド制作では映像にナレーションやサウンドエフェト、BGMなどを追加する手法の基礎を学びます。プロダクトデザインでは、発想からモックアップの制作まで一連の基礎を学びます。	デザインテーマ内容に必要な基本的事項を復習して、理解・実行できる。
							コンピュータを使った画像処理・編集ができる。
							コンピュータを使ったビクトグラムデザインができる。
							制作された映像にあわせてナレーションを制作することができる。
							制作された映像にあわせて BGM・SE を制作することができる。
							3 D デザインの一連の流れを理解しモデル制作ができる。
							機能を持ったものに仕上げることができる。
							授業科目の貢献度
		基礎音楽論 ^122<	2	2		音楽制作が行えるように音楽理論の基礎を学ぶ。音符の種類より始まり、楽譜の読み方、音程、リズム、コード理論などを習得する。	楽譜内での音の場所がわかる。
							音符の長さやリズムを理解できる。
							音程が理解できる。
							コードが理解できる。
							楽器の種類について理解できる。
							授業科目の貢献度
		コンピュータサウンド1 ^221<	2	3		シーケンサーを使い MIDI の概念を習得し楽譜を MIDI データとして打ち込むことを学修する。また、楽曲アレンジの基礎を習得する。	音の強弱をシーケンサー上で表現できる。
							発音される音の長さをシーケンサー上で表現できる。
							MIDI における様々なコントロールを理解できる。
							楽器をパートとしての役割として理解できる。
							小編成なスコアをデータ入力できる。
							授業科目の貢献度
		コンピュータサウンド2 ^222<	2	4		オーディオ編集の基礎を学び MIDI とオーディオを統合した作品制作に取り組む。また、アプリケーションのさまざまな機能を学びアレンジ作品を完成させる。	さまざまなエフェクトの特徴を理解できる。
							アプリ内のミキサーの概要が理解できる。
							オーディオ編集の特徴を理解できる。
							ミックスダウンをすることができる。
							アレンジ作品を制作できる。
							授業科目の貢献度
		映像デザイン基礎1 ^223<	2	3		映画やさまざまな映像作品に触れて、作品を構成する映像・音楽・セリフなどの役割や効果について理解し、映像作品における表現の豊かさや奥深さを実感します。そして、作品を多角的に分析・考察する力を養い、自らの作品制作に役立つ知識を身につけます。	映画の誕生と歴史について理解し、映像作品の成り立ちを理解できる。
							映像・音楽・セリフなどの役割や効果を理解し、表現の豊かさや奥深さを実感できる。
							企業 VP やテレビ CM など、さまざまな映像作品に触れ、その構成や効果などを分析・考察できる。
							作品を分析・考察する力を身につけて、自らの作品制作に生かすことができる。
		映像デザイン基礎2 ^224<	2	4		デジタル一眼レフカメラの機能を習得するとともに、画像編集加工ソフトを使用したレタッチ作業の技術と、作品としての表現を身につける。	撮影、照明など映像制作に関わる知識と技術が理解できる。
							画像編集加工ソフトの使い方が理解できる。
							デジタル一眼レフカメラの知識と技術が理解できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
							5	5			10
								5	5	5	15
								5	5	5	15
									5	10	15
									5	10	15
							10	5			15
							10	5			15
0	0	0	0	0	0	0	5	35	30	30	100
							5	5			10
								5	5	5	15
								5	5	5	15
									5	10	15
									5	10	15
								5	5	5	15
									5	10	15
0	0	0	0	0	0	0	5	20	30	45	100
								20			20
								20			20
								20			20
								20			20
								20			20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	100
								20			20
								20			20
								20			20
										20	20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	100
								10			20
								20	10		30
								20	10		30
									20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	40	0	100
								20			20
								20	20		40
								20	20		40
0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群		2Dグラフィックス基礎実習へ153へ	2		1	画像の基本的な知識と2DCGソフトウェアの使用に関して実習を交えながら学びます。これにより、2DCGソフトウェア利用技術に関して社会で要求されるレベルに到達できます。	デジタル画像の基本が理解できる。
							グラフィックスソフトウェアの利用目的の相違が理解できる。
							画像編集ソフトの基本的な操作ができる。
							ドローソフトの基本的な操作ができる。
							それぞれのソフトウェアを相互に使いながら作品を制作できる。
							授業科目の貢献度
		CAD基礎実習へ154へ	2		2	実用的なCADの基礎知識と技術を学ぶとともに、CAD利用技術に関して社会で要求されるレベルに到達することを目指します。 「CAD実習1、2」と併せて受講してCADスキルの向上を図ります。	デザインプロセスにおける図面の役割を認識できる。
							投影法、線種、図面記号など一般的な製図法を理解できる。
							線種、線の太さなどを使い分けることができる。
							3面図から立体をイメージすることができる。
							立体をイメージして3面図を適切に描くことができる。
							形状に必要な断面図を適切に描くことができる。
		3Dグラフィックス基礎実習へ255へ	2		3	3DCGの概要を実習を交えながら学び、CGクリエイターとして社会で要求されるレベルに到達することを目指します。	3DCG制作の基本的な流れが理解できる。
							モデリングによる形状生成を理解し、作成できる。
							レンダリングの種類とライティングやカメラワークの重要性を理解し、応用できる。
							キーフレームなどのCG映像制作の基本とワークフローまでを理解できる。
							的確なマテリアルを作成することができる。
							授業科目の貢献度
		CGプログラミング基礎1へ257へ	2		3	デザイナー向けのソフトウェアを使い、プログラミングによる2DCGを学びます。プログラミングと聞くと難しい感じがするかもしれませんが、情報系のデザインアートには欠かせない表現手法です。	簡単な描画を行うことができる。
							感覚的にデジタルにおける色の指定ができる。
							基礎プログラミングによるビジュアル表現ができる。
							関数を使ったアニメーションを作ることができる。
							インタラクティブを使った作品を作ることができる。
							授業科目の貢献度
		CGプログラミング基礎2へ258へ	2		4	3DCGソフトを使うだけでなく、理論的な内容を習得するために、プログラミングの実践を交えながら3DCGのモデリングやレンダリングの方法を学ぶ。	形状記述法と手続き記述法の違いを理解し、使用ソフトウェアの一連の操作を理解する。
							3DCGのさまざまな立体生成の方法と的確な表現ができる。
							繰り返しにより複雑な形状を作成することができる。
							数学関数を用いた条件分岐を使ってシーンを作成できる。
							幾何学グラフィックスを理解し、制作ができる。
							授業科目の貢献度
		CAD実習1へ281へ	2		3	デジタル3Dモデリングの概要を学習し、基本操作の演習課題と作品制作を通し、イメージ通りの表現ができるための基礎を習得します。	デジタル3Dモデリングのプロセスを理解できる。
							デジタル3Dモデリングの基本操作を理解できる。
							2Dソフトで描いた図面を3Dモデリングソフトで活用できる。
							図面を書き出してドローソフトで読み込むことができる。
							思い描いた形をデジタル3Dモデリングできる。
							データを用いてCGレンダリングを作成できる。
		CAD実習2へ282へ	2		4	「CAD実習1」の復習課題や、物を計測する課題を通し、デジタル3Dモデリング技術の習熟を深めます。最終課題では、レーザー加工機と3Dプリンターを活用した作品制作を行います。	デジタル3Dモデリングの基本操作をより深く理解できる。
							物を計測し、正確にデジタル3Dモデリングできる。
							ドローソフトでレーザー加工機用のデータを作成できる。
							ソリッドモデルを作成することができる。
							モデルの体積、表面積などを測定できる。
							レーザー加工機と3Dプリンターの特性を理解した作品制作ができる。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
							10	5	5		20
							10	5	5		20
							5	5	5	10	25
								5	5	10	20
								5	5	5	15
0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25	100
								10			10
								10	5		15
								10	5		15
									10	10	20
									10	10	20
									10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	40	30	100
								20			20
									10	10	20
									10	10	20
								10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	40	100
										20	20
									10	10	20
										20	20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	100
										20	20
										20	20
										20	20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	100	100
							5	10			15
								10		5	15
								10		5	15
								10		5	15
								10		10	20
								10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	5	60	0	35	100
							5	10			15
								5		10	15
								5	5	5	15
								5		10	15
								10		5	15
									10	15	25
0	0	0	0	0	0	0	5	35	15	45	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
専門基礎科目群		プログラミングⅠ(207)	2		3	コンピュータを用いて情報を扱うには、ソフトウェアを作成する知識と動作の理解が有益です。文法項目ごとにコンピュータプログラミングの初歩を実際の動作を試しながら、じっくり学び、規則性を見つけ、その手順を作る力を身に付けます。	ソースコードを作り、コンパイルして、実行できる。
							文字列や、変数に記憶された文字や数値を画面に表示できる。
							キーボードから入力して文字や数値を変数に格納できる。
							論理積と論理和による条件が書ける。
							if 文による条件分岐を記述できる。
							for 文による繰り返しで文字の表示、数の処理方法がわかる。
							for ブロック中に if 文による条件を付けて選別する繰り返し処理ができる。
							while 文による繰り返しで文字の表示、数の処理方法がわかる。
							授業科目の貢献度
		プログラミングⅡ(208)	2		4	プログラミング言語およびプログラミング方法に関する理解を進めます。ポインタなどコンピュータの動作に対する基本的理解を深め、さらにさまざまな処理作業を順序立てる練習を積み重ねることで課題を実現する過程を作る思考力を養います。	配列を用いて、数値の繰り返し処理ができる。
							配列を用いて、文字列の格納、表示、計数、置き換えができる。
							ポインタに関連する「*」と「&」演算子の名前と意味がわかる。
							引数で値を渡し、戻り値がないユーザー関数を作り、使える。
							複数の引数で値を渡し、戻り値があるユーザー関数を作り、使える。
							ポインタを用いて変数アドレスを渡し、処理するユーザー関数を作り、使える。
							ポインタを用いて配列アドレスを渡し、操作するユーザー関数を作り、使える。
							授業科目の貢献度
		デジタルグラフィックス実習 A(351)	2		5	デジタルによるグラフィックデザインを学ぶ方法として、モーショングラフィックス、画像処理、3DCG によるイラストレーションなどを学びます	モーショングラフィックスを利用した作品を作ることができる。
							ポートレート撮影した写真素材を画像処理できる。
							素材を利用した画像を画像処理によって作品に展開できる。
							3DCG による制作をイラストレーションへと展開できる。
							2D、3DCG 素材を作品制作に生かすことができる。
							授業科目の貢献度
		デジタルグラフィックス実習 B(352)	2		6	エディトリアルデザインと急加速する Web の表現方法を研究し、新しい活用方法を探りながら編集制作の表現を学びます。	情報の収集から展開までの一連の流れを理解できる。
							エディトリアルデザインの流れを理解し、目的に応じた作品制作ができる。
							レイアウトの役割、必要性、文字組などの DTP スキルを利用した作業ができる。
							Web サイトの組み込みに動画や音声の編集を活用できる。
							イメージだけでなく操作のしやすさ、情報の伝わりやすさなどが視覚で表現できる。
							丁寧な仕上げができ、プレゼンテーションできる。
							授業科目の貢献度
		視覚情報デザイン実習 A(353)	2		5	視覚情報デザインを広く捉え、ロゴ、マーク、タイポグラフィ、イラストレーションなどを学び、ポスターやパッケージなどに展開し、イベントや展示などデザインの可能性へと発展させます。	文字の形を観察し、構造を理解することができる。
							文字を読みやすく、コンセプトに沿って的確に構成することができる。
							ロゴタイプ、マークの目的を理解し、意味を持つデザインができる。
							広告の意味を理解し、その発展を考えることができる。
							習得した内容を製品に展開できる。
							授業科目の貢献度
		視覚情報デザイン実習 B(354)	2		6	視覚情報デザインの様々な制作を考え方から学び、展開して行きます。一連の商品開発の流れを理解し、デザインの重要性を探ります。	オリジナリティのあるイラストレーション制作ができる。
							イラストレーションに的確なデザインツールを使い、制作ができる。
							インフォグラフィックスを理解し、わかりやすい作品が制作できる。
							マーケティングを考えた購買力が高められるパッケージデザインが展開できる。
							商品開発の流れが理解でき、商品のデザインができる。
							アイデア展開から販売までをまとめてプレゼンテーションできる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
								10			10
								10			10
								10			10
								10			10
								15			15
								15			15
								15			15
								15			15
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
								10			10
								20			20
								10			10
								10			10
								20			20
								20			20
								10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25	100
							5	5			10
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
									5	5	10
0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25	100
							5	5		10	20
							5	5		10	20
									10	10	20
									10	10	20
									10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	10	10	30	50	100
							5	5			10
							5	5			10
							5	5			10
									10	10	20
									10	10	20
									10	20	30
0	0	0	0	0	0	0	15	15	30	40	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群		デジタルデザイン論A (311)	2	5	デジタルデザイン表現の基本要素と応用を学びます。デザイン要素の観察を通じて、デザイン全体の構造について理解を深めます。また、情報発信とデザイン表現の関係性についても考えます。	視覚的な情報の考え方を理解できる。 ビジュアル表現の展開を理解できる。 デジタル時代の文字情報とデザインの関係性を理解できる。 デジタル制作の利点を見出し、応用する方法を考えることができる。 今後のデザイン表現の発展を考えることができる。 授業科目の貢献度
		デジタルデザイン論B (312)	2	6	情報化社会のデザインの方法と考え方ノウハウを学びます。CIやVIなどにより、会社や社会がどう変わっていくかを習得します。	インフォグラフィックス、Web、インターフェスが正確に理解できる。 インタラクティブ、映像、アニメーションなどのメディア技術と方法論の可能性が理解できる。 時間、運動、インターフェースによる情報デザインが理解できる。 情報デザインの骨格と今後の発展を考えることができる。 授業科目の貢献度
		視覚情報表現論(313)	2	5	視覚情報は、私たちが持っている五感すべてを生かせるようなデザインをどうやって表現するかが重要です。情報の収集から完成迄の多くの事例を習得します。	先人達の優れた視覚伝達表現の足跡をたどり、近代グラフィックデザインの事例が理解できる。 デザイン表現とアート表現の相互関係が理解できる。 平面を中心としたさまざまな表現と展開を理解できる。 情報収集を効率的に実行することができる。 写真やCG、イラストレーション、さまざまな素材を生かした視覚表現の方法を知る。 授業科目の貢献度
		コミュニケーションデザイン論 (314)	2	6	デザインの基本はコミュニケーションつまり対話です。コミュニケーションとデザインの重要性を習得し構築を学びます。	コミュニケーションデザインの本質を理解できる。 CI計画、VI計画の基本的概念が理解できる。 コンセプトから最終デザインまでの発展プロセスを明確に示すことができる。 グラフィックデザインが空間、環境に生かされている事例を知り、その重要性を理解できる。 コミュニケーションデザインの今後の可能性を考えることができる。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習A (361)	2	5	スタジオでのレコーディングを体験しマイキングやPAシステムの構築を習得する。サンプリングソフトを学ぶ。シンセサイザーを使用した効果音制作を行う。	マイクを使い音声を収録できる。 ミキサーの概要を理解できる。 PAシステムを扱うことができる。 サンプリングソフトを使える。 シンセサイザーを理解し効果音を作成できる。 オリジナルサウンドを使用し作品を制作できる。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習B (363)	2	5	シナリオの書き方とラジオ番組制作のノウハウを実践的に学びます。シナリオ作りで言語表現力や構成力を身につけ、ラジオ番組作りで原稿制作・収録・編集の技術を磨くとともに、企画・構成・段取りの重要性やチームワークの大切さも学びます。	シナリオ制作におけるテーマや企画構成の大切さを理解する。 シナリオ制作でのキャラクター設定やシーン作りの重要性を理解する。 シナリオ制作を通じて言語表現力や構成力を身につける。 ラジオ番組制作での企画・構成・段取りの重要性を理解する。 ラジオ番組制作を通じて原稿書き・収録・編集の技術を磨く。 ラジオ番組制作におけるチームワークの大切さを理解する。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習C(362)	2	6	基本となる映像制作技術に加え、CG合成や特殊撮影など、企画内容に沿った映像制作を行う。	企画・演出内容に合わせた撮影手段を選択できる。 企画・演出内容に合わせたCG制作ができる。 CG合成を含めた複合的な映像制作ができる。 映像に適切なカラーグレーディングを行うことができる。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習D(364)	2	6	構成、映像制作、音楽制作のコラボレーション作業によるチーム制作でコミュニケーション能力を高める。	社会に発信できる映像作品ができる。 チーム制作によるコミュニケーションができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
							5	5			10
							10	10	5	5	30
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	30	30	20	20	100
							5	10	5	5	25
							5	10	5	5	25
							5	5	5	10	25
							5	5	5	10	25
0	0	0	0	0	0	0	20	30	20	30	100
							5	5			10
							5	5			10
							5	5			10
									20	20	40
									20	10	30
0	0	0	0	0	0	0	15	15	40	30	100
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25	100
								5		5	10
								10		10	20
								5		5	10
								10		10	20
								10		10	20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	60	100
								10			10
								10	10		20
								10		10	20
								10	10		20
								10		10	20
							10				10
0	0	0	0	0	0	0	10	50	20	20	100
							10				10
									30		30
									30		30
									30		30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	90	0	100
									50		50
							50				50
0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
専門科目群	基幹科目	メディアクリエイティブ論 A(321)		2	5	現代ではコンピュータが従来型の表現方法を融合し拡大化している。クリエイターと現代社会との関連性や今後の表現方法などをインタラクティブ分野の観点から学んでいく。	コンピュータの発展について技術的背景が理解できる。 メディアアートが誕生した背景を理解できる。 アートを含むメディア表現と現代社会との関わりについて自分の意見を持てる。 多元的手法を持つ表現について理解できる。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ論 B(323)		2	5	映像作品のクオリティーは撮影までの準備に大きく左右される。実際の撮影に入るまでに、どのような準備が必要かを実習とプレゼンテーションを通して学ぶ。	映像制作の各工程、特にプリプロダクションの重要性を理解する。 カメラワークやイマジナリーラインなど撮影の基本を理解する。 画コンテ、制作スケジュールの役割を理解し、作成できる。 映像制作の倫理、マナーを理解する。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ論 C(325)		2	6	アニメーションや漫画、ゲームなど、日本のサブカルチャーについての理解を深め、サブカルチャーの存在意義や役割などについて考察します。	日本のサブカルチャー史を簡単に把握できる。 アニメーションや漫画の系譜や影響力などを理解する。 ゲームの系譜や影響力などを理解する。 サブカルチャーの存在意義や役割などについて考察できる。 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ論 D(324)		2	6	多様な映像表現と社会の関わりを、理論と実際の制作を通じて学ぶ。映像の編集を理論などの知識に基づいて行えるよう、歴史や理論を学びながら、映像編集ソフトを使用し映像編集に関する理解を深める。	編集の意味、重要を理解し、編集の基本セオリーを把握する。 現場での編集の役割、位置づけと重要性を理解する。 実際の作品を見て、編集の基本及びイマジナリーラインの重要性を理解する。 インサートの重要性を理解する。 映画の特殊効果の進化を理解する。 映画の特殊効果の進化を理解する
		Webデザイン実習(256)		2	4	インターネットの効果的な利用、サイトの構築、運用、評価について実習して、基礎的な知識とスキルを習得します。	インターネットの歴史、Webの特性、Webサイトの種類、Webサイトの制作フローについて理解できる。 情報の収集と整理能力の方法が理解でき、情報を視覚化できる表現方法が理解できる。 コンセプトメイキング、情報の組織化や構造化を理解し、画面構成、素材制作ができる。 テストや評価、運用まで、Webサイトを運用する技術が習得できる。 インターフェースとナビゲーションが理解できる。 授業科目の貢献度
		WebデザインA(371)		2	5	専門基礎科目で基礎を学んだWebデザインについて、さらにWebサイト制作関連技術に関する専門的な知識を習得し、Webを活用するための理解を進めます。	情報の構造化、サイトマップの構成と設計、ゾーニングができる。 ナビゲーション、インタラクションに関する要件を説明できる。 ユーザビリティを理解できて評価できる。 コンテンツアクセスビリティを理解してサイトの設計、構築ができる。 Webサイトの運用と管理の重要性を理解できる。 授業科目の貢献度
		WebデザインB(372)		2	6	専門基礎科目で基礎を学んだWebデザインについて、さらにインタフェース制作に向けた専門的な実習を行い、実践的なスキルを習得します。	メソッドと多重定義を理解して使える。 クラスとインスタンスを理解して使える。 継承の意味を理解して使える。 アプレットについて理解して使える。 グラフィカルユーザーインタフェイスに応用できる。 授業科目の貢献度
		クリエイティブ・ワークプロジェクトA(333)		2	5	実際の企業と連携した実践形式で、ゲームなどの商品企画を行い、グループによる共同作業を通して、企画力とプレゼン力を学びます。	商品の世界観を作ることができる。 商品特徴を見つけることができる。 商品に見合ったターゲットを選定することができる。 グループ制作の協調性と自身の特性を見つけることができる。 プレゼン力を身につけることができる。 授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
								25			25
								25			25
							10	15			25
							10	15			25
0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	100
									30		30
									30		30
									20		20
							20				20
0	0	0	0	0	0	0	20	0	80	0	100
								15			15
								25			25
								25			25
								35			35
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
									20		20
									20		20
									20		20
									20		20
									20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	10
								10			10
								10			10
								10		20	30
								10		20	30
								20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	100
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
							5	5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25	100
								10	10		20
								10	10		20
								10	10		20
								10	10		20
								10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	40	10	100
								5	5	5	20
								5	5	5	20
								5	5	5	20
								5	5	5	20
								5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群	基幹科目	クリエイティブ・ワークプロジェクトⅡ(334)	2		6	広告活動の一つである広告動画の作成と、アイトラッキングシステムによる視聴計測から抽出された課題を見つけ、対策した動画の改修制作を行い、グループによる共同作業を通して、実践的な広告制作を学びます。	課題に応じた広告動画の企画ができる。
							課題に応じた広告動画の制作ができる。
							視聴計測と他者評価結果から改善策を講じることができる。
							グループ制作の協調性と自身の特性を見つけることができる。
							プレゼン力を身につけることができる。
							授業科目の貢献度
		クリエイティブ・ビジネス基礎Ⅱ(231)	2		3	広告活動に必須である、クリエイティブの方向を定めたり、裏付けや根拠となる説明力を学びます。	商品特徴の分析について理解できる。
							ターゲットの分析について理解できる。
							態度変容の促進について理解できる。
							プロポジションについて理解できる。
							プロポジション開発ができる。
							授業科目の貢献度
		クリエイティブ・ビジネス(331)	2		5	広告活動を制作実践する上で必要な、広告業界の種類や仕事の仕方、また様々な広告規制やメディアプランニング、セールスプロモーション（販売促進）などの専門的な知識を総合的に学びます。	広告業界の業種や関連性がわかる。
							様々な広告規制について理解できる。
							メディア・プランニングについて理解できる。
							セールスプロモーションについて理解できる。
							消費者心理について理解できる。
							授業科目の貢献度
		社会と情報Ⅲ(336)	2		6	社会で見られる現象の分析方法について学び、さらにそれに対する人間の共通的な解釈、判断の特徴を理解します。情報メディアを通して人間が思考、行動する特徴を客観的につかみ、その原因理由や活用について考えます。	社会調査の種類とそれぞれの特徴を理解できる。
							先行研究を調査して、まとめることができる。
							質問紙調査の設計、実施、集計、分析ができる。
							対面調査の設計、実施、集計、分析ができる。
							市場調査の設計、実施、集計、分析ができる。
							予測の検証により、思考判断の共通性を理解できる。
		製品デザイン実習A(381)	2		5	製品をデザインする実践的な課題に取り組み、その全体的なプロセスを理解し実践する能力を修得します。テーマとしては身近な生活雑貨などを取り上げます。	予測の検証により、思考判断のバイアスを理解できる。
							授業科目の貢献度
							課題を理解し、その製品の使用シーンを想定できる。
							課題に関わる調査と分析ができる。
							調査、分析結果から改善点や問題点を見つけることができる。
							改善点、問題点に対して複数のデザイン案を発想できる。
		製品デザイン実習B(382)	2		6	多様な製品デザインに取り組むことができる能力を修得するために、課題発見のための分析能力、そしてその課題に対する最適解創造手法などを学びます。テーマとしては木工製品デザイン、地域連携課題、C.SCAPE等を取り上げます。	複数デザイン案を一つのデザインにまとめ上げることができる。
							授業科目の貢献度
							異なる製品分野の特質を理解することができる。
							製品分野の特質に合わせたデザインの取り組み、発想を行うことができる。
							発想したデザイン案を比較検討し、最適なデザイン案を判断できる。
							デザイン案に相応しい素材、生産方法を選択しデザインを完成させることができる。
		応用CAD実習A(383)	2		5	「CAD実習2」で学んだことの上に、より高度な形状をデジタル3Dモデリングで表現することを学びます。木製小物を題材とし、モデリングしたデータを用いて、切削機で実物を製作する手法を学びます。	デザイン案に応じた手段によるモデルを制作し、デザイン説明をポートフォリオにまとめることができる。
							授業科目の貢献度
							スケッチを3Dモデリングソフトに取り込むことができる。
							実際のサイズをイメージしながらデジタル3Dモデリングができる。
							複雑な曲面形状をデジタル3Dモデリングすることができる
							複雑な曲面形状のソリッドモデルを作成することができる。
							適切なテクスチャを用いたCGレンダリングを作成できる。
							切削機の特性を理解した作品制作ができる。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
							2	8	5	5	20
							2	8	5	5	20
							2	8	5	5	20
							2	8	5	5	20
							2	8	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	10	40	25	25	100
							4	4	8	4	20
							4	4	8	4	20
							4	4	8	4	20
							4	4	8	4	20
							4	4	8	4	20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	40	20	100
							4	4	10	2	20
							4	4	10	2	20
							4	4	10	2	20
							4	4	10	2	20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	50	10	100
								10			10
								10			10
								15			15
								10			10
								15			15
								10	10		20
								10	10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	100
								10	10		20
								10	10		20
								5	10	5	20
									10	10	20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	25	40	35	100
									20		20
									20		20
									20		20
							20				20
										20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	60	20	100
								5		10	15
								5			5
									10	15	25
								5		15	20
								5		10	15
								5		15	20
0	0	0	0	0	0	0	0	25	10	65	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
専門基礎科目	基幹科目	応用CAD実習B(384)	2		6	「応用CAD実習A」を含む、これまでのデジタル3Dモデリング課題の集大成です。高度な3Dデザインの創出と、高品質なプレゼンテーション作成を目指します。	デザイン対象の歴史的名作や、製造法・構造を理解できる。
							難易度の高い曲面形状をデジタル3Dモデリングできる。
							実現性の高いデザインをデジタル3Dモデリングできる。
							構造図や三面図を作成することができる。
							コンセプトを効果的に伝えるフォトリアルなCGレンダリングを作成できる。
							CGレンダリング、構造図、三面図、スケッチ集をまとめたプレゼン作成ができる。
							授業科目の貢献度
		プロダクトデザイン論(341)	2		5	プロダクトデザインを取り巻く時代の要求とそれに呼応して拡充されてきたデザインプロセスや分析法を実践し、学ぶことでプロダクトデザインに必要な知識と技術を習得する。	プロダクトデザインの関与する領域を理解できる。
							プロダクトデザインのプロセスを理解できる。
							人とモノのかかわりについてその基本的な考え方、利用方法が理解できる。
							コンセプトの領域についてその基本的な考え方、デザインの手法が理解できる。
							社会とプロダクトデザインの関わりについてその概念とデザイン上の配慮すべき点を理解できる。
							授業科目の貢献度
		材料と加工法論(343)	2		5	製品デザインをするためには利用する材料の特質とその加工方法を理解しておくことが必要であり、基本的な材料(樹種、金属、木材等)の特質とその加工方法を学びます。	身の回りの製品についてどのような部分にどのような材料が使用されているかが理解できる。
							樹脂材料の種類と性質および加工法を理解する。
							金属材料の種類と性質および加工法を理解する。
							セラミック、ガラスなどの種類と性質および加工法を理解する。
							木材、布、紙、皮などの自然素材の種類と性質および加工法を理解する。
							授業科目の貢献度
		デジタルプレゼンテーション論(342)	2		6	プレゼンテーションはデザインの総合パフォーマンスととらえ、デザインのまとめ方とノウハウを学ぶと共に、実践として自身のポートフォリオを制作する。	的確なリサーチ、資料の収集ができる。
							資料の収集からデザインの構想や企画の方法へと展開することができる。
							プレゼンテーションのまとめ方を工夫し、最善のプレゼンテーションを行うことができる。
							プレゼンテーションの良い例を生かすことができる。
							デジタルツールを使いプレゼンテーションに有効かつ必要な技術を習得する。
							授業科目の貢献度
		造形制作技法(241)	2		3	3Dデザインに必要な図面の作図方法や、モデルの制作方法(木工、デジタルファブリケーションなど)の基礎能力を習得します。	一般的な製図方法を理解できる。
							発想したイメージを正確に作図できる。
							三面図から立体をイメージできる。
							モデル制作のプロセスを理解できる。
							木工機械の基本的な使い方が理解できる。
							デジタルファブリケーション(3Dプリンターなど)による造形プロセスが理解できる。
							授業科目の貢献度
		プログラミング3(305)	2		5	「プログラミング1、2」に続き、ファイル処理や構造体など、より広く、より効率的にデータをプログラムで扱う基本的方法を学び、データの構造や利用に関する理解を進めます。	構造体型のしくみを理解できて、メンバにアクセスできる。
							構造体を記述して、関数の中で使うことができる。
							共用体型と列挙型のしくみを理解できて、使える。
							テキストファイルの入出力ができる。
							バイナリファイルにランダムアクセス操作ができる。
							授業科目の貢献度
		プログラミング4(306)	2		6	コンピュータで問題を解決するための現実的かつ汎用的な手法の基本を学びます。具体的な手順を構成してプログラムとして実現する課題を通して、論理的思考を身に付けます。	リストの構造を理解して使える。
							スタックの構造を理解して基本操作ができる。
							キューの構造を理解して基本操作ができる。
							線形探索と二分探索を理解できる。
							バブルソート、選択ソート、挿入ソート、クイックソート、シェルソートを理解できる。
							バブルソート、選択ソート、挿入ソートを使える。
							関数の再帰的呼び出しを理解して使える。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
								10			10
								5	10	15	30
								5		5	10
								5		5	10
								5	5	10	20
								5	5	10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	35	20	45	100
								10	5	5	20
								10	5	5	20
								10	5	5	20
								5	10	5	20
								5	10	5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	35	25	100
								10		10	20
								10		10	20
								10		10	20
								10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	100
									10	10	20
									10	10	20
									10	10	20
								10	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	45	45	100
							10	10			20
								10	10		20
								10	5		15
								10		5	15
								10		5	15
0	0	0	0	0	0	0	10	60	15	15	100
								15			15
								15	10		25
								15	10		25
								15			15
								15	5		20
0	0	0	0	0	0	0	0	75	25	0	100
								10			10
								10			10
								10			10
								10	10		20
								10	10		20
								10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	70	30	0	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 (単位) 選択	開講 自由 期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目	基幹科目	ビジネスコンピューティング 〈307〉	2		5	ますます情報化されるビジネス実務では、データベースを効率的に構築したり、有用な情報を探し出して利活用することが求められます。このような汎用情報処理スキルを表計算ソフトウェアのテーブル機能利用、マクロ作成、そしてリレーショナルデータベースの基本的な試作を通して実践的に学びます。	オブジェクト、メソッド、プロパティの組み合わせによりステートメントが構成されることが理解できる。
							データのソート、フィルタリングのマクロを記録、登録、使用できる。
							関数と集計行の構造化参照を使ってデータ集計ができる。
							相対参照を用いてループのマクロコードを記述できる。
							相対参照を用いて条件分岐のマクロコードを記述できる。
							論理演算子、比較演算子を使ってマクロコードを記述できる。
							データ入力インターフェースのマクロコードを記述できる。
							条件に合った抽出のためのクエリを作成、実行できる。
							授業科目の貢献度
	関連科目	学外研修 (394)	2		6	実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業生活設計など職業選択について考えます。	研修先から与えられた課題を理解できる。
							研修先から与えられた課題を実行できる。
							研修先から与えられた課題について結果を評価できる。
							職業労働について具体像を説明できる。
							授業科目の貢献度
専門基礎科目	卒業研究	専門セミナー1 〈391〉	1		5	卒業研究および関連活動について準備的に取り組みます。	専門分野について興味を深めることができる。
							専門分野について具体的に学ぶ準備ができる。
							専門分野について具体的な進路を考えることができる。
							授業科目の貢献度
		専門セミナー2 〈392〉	1		6	卒業研究および関連活動について準備的に取り組みます。	専門分野について興味を深めることができる。
							専門分野について具体的に学ぶ準備ができる。
							専門分野について具体的な進路を考えることができる。
							授業科目の貢献度
		情報デザイン研究1 〈491〉	1		7	卒業研究および関連活動について、専門的に取り組みます。	専門的なテーマを決めることができる。
							専門的なテーマに関連する学習に取り組むことができる。
							専門的なテーマを通して将来を考えることができる。
							授業科目の貢献度
		情報デザイン研究2 〈492〉	1		8	卒業研究および関連活動について、専門的に取り組みます。	専門的なテーマを決めることができる。
							専門的なテーマに関連する学習に取り組むことができる。
							専門的なテーマを通して将来を考えることができる。
							授業科目の貢献度
	卒業研究 〈499〉	6			7・8	専門分野の知識およびスキルのさらなる向上を図り、4年間の学びの仕上げとして、専門テーマについて追究します。	専門的なテーマの研究を計画できる。
							専門的なテーマの研究を実行できる。
							専門的なテーマの研究を卒業論文にまとめることができる。
							専門的なテーマの研究を発表できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針											
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合 計
								10			10
								15			15
								10			10
								15			15
								15			15
								15			15
								10			10
								10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
							10	5	5	5	25
							10	5	5	5	25
							10	5	5	5	25
							10	5	5	5	25
0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	20	100
							20	10	10		40
								20	10		30
							20	10			30
0	0	0	0	0	0	0	40	40	20	0	100
							20	10	10		40
								20	10		30
							20	10			30
0	0	0	0	0	0	0	40	40	20	0	100
								10	10		20
								10	10	30	50
							20	10			30
0	0	0	0	0	0	0	20	30	20	30	100
								10	10		20
								10	10	30	50
							20	10			30
0	0	0	0	0	0	0	20	30	20	30	100
									10		10
									10	30	40
							10	5	10	5	30
							10			10	20
0	0	0	0	0	0	0	20	5	30	45	100

情報学部総合情報学科

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2.1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

本学科が目標とする専門力の育成とは、社会に通用する生きる力、問題解決能力、コミュニケーション能力、情報処理能力の育成です。近年における企業を取り巻く環境は、大きく変化し、今後更に変化すると思われます。

こうした変化の中、企業が求める人材やその能力にも大きな変化が見られるようになりました。そうした人材を育成するために、新たな時代のビジネスパーソン(企業人)になるための基礎的知識を学ぶと共に、企業経営、スポーツ関連の専門科目について企業経営に資する人材になるため経営情報・スポーツ情報に関する分析力、考察力、問題解決力を学びます。

なお、本学科はビジネス全般を学ぶ経営情報コースとスポーツ関連のマネジメントを学ぶスポーツ情報コースを設定しています。

2.2 学位授与の方針

総合情報学科では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。

(専門力)

8. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。
9. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる。
10. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる。
11. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。
12. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる。
13. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。

3. 標準教育プログラム

総合情報学科において学習する皆さんが、上の教育の目的と学位授与の方針に到達するためには、以下の(1)～(8)に述べる内容の「教養力」と「専門力」を4年間で身につける必要があります(以下、標準教育プログラムと呼びます)。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(専門力)

(3) 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる

企業社会の中で起きる問題を解決するためには、企業に関する組織や財務、法律、戦略、歴史などを積極的に学ぼうとする姿勢が不可欠です。加えて、こうした知識を習得すると共に、これらの知識(情報)を収集したり、処理したりするための行動力も必要となります。

(4) 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる

現代社会は、組織社会ともいわれるように、他者との協業によって多くの活動を成し遂げていく社会でもあります。このような社会においては、行動に際して倫理的な判断とコミュニケーション能力が求められます。

(5) データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる

企業においては、データを管理、加工、処理、分析するためのスキルが求められています。分析結果を価値創造に生かすためには、データの背景を十分に知る必要があり、カリキュラムにおいては、経済、経営等の経営学関連科目だけではなく、情報、統計、データサイエンス関連科目が開講されます。また、ビジネス分野の第一線で活躍している方々の話を多く聞くことのできる授業もあり、幅広いスキルを身につけることができます。

(6) 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている

社会において有為な人材となるためには、基礎的な知識と応用的な知識の両方を身につける必要があります。本学科では経営またはスポーツの理論・概念を幅広く学びます。

(7) 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる

社会生活において、情報の管理は不可欠です。ビジネス文書やスプレッドシートの作成や管理だけでなく、データベースや情報ネットワークに関する基礎知識とスキルの習得も必要です。これらの知識とスキルを活用した問題解決能力を発揮できるための素養も習得します。

(8) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている

現代社会において創造性ある人材は最も貴重な人材として評価されます。与えられた知識を吸収するだけでなく、これを応用して新たな知見を創造するためのスキルを身につけます。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

図1は、上記で説明した標準教育プログラムを実行するために必要な教育課程の構成概念をまとめたものです。また、4年間の具体的な授業科目の単位数等については、開講科目一覧を参照して下さい。授業科目は、人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群の3つの群から構成されています。以下では、各群の教育内容について説明します。

学年	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
科 目 群 の 位 置 づ け	人間科学科目群			
	社会・自然・人間と科学技術を調和させるための幅広い知識を習得し、必要な教養を身につけます。			
	専門基礎科目群			
	今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につけます。			
	専門科目群			
	基幹科目			
	専門知識を習得するときの土台となる科目です。			
	展開科目			
	興味や将来の進路にしたがってより高度な学習ができる科目です。			
	卒業研究			
	該当科目は、セミナ1、2、3、4、卒業研究です。セミナは卒業研究の土台となる科目です。			

図ー1 総合情報学科の教育課程概念図

4.1 人間科学科目群

(1)教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ(First Year Seminar、略して FYS、初年次セミナ)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法

の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言い換えれば皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思われるかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語1・2」と「英語スキル1・2」、2年次には「英語スキル3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語1・2(資格コース)」、「実践英語1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとして)も運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語セミナ

基礎英語セミナでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。

一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3 年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4 年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含むAグループとBグループから成り立っています。なかでもBグループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与えることができるようにと工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるようにと、これが何を描いても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「**コミュニケーション力**」、「**自ら考える力**」それと「**協働力**」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、B グループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは 21 世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくと同時に、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後はAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められていくのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2 年次、3 年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングやPBL(問題・課題解決型授業)を意識した少人数科目を開講しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところに楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群 B グループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群および専門科目群

専門基礎科目群は、今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次および2年次に開講されます。

専門分野である専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されており、基幹科目は1年次および2年次に、展開科目は2年次から4年次に、卒業研究は3年次および4年次に開講されます。「基幹科目」とは、専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を修得するための土台となる科目です。また、「展開科目」とは、各人の興味や将来の進路を踏まえ、自身が希望する分野の高度な学習を行う科目です。卒業研究は4年間の学習の集大成の科目であり、ここでは論文を作成します。

各科目において学ぶ内容や修得する内容については、後述する「学修到達目標」のカリキュラムマップに記載されています。また、どの学期にどのような科目を履修できるかについては、履修モデルを参照してください。

(1) 専門基礎科目群の授業科目(計17科目)

今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次と2年次に開講される科目です。

総合情報入門セミナー、情報処理演習1、プログラミング演習1、データベース基礎、経営学概論、経営実践入門、経営実践1、経営実践2、スポーツ情報実践1、スポーツ情報実践2、入門簿記、簿記原理、会計学、コミュニケーションスキル1、コミュニケーションスキル2、経済学入門、情報統計学1

(2) 専門科目群の授業科目(計65科目)

専門科目群は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されていますが、本専攻においては、基幹科目および展開科目は更に、以下の4つの領域に分類され、これらは本専攻における専門科目群の柱となっています。

- ・経営情報部門
- ・スポーツ情報部門
- ・データサイエンス部門
- ・キャリア開発部門

① 基幹科目

多くの基幹科目は、専門基礎科目群を学習した後、1年次の後期および2年次に設定されています。基幹科目のうち、専門科目群の4つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営情報部門

経営史、マーケティング概論、人材マネジメント、企業経営戦略論、交通論、工業簿記、原価計算、民法、会社法、異文化コミュニケーション1、異文化コミュニケーション2、経営情報プロジェクト演習1、経営情報プロジェクト演習2、経営情報プロジェクト演習3

- ・スポーツ情報部門

スポーツ情報科学概論、スポーツライフのデータサイエンス、スポーツ測定評価法、情報概論、ヘルスケアとスポーツライフ、スポーツ情報プロジェクト演習1、スポーツ情報プロジェクト演習2、スポーツ情報プロジェクト演習3、コーチング論、トレーニング論、スポーツ心理学、スポーツライフと社会、スポーツライフと栄養、スポーツライフと健康、スポーツコンディショニング、スポーツコンディショニング演習

- ・データサイエンス部門

データサイエンス概論、情報処理演習2、情報統計学2、プログラミング演習2

- ・キャリア開発部門

キャリア開発 1、キャリア開発 2、キャリア開発 3

②展開科目

基幹科目で学習した内容を基に、3年次から4年次に掛けて開講される展開科目では、専門科目の発展的な内容を修得します。展開科目のうち、専門科目群の4つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

・経営情報部門

経営実践3、中小企業論、環境経営論、ベンチャービジネス論、国際経営論、物流論、経営情報論、インターネットビジネス、海外事情 A、海外事情 B、管理会計論、経営分析、金融と財務、労働法、知的財産権、

・スポーツ情報部門

プレゼンテーションスキル、スポーツ情報実践3、スポーツと安全、スポーツマネジメント

・データサイエンス部門

データサイエンス演習、データサイエンス演習2

・キャリア開発部門

キャリア開発4、インターンシップ

③卒業研究

卒業研究は、 세미나 1、 세미나 2、 세미나 3、 세미나 4 および卒業研究から構成されており、この科目においては、各自が研究課題を設定し、その研究を行います。卒業研究は論文としてまとめ、最後に研究内容の発表を行います。

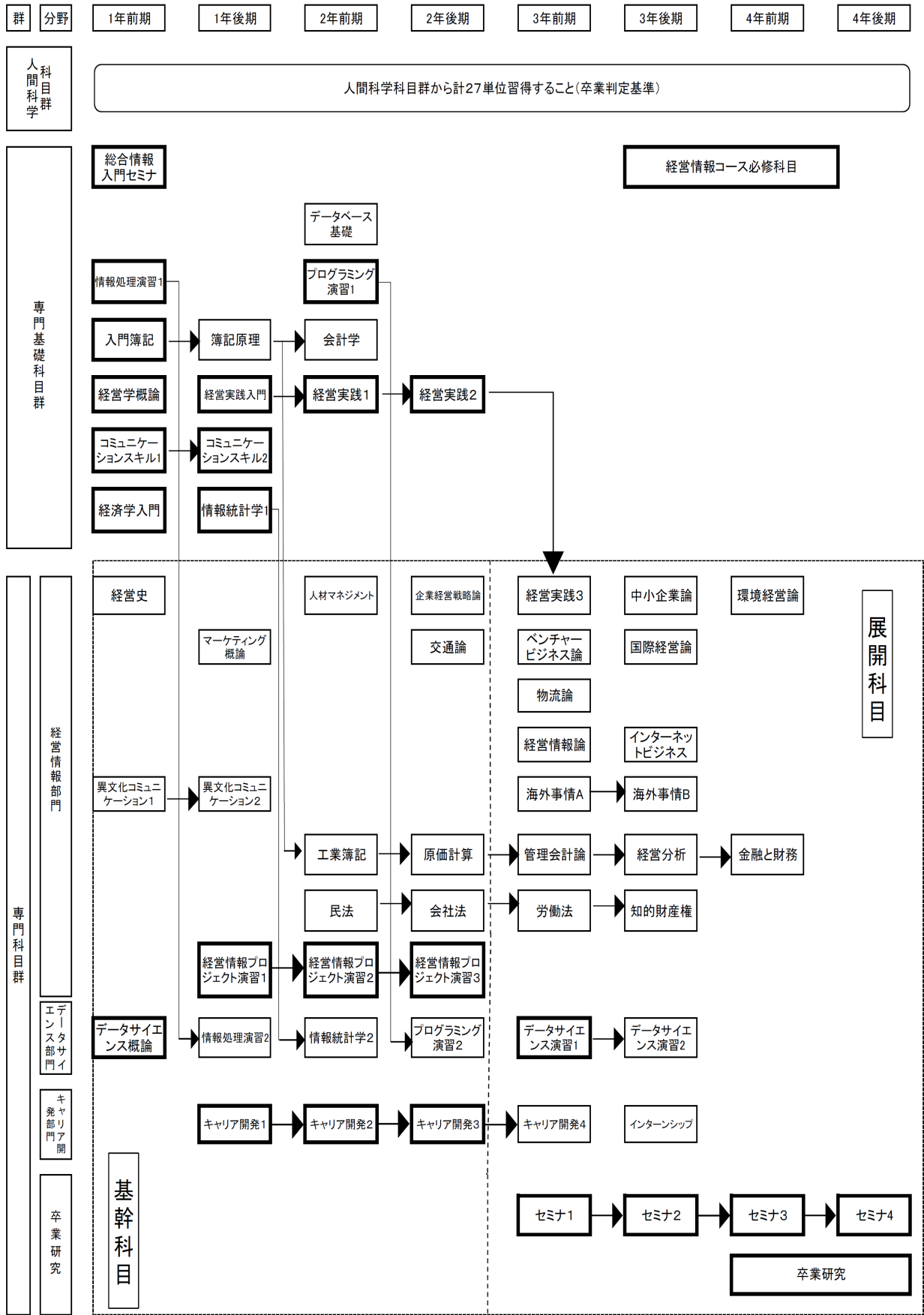
(3)学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識を修得するのかについては、各科目の学修到達目標と学位授与の方針との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

5. カリキュラム・フローチャート

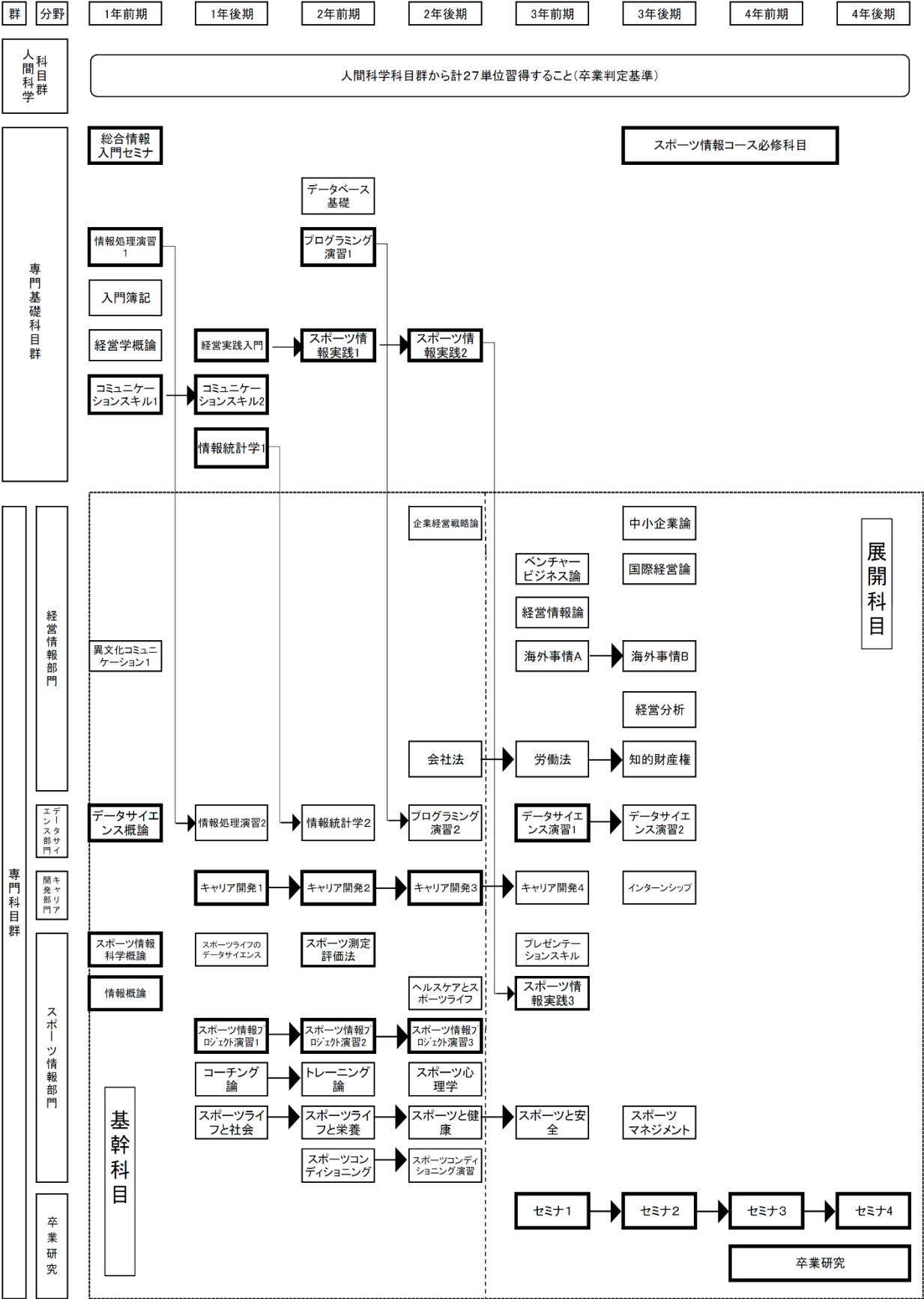
専門基礎科目群の授業科目は、総合情報学科における学びの土台となる科目からなります。また、専門科目群の授業科目は、柱となる4つのカテゴリーの基礎となる基幹科目とそれらの知識を発展させる展開科目、卒業研究からなります。図－1にあげた専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図－2、図－2. 1に示します。

総合情報学科 経営情報コース カリキュラム・フローチャート



図ー2 総合情報学科 経営情報コース カリキュラム・フローチャート

総合情報学科 スポーツ情報コース カリキュラム・フローチャート



図ー2. 1 総合情報学科 スポーツ情報コース カリキュラム・フローチャート

6. 履修モデル

総合情報学科では、「1. 学科の目的」および「2. 教育の目的と学位授与の方針」で述べた人材を育成するために二つの履修モデルを用意しています。一つ目は企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメントを行える人材を育成するための経営情報コースの履修モデルです。二つ目は、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためのスポーツ情報コースの履修モデルです。

両モデル共に、1, 2 年次では主に基幹科目を学ぶときに必要な基本知識を習得しますが、経営情報コースでは簿記・会計の資格取得を目指すために、1 年次から専門基礎科目及び専門科目の中の科目を履修し、3 年次の受験を目指します。

スポーツ情報コースの履修モデルでは、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためにスポーツと社会との関係を学ぶ科目に加え、スポーツ指導者資格取得を目指すための科目を用意しています。

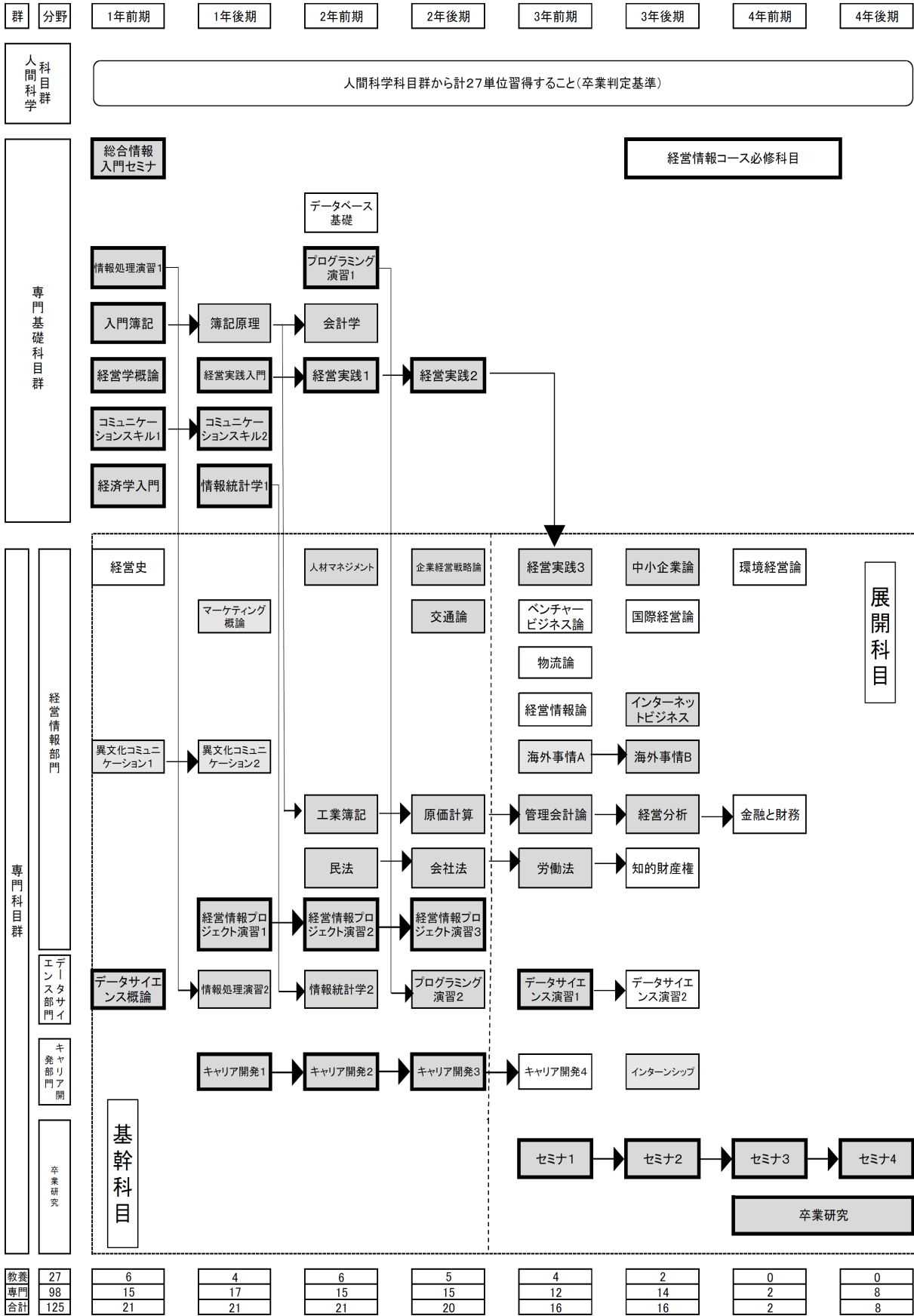
経営情報コース履修モデル

この履修モデルは、企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成するための科目が配置されています。企業経営に関する基礎的理解の上に、企業経営の企画、戦略に不可欠な経営学及び経営情報処理に関する領域での実践的な学修を目指しており、開講されている科目を学年進行とともに順次体系的に履修していくことで問題解決能力を兼ね備え、ビジネス界のニーズに応えたカリキュラムで、これからの社会に支持される新ビジネスの創造を目指す人材育成を目標にしています。

スポーツ情報コース履修モデル

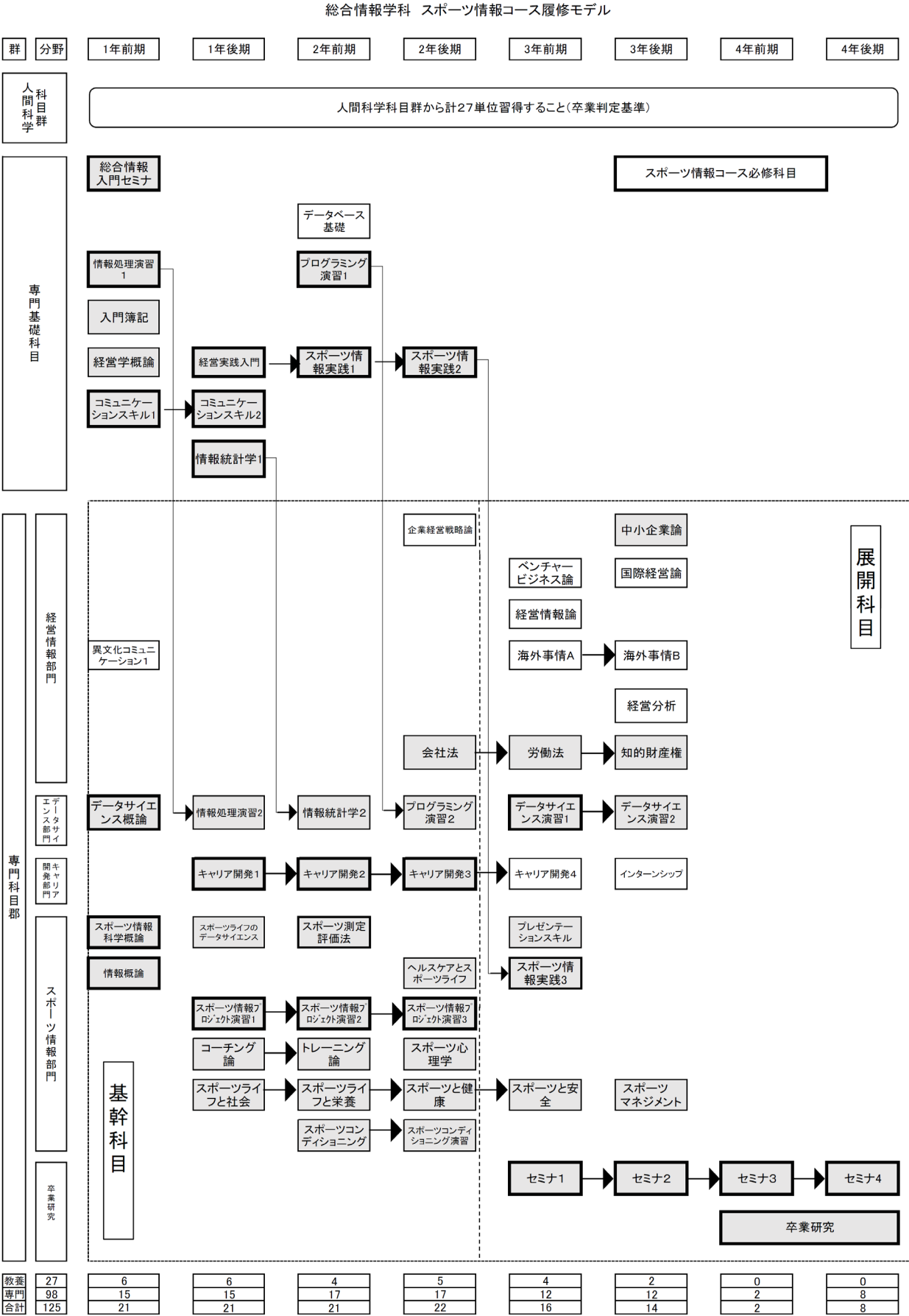
この履修モデルはスポーツを通じて実社会における組織のマネジメントを行える人材を育成するための科目が配置されています。スポーツ関連の理論と実践の科目を中心に、スポーツ情報系のデータサイエンスを学ぶことで、スポーツ実践とスポーツ指導に活用できる実践スキルを習得します。さらにコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルなどを学び、子供から高齢者までを対象とした地域スポーツクラブやスポーツ指導者、コーチ、組織経営を理解したマネジメントスタッフを養成します。本履修モデルはスポーツに精通し、かつ地域社会で活躍できる人材の育成を目標とします。

総合情報学科 経営情報コース履修モデル



☆この図は履修モデルの一例を示したものです。実際に履修するときには、自分の考えで履修科目を選んで下さい。

※ 網掛けは履修推奨科目



☆この図は履修モデルの一例を示したものです。実際に履修するときには、自分の考えて履修科目を選んで下さい。

※ 網掛けは履修推奨科目

情報学部 総合情報学科 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

学部の教育研究上の目的
情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

学科の教育研究上の目的
情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標					
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1		1 [2]	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。					
							ノートの取り方が効果的にできる。					
							文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。					
							図書館の利用法がわかる。					
							レポートの作成の必要手順が分かる。					
							基本的なレポートの作成ができる。					
							プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。					
							プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。					
		資格英語1	1		1 [2]	この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEIC に出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。					
							短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。					
							英文を読み、その内容を大まかに理解できる。					
							基礎的な英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を解くことができる。					
							基礎的な英文文をでき得る限り正確に音読することができる。					
							授業科目の貢献度					
								資格英語2	1		2 [3]	この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEIC に対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。
							短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。					
		英文を読み、その内容を理解できる。										
		英文法の知識を活用し、TOEIC の問題を解くことができる。										
基礎的な英文文を正確に音読することができる。												
授業科目の貢献度												
	英語スキル1	1		1 [2]	この授業では、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」、「食」、「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。						
題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。												
聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。												
題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。												
題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。												
授業科目の貢献度												

学科の学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。	J. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる。
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	M. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。	

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
		10											10
		10											10
		10											10
		10											10
		10											10
		10				10							20
		10											10
		10				10							20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
10	6		2			2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Aグループ	英語スキル2	1		2 〔3〕	この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」、「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアーワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
		英語スキル3	1		3 〔4〕	「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
							授業科目の貢献度
		英語スキル4	1		4 〔5〕	この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度
		実践英語1（資格コース）	1		5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEIC で高得点を取るために必要な最低限の語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容をほぼ理解できる。 英文を読み、その内容をほぼ理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文をほぼ正確に音読することができる。
							授業科目の貢献度
		実践英語1（スキルコース）	1		5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
							授業科目の貢献度
		実践英語2（資格コース）	1		6	この授業では、前期に開講されている実践英語1（資格コース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEIC で高得点を取るために必要な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を短時間に解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。
							授業科目の貢献度
		実践英語2（スキルコース）	1		6	この授業では、前期に開講されている実践英語1（スキルコース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
10	6		2			2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100
14	6												20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1									20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	2					6							20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (卓球)	1		1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							対人ラリーが20球続けられる。
							フォアハンドロングによるラリーができる。
							バックハンドによるショートをつなぎができる。
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
							目的の位置にサービスを打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
							正確なグリップでラケットを握ることが出来る。
		健康科学演習A (バドミントン)	1		1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。
							アンダーハンドストロークが出来る。
							ネットプレーによるつなぎが出来る。
							スマッシュを打つ事が出来る。
							目的の位置にサーブを打つ事が出来る。
							得点の数え方および審判が出来る。
							授業科目の貢献度
							正確なグリップでラケットを握ることができる。
		健康科学演習A (硬式テニス)	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	フォアハンドストロークによるラリーができる。
							フォアハンドストロークを打つことができる。
							フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
							バックハンドボレーを打つことができる。
							アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
							積極的に運動ができた。
		健康科学演習A (サッカー・フットサル)	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	自分の体と向きあうことができた。
							ゴール型スポーツの構造を理解できた。
							サッカー・フットサルのルールを理解できた。
							授業科目の貢献度
							正確なグリップでラケットを握ることができる。
		健康科学演習B (卓球)	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	対人ラリーが20球続けられる。
							フォアハンドロングによるラリーができる。
							バックハンドによるショートをつなぎができる。
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
							目的の位置にサービスを打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
							正確なグリップでラケットを握ることが出来る。
		健康科学演習B (バドミントン)	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。
							アンダーハンドストロークが出来る。
							ネットプレーによるつなぎが出来る。
							スマッシュを打つ事が出来る。
							目的の位置にサーブを打つ事が出来る。
							得点の数え方および審判が出来る
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	6	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習B (硬式テニス)	1		2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							フォアハンドストロークによるラリーができる。
							フォアハンドストロークを打つことができる。
							フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
							バックハンドボレーを打つことができる。
							アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
	Aグループ	健康科学演習B (サッカー・フットサル)	1		2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。
							自分の体と向きあうことができた。
							ゴール型スポーツの構造を理解できた。
							サッカー・フットサルのルールを理解できた。
							授業科目の貢献度
							叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
							題材を批評的に検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して文章にまとめる。
							文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。
	Bグループ	日本文学A	2		3・5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
							文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
							授業科目の貢献度
		日本文学B	2		4・6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
							題材を多角的に検討して自分の考えを持ち、課題に応じて自分の考えを表現する。
							文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。
							日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
							文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
							授業科目の貢献度
		外国文学A	2		1・3・5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。
							文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。
							文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。
							自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。
							文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。
							授業科目の貢献度
		外国文学B	2		2・4・6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。
							文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。
							文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。
							文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。
							文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。
							授業科目の貢献度
		哲学A	2		1・3・5	西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。	プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。
							デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。
							啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。
							西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。
							知的リフレッシュメントを味わうことができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	哲学B	2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。
						哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。
						「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。
						おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。
						自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。
						授業科目の貢献度
						現代における人間像について様々な角度から考えることができる。
		文化人類学A	2	3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	様々な文化を比較することができる。
						習慣の意味が理解できる。
						形のないものの価値について考えることができる。
						現代社会がかかえる問題点について考えることができる。
						授業科目の貢献度
						アイデンティティとは何かについて理解できる。
		文化人類学B	2	4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	文化について様々な考え方が理解できる。
						現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。
						「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。
						コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。
						授業科目の貢献度
		歴史学A	2	1・3・5	日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
						国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。
						西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。
						歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
						過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
						授業科目の貢献度
		歴史学B	2	2・4・6	近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
						東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。
						日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。
						歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
						過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
						授業科目の貢献度
		心理学A	2	1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。
						学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。
						欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。
						発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。
						パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。
						授業科目の貢献度
		心理学B	2	2・4・6	他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。
						人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。
						対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。
						集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。
						集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。
						授業科目の貢献度

学科（専攻）の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	教育原理	2		1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。
							近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
		教育心理学	2		3	「教育」という営みをととしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのおり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。
							近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。
							授業科目の貢献度
							「発達」とはどのようなことかを理解し、各発達過程における特徴を把握することができる。
							「青年期」の特徴を理解し、この時期特有の問題について心理学的な観点から考察することができる。
							学習の基礎となる条件づけ、記憶の役割などを踏まえながら、基礎的な学習理論を理解することができる。
							学習へのやる気を高めるために、動機づけ、学習意欲、無気力のメカニズムを理解することができる。
							学校における現代的課題として、いじめ、不登校、発達障害などを取り上げて関連知識を身に付けるとともに、アプローチの仕方について考察することができる。
							教育評価について、基本的な考え方と方法、評価資料収集の技法を理解することができる。
							教師と生徒の望ましい人間関係を理解したうえで、教師の指導行動のあり方について考察することができる。
							授業科目の貢献度
		政治学 A	2		1・3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。
							自由民主主義の理論と政治制度について理解する。
							議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。
							政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。
							自分と政治との関わりについて考えることができる。
							授業科目の貢献度
		政治学 B	2		2・4・6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。
							現代民主主義の理論的特徴について理解する。
							現代民主主義の制度的特徴について理解する。
							現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。
							授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		経済学 A	2		1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。
							資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。
							経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。
							経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		経済学 B	2		2・4・6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。
							日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。
							歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。
							日本の企業の特徴・構造について説明できる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		法学 A	2		3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。
							授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。
							授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。
							日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
				30									30
				30									30
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10										10
			10	10									20
			10										10
			10										10
			10	10									20
			10	10									20
			10										10
0	0	0	70	30	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				10									10
				20									20
				10									10
				30									30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				10									10
				10									10
				30									30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Bグループ	法学B		2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。
							日本国憲法の基本原則が説明できる。
							日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。
							基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。
							表現の自由とその制約原理を説明できる。
							違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
							授業科目の貢献度
		社会学A		2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ。
							方法論的個人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケム）の違いを理解する。
							社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる。
							「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する。
							東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること。授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
							社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。
		社会学B		2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	個人化という概念について説明できるようになること。
							ネオリベリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。
							非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。
							グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。
							授業科目の貢献度
							社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。
							母集団及び標本抽出について理解する。
		社会調査の方法A		2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイニ乗検定）について理解する。
							統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。
							質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。
							授業科目の貢献度
							社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。
							統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。
							疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。
		社会調査の方法B		2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。
							質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。
							授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。
							担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
							地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
		現代社会論A		2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。
							担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
							地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
							授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。
		現代社会論B		2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
							地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
							授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。
							担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
				10									10
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				30									30
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	教育社会学	2	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。
							学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。
							教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。
							学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
							授業科目の貢献度
		健康科学 A	2	1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。		体の仕組みについて理解できる。
							発育の仕組みについて理解できる。
							年齢とからだの関係について理解できる。
							健康について理解できる。
							健康に対する取り組みについて理解できる。
		健康科学 B	2	2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。		授業科目の貢献度
							身体の動く仕組みについて理解できる。
							人体の構造について理解できる。
							障害について理解できる。
							傷害について理解できる。
		認知科学 A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。		体力について理解できる。
							授業科目の貢献度
							情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。
							知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。
							認知機能の神経機構について説明することができる。
		認知科学 B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。		ヒューマンエラーの原因について説明することができる。
							認知科学の哲学的な問題を説明することができる。
							授業科目の貢献度
							認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。
							我々が当たり前に行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。
		環境科学 A	2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。		記憶のメカニズムや分類について説明することができる。
							自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。
							ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。
							ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる。
							授業科目の貢献度
		環境科学 B	2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。		地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。
							地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。
							地球環境問題対策を理解する。
							地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。
							授業科目の貢献度
		自然科学概論 A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。		海洋と大気を総論的に理解する。
							太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。
							生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。
							生命の生存条件を理解する。
							授業科目の貢献度
							科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。
							科学リテラシーの必要性を理解できる。
							近代科学の特徴を説明できる。
							20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。
							科学・技術と社会との関係を主體的・批判的に考えることができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0		100
				10									10
			10	10									20
				10									10
		10	10	10									30
		10	10	10									30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0		100
		10		10									20
		10		10									20
			10	10									20
			10	10									20
			10	10									20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0		100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					10								10
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					10								10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					40								40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	自然科学概論B	2		2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。
							物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。
							現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。
							現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。
							未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわりあいを展望できる。
							授業科目の貢献度
		生物学A	2		3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。
							生物多様性のメカニズムについて説明することができる。
							遺伝的多様性の必要性について説明することができる。
							生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。
							環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。
							授業科目の貢献度
		生物学B	2		4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的視点から考察する。	進化的理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。
							ヒトの進化史を大まかに説明することができる。
							自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。
							性選択と自然選択の違いについて説明することができる。
							脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。
							授業科目の貢献度
		地球科学A	2		3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。
							最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。
							鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。
							水の特性から生物に与える影響が理解できる。
							古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。
							地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。
							授業科目の貢献度
		地球科学B	2		4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。
							様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。
							地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。
							日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。
							太陽系の進化から地球の未来像を把握する。
							授業科目の貢献度
		リベラルアーツ 特別講義	2		集中講義 9月	現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。
							問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。
							国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
							授業科目の貢献度
		リベラルアーツ 実践演習A	2		3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
							諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
							課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
							自らの課題に対して解決まで導くことができる。
							コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0		100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					10								10
					20								20
					20								20
					10								10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0		100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				40									40
				20									20
					40								40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	リベラルアーツ実践演習B	2		4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
							諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
							課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
							自らの課題に対して解決まで導くことができる。
							コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
							授業科目の貢献度
	Bグループ	教養総合講座A	2		3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠な CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。
							ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
							課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
							これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
							授業科目の貢献度
							現代の問題群を整理することができる。
専門基礎科目群	Cグループ	教養総合講座B	2		4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
							課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
							問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
							授業科目の貢献度
							現代の問題群を整理することができる。
							ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
	Cグループ	入門セミナー	1		1	本セミナーは、専門課程への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生間の良好なコミュニケーション形成の場でもある。授業では、学外見学会、講演会、スポーツを通じた交流などを行うとともに、総合情報学科で学んだ知識を社会で活用するための将来像が早い段階から描けるようキャリアガイダンスを行う	総合情報学科で学ぶ内容について、自身が感じる興味を説明できる。
							総合情報学科で学ぶ内容が社会でどのように活かすのかを説明できる。
							おおまかに自身の将来像を説明できる。
							授業科目の貢献度
							価値観や考え方の違う人とも対話ができる。
							コミュニケーションの双方向性が理解できる。
	Cグループ	コミュニケーションスキル1	2		1	「話す」「書く」両方の面から、他人とのコミュニケーションを円滑にしたり、自分の考えを主張するための方法を学ぶ。	人前で自分の考えを表現することができる。
							TPO にあわせた表現ができる。
							論理的な説明の仕方が理解できる。
							授業科目の貢献度
							書き言葉と話し言葉の違いが理解できる。
							適切な言葉や話題を選ぶことができる。
	Cグループ	コミュニケーションスキル2	2		2	レポートや小論文など、人の目に触れる文章を書くための文章力を高めるスキルを学ぶ。また、書くことで考えを深めて表現することなどを目的として、具体的に実践を行いながら書くスキルを高める。	論理的な表現ができる。
							取材したり文献を引用したりして考察することができる。
							簡潔かつ的確に要旨をまとめることができる。
							授業科目の貢献度
							コンピューターのハードウェアの基礎を説明できる。
							電子メールの作成、送信、受信ができる。
専門基礎科目群	Dグループ	情報処理演習1	2		1	Windows PCの基礎知識を身につけることを目的として、PCのハードウェア構成から大学内のPC・ネットワークを活用する方法および電子メールやレポート作成、卒業研究などで活用するソフトウェア（Microsoft Office）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションを学ぶ。	Wordを用いて文章の作成ができる。
							Excelを用いてグラフの作成や計算ができる。
							PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。
							授業科目の貢献度
							ＩＴパスポート試験、基本情報処理技術者試験問題のデータベースに関する分野を理解できる。
							Accessを用いてＳＱＬ言語の基本を理解できる。
	Dグループ	データベース基礎	2		3	ＩＴパスポート試験、基本情報処理技術者試験問題のデータベースに関する分野では、Accessを用いて実習することにより理解を深める。しかし、あくまでもＳＥＬＥＣＴ文の理解のためであり、ソフトウェアとしてのAccessの実技能力を得るものではない。そのため、Accessの機能のうち、ＳＱＬ言語を直接用いる機能だけを利用する。	授業科目の貢献度
							関数の定義について説明できる。
							プログラムの手続きについて説明できる。
							基礎的な文法と配列、文字列、関数を用いてプログラムを作成できる。
							授業科目の貢献度
							プログラミングの基礎を学ぶ。また、学んだ文法を組み合わせて練習課題として与えられたプログラムを完成させる。

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
							10					10	20
							10				10	20	40
							10				10	20	40
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	20	50	100
							10	10					20
							10	10					20
							10	10					20
							10	10					20
0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	0	100
							10					5	15
							10	15				5	30
							10					5	15
							10		10			5	25
							10					5	15
0	0	0	0	0	0	0	50	15	10	0	0	25	100
							10	10	20			10	50
							10	10	20			10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	40	0	0	20	100
									20		10		30
									20		10		30
									20		10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	30	10	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)必修	区分 選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		情報統計学Ⅰ	2		2	社会で用いる基礎的統計について学習する。まず、データの単位、有効数字、作表、作図（グラフ）について学ぶ。つぎに、平均、分散、標準偏差によるデータの要約化を学ぶ。第3に、母集団から適切なサンプルを取り出す方法を学ぶ。最後に、顧客の満足度を把握する調査法を学ぶ。	データの要約と視覚化ができる。 データの平均、分散が解析できる。 母集団とサンプルの関連を説明できる。 基礎的な相関分析と回帰分析が理解できる。
		経営学概論	2（経営情報コース）	2（スポーツ情報コース）	1	「企業とは何か」、「企業の存在意義は何か」、「企業はどのような仕組みで動いているのか」といった経営に関する基礎を学習すると共に、経営の基礎的部分である「人」、「モノ」、「金」を管理するための制度やそれに関する法規を学ぶ。その上で、企業が組織や戦略の決定を行うプロセスを解説する。また、現代の企業が抱える問題に触れ、社会や経済の変化を踏まえつつ、今後の企業経営のあり方を考える。なお、本講義においては、企業経営の理解を深めるため、多くの事例を用いる。	授業科目の貢献度
							企業の意味や企業の存在意義を理解できる。
							企業を構成している要素とこれらの動きを理解できる。
							企業における人、モノ、金を管理する制度を理解できる。
							企業における組織と戦略の関係を理解できる。
							企業を取り巻く環境変化を把握し、今後の企業経営のあり方について説明できる。
		経済学入門	2（経営情報コースのみ）		1	経済学の分析対象が人や人の集合であることを認識し、家計、企業、政府の約割や関係を理解した上で、様々な経済活動を市場メカニズムや政府の役割の視点から学ぶ。	授業科目の貢献度
							経済における家計と消費について理解できる。
							経済における企業と生産について理解できる。
							経済における市場メカニズムについて理解できる。
							経済における政府の役割について理解できる。
							経済における新しい視点について理解できる。
		入門簿記	2（経営情報コースのみ）		1	複式簿記の基本的な考え方や用語等、簿記に関する基礎知識を身につけると共に、簿記の基本的な技法、商品売買取引などの基本的な会計処理方法を学ぶ。また、講義の最終段階には単純な帳簿や仕訳帳の作成ができるようになることを目標とする。	授業科目の貢献度
							複式簿記の意義・目的について概説できる。
							複式簿記の原理を利用した仕訳ができる。
							手形や有価証券の内容を理解し、これらの処理ができる。
							債権・債務の内容を理解し、これらの処理ができる。
							決算における仕訳や帳簿システムについて、その基本を理解できる。
		簿記原理	2（経営情報コースのみ）		2	「簿記入門」で学んだ内容を踏まえ、複式簿記の一連の手続きや商品売買取引の処理を習得する。その上で、各種取引の記帳と帳簿組織の理解に重点を置いて講義する。最終的には、各種の取引の記帳処理、決算整理の記帳処理、特殊仕訳帳制の記帳処理ができることを目標とする。	授業科目の貢献度
							複式簿記の手続きを理解できる。
							商品売買取引の処理ができる。
							決算整理の記帳処理ができる。
							特別仕訳帳制の記帳処理ができる。
							授業科目の貢献度
		会計学	2（経営情報コースのみ）		3	企業会計の基本となる考え方や、それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とする。さらには記録された情報から、企業活動を読み取る知識も習得する。	会計の意義・目的について説明できる。
							会計的なものの見方を身につけ、これを説明できる。
							損益計算書、貸借対照表について理解できる。
							財務諸表の見方について理解ができる。
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
		経営実践入門	2		2	企業を経営するという方法について経営全体のフローが理解でき、自ら経営学に対する目的意識を確立し、経営学の実践を学ぶために必要な基礎的な方法ビジネスマナーを学ぶ。	経営学について興味をもつことができる。
							経営学における基本的な理論が理解できる。
							経営学におけるヒトの行動が理解できる。
							経営学におけるモノの流れが理解できる。
							経営学におけるカネの流れが理解できる。
							授業科目の貢献度
		経営実践Ⅰ	2（経営情報コースのみ）		3	経営の実践的な活動を通じ、知識を行動に変えるための基本的な技術やマナーを学び、変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを学ぶ。	知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
							自分が理解したことを記述して端的に表現できる。
							自らのスキルを効果的に実践できる。
							習得した知識を活かし成果を上げることができる。
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
									10	10	5	5	30
									10		5	5	20
									10		5	5	20
									10	10	5	5	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	20	100
							10			10			20
							10			10			20
							10			10			20
							10			10			20
							10			10			20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	50	0	0	100
										10		10	20
										10		10	20
										10		10	20
										10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										25			25
										25			25
										25			25
										25			25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										15			15
										15		20	35
										15			15
										15		20	35
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	100
							5			5		10	20
							5			5		10	20
							5			5		10	20
							5			5		10	20
0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	25	0	50	100
							10					15	25
							10					15	25
							10					15	25
							10					15	25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	60	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群		スポーツ情報実践1	2 (スポーツ情報コースのみ)		3	スポーツにおける楽しみや、個人の健康を維持・増進させるための運動プログラムを考え、実際の活動を通じ、自らが考え、判断し、実践できる人材になることを学ぶ。	情報を他人にわかりやすく伝えることができる。
							理解したことを記述して正確に表現できる。
							自らのスキルを効果的に実践できる。
							習得した知識を活かし成果を上げることができる。
							授業科目の貢献度
		経営実践2	2 (経営情報コースのみ)		4	経営の実践的な活動を通じ、グループの中で協力し、知識を行動に変えるための基本的な技術やマナーを学び、変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを学ぶ。	グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
							グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。
							グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。
							グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。
							授業科目の貢献度
		スポーツ情報実践2	2 (スポーツ情報コースのみ)		4	様々な年代におけるスポーツの実践的な活動を通じ、グループの中で協力しアイデアを導き出し、それぞれの役割のもとにチームで考え、判断し、実践できる人材になることを学ぶ。	グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
							グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。
							グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。
							グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。
							授業科目の貢献度
専門科目群	基礎科目	キャリア開発1	1		2	1 年次生からの「自己発見」の取り組みが、自分のキャリア形成に極めて重要であることを実践的に学ぶ。また、自分の学生生活を自己責任において確立していく大切さを学ぶと同時に、自ら発見し、自ら語ることの重要性を学ぶ。	キャリアデザインを行なう上での基本的な考え方を説明できる。
							自分自身で学生生活を創ることの大切さを理解できる。
							大学で学ぶ意味を考え、目標を検討することができる。
							大学での学びが、自分の将来に繋がることを理解できる。
							社会生活を営む上で重要となる他者と協力し、関係を構築することの大切さを理解できる。
		キャリア開発2	1		3	自分の個性、生き方、将来を見つめながら、次に必要な「意識と自覚」を修得する。また、自分を活かすための「自己現状分析」を行うことにより、将来を見据えた具体的計画を立案し、目標達成までのプロセスの重要性とその実行方法について学ぶと同時に、自己表現できる能力を身に付ける。	自分を知り、自分を表現できる。
							他者とかかわり、関係を構築できる。
							職業観を養い、表現できる。
							自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。
							目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。
		キャリア開発3	1		4	自己分析を更に展開し、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	社会で生きていくために、社会を知り、将来に向けて自分の人生を切り拓いていく考え方や基礎力を身につけ、その重要性を理解することができる。
							職場や地域社会の中で、多様な人々と共生するために必要となる人間力を身につけ、その必要性を理解することができる。
							授業科目の貢献度
							経営情報に関連する研究の動向が理解できる。
							経営情報に関連する産業界の動きが理解できる。
		経営情報プロジェクト演習1	2 (経営情報コースのみ)		2	この科目は、3 期に開講される経営情報プロジェクト演習2の基礎になる科目で、学生個人で成果物を作成する力を身につけるものである。この科目では、総合情報学科で学ぶ内容に関連するテーマを設定し、学生が自分自身で問題を抽出する。資料調査・問題点抽出・提案に至るプロセスを通じて各個人の成果物を作成し発表するのに加え、発表会において問題意識をもって他の学生のプレゼンテーションを聞き、適切な質問を行うことができる力を養う。	授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
		スポーツ情報プロジェクト演習1	2 (スポーツ情報コースのみ)		2	3 期にわたるスポーツ情報プロジェクト演習の基礎となる科目で、スポーツにおける個々の課題を抽出し、その課題に対して適切な対策を考え、それを実際の現場で実践することで、それぞれが抱える個々の課題を解決する能力を身につける。	スポーツにおける個々の課題を明確に抽出できる。
							スポーツにおける個々の課題に対する対策を立案することができる。
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
		経営情報プロジェクト演習2	2 (経営情報コースのみ)		3	本授業では、経営情報コースで学ぶ各分野における課題を取り上げ、それらの課題を把握する手法を学び、調査、データ整理、分析を行う。得られた結果を基にして考察した内容を発表する。	経営情報に関連する課題の抽出方法が理解できる。
							経営情報に関連する課題の調査、データ整理、分析の方法を理解できる。
							得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度
		スポーツ情報プロジェクト演習2	2 (スポーツ情報コースのみ)		3	スポーツにおける課題を様々な手法で見つけ出し、それらを調査、分析、評価することで問題点を明らかにし、その具体的な対策を立てる実践することで、問題解決能力を身につける。	課題の抽出方法が理解できる。
							課題の調査、分析の方法を理解できる。
							得られた結果を基にして対策内容を分かりやすく説明できる。
							授業科目の貢献度
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
							10			10		10	30
							10			10		10	30
											10	10	20
							10				10		20
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	20	30	100
							10					15	25
							10					15	25
							10					15	25
							10					15	25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	60	100
							10			10		10	30
							10			10		10	30
											10	10	20
							10				10		20
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	20	30	100
							15	10					25
							15						15
							15						15
							15						15
							15	15					30
0	0	0	0	0	0	0	75	25	0	0	0	0	100
							10	10					20
							10	20					30
							10						10
							20						20
							20						20
0	0	0	0	0	0	0	70	30	0	0	0	0	100
							30					10	40
							30	30					60
0	0	0	0	0	0	0	60	30	0	0	0	10	100
							20	10			10	10	50
							20	10			10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	20	0	0	20	20	100
							10		10	10	10	10	50
							10		10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	20	20	20	100
							10				10	10	30
							10				10	10	30
							10	10			10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100
							10		10			10	30
							10		10		10	10	40
							10			10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	30	0	20	10	10	30	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	経営情報プロジェクト 演習3	2 (経営情報コースのみ)		4	経営情報に関連する課題を自ら抽出できる。 経営情報に関連する課題の調査、データ整理、分析を自ら実施できる。 得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その概要を説明できる。
						授業科目の貢献度
						スポーツ場面に関連する課題を自ら抽出できる。 テーマに関連した課題の解決方法を提案できる。 実践で分かりやすく効果のある方法で指導やコーチングができる。
		スポーツ情報プロジェクト 演習3	2 (スポーツ情報コースのみ)		4	授業科目の貢献度
						情報通信社会の変遷を理解し、現代における情報の特性を説明できる。 情報セキュリティやマナー、モラルを理解し、情報を適切に受発信できる。 個人情報保護と知的財産保護の重要性を理解し、適切な利活用のあり方を説明できる。 今後の社会で起こりうる諸課題について考え、その背景や解決策を具体的に説明できる。 情報通信社会における倫理観とは何かを考え、快適に過ごすための方策を具体的に説明できる。
						授業科目の貢献度
		情報概論	2 (スポーツ情報コースのみ)		1	情報化の発展は、個人や社会に多大な恩恵をもたらす一方、扱い方を誤れば被害者や加害者にもなりかねない危険性もあわせ持つ。本講義では、日々変化し続ける情報通信社会を概観しながら、この社会を快適に過ごすための倫理観の修得を目指す。
						異文化と接することの意義を理解できる。 非ネイティブのためのビジネス英語の基礎を理解できる。 英語圏の文化を日本語に変換して理解できる。 日本の文化を英語に変換して発信できる。
						授業科目の貢献度
		コミュニケーション1	2		1	情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。
						異文化と接することの意義を理解できる。 非ネイティブのためのビジネス英語の基礎を理解できる。 英語圏の文化を日本語に変換して理解できる。 日本の文化を英語に変換して発信できる。
						授業科目の貢献度
		コミュニケーション2	2 (経営情報コースのみ)		2	人は、自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解する。異文化接触のありようを具体的かつ理論的に整理することをとおして、「違いを楽しむ」ことは重要である。この講義では、情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。
						情報コミュニケーション技術（言語翻訳技術）を活用できる。 英語圏の文化を日本語に変換して知ることができる。 日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信することができる。
						授業科目の貢献度
		経営史	2 (経営情報コースのみ)		1	企業が登場してからの大きな歴史（主に15世紀以降）の流れを理解できる。 企業が登場するようになった社会や経済の変化を説明できる。 企業を取り巻く環境は、どのように変化してきたのかを歴史の視点から説明できる。 企業は時代と共に、企業の形態や戦略はどのように変化してきたのかを説明できる。 日本の企業の特徴がどのように形成されてきたのかを歴史の視点から説明できる。
						授業科目の貢献度
						マーケティングに関する基本的な用語を理解できる。 マーケティングの必要性を説明できる。 企業経営におけるマーケティングの位置づけや役割を説明できる。 現実に行われているマーケティングの戦略を理解できる。 特定の企業あるいは製品について、自身が有効であると思われるマーケティング活動を考えることができる。
	マーケティング概論	2 (経営情報コースのみ)			2	授業科目の貢献度
						経営における人材の重要性について説明できる。 経営における人事制度や労務管理制度の内容について説明できる。
						日本と欧米との人材に対する考え方の違いを理解できる。
	人材マネジメント	2 (経営情報コースのみ)			3	日本企業の人事制度や労務管理制度に関する近年の変化を説明できる。 今後の経済や社会の動向を踏まえた人事制度や労務管理制度について説明できる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
							10				10	10	30
							10				10	10	30
							10	10			10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100
							10			10	10		30
							10		10		10		30
							10		10	10	10		40
0	0	0	0	0	0	0	30	0	20	20	30		100
							10	10					20
							10	10					20
							10	10					20
											10	10	20
								10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	30	40	0	0	10	20	100
							10	10					20
							10	10					20
							10	10				10	30
							10	10				10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0	20	100
							10	10				10	30
							10	10				10	30
							15	15				10	40
0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0	30	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										15			15
										15			15
										15			15
										15			15
							10			15		15	40
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	75	0	15	100
										10			10
										15			15
										15			15
							15			15			30
							15			15			30
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	70	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	民法	2 (経営情報コースのみ)	3	市民と市民との間の権利と義務の関係を明確にする役割を担うと共に、財産取引と身分（夫婦・相続など）を規律する意味で、民法は重要な法律である。本講義においては、総則を中心に、民法における法律用語や基礎知識を習得すると共に、民法の意義や基本原理等を学習する。その上で、民法総則の各規定について、実例をできるだけ多く取り上げながら、日々の事象を民法の視点から考える。	民法の基本原理を説明できる。 民法の内容（概要）を説明できる。 企業経営における民法の重要性を理解できる。 企業経営において、民法が関係する具体的事案を説明できる。
						授業科目の貢献度
						商法および会社法の存在意義とその内容（概要）を説明できる。
						企業の設立に関連する法規について説明できる。
		会社法	2	4	株式会社を対象に、株主総会・取締役会・代表取締役・監査役・委員会等設置会社などについて法律と現実とを対比させながら、企業の設立および運営の過程を具体的に学習する。その上で、具体的な企業運営として、資金調達や資本構成、計算、利益処分、会社組織の変更、清算などについても法律と現実との対比通じて学ぶ。	企業組織に関連する法規について説明できる。 企業の運営に関連する法規について説明できる。
						授業科目の貢献度
						一般の財・サービスに比較した交通サービスについて理解できる。 わが国の交通事業の現状と課題について説明できる。
						経済と交通の結びつきについて説明できる。
		交通論	2 (経営情報コースのみ)	4	交通サービスは、道路や空港などのインフラ整備、新規参入や運賃変更に対する規制、ルーラル地域の公共交通に対する公的助成などにみられるように、政府の関与（交通政策）の重要性が高い領域である。本講義では、わが国の交通事業の現状と課題を示すとともに、交通政策の根拠と課題、そして望ましいあり方について考察する。	一般道路・高速道路の整備制度について理解できる。 都市間（長距離）鉄道の課題について説明できる。 空港整備制度について理解できる。
						授業科目の貢献度
						企業戦略とは何か理解できる。
						競争戦略について理解できる。
		企業経営戦略論	2	4	経営戦略論は、企業の対外的なマネジメントの問題を扱う科目であり、経営戦略論の理論的枠組みの変遷を押さえつつ、現代的な戦略論の課題を理解する。現代企業の経営戦略の事例からその手法・戦略を学ぶ。	事業戦略について理解できる。 「戦略」を学ぶことによって、意志決定の重要性が理解できる。
						授業科目の貢献度
						工業簿記（製造業における簿記）の基礎理念や内容、特徴を学習する。商業簿記は企業の外部活動に限られている一方で、工業簿記は企業の外部活動と内部活動の両方が含まれている。こうした違いなどを理解すること通じ、製造業の財務諸表の特徴を学ぶ。また、製造業における費用項目や原価計算の内容を把握すること通じて、製造業の企業経営のあり方や、製造業に対する企業診断の基礎を会得する。
						工業簿記の基本概念について説明できる。 工業簿記の内容（仕組み）について理解できる。 製造業の財務諸表の特徴について説明できる。 製造業における費用項目や原価計算の特徴を理解できる。
		工業簿記	2 (経営情報コースのみ)	3		授業科目の貢献度
						原価計算の仕組みを説明できる。
						原価の内容やその意義について理解できる。
						簡単な原価計算ができる。
		原価計算	2 (経営情報コースのみ)	4	財務諸表を作成するに当たり、原価計算は必要不可欠である。本講義では、原価計算の理論や実際の計算過程を学習する。その上で、原価計算は経営管理の有効な情報提供ツールであることの理解を深め、原価計算の分野で論じられている新たなトピックスについて紹介し、今後の原価計算の動きを説明する。	原価計算における近年の動きを説明できる。
						授業科目の貢献度
						データサイエンスとは何かを説明できる。
						代表的なデータの種類や保存ファイルの形式を知っている。
		データサイエンス概論	2	1	データサイエンスの基本となる考え方を学ぶ。データの入手方法やその扱い方などを習得するとともに、これを統計処理するための方法などを習得する。	データの収集方法や、公的データの入手方法を知っている。 データの基本統計量を計算し、データの分布をグラフや表で表すことができる。 データサイエンスの応用例を挙げられる。
						授業科目の貢献度
						統計処理の基礎が理解できる。
						Excel を用いてデータ処理ができる。
		情報処理演習2	2	2	調査から得られたデータを情報を Excel で整理・分析し、その結果を Word で要約すると共に、PowerPoint で分かりやすく相手に伝えるためのより高度な技術を学ぶ。また、調査の目的設定と方法についても学ぶ。	Excel および Word を用いてデータ処理の結果を文章に作成できる。 データ処理の結果について、PowerPoint を用いてプレゼンテーションができる。
						授業科目の貢献度
						PPM 理論を中心に商品企画で使われるデータ管理について理解できる。
						売上、利益のシミュレーションが回帰分析を使い理解できる。
		情報統計学2	2	3	社会で用いる応用的統計について学習する。ビジネスで使われるデータ処理の統計理論を理解し実践についてシミュレーションができる。	マーケティングに関する統計的分析技法が理解できる。 分析データを加工分析結果を分かりやすくプレゼンができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
										10			10
										10			10
										20			20
							10			20	20	10	60
0	0	0	0	0	0	0	10	10	0	60	20	10	100
										25			25
										25			25
										25			25
										25			25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										10			10
										10			10
										10	10		20
										10			10
										15	10	10	35
										15			15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	20	10	100
										25			25
										25			25
										25			25
										25			25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										20			20
										20			20
										20		20	40
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20		20	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	100
									10		10		20
									10		10		20
									10		10		20
									10		10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	100
									15		20		35
									15				15
									15				15
							20		15				35
0	0	0	0	0	0	0	20	0	60	0	20	0	100
									10	5	5	5	25
									10	5	5	5	25
									10		5	5	20
							10		10		5	5	30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	40	10	20	20	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
			必修 選択 自由			
専門科目群	基幹科目	プログラミング演習2	2	4	変数の利用、データの出入力、分岐、繰り返しなどを用いたプログラムの作成と動作確認等を行うことにより、プログラミングの基礎的な技術を習得する。	プログラムの変数やデータの入出力について理解し、利用することができる。 プログラムの分岐・繰り返し構文について理解し、利用することができる。 課題として与えられたプログラムがどのような処理を行うべきかを考え、これを完成させることができる。
						授業科目の貢献度
		コーチング論	2	2	スポーツにおける「コーチ」「指導者」とは、アスリートを成功へ導くための重要な役割を持つものである。この授業では、組織のリーダーとしての役割、必要な素養、観察能力の必要性を学び、コーチとアスリートの関わり方、トップアスリートの発掘・成長させるための育成方法・強化方法ならびにその評価方法を学ぶ。	コーチ、指導者の役割を説明できる。 コーチとアスリートの望ましい関係を説明できる。 ミーティングの方法について説明できる。 トップアスリートの育成・強化の方法を説明できる。
						授業科目の貢献度
		トレーニング論	2	3	我々の身体は、それぞれの年代により成長する部位や発達速度が大きく異なっている。ヒトの身体の発育・成長には、トレーニングが大きな影響を及ぼす。そのトレーニング方法や、種類について理解し、特に成長の著しいジュニア期における発育発達とそのプログラム、身体的な特徴・心理的な特徴について学ぶ。	トレーニングの進め方や種類を説明できる。 発育発達期の特徴について説明できる。 発育発達期のプログラムを作成できる。 体力テストの方法について説明できる。
						授業科目の貢献度
		スポーツ心理学	2	4	我々は、日常生活の様々な場面で緊張や不安、喜怒哀楽などの情緒の変化を体験する。このようなヒトの心理的な変化の部分について理解することは、日常の様々な場面での対応力を育むことになる。ここではスポーツと心について学び、動機づけの重要性やコーチとしての心理を理解するとともに、メンタルマネジメントや心理的なコンディショニングについて学ぶ。	動機づけについて説明できる。 メンタルマネジメントについて説明できる。 あがりやスランプのメカニズムについて説明できる。 イメージトレーニングの方法を説明できる。
						授業科目の貢献度
		スポーツライフと社会	2	2	我々の生活の中にはスポーツが深く根付いている。文化としてのスポーツの歴史を理解し、地域社会におけるスポーツ振興の現状を学び、地域における子供から老人までの様々な年代の対象者のスポーツライフについて学ぶ。	スポーツの歴史と文化を説明できる。 地域におけるスポーツ振興を説明できる。 各年代の対象に合わせたスポーツライフを説明できる。 障害者スポーツについて理解し、説明できる。
						授業科目の貢献度
		スポーツライフと栄養	2	3	現代社会において我が国では様々なスポーツプロモーションが行われており、スポーツに触れ合う機会が増加している。また、健康な生活を送るうえで運動と食生活の関係は密接に関わりあっている。ここでは身体の仕組みと運動の関係、栄養摂取と食生活などについて学ぶ。	我が国のスポーツプロモーションについて説明できる。 身体の仕組みと働きについて説明できる。 スポーツと栄養について説明できる。 アスリートの栄養摂取と食生活について説明できる。
						授業科目の貢献度
		スポーツライフと健康	2	4	国民がスポーツを実践する機会は極めて多くなってきている。学校体育から生涯スポーツまで長い期間スポーツを行う人々にとって、怪我や病氣スポーツでの傷害など日常生活を行う上でも大きな問題となっている。この授業ではスポーツに関わる医学的な知識の基礎を学び、障害の発生や外傷に対応できる知識を養う。	スポーツと健康について説明できる。 救急処置について説明できる。 スポーツ選手の健康管理について説明できる。 スポーツ活動中に発生するケガや病気について説明できる。
						授業科目の貢献度
		スポーツ情報科学概論	2	1	各分野でIT化が進み、情報をどのように扱うかということがより重要になってきている。スポーツ界において、情報はどのように扱われているのか、バイオメカニクス、運動生理学、統計学の視点から紐解いていく。また、各競技ごとに勝敗を左右する情報は何かということを考えていく。	スポーツ情報科学の歴史を説明できる。 バイオメカニクスのスポーツへの適応について説明できる。 生理学のスポーツへの適応について説明できる。 統計のスポーツへの適応について説明できる。 情報科学を生かし、トレーニングを組み立てることができる。
						授業科目の貢献度
		スポーツサイエンス	2	2	スポーツ現場だけでなく健康・体力維持増進にデータサイエンスが用いられるようになってきている。健康・体力維持増進にデータサイエンスがどのように貢献しているのかを学ぶ。また、各競技ごとに重要なデータについてバイオメカニクス、生理学、統計学の視点からそれぞれ調査し発表を行うことで、データサイエンスをスポーツ現場に生かせる能力を養う。	健康・体力にデータサイエンスがどのように貢献しているか説明できる。 バイオメカニクスの視点から競技力向上につながる分析ができる。 生理学視点から競技力向上につながる分析ができる。 統計学視点から競技力向上につながる分析ができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
									10				10
									10				10
							20		20		20	20	80
0	0	0	0	0	0	0	20	0	40	0	20	20	100
							10					10	20
							10					10	20
							10			10		10	30
							10			10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40	100
										10		20	30
										10		10	20
										10		20	30
										10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	60	100
							10			10		10	30
							10			10		10	30
										10		10	20
										10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	40	0	40	100
							10					10	20
							10			10		10	30
							10			10		10	30
							10					10	20
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40	100
										15		10	25
										15		10	25
										15		10	25
										15		10	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	100
										15		10	25
										15		10	25
										15		10	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	100
							10			10			20
										10		10	20
										10	10		20
										10	10		20
										10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	50	20	20	100
									10	10	10		30
									10		10		20
									10		10		20
									10	10	10		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	40	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 分 (単位)	開講 期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	スポーツ測定評価法	2 (スポーツ情報コースのみ)	3	運動生理学を基盤とした測定実習を通じ、データを収集・分析するスキルを習得する。さらに得られた分析結果を、運動・スポーツの現場における指導の質や安全性の向上に役立つ情報へ要約し、発信するスキルを身につける。	運動・スポーツがヒトの体に及ぼす生理的影響について、その測定法を学び実践することができる。 測定結果を分析し、評価することができる。 運動生理学の知識を基盤とし、科学的根拠に基づいた運動処方を立案できる。 授業科目の貢献度
		ヘルスケアとスポーツライフ	2 (スポーツ情報コースのみ)	4	スポーツ栄養の知識やスキルを習得し、栄養が競技力向上にどのように関わりを持つものであるのかを理解すると共に健康で有意義なスポーツライフを過ごすために必要な食事の役割と重要性を理解し、栄養学の基本とスポーツとの関係について正しい知識を学ぶ。	健康増進を目的とした食事のとり方を理解できる。 競技スポーツにおける食事や栄養補給の重要性について理解できる。 競技スポーツにおける身体づくりとコンディショニングのための食事の実践方法について理解できる。 スポーツ選手の栄養管理に関わるデータサイエンスについて理解し分析・評価することができる。 授業科目の貢献度
		コンディショニング	2 (スポーツ情報コースのみ)	3	スポーツに関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、知識や技術を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える力を身につける。	コンディショニングという言葉の意味とその内容について理解することができる。 スポーツ活動中に生じる外傷や内科的な病気およびその救急処置について理解することができる。 アスリートの健康管理について理解することができる。 スポーツ活動中における障害対策を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コンディショニング演習	2 (スポーツ情報コースのみ)	4	スポーツ場面における傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチング等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得し実践できる力を身につける。	スポーツ場面における傷害予防を実践できる。 運動後の疲労回復について実践できる。 スポーツ現場で使用されるテーピングを使用することができる。 ストレッチ等のコンディショニング手法を実践できる。 授業科目の貢献度
	展開科目	データサイエンス演習1	2	5	問題演習を通じて、様々なデータを整理し読み解く能力を養う。また、データサイエンスの基礎となる計算力を習得する。	データサイエンスに必要とされる数学的基礎知識を理解できる。 データサイエンスに必要とされるデータ分析手法を理解できる。 基礎的なデータ分析の手順をコンピュータ上で実装できる。 授業科目の貢献度
		データサイエンス演習2	2	6	データサイエンスに関連する応用的な知識を習得する。加えて、データサイエンスの活用事例などを学びながら、実践的な課題を解決する能力を身につける。	データサイエンスに必要とされる数学的基礎知識を応用できる。 データの性質や目的に応じて、データサイエンスの手法を使い分けることができる。 現実的な問題を題材とした課題を、データサイエンスの技術を用いて解決に導くことができる。 授業科目の貢献度
		キャリア開発4	1	5	キャリア開発3に続いて、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を体験を通して学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	自分自身の将来像を描き、説明できる。 社会で活躍するために必要な力を身につけ、その必要性を理解することができる。 授業科目の貢献度
		プレゼンテーションスキル	2 (スポーツ情報コースのみ)	5	アスリートを取り巻く諸問題を考え、国際競技力向上や情報戦略、競技者を取り巻く環境について学び、これまで培ってきたスキルを活かして自らが作成したものを他人に説明できる力を身につけるプレゼンテーション・コミュニケーションスキルを培う。	アスリートを取り巻く諸問題を理解できる。 国際競技力を高めるための環境を理解できる。 相手にわかりやすく情報を説明できる。 授業科目の貢献度
		経営情報論	2	5	情報あるいは情報システムをいかに組織の経営に役立てるか、また役立つような情報システムをいかに構築するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学ぶ。そのためにまず、情報システムとは何か、何を狙いとして活用されるのかを論ずると共に、ここに至る発展の経緯を振り返る。また、組織が情報システムを作り上げる上での課題とそれに影響を与える情報産業との関係を理解する。	情報化社会について理解できる。 経営情報システムについて理解できる。 情報システムについて理解できる。 企業における情報システムについて理解できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
										20	10		30
								10	20	10			40
										20	10		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	60	30	0	100
							10			10		10	30
							10			10			20
							10			10			20
							10			10	10		30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	40	10	10	100
							10			10		10	30
							10			10			20
							10			10			20
							10			10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	40	0	20	100
							10			10			20
							10			20			30
							10			10			20
							10			20			30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	60	0	0	100
									20				20
									20				20
							20		20		10	10	60
0	0	0	0	0	0	0	20	0	60	0	10	10	100
									10			10	20
									15			15	30
									15		20	15	50
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	40	100
							20	20				10	50
							20	20				10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0	20	100
										20		10	30
										20		10	30
								10		20		10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	60	0	30	100
								10		10			20
								10		20			30
								10		10			20
								10		20			30
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標			
			必修	選択自由						
専門科目群	展開科目	管理会計論		2 (経営情報コースのみ)		5	企業経営者は変化に応じて会社を柔軟にマネジメントしなければならない。利益の向上、市場シェア獲得、製品(サービス)提供を通じた社会貢献など種々の目的を達成しつつ、経営資源の効率的なアウトプットが求められる目的実現には適切な経営計画と末端までおよび統制が不可欠である。管理会計は企業の経営戦略立案や意思決定に関わる重要なツールであり、その理論、手法を理解する。	管理会計と財務会計の違いや管理会計の意義が理解できる。 管理会計の業績評価、意思決定に関する財務分析、予算統制が理解できる。 短期利益計画、事業部の業績評価が理解できる。 経営意思決定に関する理論と技法が理解できる。 管理会計と経営戦略の理論的接点が理解できる。		
			授業科目の貢献度							
				2 (経営情報コースのみ)		5	課題発見から解決までのプロセスにおいて、企業経営のプレーイングマネジャーとして、基本かつ必要な事項(部下への適切な指示や上司への適切な報告・連絡・相談を行うなど)を実体験から学ぶ。	問題発見力を身につけるために現実から問題を見出す力を身につける。 目標を設定し、現実主体的に関わることができる力を身につける。 情報を見極める力を身につけ多面的に物事を見ることができ力を身につける 情報を取捨選択し、わかりやすく表現する能力を身につける。 論理的に根拠に基づいて結論を導き出す能力を身につける。		
			授業科目の貢献度							
				2 (スポーツ情報コースのみ)		5	スポーツにおける様々なカテゴリーについての課題発見や問題解決までのプロセスを、それぞれがリーダーとなりコーチングすることでグループでの目標達成を実現することを学ぶ。	スポーツ現場から問題を見出すことができる。 目標を設定し、個々が主体的に関わることができる。 多面的に物事を見ることができる。 わかりやすく表現することができる。 論理的に根拠に基づいて結論を導き出すことができる。		
			授業科目の貢献度							
		経営分析		2		6	企業経営の健全度を分析する基礎を学習すると共に、健全な企業経営とは何かを学ぶ。企業経営を図る尺度として、これまでは財務諸表データが用いられてきたが、近年においては、キャッシュフロー分析や投資家サイドの分析などの多様な視点からの評価が為されるようになった。これらを踏まえ、本講義においては、多様な視点からの経営分析ができることを大きな目標とする。	経営分析する意義が理解できる。 経営分析を行ういくつかの手法について説明できる。 企業経営の分析を行ういくつかの基準について説明できる。 財務諸表から企業経営の健全度を把握できる。 キャッシュフロー分析から企業経営の健全度を把握できる。		
			授業科目の貢献度							
			ベンチャービジネス論		2		5	ベンチャービジネスのビジネスモデルの理論やベンチャービジネスの特徴を学習する。その上で、具体的に起業するための方法(経理や財務、法律への対応)や、ベンチャービジネスを行うために必要な人材(リーダー像)、ベンチャービジネスに必要な経営などを学ぶ。なお、起業の方法などについては、バーチャルとして体験できるように講義を行う。	ベンチャービジネスの内容や存在意義、魅力を説明できる。 これまでのベンチャービジネスの事例をいくつか説明できる。 具体的にベンチャービジネスを行うための方法を説明できる。 ベンチャービジネスに必要な経営方法について説明できる。	
				授業科目の貢献度						
				インターネットビジネス		2 (経営情報コースのみ)		6	インターネットビジネスの基礎を学習すると共に、インターネットビジネスを成功させるためのビジネスチャンス(社会や経済の変化)を踏まえながら新しいインターネットビジネスを考える。なお、講義においては、インターネットビジネスを展開している具体的な企業や業種ごと事例を用いて説明すると共に、これらの比較を通じて、インターネットビジネスの本質や可能性を考察する。	インターネットビジネスの内容について説明できる。 具体的なインターネットビジネスの事例を説明できる。 インターネットビジネスの利点と問題点を説明できる。 インターネットビジネスにおける決済システムについて説明できる。
					授業科目の貢献度					
		物流論			2 (経営情報コースのみ)		5	物流コストや物流コストと深い関係のある在庫費用に関する費用構造や費用発生メカニズムを学習する。また、実例を通じて、具体的な物流コストの削減や適切な在庫管理を学ぶと共に、今後の社会および経済の変化を踏まえ、新たな物流コストの削減や適切な在庫管理を考える。	物流と流通の違いが理解できる。 物流コストを構成する費用要素について説明できる。 在庫の意義や問題を理解できる。 従来行われてきた物流コストの削減について説明できる。 適切な在庫管理の概念を理解できる。	
			授業科目の貢献度							
			中小企業論		2		6	中小企業は、これまで日本の産業経済において重要な位置を占めており、近年では、ベンチャー企業による技術革新や雇用創出効果が注目されている。こうした中小企業やベンチャー企業に関する理論と実例を学ぶ。	中小企業の歴史的変遷について理解できる。 日本の下請システムが理解できる。 産業集積と構造と役割について理解できる。 ベンチャー企業について理解できる。 事業創造と企業の成長プロセスが理解できる。	
				授業科目の貢献度						

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
										15			15
										15			15
										15			15
										15	10		25
										15		15	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	25	100
							10					5	15
							10					5	15
							10					5	15
							10	10					20
							10				15	10	35
0	0	0	0	0	0	0	50	10	0	0	15	25	100
							10			10			20
							10					10	20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	30	20	0	10	100
										10			10
										10			10
										10			10
							10			10			20
							10				30	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	40	30	10	100
										10			10
										10			10
							10			20		10	40
							10			20		10	40
0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	60	0	20	100
										10			10
										10			10
							20			20		10	50
							10			20			30
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	60	0	10	100
										10			10
										20			20
							10			10			20
										20			20
										20		10	30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	80	0	10	100
										10			10
										10			10
										20			20
										20			20
										20		20	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択 自由				
専門科目群	展開科目	国際経営論		2	6	企業における業務は有機的に関係しながら、その企業のビジネス全体を支えている。財務計画や、販売計画、生産計画、調達計画などもそれぞれ限られた範囲での視点ではなく、企業が置かれている環境や、企業内それぞれの機能との連携を考慮しながら企業全体へのインパクトを考え策定することが必要である。加えて今日の企業は、経済のグローバル化に伴い、国際的な視点をも必要としている。本講義では、グローバル化した社会における企業のメカニズムを理解し、事業計画・戦略の重要性を認識するとともに、より有効な計画策定に必要な視点とグループによる意思決定プロセスについて学ぶ。	企業の業務の流れが理解できる。 グローバル化した社会においての企業を取り巻く環境について説明できる。 意思決定の方法が理解できる。 業績評価の方法が理解できる。 ビジネスで成功するための計画策定からオペレーションまでが理解できる。	
			授業科目の貢献度		金融および財務の内容が理解できる。 貸借対照表と損益計算書の関係が理解できる。 企業における資金調達方法と近年における資金調達の変化が理解できる。 企業のグローバル化に伴う金融や財務の内容が理解できる。			
			金融と財務		2 (経営情報コースのみ)	7	本講義では、金(カネ)の側面から経営に焦点を当て、企業における金の管理の基礎を学習する。その上で、貸借対照表と損益計算書の関係や、そこから見られる企業活動の見方を学ぶ。近年においては、資金調達の変化や新たな財務指標などが見られていることを踏まえ、新たな手法および基準の中で「金」を管理する基礎についても会得する。	
				授業科目の貢献度		労働者に関わる法律の必要性(意義)が理解できる。 労働者保護や労働契約、労働組合に関わる法律の概要が理解できる。 労働者保護や労働契約、労働組合に関する具体的な団体交渉や判例を説明できる。 労働を取り巻く今日的な問題に対して、解決に関する自身の意見を述べることができる。		
		労働法			2	5	労働法の基本理念、基礎概念、法規制の基本的内容について学習する。その上で、具体的な事例を用いて、賃金や労働時間、福利厚生などの労働環境の実情を学ぶと共に、労働環境に関する今日の問題やその解決策を考える。	
				授業科目の貢献度		知的財産権の種類が理解できる。 企業における知的財産権の重要性が理解できる。 意匠権について説明できる。 著作権について説明できる。		
			知的財産権		2	6	人間の独創的な知的創造活動について、その創始者に一定期間の権利保護をあたえるのが知的財産権制度である。知的財産権という言葉は、文化的創造物を保護する著作権まで幅広く含む概念である。このうち産業財産権と呼ばれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権を中心として学ぶ。産業財産権制度は、独占権の付与により、模倣防止を図り、研究開発の奨励、商取引の信用を維持して、産業の発展に寄与することを学ぶ。	
				授業科目の貢献度		環境経営の概念について説明できる。 事業レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。 製品・サービスのレベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。 工場などの拠点レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。		
		環境経営論			2 (経営情報コースのみ)	7	企業の存続・成長と地球環境保全との両立に関する先行理論を解説しながら、実際に私たちが環境経営を進める上で、どのような取り組みが必要かについて学ぶ。ここでは、環境経営の概念の捉え方をはじめ、事業レベル、製品・サービスのレベル、工場などの拠点レベルで、それぞれ資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理といった各論がどのように実施されているか、先進企業等の具体的な事例を参照する。	
				授業科目の貢献度		指導計画を立てることができる。 スポーツ活動と安全管理を説明できる。 スポーツ事故と法的責任について説明できる。 怪我とリハビリテーションについて説明できる。		
			スポーツと安全		2 (スポーツ情報コースのみ)	5	スポーツにおいて、成果を上げるためにはPDCAは必須である。特に計画的に物事をマネジメントすることや、安全管理などは指導者にとっては必須である。またスポーツ実践中の事故や人権などの法的な知識も備えておく必要がある。ここでは指導計画や活動中の安全管理、スポーツ指導者の法的責任を理解することを学ぶ。	
				授業科目の貢献度		総合型地域スポーツクラブについて説明できる。 スポーツ組織のマネジメントやマーケティングについて説明できる。 競技力向上のチームマネジメントについて説明できる。 競技力向上のための情報活用について説明できる。		
		スポーツマネジメント			2 (スポーツ情報コースのみ)	6	日本はこれまで学校スポーツに依存した、企業スポーツに後押しされながら発展してきた。しかし、時代の流れとともに、少子化や景気の動向に左右されスポーツ人口の減少等の問題が出てきている。この授業では地域スポーツに目を向け、総合型地域スポーツクラブの採井や組織のマネジメント、指導者の育成などについて学ぶ。	
				授業科目の貢献度		非英語圏の研修先国の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。 日本の伝統・文化などの基本的事項を研修先国の言語で説明できる。		
			海外事情A		2	5	本授業は、非英語圏の国での海外研修と渡航前後の5回の春期集中講義から成り立っている。海外研修先の最低限必要な言語を事前に修得し、現地の方々と直接交流を図ることで実践的な語学力の向上のみならず、より一層の異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、研修先の国の基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化を研修先の国の言語を用いて自己発信できるようにする。	
				授業科目の貢献度		海外の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。 日本の伝統・文化などの基本的事項を英語で説明できる。 アメリカでの生活のための基本的な英会話ができる。		
		海外事情B			2	6	本授業は、異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、アメリカの基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化についてもしっかりと見識を深め、英語で自己発信できるようにする。	
				授業科目の貢献度				

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
										10			10
										10			10
										20			20
										20			20
										20	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	10	10	100
										15			15
										15			15
							10			10	10	15	45
										10		15	25
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	50	10	30	100
										10			10
										10			10
							10			10	20		40
							10				20	10	40
	0	0	0	0	0	0	20	0	0	30	40	10	100
										25			25
										25			25
										25			25
										25			25
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										25			25
										25			25
										25			25
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
							10					10	20
							10					10	20
							10			10		10	30
							10			10		10	30
	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40	100
							10					10	20
							10					10	20
							10			10		10	30
							10			10		10	30
	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40	100
							30						30
							30	40					70
	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	100
							20						20
							20	20					40
							20	20					40
0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	インターンシップ (学外研修)	2		6	企業におけるインターシップを行う。	実習先企業の業務を理解できる。
							実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。
							机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。
							将来の進路に対する自分の考え方を述べることができる。
							授業科目の貢献度
	卒業研究	セミナ1	2		5	本授業は、卒業研究を行うために必要な基礎知識を修得する。授業は卒業研究の研究室単位で行われる。「セミナⅠ」では、卒業研究の行う基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説を理解できる。
							卒業研究の研究方法を理解できる。
							授業科目の貢献度
		セミナ2	2		6	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、「セミナ2」では、その基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。
							卒業研究の研究方法をより深く理解できる。
							授業科目の貢献度
		セミナ3	2		7	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナ3でもその基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。
							卒業研究のまとめ方を理解できる。
							授業科目の貢献度
		セミナ4	2		8	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナ4では、卒業論文についての研究成果発表が中心となる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の内容について論理的に発表できる。
							研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。
							授業科目の貢献度
		卒業研究	6		7・8	卒業研究は、これまでの授業を通して知り得た総合情報学科の各研究分野の中から、最も興味のある分野を選択し、教員の指導を受けながら研究論文を作成する。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。
							卒業研究のまとめ方を理解できる。
							卒業論文を作成し、専門的な研究成果を発表できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
							20						20
							20						20
							20						20
							20	20					40
0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	100
							20				20	10	50
							20				20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20				20	10	50
							20				20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20				20	10	50
							20				20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							10	10			20	10	50
							10	10			20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	40	20	100
							10				10	10	30
							10				10	10	30
							10	10			10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100

開講科目一覽

■ 情報システム学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
						1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1			2	[2]								
		基礎英語 세미나			1	2	[2]								
		資格英語 1	1			2	[2]								
		資格英語 2	1				2	[2]							
		英語スキル 1	1			2	[2]								
		英語スキル 2	1				2	[2]							
		英語スキル 3	1					2	[2]						
		英語スキル 4	1						2	[2]					
		実践英語 1		1							2				
		実践英語 2		1								2			
		中国語入門 1			1	2									
		中国語入門 2			1		2								
		健康科学演習 A	1			2									
	健康科学演習 B	1				2									
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	日本文学 A		2				2		2				
			日本文学 B		2					2			2		
			外国文学 A		2		2		2		2				
			外国文学 B		2			2		2			2		
			哲学 A		2		2		2		2				
			哲学 B		2			2		2			2		
			文化人類学 A		2				2		2				
			文化人類学 B		2					2			2		
			歴史学 A		2		2		2		2				
			歴史学 B		2			2		2			2		
			心理学 A		2		2		2		2				
			心理学 B		2			2		2			2		
		教育原理		2		2									
		教育心理学		2				2							
		国際情勢と社会のしくみ	政治学 A		2		2		2		2				
			政治学 B		2			2		2			2		
			経済学 A		2		2		2		2				
			経済学 B		2			2		2			2		
			法学 A		2				2		2				
			法学 B		2					2			2		
			社会学 A		2		2		2		2				
			社会学 B		2			2		2			2		
			社会調査の方法 A		2				2		2			2	
社会調査の方法 B				2					2			2			
現代社会論 A			2				2		2						
現代社会論 B			2					2			2				
教育社会学		2			2										
科学的なものの見方と環境問題	健康科学 A		2		2		2		2						
	健康科学 B		2			2		2			2				
	認知科学 A		2				2		2						
	認知科学 B		2					2			2				
	環境科学 A		2				2		2						
	環境科学 B		2					2			2				
	自然科学概論 A		2		2		2		2			2			
	自然科学概論 B		2			2		2			2				
	生物学 A		2				2		2			2			
	生物学 B		2					2			2				
	地球科学 A		2				2		2						
	地球科学 B		2					2			2				

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
							1年次		2年次		3年次		4年次		
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学 科目群	B グループ	学問への複眼的 アプローチ	リベラルアーツ特別講義		2			◎							集中
			リベラルアーツ実践演習A		2				2		2				
			リベラルアーツ実践演習B		2					2		2			
			教養総合講座A		2				2		2				
			教養総合講座B		2					2		2			
			合計	9	90	3	32	28	44	42	42	42	42		
			102	[8]	[4]	[2]		[2]							
(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。															

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
						1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門基礎科目群	基礎数学セミナー				1	2	[2]							履修者指定	
	数学基礎			2		2	(2)								
	解析学 1			2		2	(2)								
	解析学 2			2			2	(2)							
	解析学 3			2				2	(2)						
	常微分方程式			2					2	(2)					
	線形代数 1			2		2									
	線形代数 2			2			2								
	線形代数 3			2				2							
	情報数学			2			2								
	確率・統計			2				2							
	情報統計学			2					2						
	基礎理科セミナー				1	2	[2]								
	力学			2		2									
	電磁気学			2			2								
	現代物理学 1				2			2							
	現代物理学 2				2				2						
	情報システム入門セミナー		1			2									
	情報概論		2			2									
	情報処理基礎		2			2									
	コンピュータハードウェア基礎		2				2								
	プログラミング入門			2		2									
	情報ネットワーク概論			2			2								
	基礎電気回路			2		2									
	小計		7	32	6	22	12 (4) [4]	8 (2)	6 (2)	(2)					
			45												
専門科目群	基幹科目	プログラミング 1	2				2	(2)							
		プログラミング 2	2					2	(2)						
		アルゴリズムとデータ構造 1		2					2						
		アルゴリズムとデータ構造 2		2						2					
		数値計算法		2							2				
		コンピュータアーキテクチャ 1		2				2							
		コンピュータアーキテクチャ 2		2					2						
		オペレーティングシステム		2				2							
		情報ネットワーク 1		2				2							
		情報ネットワーク 2		2					2						
		情報理論		2					2						
		オートマトン・言語理論		2					2						
		電気回路 1		2			2								
		電気回路 2		2				2							
		情報演習 A	4					4							
		情報演習 B	4						4						
		情報演習 C	4							4	(4)				
		情報演習 D	4							(4)	4				
	展開科目	共通	ソフトウェア工学		2						2				
			コンパイラ構成法		2						2				
			オブジェクト指向プログラミング		2							2			
			データベース		2							2			
			分散処理		2								2		
			信号処理基礎		2					2					
		コンピュータ系	ディジタル信号処理		2						2				
			ディジタル回路		2						2				
			電子回路		2							2			
			情報システム最新技術		2								2		
			CAD		2								2		
			制御工学		2						2				
コンピュータ系	コンピュータセンシング		2						2						
	コンピュータコントロール		2							2					
	組込システムプログラミング		2							2					
	リアルタイムシステム		2								2				

(次ページにつづく)

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
							1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門科目群	展開科目	情報ネットワーク系	ネットワークシステム		2						2					
			ネットワークコンテンツ		2							2				
			ネットワークプログラミング		2							2				
			情報セキュリティ		2								2			
			通信工学		2								2			
		応情報系	パターン情報処理		2						2					
			音声画像処理		2							2				
			自然言語処理		2								2			
			人工知能		2							2				
			ソフトコンピューティング		2								2			
	関連科目	インターンシップ（学外研修）			2							◎				集中
		技術者倫理			2								2			
		知的財産権論			2									2		
	卒業研究	セミナ1		2									2			
		セミナ2		2										2		
		卒業研究		6										◎	◎	
	小計			30	82			4	14 (2)	16 (2)	22 (4)	24 (4)	20	4		
				112												
	自由科目	幾何学1			2					2						
		幾何学2			2						2					
数理統計学2				2						2						
応用解析1				2			2									
応用解析2				2				2								
応用解析3				2								2				
応用解析4				2										2		
代数系入門				2										2		
情報化社会と情報倫理				2										2		
情報化社会と職業				2										2		
小計					20			2	2	2	4	2	8			
			20													
合計			37	114	26	22	16 (4) [4]	24 (4)	24 (4)	24 (6)	28 (4)	22	12			
			177													

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。
2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。
3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

卒業の認定

学科共通

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

学科共通

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
23 生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	情報システム入門 세미나	基礎英語セミナー 基礎数学セミナー 基礎理科セミナー

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
注2) 基礎英語セミナー、基礎数学セミナー、基礎理科セミナーの3科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含みませんが、合格していることが必要です。**
＜不合格者＞4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	科目群	必要単位数	
23 生	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
	専門基礎科目群	必修科目 7 単位を含め 17 単位以上	左記条件を満たし 97 単位以上
	専門科目群	必修科目 30 単位	

＜不合格者＞次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

学科共通

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報デザイン学科及び総合情報学科の専門基礎科目群及び専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

先修条件について

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件(「先修条件」)がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
		科目名	期	必選	科目名	期	必選
23 生	専門科目群	プログラミング2	3[4]	必	プログラミング1	2[3]	必
		オブジェクト指向プログラミング	6	選	プログラミング2	3[4]	必

■ 情報デザイン学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナ	1			2	[2]							
		基礎英語セミナ			1	2	[2]							
		資格英語 1	1			2	[2]							
		資格英語 2	1				2	[2]						
		英語スキル 1	1			2	[2]							
		英語スキル 2	1				2	[2]						
		英語スキル 3	1					2	[2]					
		英語スキル 4	1						2	[2]				
		実践英語 1		1							2			
		実践英語 2		1								2		
		中国語入門 1			1	2								
		中国語入門 2			1		2							
		健康科学演習 A	1			2								
		健康科学演習 B	1				2							
	Bグループ	日本文学 A		2				2		2				
		日本文学 B		2						2		2		
		外国文学 A		2		2		2		2		2		
		外国文学 B		2			2		2		2			
		哲学 A		2		2		2		2		2		
		哲学 B		2			2		2		2			
		文化人類学 A		2				2		2		2		
		文化人類学 B		2					2		2			
		歴史学 A		2		2		2		2		2		
		歴史学 B		2			2		2		2			
		心理学 A		2		2		2		2		2		
		心理学 B		2			2			2		2		
		教育原理		2		2								
		教育心理学		2				2						
		政治学 A		2		2		2		2				
		政治学 B		2			2		2		2			
		経済学 A		2		2		2		2		2		
		経済学 B		2			2		2		2			
		法学 A		2				2		2		2		
		法学 B		2					2		2		2	
		社会学 A		2		2		2		2		2		
		社会学 B		2			2		2		2		2	
		社会調査の方法 A		2				2		2		2		
		社会調査の方法 B		2					2		2		2	
		現代社会論 A		2					2		2		2	
		現代社会論 B		2						2		2		
教育社会学		2				2								
科学的なもの の 見方と環境問題	健康科学 A		2		2		2		2					
	健康科学 B		2			2		2		2				
	認知科学 A		2				2		2		2			
	認知科学 B		2					2		2		2		
	環境科学 A		2					2		2		2		
	環境科学 B		2					2		2		2		
	自然科学概論 A		2		2		2		2		2			
	自然科学概論 B		2			2		2		2		2		
	生物学 A		2				2		2		2			
	生物学 B		2					2		2		2		
	地球科学 A		2					2		2		2		
	地球科学 B		2						2		2			

(次ページにつづく)

開講科目一覧＜人間科学科目群＞

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
							1年次		2年次		3年次		4年次		
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学 科目群	B グループ	学 問 へ の 複 眼 的	リベラルアーツ特別講義	2			◎							集中	
			リベラルアーツ実践演習A	2			2		2						
			リベラルアーツ実践演習B	2			2			2					
			教養総合講座A	2			2		2						
			教養総合講座B	2				2		2					
合計				9	90	3	32	28	44	42	42				
			102			[8]		[4]	[2]	[2]	42				
(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。															

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
					1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
専門基礎科目群	情報デザイン入門セミナ	1			2								集中 集中 集中 集中
	自己表現 1	2			2								
	自己表現 2	2				2							
	自己表現 3		2				2						
	自己表現 4		2					2					
	社会と情報A		2		2								
	社会と情報B		2			2							
	社会と情報C		2					2					
	造形デザイン演習 1		4		4								
	造形デザイン演習 2		4			4							
	基礎デザイン論 1		2		2								
	基礎デザイン論 2		2			2							
	基礎デザイン論 3		2				2						
	クリエイティブ・ビジネス基礎 1		2			2							
	情報デザイン基礎実習 A	2			4								
	情報デザイン基礎実習 B	2				4							
	情報デザイン基礎実習 C		2				4						
	情報デザイン基礎実習 D		2				4						
	情報デザイン基礎実習 E		2					4					
	情報デザイン基礎実習 F		2					4					
	基礎音楽論		2			2							
	コンピュータサウンド 1		2				2						
	コンピュータサウンド 2		2					2					
	映像デザイン基礎 1		2				2						
	映像デザイン基礎 2		2					2					
	2Dグラフィックス基礎実習		2		4								
	CAD基礎実習		2			4							
	3Dグラフィックス基礎実習		2				4						
	CGプログラミング 1		2				2						
	CGプログラミング 2		2					2					
	CAD実習 1		2				4						
	CAD実習 2		2					4					
	プログラミング 1		2				2						
	プログラミング 2		2					2					
	コンピュータリテラン			2	2								
	情報デザイン特別活動 A			1			◎						
情報デザイン特別活動 B			1			◎							
情報デザイン特別活動 C			1				◎						
情報デザイン特別活動 D			1				◎						
現代物理学 1			2			2							
現代物理学 2			2				2						
小計		9	62	10	22	22	30	26					
		81											
専門科目群	基幹科目	デジタルグラフィックス実習 A		2					4				
		デジタルグラフィックス実習 B		2						4			
		視覚情報デザイン実習 A		2					4				
		視覚情報デザイン実習 B		2						4			
		デジタルデザイン論 A		2					2				
		デジタルデザイン論 B		2						2			
		視覚情報表現論		2					2				
		コミュニケーションデザイン論		2						2			
		メディアクリエイティブ実習 A		2					4				
		メディアクリエイティブ実習 B		2					4				
		メディアクリエイティブ実習 C		2						4			
		メディアクリエイティブ実習 D		2						4			
		メディアクリエイティブ論 A		2					2				
		メディアクリエイティブ論 B		2					2				
		メディアクリエイティブ論 C		2						2			
		メディアクリエイティブ論 D		2						2			

(次ページにつづく)

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考			
						1年次		2年次		3年次		4年次					
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期				
専門科目群	基幹科目	Webデザイン基礎実習		2					4								
		WebデザインA		2							2						
		WebデザインB		2									2				
		クリエイティブ・ワークプロジェクトA		2								2					
		クリエイティブ・ワークプロジェクトB		2									2				
		クリエイティブ・ビジネス基礎2		2				2									
		クリエイティブ・ビジネス		2							2						
		社会と情報D		2									2				
		製品デザイン実習A		2								4					
		製品デザイン実習B		2									4				
		応用CAD実習A		2									4				
		応用CAD実習B		2										4			
		プロダクトデザイン論		2									2				
		材料と加工法論		2									2				
		デジタルプレゼンテーション論		2										2			
		造形制作技法		2					2								
		プログラミング3		2								2					
	プログラミング4		2										2				
	ビジネスコンピューティング		2								2						
	関連科目	インターンシップ（学外研修）		2								◎					集中
	卒業研究	専門セミナー1	1								2						
		専門セミナー2	1									2					
		情報デザイン研究1	1										2			2	
		情報デザイン研究2	1													2	
		卒業研究	6										◎			◎	
	小計		10	72				4	4	48	44	2	2				
			82														
合計		19	134	10	22	22	34	30	48	44	2	2					
		163															

(注) 1. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

(注) 2. 「情報デザイン特別活動A・B・C・D」は申請に基づく集中科目とする。

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
23 生	卒業要件として認められる単位のうち、104 単位以上修得すること。	情報デザイン入門 세미나	基礎英語 세미나

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
注2) 基礎英語 세미나の科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数(104単位)には含みませんが、合格していることが必要です。**
＜不合格者＞4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	科目群	必要単位数	
23 生	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
	専門基礎科目群	必修科目 9 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
	専門科目群	必修科目 10 単位	

＜不合格者＞次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報システム学科及び総合情報学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

■ 総合情報学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
						1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナ	1			2	[2]								
		基礎英語セミナ			1	2	[2]								
		資格英語 1	1			2	[2]								
		資格英語 2	1				2	[2]							
		英語スキル 1	1			2	[2]								
		英語スキル 2	1				2	[2]							
		英語スキル 3	1					2	[2]						
		英語スキル 4	1						2	[2]					
		実践英語 1		1						2	[2]				
		実践英語 2		1								2			
		中国語入門 1			1	2									
		中国語入門 2			1		2								
	健康科学演習 A	1			2										
	健康科学演習 B	1				2									
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	日本文学 A		2				2		2				
			日本文学 B		2						2		2		
			外国文学 A		2		2		2		2				
			外国文学 B		2			2		2		2			
			哲学 A		2		2		2		2				
			哲学 B		2			2		2		2			
			文化人類学 A		2				2		2				
			文化人類学 B		2					2			2		
			歴史学 A		2		2		2		2				
			歴史学 B		2			2		2			2		
			心理学 A		2		2		2		2				
			心理学 B		2			2		2			2		
			教育原理		2		2								
			教育心理学		2				2						
			国際情勢と社会のしくみ	政治学 A		2		2		2		2			
		政治学 B			2			2		2		2			
		経済学 A			2		2		2		2				
		経済学 B			2			2		2			2		
		法学 A			2				2		2				
法学 B				2					2			2			
社会学 A				2		2		2		2					
社会学 B				2			2		2			2			
社会調査の方法 A				2				2		2					
社会調査の方法 B				2					2			2			
現代社会論 A				2					2		2				
現代社会論 B				2						2		2			
教育社会学			2				2								
科学的なものの見方と環境問題	健康科学 A		2		2		2		2						
	健康科学 B		2			2		2		2					
	認知科学 A		2				2			2					
	認知科学 B		2					2			2				
	環境科学 A		2					2		2					
	環境科学 B		2						2		2				
	自然科学概論 A		2		2		2		2						
	自然科学概論 B		2			2		2			2				
	生物学 A		2				2		2			2			
	生物学 B		2					2		2		2			
	地球科学 A		2					2		2					
	地球科学 B		2						2		2				

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
							1年次		2年次		3年次		4年次		
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学 科目群	B グループ	学 問 へ の 複 眼 的 ア プ ロ ー チ	リベラルアーツ特別講義	2			◎							集中	
			リベラルアーツ実践演習A	2			2		2						
			リベラルアーツ実践演習B	2				2		2					
			教養総合講座A	2			2		2						
			教養総合講座B	2				2		2					
			合計	9	90	3	32	28 [8]	44 [4]	42 [2]	42 [2]	42			
				102											
(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。															

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分		授業科目	単位数						毎週授業時間数								備考	
			経営 情報コース			スポーツ 情報コース			1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門基礎科目群	総合情報入門 세미나	1			1			2									集中（経営情報コースのみ） 集中 集中	
	コミュニケーションスキル 1	2			2			2										
	コミュニケーションスキル 2	2			2				2									
	情報処理演習 1	2			2			2										
	データベース基礎		2			2				2								
	プログラミング演習 1	2			2					2								
	情報統計学 1	2			2				2									
	経営学概論	2				2		2										
	経済学入門	2						2										
	入門簿記	2				2		2										
	簿記原理		2						2									
	会計学		2							2								
	経営実践入門	2			2			2・◎										
	経営実践 1	2								◎								
	スポーツ情報実践 1				2					2								
	経営実践 2	2									◎							
	スポーツ情報実践 2				2						2							
現代物理学 1			2			2			2									
現代物理学 2			2			2				2								
小計		23	6		17	6		12	8	10	4							
		29			23													
		33			27													
専門科目群	基幹科目	キャリア開発 1	1			1				2								
		キャリア開発 2	1			1					2							
		キャリア開発 3	1			1						2						
		経営情報プロジェクト演習 1	2						2									
		スポーツ情報プロジェクト演習 1				2			2									
		経営情報プロジェクト演習 2	2								2							
		スポーツ情報プロジェクト演習 2				2					2							
		経営情報プロジェクト演習 3	2									2						
		スポーツ情報プロジェクト演習 3				2						2						
		情報概論				2			2									
		異文化コミュニケーション 1		2			2		2									
		異文化コミュニケーション 2		2						2								
		経営史		2					2									
		マーケティング概論		2						2								
		人材マネジメント		2								2						
		民法		2								2						
		会社法		2			2						2					
		交通論		2									2					
		企業経営戦略論		2			2						2					
		工業簿記		2								2						
		原価計算		2									2					
		データサイエンス概論	2			2			2									
		情報処理演習 2		2			2			2								
		情報統計学 2		2			2				2							
		プログラミング演習 2		2			2					2						
		コーチング論					2			2								
		トレーニング論					2				2							
		スポーツ心理学					2						2					
		スポーツライフと社会					2			2								
		スポーツライフと栄養					2					2						
		スポーツライフと健康					2						2					
		スポーツ情報科学概論				2			2									
		スポーツライフのデータサイエンス					2			2								
		スポーツ測定評価法				2					2							
		ヘルスケアとスポーツライフ					2					2						
		スポーツコンディショニング					2					2						
		スポーツコンディショニング演習					2						2					

(次ページにつづく)

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分		授業科目	単位数						毎週授業時間数								備考
			経営 情報コース			スポーツ 情報コース			1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
専門科目群	展開科目	データサイエンス演習 1	2			2							2				集中 集中 集中
		データサイエンス演習 2		2			2							2			
		キャリア開発 4		1			1						2				
		プレゼンテーションスキル					2						2				
		経営情報論		2			2						2				
		管理会計論		2									2				
		経営実践 3		2									2				
		スポーツ情報実践 3				2							2				
		経営分析		2			2							2			
		ベンチャービジネス論		2			2						2				
		インターネットビジネス		2										2			
		物流論		2									2				
		中小企業論		2			2							2			
		国際経営論		2			2							2			
		金融と財務		2											2		
		労働法		2			2						2				
		知的財産権		2			2							2			
	環境経営論		2											2			
	スポーツと安全					2						2					
	スポーツマネジメント					2							2				
	海外事情 A		2			2							◎				
	海外事情 B		2			2								◎			
	インターンシップ（学外研修）		2			2								◎			
	卒業研究	セミナ 1	2			2							2				
		セミナ 2	2			2								2			
		セミナ 3	2			2									2		
		セミナ 4	2			2										2	
卒業研究		6			6									◎	◎		
小計		27	63		35	61		10	18	22	24	24	16	6	2		
		90			96												
合計		50	69	4	52	67	4	22	26	32	28	24	16	6	2		
		123			123												
(注) 1. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。																	

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
23 生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	総合情報入門 세미나	基礎英語 세미나

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。

注2) 基礎英語 세미나の科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含まませんが、合格していることが必要です。**

＜不合格者＞4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻又はコース	科目群	必要単位数	
23 生	総合情報学科 各コース	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
		専門基礎科目群	必修科目 23 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
	総合情報学科 経営情報コース	専門科目群	必修科目 27 単位	
		専門基礎科目群	必修科目 17 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
	総合情報学科 スポーツ情報コース	専門科目群	必修科目 35 単位	

＜不合格者＞次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報システム学科及び情報デザイン学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

【学科内他コース履修】

開講科目一覧表における、自コースに開講していない他コース科目の単位を修得した場合、6単位を上限とし、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。

教職課程

1. 教職課程について

卒業後、教育職員を志望するものは、「教育職員免許法」に定める教育職員免許状を取得する必要があります。そのためには、卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、所要条件を満たし、かつ所定の単位修得し、申請することが必要になります。

2. 修得できる免許状について

教職課程を履修し、卒業と同時に申請し修得できる免許状は、下記のとおりです。

コース	免許状の種類	免許教科	対象学科
数学コース	中学校教諭一種免許状	数学	情報システム学科
	高等学校教諭一種免許状		
情報コース	高等学校教諭一種免許状	情報	情報システム学科

3. 教職課程の科目区分・必要単位数

教職課程科目は、【教員免許修得のための必修科目】【教育の基礎的理解に関する科目等】【教科及び教科の指導法に関する科目】に大別され、それぞれの必要単位数は、下記のとおりになります。

教職課程科目の科目区分と必要単位数

(数字は単位数)

コース	教員免許修得のための必修科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6)	教育の基礎的理解 に関する科目等	教科及び教科の指 導法に関する科目
数学コース	10単位 【表1】	中学 31単位※ 【表2-1】	中学 36単位 【表2-2】
		高校 27単位 【表2-1】	高校 40単位 【表2-3】
情報コース		高校 27単位 【表3-1】	高校 40単位 【表3-2】

※「数学コース」履修者において、中学校教諭一種の免許状を修得しようとする者は、教職課程科目の履修の他に、社会福祉施設と特別支援学校で、計 7 日以上「介護等体験実習」を行う必要があります。「介護等体験実習」とは、障がい者、高齢者に対する介護、介助、これらの人たちとの交流等の体験を指します。「介護等体験実習」の参加に際しては、実習費として1万2千円が必要になります。

また、「介護等体験実習」を終了した者は、施設長からの体験証明書を免許状の申請に添えて教育委員会に提出しなければなりません。

4. 「教育実習A」および「教育実習B」の履修前提条件と実習期間について

1. 履修前提条件について

4年次に実施される「教育実習A」、「教育実習B」を履修するには、条件が定められており、原則として、3年次までの「教職に関する科目」のうち下表に掲げる科目を全て修得しなければ、実習に行くことはできません。

「教育実習A」および「教育実習B」の履修に必要な科目一覧

学年	前 期	後 期
1 年	教職論 教育原理	教育社会学
2 年	教育心理学	教育方法論 教育課程論
3 年	教育実習指導(4年次と併せて1単位) 数学科教育法1(数学コース) 情報科教育法1(情報コース) 道德教育の理論と実践 (数学コースの中学校教諭免許状修得希望者)	教育相談の理論と方法 数学科教育法2(数学コース) 情報科教育法2(情報コース) 特別支援教育の理論と指導方法 総合的な学習の時間の指導法

※4年次には、「教育実習A」、「教育実習B」のほかにも、履修する必要がある科目がありますので、注意してください。

2. 実習期間について

免許状の種類により必要な教育実習期間が異なりますので、下記を参考にしてください。

- (1)高等学校一種免許状を修得しようとする者は、2週間の教育実習を必要とし「教育実習B」を履修しなければならない。
- (2)中学校一種免許状を修得しようとする者は、原則3週間の教育実習を必要とし「教育実習A」「教育実習B」の両科目を履修しなければならない。

■ 情報システム学科

「数学」(中学校教諭・一種免許状、高等学校教諭・一種免許状)に関する教職課程科目 教職課程 23生対象

【表1】 教員免許修得のための必修科目

科 目(単位数)	必要単位数	備 考 ※注1
「法学A」(2 単位) 「法学B」(2 単位)	計 4 単位	「日本国憲法」に対応する科目
「健康科学演習A」(1 単位) 「健康科学演習B」(1 単位)	計 2 単位	「体育」に対応する科目
「英語スキル3」(1 単位) 「英語スキル4」(1 単位) 「実践英語1」(1 単位) 「実践英語2」(1 単位)	左記科目の中から 計 2 単位	「外国語コミュニケーション」に 対応する科目
「プログラミング入門」(2 単位)	計 2 単位	「情報機器の操作」に対応する科目

※注1 教育職員免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号(文部省令で定める修得すべき科目)および施行規則 66 条の 6 関係

【表2-1】 教育の基礎的理解に関する科目等

授業科目		単位数		毎週授業時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
第三欄	教職論	2		2								
	教育原理 ★	2		2								
	教育心理学 ★	2				2						
	教育社会学 ★	2			2							
	特別支援教育の理論と指導方法	2						2				
	教育課程論	2					2					
第四欄	道徳教育の理論と実践	2						2				中1種免許のみ必修
	総合的な学習の時間の指導法	1							1			
	特別活動の理論と方法	2								2		
	教育方法論	2					2					
	情報通信技術の活用	1				1						
	生徒・進路指導論	2								2		
	教育相談の理論と方法	2							2			
第五欄	教育実習指導	1						1		1		中1種免許のみ必修
	教育実習A	2								2		
	教育実習B	2								2		
	教職実践演習(中等)	2									2	
合計	中学校教免	31		4	2	3	4	3	5	7	4	
	高校教免	27										

(注) 1. ★印の科目は人間科学科目群Bグループの卒業に必要な単位数に含むことができる。

【表2-2】教科及び教科の指導法に関する科目

ア. 中学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		毎週授業時間数								備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
	必修	選択	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		免許法における 科目区分
線形代数1	2		2								代数学	「免許法」で定められた最低修得単位数 28単位必修
線形代数2	2			2								
幾何学1	2						2				幾何学	
解析学1	2		2	(2)							解析学	
解析学2	2			2	(2)							
解析学3	2				2	(2)						
常微分方程式	2					2	(2)					
応用解析1	2				2							
確率・統計	2				2						「確率論、統計学」	
プログラミング1	2			2	(2)						コンピュータ	
数学科教育法1	2						2				各教科の指導法	
数学科教育法2	2							2				
数学科教育法3	2								2			
数学科教育法4	2									2		
線形代数3		2			2						代数学	必修1科目2単位を含む合計4科目8単位以上修得すること。
代数系入門		2								2		
幾何学2		2						2			幾何学	
応用解析2	2					2					解析学	
応用解析3		2							2			
応用解析4		2								2		
数理統計学2		2						2			「確率論、統計学」	
情報統計学		2				2					コンピュータ	
数値計算法		2						2				
情報理論		2				2						
オートマトン・言語理論		2				2						
合計	30	20	4	6 (2)	8 (4)	10 (2)	4 (2)	8	4	6		

【表2-3】教科及び教科の指導法に関する科目

イ. 高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		毎週授業時間数								備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
	必修	選択	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
線形代数1	2		2								代数学 幾何学 解析学 「免許法」で定められた最低修得単位数 24単位必修	
線形代数2	2			2								
幾何学1	2						2					
解析学1	2		2	(2)								
解析学2	2			2	(2)							
解析学3	2				2	(2)						
常微分方程式	2					2	(2)					
応用解析1	2				2							
確率・統計	2				2							
プログラミング1	2			2	(2)							
数学科教育法1	2						2				「確率論、統計学」 コンピュータ 各教科の指導法	
数学科教育法2	2							2				
線形代数3		2			2							代数学 幾何学 解析学 「確率論、統計学」 コンピュータ 必修1科目2単位を含む合計8科目16単位以上修得すること。
代数系入門		2							2			
幾何学2		2						2				
応用解析2	2					2						
応用解析3		2							2			
応用解析4		2								2		
数理統計学2		2						2				
情報統計学		2				2						
数値計算法		2						2				
情報理論		2				2						
オートマトン・言語理論		2				2						
合計	26	20	4	6 (2)	8 (4)	10 (2)	4 (2)	8	2	4		

【表1】教員免許修得のための必修科目

科 目(単位数)	必要単位数	備 考 ※注1
「法学A」(2単位) 「法学B」(2単位)	計 4 単位	「日本国憲法」に対応する科目
「健康科学演習A」(1単位) 「健康科学演習B」(1単位)	計 2 単位	「体育」に対応する科目
「英語スキル3」(1単位) 「英語スキル4」(1単位) 「実践英語1」(1単位) 「実践英語2」(1単位)	左記科目の中から 計 2 単位	「外国語コミュニケーション」に 対応する科目
「プログラミング入門」(2単位)	計 2 単位	「情報機器の操作」に対応する科目

※注1教育職員免許法第5条別表第1備考第4号(文部省令で定める修得すべき科目)および施行規則66条の6関係

【表3-1】教育の基礎的理解に関する科目等

授業科目		単位数		毎週授業時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
第三欄	教職論	2		2								
	教育原理 ★	2		2								
	教育心理学 ★	2				2						
	教育社会学 ★	2			2							
	特別支援教育の理論と指導方法	2							2			
	教育課程論	2					2					
第四欄	総合的な学習の時間の指導法	1							1			
	特別活動の理論と方法	2									2	
	教育方法論	2					2					
	情報通信技術の活用	1				1						
	生徒・進路指導論	2								2		
	教育相談の理論と方法	2							2			
第五欄	教育実習指導	1						1		1		
	教育実習B	2								2		
	教職実践演習(中等)	2									2	
合計		27		4	2	3	4	1	5	5	4	

(注) 1. ★印の科目は人間科学科目群Bグループの卒業に必要な単位数に含むことができる。

【表3-2】教科及び教科の指導法に関する科目

授業科目	単位数		毎週授業時間数								備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
	必修	選択	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	免許法における 科目区分	
知的財産権論		2								2	情報社会と 情報倫理	左記の科目中 から必修科目 を含む合計36 単位以上修得 すること。
情報化社会と情報倫理	2									2		
プログラミング2	2				2	(2)					コンピュータ 及び情報処理	
コンピュータアーキテクチャ1	2				2							
コンピュータアーキテクチャ2		2				2						
アルゴリズムとデータ構造1	2					2						
アルゴリズムとデータ構造2		2					2					
情報演習D	4						4	(4)				
コンパイル構成法		2					2					
デジタル回路		2					2					
コンピュータセンシング		2					2					
オブジェクト指向プログラミング		2						2				
オペレーティングシステム	2				2						情報システム	
ソフトウェア工学		2					2					
データベース	2							2				
リアルタイムシステム		2							2			
分散処理		2							2			
情報ネットワーク概論	2			2							情報通信 ネットワーク	
情報ネットワーク1	2				2							
ネットワークプログラミング		2						2				
通信工学		2							2			
ネットワークシステム		2					2					
音声画像処理		2						2			マルチメディア 表現及び技術	
情報演習C	4						4	(4)				
CAD	2								2			
情報化社会と職業	2									2	情報と職業	
情報科教育法1	2						2				各教科の指導法	
情報科教育法2	2							2				
合計	32	28		2	8	4 (2)	22	10 (8)	8	6		

規 程

学則	1
再入学規程	12
科目等履修生規程	14
特別聴講学生規程	15
研究生規程	16
委託学生規程	17
委託生規程	18
外国人留学生規程	20
プレイスメントテスト要項	22
工学部履修規程	24
情報学部履修規程	29
特別再履修の取扱いに関する要項	34
クラス指定科目の履修の取扱いに関する要項	35
教室利用に関する要項	36
緊急時における授業等の取扱いに関する要項	37
学生の授業欠席に関する取扱要項	39
GPA制度要項	41
他の大学等における授業科目の履修等に関する規程	43
大学以外の教育施設等における学修に関する規程	45
入学前の既修得単位等の認定に関する規程	48
他の研究所等における卒業研究の実施に関する規程	51
転学部及び転学科に関する要項	53
転専攻に関する要項	55
学籍異動に関する取扱規程	57
学生懲戒規程	59
学生の懲戒に係る調査小委員会内規	61
学生納付金の納付手続に関する規程	62
提携教育ローン規程	64
科目等履修生等の納付金等に関する規程	65
学位規程	67
学生の厚生補導に関する規程	70
貸与奨学規程	72
新型コロナウイルス感染症に係る緊急時貸与奨学規程	74
新型コロナウイルス感染症に係る緊急時貸与奨学規程施行細則	76
貸与奨学規程細則	78
学業奨励生規程	80
学業奨励生規程細則	81
入学時特別奨学規程	82
入学時スポーツ特別奨学規程	83
在学生学業特別奨学規程	85
在学生スポーツ特別奨学規程	86
私費外国人留学生学生納付金減免に関する規程	87
学生表彰規程	88
学生表彰規程実施細則	89
クラブ活動表彰基準要項	91
厚生施設使用規則	93
運動施設使用規則	95
大同学園運動施設使用規則	96
課外活動に関する規程	97
課外活動援助に関する内規	98
クラブ顧問・監督・コーチ等に関する細則	100
顧問会議内規	101
石井記念体育館使用者心得	102
図書館利用規則	103
図書館利用細則	105
情報センター利用規程	108
情報センター利用細則	110
学習支援に関する要項	114
環境美化の心得	116
施設利用の心得	117
環境美化の心得及び施設利用の心得違反に対する処罰要項	118
大同学園ハラスメント規程（抜粋）	119

大同大学学則

(昭和 39 年 4 月 1 日制定)

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 大同大学(以下「本学」という。)は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

(自己点検等)

第 2 条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本学は、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による認証評価を受けるものとする。

3 前 2 項の点検及び評価並びに認証評価に関する事項は、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第 2 条の 2 本学は、教育研究活動等の状況について、積極的に情報を提供する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 2 条の 3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第 2 章 組織

(学部、学科)

第 3 条 本学に次の学部学科を置く。

工学部	機械工学科
工学部	機械システム工学科
工学部	電気電子工学科
工学部	建築学科
情報学部	情報システム学科
情報学部	情報デザイン学科
情報学部	総合情報学科

2 本学の学部の目的は、それぞれ次のとおりとする。

(1) 工学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

(2) 情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

3 本学の学科の目的は、それぞれ次のとおりとする。

(1) 工学部機械工学科は、機械工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、深い研究を通じて自ら学び、考え、行動できる人材を育成することを目的とする。

(2) 工学部機械システム工学科は、機械及び周辺技術を融合した「人にやさしい機械」づくりのための教育・研究を通じて、実務で役に立つ創造性に富んだ人材を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

- (3) 工学部電気電子工学科は、電気工学と電子工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、研究を通して電気電子工学分野の発展に貢献することを目的とする。
- (4) 工学部建築学科は、建築及び都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築・インテリア及び土木・環境分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。
- (5) 情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもつて、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。
- (6) 情報学部情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる実学的な専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる研究を通して新たな価値を創造することを目的とする。
- (7) 情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(大学院)

第 4 条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関しては、第 2 条の 3 及び第 5 条から第 47 条までの規定は適用せず、大学院に関する学則は、別に定める。

第 3 章 修業年限及び収容定員

(修業年限、在学年限)

第 5 条 本学学部の修業年限は、4 年とし、在学年限は、8 年とする。

(収容定員)

第 6 条 本学の収容定員は、次のとおりとする。

	学 科	収容定員	入学定員
工学部	機械工学科	480 名	120 名
工学部	機械システム工学科	440 名	110 名
工学部	電気電子工学科	360 名	90 名
工学部	建築学科	760 名	190 名
工学部	合 計	2,040 名	510 名
情報学部	情報システム学科	480 名	120 名
情報学部	情報デザイン学科	440 名	110 名
情報学部	総合情報学科	300 名	75 名
情報学部	合 計	1,220 名	305 名
	総 計	3,260 名	815 名

第 4 章 学年、学期及び休業日

(学年)

第 7 条 学年は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(学期及び授業期間)

第 8 条 学年を分けて、次の 2 学期とする。

前 期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後 期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、必要に応じて学期の期間を変更することがある。
- 3 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。
- 4 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合には、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - (3) 開学記念日5月10日
 - (4) 春季休業3月21日から4月2日まで
 - (5) 夏季休業8月1日から9月30日まで
 - (6) 冬季休業12月21日から1月9日まで
- 2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。
 - 3 臨時の休業日は、その都度これを定める。

第5章 教育課程

(教育課程の編成)

第10条 教育課程は、本学の学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。
- 3 各授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、これを各年次に配当して編成するものとする。

(授業科目及び単位数)

第10条の2 工学部及び情報学部の授業科目は、人間科学科目群の科目、専門基礎科目群の科目及び専門科目群の科目とする。

- 2 各学部学科の科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分は、別表(1)及び別表(1)の2に定める。

(単位の計算方法)

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲の授業をもつて1単位とする。
 - (2) 実験、実習(製図を含む)及び実技については、30時間の授業をもつて1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもつて1単位とすることができる。
 - (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習(製図を含む)又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもつて1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、その学修の成果を評価して単位を授与することが適

切と認められる場合には、必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業の方法)

第 11 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習(製図を含む)若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第 1 項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第 1 項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業の一部を校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(成績評価基準等の明示等)

第 11 条の 3 授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画は、学生に対してあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第 12 条 削除

(教職課程)

第 12 条の 2 本学に、教育職員免許法に基づく教員の免許状授与の所要資格を取得するための課程を置く。

2 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

3 教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分は、別表(2)のとおりとする。

4 各学部学科において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び免許教科は、別表(2)の2のとおりとする。

第 6 章 履修の方法及び卒業の要件等

(履修の方法)

第 13 条 授業科目の履修の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の授与及び成績の評価)

第 14 条 授業科目を履修した学生に対しては、学修状態を審査して、単位を与えるものとする。ただし、第 11 条第 2 項の授業科目については、本学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

2 授業科目の成績の評価は、当該授業科目の担当教員が行う。

3 成績は、秀、優、良、可又は不可の評語をもつて評価し、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

4 前項の規定にかかわらず、せけ及び卒業研究は、合格又は不合格をもつて評価する。

第 15 条 削除

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 16 条 教授会の審議を経て、学長が教育上有益として認めたものは、学生が本学に入学した後に他の大学又は短期大学との協議に基づき履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、本学の学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 17 条 本学の学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の審議を経て、学長が教育上有益として認めたものは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 18 条 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)のうち、教授会の審議を経て、学長が教育上有益と認めたものは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が本学に入学する前に行つた前条第 1 項に規定する学修のうち、教授会の審議を経て、学長が教育上有益と認めたものを、本学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 16 条第 1 項(同条第 2 項において準用する場合を含む。)及び前条第 1 項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(卒業の要件)

第 19 条 卒業の要件は、大学に 4 年以上在学し、124 単位以上を修得することとする。

2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第 11 条の 2 第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

3 各学部学科の定める卒業の要件は、別に定める。

(学位授与)

第 19 条の 2 本学を卒業した者に、学士の学位を授与する。

2 学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

第 7 章 入学、学籍の異動

(入学時期)

第 20 条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第 21 条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育による 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

- (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
 - (8) 学校教育法第 90 条第 2 項の規定により、他の大学に入学した者で、その後本学において、大学教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
 - (9) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者
- (入学志願の手続)

第 22 条 入学志願者は、指定の期間内に入学検定料を納付のうえ、入学願書等、所定の書類を提出しなければならない。

(入学試験)

第 23 条 入学志願者に対しては、入学試験を行い、合格者を決定する。

2 入学試験に関する事項は、別に定める。

(入学手続及び入学許可)

第 24 条 前条の入学試験の結果に基づき、合格通知を受けた者で、本学に入学しようとする者は、指定の期間内に入学金、授業料等を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に入学を許可する。

(再入学)

第 25 条 本学を退学した者及び第 33 条第 1 項第 4 号に定める除籍者で、再び入学を願い出たときは、選考のうえ原則として同一学科の相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定にかかわらず、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

3 再入学に関する事項は、別に定める。

(転入学、編入学)

第 26 条 他の大学の学生で、当該大学の許可を得て本学に入学を志願する者があるときは選考のうえ相当年次に転入学を許可することがある。

2 次の各号の一に該当する者で、本学に入学を志願する者があるときは選考のうえ相当年次に編入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学を途中退学した者
- (3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)
- (5) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)
- (6) その他法令により編入学を認められた者

3 前 2 項に定めるほか転入学及び編入学に関する事項は、別に定める。

(転学部及び転学科)

第 27 条 本学の学生が他の学部転学部を願い出たとき又は同一学部の他の学科に転学科を願い出たときは、選考のうえ許可することがある。

(転学)

第 28 条 学生が他の大学に転学しようとするときは、転学願を提出し、学長の許可を得て転学することができる。

(留学)

第 29 条 学生が第 16 条第 2 項の規定に基づき留学しようとするときは、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(休学)

第 30 条 病気その他やむを得ない事由により 2 か月以上修学できない場合には、休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 休学は、1 年以内とする。ただし、特別の事情があるときは、学長の許可を得て更に 1 年以内に限り休学することができる。

3 休学期間は、通算して 4 年を超えてはならない。

4 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第 31 条 休学期間内においてその事由が消滅したときには、復学願を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

(退学)

第 32 条 学生が退学しようとするときは、退学願を提出し、学長の許可を得て退学することができる。ただし、懲戒による退学を除くものとする。

(除籍)

第 33 条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 在学年限を超えた者

(2) 長期にわたる欠席又は疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められた者

(3) 死亡又は行方不明となつた者

(4) 学生納付金の納付を怠り、催告されてもなお納付しない者

(5) 他の大学、短期大学又は高等専門学校に正規課程の学生として在籍していることが明らかになった者

(復籍)

第 34 条 前条第 1 項第 4 号により除籍された者が除籍日の翌日から起算して 1 ヶ月以内に未納の学納金及び別に定める復籍料を納入の上復籍を願い出た場合は、復籍を許可することができる。

2 前項の規定による復籍日は、除籍日の翌日とする。

3 第 1 項の規定により復籍した者の再度の復籍は認めない。

第 8 章 入学検定料・学生納付金

(入学検定料)

第 35 条 入学検定料の額は、別表 (5) に定める。

2 すでに納付した入学検定料は、返付しない。

(学生納付金)

第 35 条の 2 学生納付金とは、次のものをいう。

(1) 入学金

(2) 授業料及び施設設備費 (以下「授業料等」という。)

(3) その他諸納付金

- 2 学生納付金の額は、別表(5)に定める。
- 3 すでに納付した学生納付金は、原則として返付しない。
- 4 停学を命ぜられた者は、停学期間中であっても学生納付金を納付しなければならない。
- 5 学生納付金の納付手続きに関する事項は、別に定める。

(学生納付金の特別な取扱等)

第 35 条の 3 編入学、転入学及び再入学を許可された者は、別表(5)に定める入学金を納付しなければならない。

- 2 卒業研究を修得した者であつて、修業年限を越え、なお在学する者は、授業料等の納付に代え、別表(5)に定める学生納付金の特例を受けることができる。
- 3 復籍を許可された者は、別表(5)に定める復籍料を納付しなければならない。

(学生納付金の免除)

第 36 条 休学を許可された者の休学期間中の学生納付金は、別表(5)に定める在籍料とし、授業料等を免除する。ただし、学期の途中で休学又は復学する場合には、この限りではない。

- 2 学生納付金の納付期限の延長を許可され、学生納付金が未納の状態にある者が退学する場合は、未納の学生納付金を免除する。
- 3 学生納付金が未納の状態にある者で第 33 条第 3 号又は第 4 号により除籍となつた者は、未納の学生納付金を免除する。
- 4 学生納付金の納付が極めて困難な者であつて、学業に精励し、人格、操行優秀な者に対しては、願い出により選考のうえ学生納付金の一部又は全部を免除することができる。

第 9 章 奨学生

(奨学生)

第 37 条 本学に、奨学生制度を設ける。

- 2 奨学生制度に関する事項は、別に定める。

第 10 章 賞罰

(表彰)

第 38 条 学長は、他の模範となる学生を表彰することがある。

- 2 表彰に関する事項は、別に定める。

(懲戒)

第 39 条 学長は、学生が法令若しくは本学の規則に違反したとき又は学生の本分に反する行為をしたときは、懲戒する。

- 2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者についてこれを行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 4 前 3 項に規定するほか、学生の懲戒に関する事項は別に定める。

第 11 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生、委託学生、委託生、外国人留学生

(科目等履修生)

第40条 本学の授業科目の履修を願い出た者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。

(特別聴講学生)

第40条の2 他の大学の学生で、本学の授業科目の履修を願い出た者があるときは、当該他の大学との協議に基づき、教授会の審議を経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

(研究生)

第41条 本学において特定の専門事項につき研究を願い出た者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ研究生として入学を許可することがある。

(委託学生)

第42条 会社等からの委託により、本学の学生として入学することを願い出た者があるときは、選考のうえ委託学生として入学を許可することがある。

(委託生)

第42条の2 会社等からの委託により、本学の授業科目の履修を願い出た者があるときは、選考のうえ委託生として入学を許可することがある。

(外国人留学生)

第43条 外国人で、本学に入学を願い出た者があるときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

(関係規程)

第44条 前6条に規定する科目等履修生、特別聴講学生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生に関する事項は、別に定める。

第12章 職員組織

(職員組織)

第45条 本学に次の職員を置く。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員、事務職員

(職制、業務処理)

第46条 本学の職制及び業務処理に関する事項は、別に定める。

第13章 教授会

(教授会)

第47条 本学に、教授会を置く。

2 教授会に関する事項は、別に定める。

第14章 図書館及びセンター

(図書館及びセンター)

第48条 本学に図書館及び創造製作センター並びに次の各号に掲げる附属施設を置く。

- (1) 教育開発・学習支援センター
- (2) 研究・社会連携推進センター

2 図書館及びセンターに関する事項は、別に定める。

第15章 公開講座

(公開講座)

第 49 条 本学は、地域社会の教育文化の発展に貢献するため、公開講座を設ける。

第 16 章 厚生補導等

(厚生補導)

第 50 条 学生の厚生補導に関する規程は、別に定める。

(厚生施設等)

第 50 条の 2 本学に、厚生施設等を設ける。

2 厚生施設等に関する事項は、別に定める。

(学校医)

第 51 条 学生の保健及び衛生のため、学校医を委嘱する。

2 学校医は、毎年身体検査を行うとともに、保健及び衛生について指導する。

(学生会)

第 52 条 本学は、学生会の設立を許可し、自治精神の涵養及びその実践を促進する。

< 省 略 >

<別表 5 を除き省略>

別表(5) 入学検定料・学生納付金(第 35 条・第 35 条の 2・第 35 条の 3・第 36 条関係)

1. 入学検定料

納付金種別	金 額
入学検定料	35,000 円

入学検定料の減額に関することは、別に定める。

2. 学生納付金

(1) 入学金

第 24 条に規定する入学並びに第 26 条に規定する編入学及び転入学は 300,000 円とし、第 25 条に規定する再入学は 150,000 円とする。

(2) 授業料及び施設設備費

① 工学部

納付金種別	金 額			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
授業料	890,000 円	910,000 円	930,000 円	950,000 円
施設設備費	315,000 円	325,000 円	335,000 円	345,000 円
計	1,205,000 円	1,235,000 円	1,265,000 円	1,295,000 円

② 情報学部

ア 情報システム学科及び情報デザイン学科

納付金種別	金 額			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
授業料	890,000 円	910,000 円	930,000 円	950,000 円
施設設備費	315,000 円	325,000 円	335,000 円	345,000 円
計	1,205,000 円	1,235,000 円	1,265,000 円	1,295,000 円

イ 総合情報学科

納付金種別	金 額			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
授業料	690,000 円	710,000 円	730,000 円	750,000 円
施設設備費	315,000 円	325,000 円	335,000 円	345,000 円
計	1,005,000 円	1,035,000 円	1,065,000 円	1,095,000 円

(3) その他諸納付金

① 復籍料

30,000 円とする。

② 学生納付金の特例

履修登録 1 単位あたり 40,000 円とする。

③ 休学時の在籍料

年額 60,000 円とする。

ただし、前期又は後期の休学を許可された場合の在籍料は、年額の 2 分の 1 とする。

④ 教職課程履修料

1 免許毎 18,000 円とする。

大同大学再入学規程

(平成 23 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 25 条第 3 項の規定に基づく再入学については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 再入学試験の出願資格を有する者は、次の各号の一に該当する者で、退学又は除籍日の翌日から起算して 5 年以内の者とする。

- (1) 学則第 32 条により退学した者
- (2) 学則第 33 条第 1 項第 4 号により除籍された者

(出願できる学科)

第 3 条 再入学試験を出願できる学科は、在学時に所属した学科とする。

2 前項の規定にかかわらず、組織の改廃等に伴い在学時の所属学科が存在しない場合には、同系の学科に出願することができる。

(入学時期)

第 4 条 再入学の時期は、学年の始めとする。

(入学年次)

第 5 条 再入学の入学年次は、退学時又は除籍時の年次とする。

2 前項の規定にかかわらず、選考の結果、退学時又は除籍時の年次に再入学させることが適当でないと認められる者については、相当年次に再入学させることがある。

(出願手続)

第 6 条 再入学試験を出願する者は、入学検定料を指定の期日までに振込み、再入学試験要項に定める書類を所定の期間内に願出しなければならない。

(選考)

第 7 条 再入学試験出願者の選考は、書類審査、面接試験等による総合評価により行い、教授会の審議を経て学長が決定する。

2 前項の規定のほか選考の実施に関し必要な事項は、再入学試験要項に定める。

(入学手続)

第 8 条 再入学試験に合格し大同大学に入学しようとする者は、指定の期日までに所定の書類を提出し学生納付金等を納付しなければならない。

(入学許可)

第 9 条 学長は、前条の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(既修得単位の認定)

第 10 条 再入学した者の大同大学において既に修得した授業科目及び単位の認定については、許可学年次の学生に適用されている教育課程の科目及び単位数として、当該学科及び教養部で審査の上、教授会の審議を経て、学長が行う。

2 前項の授業科目の成績評価は、次の各号のとおりとする。

- (1) 再入学した者の退学又は除籍以前の教育課程が、許可学年次の学生に適用されている教育課程と同一の場合には、転載する。

(2) 再入学した者の退学又は除籍以前の教育課程が、許可学年次の学生に適用されている教育課程と同一でない場合には、認定と記載する。

(在学年限)

第 11 条 再入学した者の在学年限は、学則第 5 条に規定する期間から、退学又は除籍以前の在学期間を差し引いた期間とする。

2 退学又は除籍以前の在学期間に 6 ヶ月未満の端数があるときは、その端数を切り捨てる。

(休学期間)

第 12 条 再入学した者の休学期間は、学則第 30 条第 3 項に規定する期間から、退学又は除籍以前の休学期間を差し引いた期間とする。

(履修指導)

第 13 条 再入学した者は、卒業までに修得すべき授業科目等について指導教員から履修指導を受けなければならない。

(適用学則等)

第 14 条 再入学した者には、許可学年次の学生に適用している学則及び諸規程を適用する。

(規程の改廃)

第 15 条 この規程の改廃は、第 1 条から第 4 条、第 6 条から第 9 条、第 14 条及び第 15 条にあつては、入試・広報委員会の、第 5 条及び第 10 条から第 13 条にあつては、教務委員会の審議をそれぞれ経るものとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学科目等履修生規程

(平成 5 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づく大同大学(以下「本学」という。)の科目等履修生については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 科目等履修生の出願資格は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校以上を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者
- (2) 本学と高大連携に関する協定等を締結している高等学校又は中等教育学校の後期課程に在籍する生徒のうち、当該学校長が認めた者
- 2 教育職員の免許その他法令に定める資格を得るために科目等履修生として出願する者は、その基礎資格を有する者とする。

(出願手続)

第 3 条 科目等履修生を出願する者は、入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を提出しなければならない。

- (1) 入学願書(本学所定の用紙)
- (2) 履歴書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
- (4) 健康診断書(本学所定の用紙)
- 2 前項の規定に関わらず、第 2 条第 1 項第 2 号に規定する者については、当該書類を省略することができる。

(選考方法)

第 3 条の 2 出願者が履修を希望する授業科目を担当する学科等は、書類による選考を行う。

(入学許可)

第 4 条 科目等履修生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。

(入学時期及履修期間)

第 5 条 科目等履修生の入学の時期は、学期の始めとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、学期の始めとしないことができる。
- 3 科目等履修生の履修期間は、1 年以内とする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

(入学検定料及び納付金)

第 6 条 入学を許可された者は、所定の手続きをとり、登録料及び授業料(以下「納付金」という。)を所定の期限までに納付しなければならない。

- 2 入学検定料及び納付金並びにその免除については、別に定める。

(単位の授与)

第 7 条 科目等履修生が履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を授与する。

(単位修得証明書)

第 8 条 前条の規定により単位を認定された者に対しては、本人の申請により、単位修得証明書を発行する。

(規定の準用)

第 9 条 この規定に定めるもののほか、本学の学則及び諸規程を準用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学特別聴講学生規程

(平成 23 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づく大同大学(以下「本学」という。)の特別聴講学生(以下「聴講学生」という。)に関する事項については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 本学が開講する一又は複数の授業科目について、聴講学生として履修を志願することができる者は、本学との間に授業科目の履修に関する協定を締結した他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学(以下「他の大学等」という。)に在籍し、当該大学が本学における聴講学生として履修を志願することを許可した者とする。

2 前項に規定する授業科目とは、次に掲げる各号に規定する授業科目とする。

(1) 学則第 10 条の 2 第 2 項及び第 12 条の 2 第 3 項に規定する各教育課程表の授業科目

(2) 他の大学等との個別の協議に基づき本学が特別に開設する授業科目

(受入時期)

第 3 条 聴講学生の受入時期は、学期の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、学期の始めとしないことができる。

(出願手続)

第 4 条 聴講学生として履修を志願するもの(以下「志願者」という。)は、所定の願書に履修を志願する授業科目の名称、単位数及び履修期間を記入し、志願者が属する大学等の長が発行した出願許可書を添えて、学長に願出するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第 2 条第 2 項第 2 号の授業科目の履修を志願する場合にあっては、他の大学等との協議に基づく出願手続とすることができる。

(受入許可)

第 5 条 聴講学生の受入許可は、他の大学等からの依頼に基づき、聴講授業科目担当教員の承認を得た者について、選考のうえ、教授会の審議を経て学長が行なう。

2 学長は、聴講学生の受入を許可したときは、志願者が属する大学等の学長を経て本人に通知するものとする。

3 学長は、受入を許可した者に、その身分を証する証明書を交付することができる。

(履修手続)

第 6 条 前条の許可を受けた者は、所定の履修手続を行わなければならない。

(在籍期間)

第 7 条 聴講学生の在籍期間は、履修する授業科目の履修期間とする。

(成績評価)

第 8 条 聴講学生が履修した授業科目の成績の評価については、本学学則第 14 条を準用する。

2 学長は、前項の成績評価について、聴講学生が属する大学等の学長を経て本人に通知するものとする。

(履修中止)

第 9 条 聴講学生が病気その他の理由により聴講学生としての履修を中止しようとするときは、本学学長に願出、その許可を受けなければならない。

(入学検定料及び納付金)

第 10 条 聴講学生の入学検定料及び納付金については、別に定める。

(学則等諸規程の準用)

第 11 条 聴講学生については、本規程に定めるものの他、必要に応じ、本学学生に関する規定を準用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学研究生規程

(昭和 42 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づく大同大学(以下「本学」という。)の研究生については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 研究生の出願資格は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(予備審査)

第 3 条 研究生を出願する者は、予備審査を受審しなければならない。

2 予備審査を受審する者は、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 研究題目・研究内容
- (2) 出願理由説明書
- (3) 履歴書
- (4) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書

3 研究生を受け入れる当該学科等は、前項に定める書類により予備審査を行う。

(出願手続)

第 3 条の 2 前条第 3 項に規定する予備審査に合格した者は、入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を提出しなければならない。

- (1) 入学願書(本学所定の用紙)
- (2) 履歴書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
- (4) 健康診断書(本学所定の用紙)

(選考方法)

第 3 条の 3 出願者を受け入れる当該学科等は、書類及び面接等による選考を行う。

(入学許可)

第 4 条 研究生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。

(入学時期及び研究期間)

第 5 条 研究生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りでない。

2 研究生の研究期間は、1 年以内とする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

(入学検定料及び納付金)

第 6 条 入学を許可された者は、所定の手続きをとり、登録料及び授業料(以下「納付金」という。)を所定の期限までに納付しなければならない。

2 入学検定料及び納付金並びにその免除については、別に定める。

(規定の準用)

第 7 条 この規程に定めるもののほか、本学の学則及び諸規程を準用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学委託学生規程

(平成 12 年 10 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づき、大同大学(以下「本学」という。)の委託学生について、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規程において委託学生とは、企業等(以下「委託企業等」という。)からの委託により、当該委託企業等の従業員等を、その身分を保持させたまま、本学の学部学生として入学し修学する者をいう。

(出願資格)

第 3 条 委託学生の入学資格は、学則第 21 条による。

(入学志願の手続)

第 4 条 委託企業等は、委託学生として本学に入学させようとする者があるときは、学則第 35 条に規定する入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を指定の期間内に提出しなければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 調査書
- (3) 委託企業等の推薦書
- (4) 委託企業等における経歴書

(入学試験)

第 5 条 入学志願者に対しては、入学試験を行い、合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第 6 条 委託企業等は、当該入学志願者の合格通知を受領したとき、指定の期間内に学則第 35 条の 2 に規定する学生納付金を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続が完了した者に、入学を許可する。

(修学の状況等)

第 7 条 委託学生の修学の状況について、委託企業等の要請があつたときは、成績及び出欠状況等を委託企業等に通知するものとする。

2 春季又は夏季等の休業期間中等において、委託企業等から特別の研究指導等の要請があつたときは、研究指導等を行うことができる。

(受託の取止め)

第 8 条 委託学生が学修意欲に乏しく、修学が困難と認められる場合には、学長は、当該委託企業等と協議のうえ、教授会の審議を経て、受託を取止めることができる。

(委託の取止め)

第 9 条 委託企業等が委託学生の委託を取止めることを願い出た場合は、学長は、教授会の審議を経て、委託の取止めを承認することができる。

(規程の改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、入試・広報委員会の審議を経るものとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学委託生規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づき、大同大学(以下「本学」という。)の委託生について、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規程において委託生とは、企業等(以下「委託企業等」という。)からの委託により、当該委託企業等の従業員等を、その身分を保持させたまま、本学が開講する授業科目を履修する者をいう。

2 委託生の修業年限は、1 年又は 2 年とする。

(出願資格)

第 3 条 委託生の出願資格は、高等学校を卒業又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(出願手続)

第 4 条 委託企業等は、委託生として本学に入学させようとする者があるときは、入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を指定の期間内に提出しなければならない。

(1)入学願書

(2)調査書

(3)委託企業等の推薦書

(4)委託企業等における経歴書

(選考方法)

第 5 条 出願者を受け入れる当該学科等は、書類及び面接等による選考を行う。

2 学長は、前項の選考結果に基づき、教授会の審議を経て、合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第 6 条 委託企業等は、当該出願者の合格通知を受領したとき、指定の期間内に納付金を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きが完了した者に、委託生として入学を許可する。

(入学時期)

第 7 条 委託生の入学時期は、学年の始めとする。

(授業科目の履修)

第 8 条 委託生は、履修しようとする授業科目を、本学の教育課程表から選択し、学期ごとに申請しなければならない。

(修了の要件等)

第 9 条 委託生の修了の要件は、履修した授業科目の成績評価を受け、修了判定に合格することとする。

2 学長は、前項の修了判定に合格した者に、修了証書を授与する。

(入学検定料及び納付金)

第 10 条 委託生の入学検定料及び納付金については、別に定める。

(修学の状況等)

第 11 条 委託生の修学の状況について、委託企業等から要請があったときは、成績及び出欠状況等を委託企業等に通知するものとする。

2 春季又は夏季等の休業期間中等において、委託企業等から特別の研究指導等の要請があったときは、研究指導等を行うことができる。

(受託の取止め)

第12条 委託生が学修意欲に乏しく、修学が困難と認められる場合には、学長は、当該委託企業等と協議のうえ、教授会の審議を経て、受託を取止めることができる。

(委託の取止め)

第13条 委託企業等が委託生の委託を取止めることを願い出た場合は、学長は、教授会の審議を経て、取止めを了承することができる。

(規程の準用)

第14条 委託生には、この規程に定めるもののほか、学則及び諸規程を準用する。

(所管事務)

第15条 委託生に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学外国人留学生規程

(昭和 62 年 5 月 12 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づき、大同大学(以下「本学」という。)の外国人留学生に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法(昭和 26 年 10 月 4 日政令第 319 号)別表第 1 に規定する「留学」の在留資格により、本学に入学を許可された者をいう。

(外国人留学生の区分)

第 3 条 外国人留学生の区分は、次の各号のとおりとする。

- (1) 学則第 24 条により入学を許可された者(以下「学部学生」という。)
- (2) 科目等履修生
- (3) 特別聴講学生
- (4) 研究生

(学部学生の入学志願の手続)

第 4 条 学部学生として入学を志願する者は、学則第 22 条に定めるほか、次の各号に定める書類を添えて願出しなければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 最終出身学校の卒業(修了)証明書及び学業成績証明書
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構の行う日本留学試験において、本学が別に指定する科目を受験していることが証明できる書類
- (4) 志願理由説明書
- (5) 在留資格を証明する書類
- (6) 身元保証書

(学部学生の選考)

第 5 条 学部学生の入学志願者の選考は、書類審査及び面接試験による総合評価により行い、教授会の審議を経て学長が決定する。

2 前項に定めるほか、選考の実施に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生の出願手続)

第 6 条 科目等履修生の出願手続は、大同大学科目等履修生規程第 3 条の規定によるほか、次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 在留資格を証明する書類
- (2) 身元保証書

(特別聴講学生の出願手続)

第 7 条 特別聴講学生の出願手続は、大同大学特別聴講学生規程第 4 条の規定によるほか、次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 在留資格を証明する書類
- (2) 身元保証書

(研究生の出願手続)

第 8 条 研究生の出願手続は、大同大学研究生規程第 3 条の 2 の規定によるほか、次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 在留資格を証明する書類

(2) 身元保証書

(規程の改廃)

第 9 条 この規程の改廃は、第 1 条から第 3 条及び第 9 条にあっては入試委員会及び教務委員会の、第 4 条及び第 5 条にあっては入試・広報委員会の、第 6 条から第 8 条にあっては教務委員会の審議をそれぞれ経るものとする。

附 則

< 省 略 >

プレイスメントテスト要項

(平成 17 年 12 月 12 日制定)

(趣旨)

1. この要項は、プレイスメントテストの目的、位置付け、実施科目、運営方法等について定める。

(目的・位置付け)

2. プレイスメントテストは、本学に入学した学部学生の基礎学力を正確に把握するとともに、その結果を習熟度別教育、リメディアル教育、授業内容の見直し等に活用することにより、本学教育の一層の改善に資することを目的に、全学共通に実施する。

(対象学生)

3. プレイスメントテストは、本学学部に入学者が受験するものとする。

(実施科目)

4. プレイスメントテストの実施科目は、英語、数学、理科（物理および化学）とする。

(受験科目)

5. 第 3 項の対象学生が受験する科目は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻	科目
工学部	機械工学科		英語、数学、理科（物理および化学）
	機械システム工学科		
	電気電子工学科		
	建築学科	建築専攻	
		インテリアデザイン専攻	
		土木・環境専攻	
		かおりデザイン専攻	
情報学部	情報システム学科		英語、数学
	情報デザイン学科		
	総合情報学科	経営情報コース	
		スポーツ情報コース	

(配点・試験時間・試験内容等)

6. 試験時間・試験内容は、次表のとおりとする。

時限	教科	試験時間	試験範囲の目安
第 1 時限	英語	35 分	「高等学校卒業程度の基礎的な内容」
第 2 時限	数学	70 分	「数学Ⅰ」（数と式、図形と計量[三角比]、二次関数）、「数学A」（場合の数と確率）、「数学Ⅱ」（いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え）、「数学B」（数列、ベクトル）
第 3 時限	理科	50 分	「物理基礎」「物理」「化学基礎」

試験問題の作成に当たっては、経年変化が捉えられるよう配慮するものとする。

(実施日)

7. プレイスメントテストの実施日については、別に定める。

(テスト結果の管理及び利活用)

8. テスト結果は、指導教員に通知するものとする。

９．テスト結果（データ）は、教務部において厳格に管理するものとする。

１０．テスト結果（データ）は、本テストの目的以外には利活用できないものとする。

１１．テスト結果（データ）の利活用をしようとする者は、教務部所定の申請書により申請し、教務部長の承認を受けなければならない。

附 則

< 省 略 >

大同大学工学部履修規程

(平成 16 年 4 月 1 日施行)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則(以下「学則」という。)第 13 条の規定に基づき平成 13 年度以降の工学部入学生の、授業科目の履修及び単位の修得方法について必要な事項を定める。

第 2 条 削除

(単位の計算方法)

第 3 条 学則第 11 条第 1 項第 1 号に規定する講義及び演習の授業科目は、15 時間の授業をもつて 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる授業科目にあつては、当該授業による教育効果等を考慮し、当該各号に掲げる授業時間をもつて 1 単位とする。

(1) 次の表の右欄に掲げる授業科目にあつては、30 時間の授業をもつて 1 単位とする。

区 分	授 業 科 目
人間科学科目群	ファースト・イヤー・セミナ、基礎英語セミナ、資格英語 1、資格英語 2、英語スキル 1、英語スキル 2、英語スキル 3、英語スキル 4、実践英語 1、実践英語 2、中国語入門 1、中国語入門 2、健康科学演習 A、健康科学演習 B
専門基礎科目群	基礎数学セミナ、基礎理科セミナ(以上、全学科)、機械数学基礎演習 (以上、機械工学科)、情報リテラシ(以上、建築学科)
専門科目群	機械入門セミナ、機械セミナ(以上、機械工学科)、機械システム入門セミナ(以上、機械システム工学科)、電気電子入門セミナ(以上、電気電子工学科)、建築・インテリア入門セミナ、土木・環境入門セミナ、エクセレントセミナ、かおりデザイン入門セミナ、キャリア開発 1、キャリア開発 2、キャリア開発 3、キャリア開発 4(以上、建築学科)

(2) 次の表の右欄に掲げる授業科目にあつては、20 時間の授業をもつて 1 単位とする。

区 分	授 業 科 目
専門科目群	建築設計 1、建築設計 2、建築設計 3、建築設計 4、建築設計 5、インテリア設計 1、インテリア設計 2、インテリア設計 3、インテリア設計 4、社会基盤設計、ランドスケープ設計、ビオトープ設計、道路空間設計(以上、建築学科)

3 学則第 11 条第 2 項に規定する卒業研究については、単位数を 6 単位とする。

(履修申請)

第 4 条 履修申請は、所定の期間内に定められた方法で自己の責任によって行わなければならない。

2 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請を行わなかった授業科目は、履修を許可しない。

3 不合格となつた授業科目の単位を修得しようとする者は、あらためて履修申請し、再履修しなければならない。

4 履修申請した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修申請の変更)

第 4 条の 2 履修申請した授業科目は、所定の期間内に定められた方法によつて、変更することができる。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によつては履修申請を変更できないことがある。

3 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請の変更を行わなかった授業科目は、履修申請の変更を許可しない。

4 履修申請を変更した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修登録単位数の制限)

第 5 条 各学期に、人間科学科目群、専門基礎科目群及び専門科目群の中から履修登録できる単位数は、22 単位を上限とする。

2 前項に定める上限単位数には、次の各号に定める科目又は授業の単位は含めないものとする。

- (1) 自由科目
- (2) 定期に開講しない授業科目
- (3) 定期に開講しない授業

3 前 2 項の規定にかかわらず、次の各号に定める単位数については、それぞれ上限単位数に加え履修登録することができる。

- (1) 既に履修した授業科目のうち、評価が「不可」又は「不合格」となった科目を再履修する場合については、4 単位まで。
- (2) 前学期において優れた成績をもつて単位を修得した場合には、4 単位まで。

4 前項第 1 号及び第 2 号に関する規程は、別に定める。

(履修の制限)

第 5 条の 2 授業科目の履修は、次の制限に従わなければならない。

- (1) 上級年次に開講される授業科目を履修することはできない。
- (2) 同一時限に開講されている授業科目を重複して履修することはできない。
- (3) 既に履修し、単位を付与された授業科目については再履修することはできない。
- (4) 先修条件が設定される授業科目にあつては、先修条件を満たさなければ当該授業科目を履修することはできない。
- (5) 履修クラスが設定される授業科目にあつては、原則該当のクラスを履修しなければならない。

(履修区分)

第 5 条の 3 次の表の左欄に掲げる学科に専門科目の履修上の区分として、右欄に掲げる専攻を設ける

2 項 掲	学科	専攻	前 に 掲
	建築学科	建築専攻、インテリアデザイン専攻、土木・環境専攻、かおりデザイン専攻	

る学科に所属する者は、いずれかの専攻を履修しなければならない。

3 同一学科内の他の専攻に転専攻を希望する者は、転専攻を願い出なければならない。

4 転専攻に関し必要な事項は、別に定める。

(開講科目)

第 6 条 学則第 10 条の 2 第 2 項別表(1)及び学則第 12 条の 2 第 3 項別表(2)に規定する各授業科目の週授業時間数、履修年次及び開講期については、それぞれ別表(1)及び別表(1)の 2 のとおりとする。

2 授業科目によつては、教務委員会の審議により、年度によつて開講しないことがある。

(他学部及び他学科等授業科目の履修)

第 7 条 学生は、所属する学部の学科の開講する科目(第 5 条の 3 第 1 項各号の学科にあつては専攻の開講する科目)のほか、所属する学部の他の学科(第 5 条の 3 第 1 項各号の学科にあつては他の専攻)及び他の学部の学科の開講する次の各号に定める科目を履修することができる。

- (1) 専門基礎科目群の科目(工学部各学科の専門基礎科目群の自然科学系及び工学基礎系の同一名称科目を除く)

(2) 専門科目群の科目

- 2 前項に定める科目の履修を希望する者は、当該科目を開講する学科等の長の許可を受けなければならない。
- 3 前項において履修を許可された科目の履修及び修得単位の各取扱については、別表(4)のとおりとする。

(履修人員の制限)

第8条 開講される各授業科目の履修人員は、講義室等の収容人員の都合により制限することがある。

(授業出席の義務)

第8条の2 学生は、授業担当教員の指示に基づき、履修登録した授業に出席しなければならない。

- 2 授業出席回数が不足した場合には、単位を修得できないことがある。

(授業欠席の特別な取扱)

第8条の3 学生が、やむを得ない事由により授業を欠席する場合には、授業欠席の特別な取り扱いを認めることがある。

- 2 前項に規定する学生の授業欠席の特別な取り扱いに関する事項は、別に定める。

(休講)

第8条の4 大学又は授業担当教員の事情により、授業を休講する場合がある。

- 2 前項に規定する休講については、原則として補講を行う。
- 3 暴風警報の発令、公共交通機関の運休、東海地震予知情報の発令等に伴う授業の休講に関する規程は、別に定める。

(緊急時の授業休講)

第8条の5 気象警報が発令された場合等の緊急時に授業を休講することがある。

- 2 前項に規定する授業休講の取り扱いに関する事項は、別に定める。

(学修状態の審査)

第9条 学則第14条第1項に規定する学修状態の審査は、試験によるものとする。

- 2 前項に規定する試験の方法は、筆記試験またはレポート等とする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学生の学修状況の総合的な審査をもつて、試験に代えることができる。

(試験の種類)

第10条 試験は、期末試験、追試験、特別追試験とする。

- 2 期末試験は、各学期末に行う試験をいう。
- 3 前項に規定する期末試験を分け、通常期末試験及び特別期末試験とする。
- 4 追試験は、病気(次項に定める公認欠席を除く)、事故、公共交通機関の延着その他やむを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。
- 5 特別追試験は、期末試験の時間割において、受験科目が同一時限に重なり受験できない科目がある場合及び公認欠席により期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。
- 6 追試験及び特別追試験を受験しようとする者は、所定の手続きを指定の期間に行わなければならない。
- 7 追試験、特別追試験を受験しなかった者に対する追試験、特別追試験は行わない。

(受験資格)

第11条 次の各号に該当する者は、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目を履修申請していない者

- (2) 学生証を携帯していない者
- (3) 試験開始後 30 分以上遅刻した者
- (4) 学納金を未納の者

(受験の遵守事項)

第 12 条 第 10 条に定める試験を受験しようとする者は、試験室において、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 試験室においては、監督者の指示に従わなければならない。
- (2) 試験開始 30 分経過後は、試験室に入室することができない。
- (3) 試験室では、学生証を机上に置かなければならない。学生証を所持しない者は、受験することができない。
- (4) 筆記用具及び許可された物を除くすべての携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。
- (5) 携帯電話等は電源を切り、鞆等の中にしまわなければならない。(時計としての使用も不可。)
- (6) 試験中に質問その他の用件があるときは、挙手し監督者に申し出なければならない。
- (7) 答案用紙は、解答の有無にかかわらず学籍番号及び氏名を記入しなければならない。また、監督者が指定する場所に提出し、試験室外に持ち出してはならない。

(不正行為)

第 13 条 第 10 条の受験に際し次の各号の一に該当する行為を行つた者は、不正行為者とみなし、学生証、答案及び証拠となる物件を取り上げ退場を命じる。

- (1) 他人に受験を依頼すること又はこれを引き受けること。
- (2) 監督者の許可なく行動すること、又、監督者の制止を無視して行動すること。
- (3) 持ち込みを許可されていない物品(ノート、メモ、教科書、参考書等)及び電子機器(電子辞書、パソコン等)を使用すること。
- (4) 他の学生答案を参照すること又は他の学生に答案を参照させること。
- (5) 言語・動作又は通信機器等により学生同士で互いに連絡すること。
- (6) 許可なく他の学生に物品を貸与すること。
- (7) 他の学生不正行為を助けること。
- (8) 試験開始後 30 分以内に退室すること。
- (9) 監督者の指示に違反すること。
- (10) 身体、所持品及び机等身の回りの物品に文字等を記載し試験中に参照すること又はそれを参照できるような状態で受験すること。
- (11) 他人と答案の交換を行うこと。
- (12) その他不正行為とみなされる行為を行うこと。

2 不正行為を行つた者に対しては、当該学期に履修した授業の内、第 10 条に定める試験を実施した授業は不合格とし、かつ、学則第 39 条により、懲戒する。

3 前項において不合格となつた科目の成績評価の評語は、欠席とする。

(成績評価の基準)

第 14 条 学則第 14 条第 3 項の成績評価の基準は、原則として次による。

秀	100 点より 90 点まで
優	89 点より 80 点まで

良	79 点より 70 点まで
可	69 点より 60 点まで
不可	59 点以下

2 前項の規定にかかわらず、試験を欠席または棄権した場合の評語は、欠席とする。

(試験結果の発表及び成績評価の確認)

第 15 条 試験の結果は、「試験結果通知書」によつて通知する。

2 前項の試験結果通知書において、成績評価に疑問がある者は、所定の期間内に教務部長に成績評価の確認を願い出ることができる。

(学修指導)

第 15 条の 2 学生の学業成績が、学科の定める基準を下回る場合には、指導教員による学修指導を受けなければならない。

(卒業研究履修基準)

第 16 条 卒業研究を履修するためには、別表 (2) の条件を満たさなければならない。

(卒業の要件)

第 17 条 卒業に必要な単位数は、学則第 19 条のとおりとし、各学科の定める卒業の要件は別表 (3) のとおりとする。

2 卒業の要件として認めることができる授業科目の区分は、必修科目及び選択科目とする。

(細則)

第 18 条 この規程に定めるもののほか、履修に関する事項は、細則に定める。

附 則

< 省 略 >

別 表

< 省 略 >

大同大学情報学部履修規程

(平成 18 年 3 月 9 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則(以下「学則」という。)第 13 条の規定に基づき平成 14 年度以降の情報学部入学生の、授業科目の履修及び単位の修得方法について必要な事項を定める。

第 2 条 削除

(単位の計算方法)

第 3 条 学則第 11 条第 1 項第 1 号に規定する講義及び演習の授業科目は、15 時間の授業をもつて 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の表の右欄に掲げる授業科目にあつては、当該授業による教育効果等を考慮し、30 時間の授業をもつて 1 単位とする。

区分	授業科目
人間科学科目群	ファースト・イヤー・セミナ、基礎英語セミナ、資格英語 1、資格英語 2、英語スキル 1、英語スキル 2、英語スキル 3、英語スキル 4、実践英語 1、実践英語 2、中国語入門 1、中国語入門 2、健康科学演習 A、健康科学演習 B
専門基礎科目群	情報システム入門セミナ、基礎数学セミナ、基礎理科セミナ(以上、情報システム学科)、情報デザイン入門セミナ、情報デザイン特別活動 A、情報デザイン特別活動 B、情報デザイン特別活動 C、情報デザイン特別活動 D (以上、情報デザイン学科)、総合情報入門セミナ(以上、総合情報学科)
専門科目群	専門セミナ 1、専門セミナ 2、情報デザイン研究 1、情報デザイン研究 2(以上、情報デザイン学科)、キャリア開発 1、キャリア開発 2、キャリア開発 3、キャリア開発 4(以上、総合情報学科)

3 学則第 11 条第 2 項に規定する卒業研究については、単位数を 6 単位とする。

(履修申請)

第 4 条 履修申請は、所定の期間内に定められた方法で自己の責任によつて行わなければならない。

2 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請を行わなかった授業科目は、履修を許可しない。

3 不合格となつた授業科目の単位を修得しようとする者は、あらためて履修申請し、再履修しなければならない。

4 履修申請した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修申請の変更)

第 4 条の 2 履修申請した授業科目は、所定の期間内に定められた方法によつて、変更することができる。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によつては履修申請を変更できないことがある。

3 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請の変更を行わなかった授業科目は、履修申請の変更を許可しない。

4 履修申請を変更した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修登録単位数の制限)

第 5 条 各学期に、人間科学科目群、専門基礎科目群及び専門科目群の中から履修登録できる単位数は、22 単位を上限とする。

2 前項に定める上限単位数には、次の各号に定める科目又は授業の単位は含めないものとする。

- (4) 自由科目
- (5) 定期に開講しない授業科目
- (6) 定期に開講しない授業

3 前 2 項の規定にかかわらず、次の各号に定める単位数については、それぞれ上限単位数に加え履修登録することができる。

- (1) 既に履修した授業科目のうち、評価が「不可」又は「不合格」となった科目を再履修する場合については、4 単位まで。
- (2) 前学期において優れた成績をもって単位を修得した場合には、4 単位まで。

4 前項第 1 号及び第 2 号に関する規程は、別に定める。

(履修の制限)

第 5 条の 2 授業科目の履修は、次の制限に従わなければならない。

- (1) 上級年次に開講される授業科目を履修することはできない。
- (2) 同一時限に開講されている授業科目を重複して履修することはできない。
- (3) 既に履修し、単位を付与された授業科目については再履修することはできない。
- (4) 先修条件が設定されている授業科目にあつては、先修条件を満たさなければ当該授業科目を履修することはできない。
- (5) 履修クラスが設定されている授業科目にあつては、原則該当のクラスを履修しなければならない。

(履修区分)

第 5 条の 3 次の表の左欄に掲げる学科に専門科目の履修上の区分として、右欄に掲げるコースを設ける。

学科	コース
総合情報学科	経営情報コース及びスポーツ情報コース

2 前項に掲げる学科に所属する者は、いずれかのコースを履修しなければならない。

3 履修したコースの変更は、原則として認めない。

(開講科目)

第 6 条 学則第 10 条の 2 第 2 項別表(1)の 2 及び学則第 12 条の 2 第 3 項別表(2)に規定する各授業科目の週授業時間数、履修年次及び開講期については、それぞれ別表(1)及び別表(1)の 2 のとおりとする。

2 授業科目によつては、教務委員会の審議により、年度によつて開講しないことがある。

(他学部及び他学科等授業科目の履修)

第 7 条 学生は、所属する学部の学科の開講する科目(第 5 条の 3 第 1 項の学科にあつてはコースの開講する科目)のほか、所属する学部の他の学科(第 5 条の 3 第 1 項の学科にあつては他のコース)及び他の学部の学科の開講する次の各号に定める科目を履修することができる。

- (1) 専門基礎科目群の科目
- (2) 専門科目群の科目

2 前項に定める科目の履修を希望する者は、当該科目を開講する学科等の長の許可を受けなければならない。

3 前項において履修を許可された科目の履修及び修得単位の各取扱については、別表(4)のとおりとする。

(履修人員の制限)

第 8 条 開講される各授業科目の履修人員は、講義室等の収容人員の都合により制限すること

がある。

(授業出席の義務)

第8条の2 学生は、授業担当教員の指示に基づき、履修登録した授業に出席しなければならない。

2 授業出席回数が不足した場合には、単位を修得できないことがある。

(授業欠席の特別な取扱)

第8条の3 学生が、やむを得ない事由により授業を欠席する場合には、授業欠席の特別な取り扱いを認めることがある。

2 前項に規定する学生の授業欠席の特別な取り扱いに関する事項は、別に定める。

(休講)

第8条の4 大学又は授業担当教員の事情により、授業を休講する場合がある。

2 前項に規定する休講については、原則として補講を行う。

3 暴風警報の発令、公共交通機関の運休、東海地震予知情報の発令等に伴う授業の休講に関する規程は、別に定める。

(緊急時の授業休講)

第8条の5 気象警報が発令された場合等の緊急時に授業を休講することがある。

2 前項に規定する授業休講の取り扱いに関する事項は、別に定める。

(学修状態の審査)

第9条 学則第14条第1項に規定する学修状態の審査は、試験によるものとする。

2 前項に規定する試験の方法は、筆記試験またはレポート等とする。

3 第1項の規定にかかわらず、学生の学修状況の総合的な審査をもつて、試験に代えることができる。

(試験の種類)

第10条 試験は、期末試験、追試験、特別追試験とする。

2 期末試験は、各学期末に行う試験をいう。

3 前項に規定する期末試験を分け、通常期末試験及び特別期末試験とする。

4 追試験は、病気(次項に定める公認欠席を除く)、事故、公共交通機関の延着その他やむを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。

5 特別追試験は、期末試験の時間割において、受験科目が同一時限に重なって受験できない科目がある場合及び公認欠席で期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。

6 追試験及び特別追試験を受験しようとする者は、所定の手続きを指定の期間に行わなければならない。

7 追試験、特別追試験を受験しなかった者に対する追試験、特別追試験は行わない。

(受験資格)

第11条 次の各号に該当する者は、試験を受けることができない。

(1) 試験を受けようとする科目を履修申請していない者

(2) 学生証を携帯していない者

(3) 試験開始後30分以上遅刻した者

(4) 学納金を未納の者

(受験の遵守事項)

第12条 第10条に定める試験を受験しようとする者は、試験室において、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

(1) 試験室においては、監督者の指示に従わなければならない。

- (2) 試験開始 30 分経過後は、試験室に入室することができない。
- (3) 試験室では、学生証を机上に置かなければならない。学生証を所持しない者は、受験することができない。
- (4) 筆記用具及び許可された物を除くすべての携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。
- (5) 携帯電話等は電源を切り、鞆等の中にしまわなければならない。(時計としての使用も不可)
- (6) 試験中に質問その他の用件があるときは挙手し監督者に申し出なければならない。
- (7) 答案用紙は、解答の有無にかかわらず学籍番号及び氏名を記入しなければならない。また、監督者が指定する場所に提出し、試験室外に持ち出してはならない。

(不正行為)

第 13 条 第 10 条の受験に際し次の各号の一に該当する行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証、答案及び証拠となる物件を取り上げ退場を命じる。

- (1) 他人に受験を依頼すること又はこれを引き受けること。
 - (2) 監督者の許可なく行動すること、又、監督者の制止を無視して行動すること。
 - (3) 持ち込みを許可されていない物品(ノート、メモ、教科書、参考書等)及び電子機器(電子辞書、パソコン等)を使用すること。
 - (4) 他の学生の答案を参照すること又は他の学生に答案を参照させること。
 - (5) 言語・動作又は通信機器等により学生同士で互いに連絡すること。
 - (6) 許可なく他の学生に物品を貸与すること。
 - (7) 他の学生の不正行為を助けること。
 - (8) 試験開始後 30 分以内に退室すること。
 - (9) 監督者の指示に違反すること。
 - (10) 身体、所持品及び机等身の回りの物品に文字等を記載し試験中に参照すること又はそれを参照できるような状態で受験すること。
 - (11) 他人と答案の交換を行うこと。
 - (12) その他不正行為とみなされる行為を行うこと。
- 2 不正行為を行った者に対しては、当該学期に履修した授業の内第 10 条に定める試験を実施した授業は不合格とし、かつ学則第 39 条により、懲戒する。
- 3 前項において不合格となつた科目の成績評価の評語は、欠席とする。

(成績評価の基準)

第 14 条 学則第 14 条第 3 項の成績評価の基準は、原則として次による。

秀	100 点より 90 点まで
優	89 点より 80 点まで
良	79 点より 70 点まで
可	69 点より 60 点まで
不可	59 点以下

2 前項の規定にかかわらず、試験を欠席または棄権した場合の評語は、欠席とする。

(試験結果の発表及び成績評価の確認)

第 15 条 試験の結果は、「試験結果通知書」によつて通知する。

2 前項の試験結果通知書において、成績評価に疑問がある者は、所定の期間内に教務部長に成績評価の確認を願い出ることができる。

(学修指導)

第 15 条の 2 学生の学業成績が、学科の定める基準を下回る場合には、指導教員による学修指導を受けなければならない。

(卒業研究履修基準)

第 16 条 卒業研究を履修するためには、別表(2)の条件を満たさなければならない。

(卒業の要件)

第 17 条 卒業に必要な単位数は、学則第 19 条のとおりとし、各学科の定める卒業の要件は別表(3)のとおりとする。

2 卒業の要件として認めることができる授業科目の区分は、必修科目及び選択科目とする。

(細則)

第 18 条 この規程に定めるもののほか、履修に関する事項は、細則に定める。

附 則

< 省 略 >

別 表

< 省 略 >

特別再履修の取扱いに関する要項

(趣旨)

第 1 条 大同大学工学部履修規程第 5 条第 3 項第 1 号及び大同大学情報学部履修規程第 5 条第 3 項第 1 号の規定に基づく 4 単位の履修（以下「特別再履修」という。）の取扱いについては、この要項の定めるところによる。

(履修登録の制限)

第 2 条 削除

(対象外科目)

第 3 条 特別再履修の対象としない科目は、人間科学科目群の B グループの科目とする。

(履修の手続)

第 4 条 特別再履修の科目を履修する場合は、大同大学工学部履修規程第 4 条及び第 4 条の 2 並びに大同大学情報学部履修規程第 4 条及び第 4 条の 2 の規定の定めに従い履修申請しなければならない。

(成績の評価)

第 5 条 特別再履修した科目の成績評価は、学則第 14 条の定めによる。

(単位の授与)

第 6 条 合格した授業科目の単位は、学則第 14 条の定めによる。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか必要な事項が生じた場合は、教務委員会の審議を経て教務部長が定める。

附 則

< 省 略 >

クラス指定科目の履修の取扱に関する要項

(平成 19 年 4 月 1 日制定)

1. この要項は、クラスの指定がある科目の履修の取り扱いについて定める。
2. クラスとは、次のものを言う。
 - (1) 標準クラス
入学時に編成されるクラスを言う。
 - (2) 特別クラス
授業運営上の理由から、標準クラスを分割・結合して編成するクラスを言う。
 - (3) 特殊クラス
 - ・習熟度別クラス
当該科目の要求する習熟度や、履修歴によって編成されるクラスを言う。
 - ・再履修クラス
再履修者を履修させることを目的に開講した授業を言う。
 - ・履修希望申請クラス
予め学生の履修希望を申請させ履修者の調整を行ったクラスを言う。
3. クラスの指定がある科目については、指定されたクラスを履修しなければならない。
4. 前項の規定にかかわらず、指定されたクラスの開講曜日時限が必修科目と重なる場合には、指定されたクラスを変更し、他のクラスの履修を許可することができる。ただし、履修希望申請クラスについては、クラスの変更はできないものとする。
5. 前項に定める他のクラスの履修許可は、受け入れクラスの授業担当教員が行うものとする。
6. この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

教室利用に関する要項

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

1. この要項は、大同大学(以下「本学」という。)の教務室が管理している教室(以下「教室」という。)の円滑な利用を図るために必要な事項を定める。なお、本学以外の者による教室利用については、別に定める。

(教室)

2. この要項における教室は、教務室が発行する「教務関係要覧」の「教室等の収容定員、設備・備品等」の項に記載されている教室並びに大学院の各講義室及び各ゼミ室をいう。

なお、次の各号の施設は教室に含めない。

- (1) 大同大学情報センター利用細則第 3 条に基づく演習室及び同細則第 6 条に基づくサテライト
- (2) 学科教室が管理している製図室及び実験室等

(利用資格)

3. 教室を利用できる者は、次の者とする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学生
- (3) 教務部長が利用を認めた者

(利用目的)

4. 教室は、本学において開講される授業及び授業に関連すること、入学試験、本学が主催又は共催する行事及びその他教務部長が認めた場合に利用できる。

(利用の優先順位)

5. 教室の利用の優先順位は原則、授業、入学試験、本学が主催又は共催する行事、授業に関連する利用の順とする。

(利用手続)

6. 教室を利用しようとする者は、授業及び授業に関連することを除き、あらかじめ教務部長に利用申請をすること。

なお、学生の教室利用申請については、別に定める。

(利用者の遵守事項)

7. 利用者は、教室の利用にあたって、次の事項を遵守すること。

- (1) 喫煙・飲食をしないこと。
- (2) 携帯電話等通信用電子機器を使用しないこと。
- (3) 教室の美化と備品及び用具の保全に留意すること。異常があった場合、速やかに教務室へ届け出ること。
- (4) 授業において必要に応じて教員が指示をする場合、それに従うこと。

8. この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(参考)

本要項における教室：B0201～B0206、B0209～B0211、B0401～B0408、B0410、C0101、D0122、D0311、D0312、F0101、F0102、F0301～F0305、S0203～S0206、S0302～S0305、4101、4227、4228、4309、4311、4313、4314、4316、4401、8506、A0911～A0914、A1214

緊急時における授業等の取扱に関する要項

(平成 24 年 2 月 6 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この要項は、気象警報、地震、公共交通機関のストライキ、その他緊急時における授業及び期末試験並びに課外活動等、学生の大学での諸活動の取り扱いに関して必要な事項を定める。

(気象警報の発令)

第 2 条 愛知県西部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合の授業及び期末試験の取り扱いについては、次の各号のとおりとする。

(1) 午前 7 時現在において、暴風警報が発令中の場合は、午前中の授業は休講、期末試験は延期又は中止とする。

(2) 午前 10 時現在において、暴風警報が発令中の場合は、午後の授業は休講、期末試験は延期又は中止とする。

2 愛知県西部のいずれかの地域に暴風警報の発令が予想される場合には、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、同警報発令前に授業にあつては休講、期末試験にあつては延期又は中止することができる。

3 愛知県西部のいずれかの地域に大雨警報又は大雪警報が発令され、授業及び期末試験の実施並びに通学が困難又はそのおそれがある場合には、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、授業にあつては休講、期末試験にあつては延期又は中止することができる。

4 前 3 項の規定中の愛知県西部とは、気象庁の発表する警報及び注意報の分類の定めによるものとする。

(「東海地震注意情報」又は「東海地震予知情報」等の発令)

第 3 条 大規模地震対策特別措置法に基づく「東海地震注意情報」の発表又は「東海地震予知情報」の発表或いは「警戒宣言」が発令中の場合は、授業にあつては休講とし、期末試験にあつては延期又は中止とする。

2 「東海地震注意情報」の発表又は「警戒宣言」の発令が解除された場合は、原則としてその翌日から授業及び期末試験を再開する。

(避難指示の発令)

第 4 条 大学周辺に当該地方公共団体から避難指示が発令され、授業及び期末試験の実施並びに通学が困難又はそのおそれがある場合は、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、授業にあつては休講、期末試験にあつては延期又は中止することができる。

(交通機関の運休)

第 5 条 名古屋鉄道常滑線において、ストライキ又は自然災害等により運休する場合の授業及び期末試験の取り扱いについては、次の各号のとおりとする。

(1) 午前 7 時現在において運休中の場合は、午前中の授業は休講、期末試験は延期又は中止する。

(2) 午前 10 時現在において運休中の場合は、午後の授業は休講、期末試験は延期又は中止する。

(その他の緊急事態時の取扱)

第 6 条 前 4 条に規定するほか、授業及び期末試験の実施に支障が生ずる場合又は生ずることが予想される場合若しくは学生の安全に支障が生ずる場合又は生ずることが予想される場合には、授業及び期末試験の取り扱いについて、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、必要な措置を講ず

ることができる。

(授業等実施中の取扱)

第 7 条 授業及び期末試験が行われている場合に前 5 条に規定する状況が発生した場合には、ただちに、授業及び期末試験を中止し、速やかに学生を下校させるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学生の下校が困難又は危険が生ずる場合には、学内の施設で待機させるものとする。

(気象警報等情報の確認)

第 8 条 第 2 条第 1 項、第 3 条及び第 5 条に規定する警報等発令及び交通機関の運休に係る情報は、次の各号に掲げる省庁等の発表に基づくものとする。

(1) 第 2 条第 1 項及び第 3 条は、気象庁とする。

(2) 第 5 条は、名古屋鉄道とする。

(連絡方法)

第 9 条 授業の休講及び期末試験の延期又は中止に伴う学生への周知は、その状況に応じて、学生掲示板、大学ホームページ、電子メール等により行なう。

(授業及び期末試験以外の取扱)

第 10 条 課外活動等学生の大同大学での諸活動の取り扱いについては、第 2 条から第 9 条の規定を準用する。

(雑則)

第 11 条 この要項の改廃は、第 1 条から第 9 条にあっては教務委員会の、第 10 条にあっては学生委員会の審議をそれぞれ経るものとする。

附 則

< 省 略 >

学生の授業欠席に関する取扱要項

(平成 24 年 2 月 6 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学工学部履修規程及び大同大学情報学部履修規程のそれぞれ第 8 条の 3 第 2 項の規定に基づく大同大学学生の公認欠席並びにその他やむを得ない事由により授業を欠席した場合の各取り扱いについては、この要項の定めるところによる。

(授業欠席の区分)

第 2 条 次の各号に掲げるやむを得ない事由で授業を欠席し、第 3 条に規定する授業欠席の取り扱いを受けようとする者は、第 5 条に規定する所定の手続きを行わなければならない。

- (1) 学生が学校保健安全法施行規則第 18 条に定める感染症により授業出席の停止を指示された場合
- (2) 学生の配偶者及び一親等から三親等までの親族の死亡による忌引の場合
- (3) 風水害により学生の住居が損壊した場合
- (4) 学生が教職課程における教育実習又は介護等体験実習に出席する場合及び当該実習先の指定による事前訪問に出席する場合
- (5) 学生が本学における学修成果を学会等で発表する場合
- (6) 卒業研究を履修している学生が学会等で発表する場合
- (7) 学生が大学院の入学試験を受験する場合
- (8) 学生が就職試験を受験する場合
- (9) 学生が教員採用試験を受験する場合
- (10) 学生が大同大学課外活動に関する規程第 2 条に規定する課外活動で公式の大会等に参加する場合
- (11) 学長が特に必要と認めた場合
- (12) 学生の病気又は怪我の場合
- (13) 学生の通学経路における公共交通機関の運行休止又は遅延による場合
- (14) 学生の居住地又は通学経路において、当該地方自治体による避難指示が発令された場合

2 前項第 1 号から第 3 号に規定する事由による授業の欠席を公認欠席、第 4 号から第 11 号に規定する事由による授業の欠席を準公認欠席、第 12 号から第 14 号に規定する事由による授業の欠席を特定欠席と称する。

(授業欠席の取扱)

第 3 条 当該授業の担当教員は、次の各号に基づき学生の授業欠席を取り扱うものとする。

- (1) 公認欠席の場合は、欠席したものとして取り扱わない。
- (2) 準公認欠席の場合は、単位修得に必要な授業出席時間数が不足する場合に考慮の対象とする。
- (3) 特定欠席の場合は、当該授業の担当教員の定めるところによる。

(公認欠席及び準公認欠席の日数)

第 4 条 公認欠席及び準公認欠席を認める限度日数は、次の各号のとおりとする。

- (1) 第 2 条第 1 項第 1 号については、医療機関の発行する診断書による日数とする。
- (2) 第 2 条第 1 項第 2 号については、次のとおりとする。
 - ①配偶者及び一親等（父母、子供等）の場合は 7 日以内
 - ②二親等（祖父母、兄弟姉妹等）の場合は 3 日以内
 - ③三親等（曾祖父母、伯叔父母等）の場合は 1 日

- (3) 第2条第1項第3号については、罹災証明書に基づき学生部長がその都度定める。
- (4) 第2条第1項第4号については、実習にあっては当該実習期間、事前訪問にあっては指定された事前訪問日とする。
- (5) 第2条第1項第5号及び第6号については、当該発表の当日とする。
- (6) 第2条第1項第7号から第9号については、当該試験の当日とする。
- (7) 第2条第1項第10号については、当該大会等の開催期間とする。
- (10) 第2条第1項第11号については、欠席理由書に基づき学長がその都度定める。

2 前項の規定にかかわらず、第6条第3項に規定する所管部長がやむを得ない事由があると認めた場合には、前項に定める限度日数に最小限の日数を加えることができる。

(授業欠席の手続き)

第5条 第2条第1項に規定する事由により授業を欠席し、第3条に規定する授業欠席の取り扱いを受けようとする者は、所定の書類に次項に定める書類を添え、当該事由が発生する前に届け出なければならない。ただし、次条第3項に規定する所管部長がやむを得ない事由があると認めた場合には、当該事由による授業の欠席後1週間以内に届け出ることができる。

2 添付する書類は、次のとおりとする。

- (1) 第2条第1項第1号については、医療機関の発行する診断書。
- (2) 第2条第1項第2号については、医療機関の発行する死亡診断書、埋葬許可書又は会葬礼状等。
- (3) 第2条第1項第3号については、当該地方自治体の発行する罹災証明書。
- (4) 第2条第1項第5号については、学科長等の証明書。
- (5) 第2条第1項第6号については、卒業研究指導教員の証明書。
- (6) 第2条第1項第7号については、受験票等受験を証明できる書類。
- (7) 第2条第1項第10号については、大会開催要項等証明できる書類及び活動参加者名簿。
- (8) 第2条第1項第11号については、欠席理由書。
- (9) 第2条第1項第12号については、医療機関の発行する診断書。
- (10) 第2条第1項第13号については、当該公共交通機関が発行する証明書。
- (11) 第2条第1項第14号については、当該地方自治体による避難指示発令内容が確認できる書類。

3 前項第7号の事由により授業の欠席を届け出る者は、予めクラブ顧問の承認を得なければならない。
(届け出の認定)

第6条 届け出の認定は、授業欠席の事由を所管する部長等(以下「所管部長」という。)の承認を経て、教務部長が行う。

2 前項の規定にかかわらず、第2条第1項第11号については、教務部長に代わり学長が認定する。

3 所管部長は、次のとおりとする。

- (1) 第2条第1項第1号から第3号及び第10号から第14号については、学生部長とする。
- (2) 第2条第1項第4号から第6号及び第9号については、教務部長とする。
- (3) 第2条第1項第7号及び第8号については、キャリアセンター長とする。

(認定の通知)

第7条 所管部長は、届け出が認定されたときは、届出者を經由し当該授業担当教員に通知するものとする。

(要項の改廃)

第8条 この要項の改廃は、教務委員会の審議を経て、教務部長が行う。

附 則

< 省 略 >

G P A制度要項

(制定 平成 18 年 3 月 8 日)

(趣旨)

第 1 条 この要項は、G P A (Grade Point Average、平均等級点) 制度の目的、適用する学生、G P A 算出の対象とする科目、等級点、G P A の算出式、G P A 値の利用等について定める。

(目的)

第 2 条 学生に履修に対する責任を意識付けるとともに、学生個々人が自己の学修成果を「質」の面から客観的に知ること、きめ細かな学業成績評価を行うこと、及び G P A 値を種々の制度に利用すること、により学生の学習意欲の高揚を図り、以って、本学学生の一層の学力向上と社会に対する本学学生の「質」の保証に資することを目的とする。

(適用する学生)

第 3 条 G P A 制度の対象とする学生は、平成 15 年度以降入学の学部学生とする。

(G P A 算出の対象とする科目)

第 4 条 G P A 算出の対象とする科目は、本学学部学科カリキュラムの全ての科目のうち、次の各号の要件をすべて満たす科目とする。

- (1) 5 段階評価によって成績を認定する科目。
- (2) 卒業に必要な単位数に算入することができる科目。

(等級点)

第 5 条 等級点は、学則第 14 条、工学部履修規程第 14 条及び情報学部履修規程第 14 条に定める成績評価の基準に基づき、次のとおり定める。なお、「欠席」の場合の等級点については、「不可」の評価に準じるものとする。

区分	合 格				不合格
評 語	秀	優	良	可	不可
評価点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
等級点	4	3	2	1	0

(G P A 値の種類と明示)

第 6 条 G P A 値は、「学期」及び「累積」(1 年次からの累計) の 2 種類とし、成績を記す書類(成績・履修状況一覧表及び試験結果通知書)に履修登録単位及び取得単位とともに原則明示する。ただし、再入学学生、編入学学生、転入学学生、転学部・転学科、転専攻学生等及び平成 15 年度から平成 17 年度までに第 1 年次に入学した学生については、「学期」の G P A 値のみ算出及び明示するものとする。

(G P A の算出式と履修登録単位)

第 7 条 G P A は、次の(1)及び(2)に示す計算式により、小数点第 4 位を四捨五入して算出するものとする。

(1) 学期 G P A

$$\frac{\{(\text{その学期に履修登録した科目で得た等級点}) \times (\text{その科目の単位数})\} \text{の合計}}{\text{その学期に履修登録した科目の単位数の合計 (「欠席」を含む)}}$$

(2) 累積G P A

$$\frac{\{(\text{各学期に履修登録した科目で得た等級点}) \times (\text{その科目の単位数})\} \text{の合計}}{\text{各学期に履修登録した科目の単位数の合計 (「欠席」を含む)}}$$

- 2 不合格または欠席となった科目を再履修し合格の評価を得た場合、再履修前の不合格または欠席評価の単位は、前項第 2 号に定める累積G P Aの計算式における「各学期に履修登録した科目の単位数」に含むものとする。

第 8 条 第 1 年次～第 3 年次における各期の履修登録においては、原則 15 単位以上履修するよう指導するものとする。

(適正な成績評価)

第 9 条 <省略>

(G P A値の利用)

第 10 条 G P A値は、履修指導、学修指導、学業成績優秀者の履修登録単位上限の緩和などに用いるものとする。

第 11 条 <省略>

第 12 条 G P A値の利用は、教育改革実行委員会が定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学他の大学等における授業科目の履修等に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則（以下「学則」という。）第 16 条の規定に基づく他の大学又は短期大学若しくは外国の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）における授業科目の履修等については、この規程の定めるところによる。

(他大学等との協議)

第 2 条 他大学等との協議は、次の各号に掲げる事項について、教授会の審議を経て、学長が行う。

- (1) 履修する授業科目の範囲
- (2) 履修期間
- (3) 対象となる学生
- (4) 履修の手続き
- (5) 学生の身分の取扱い
- (6) 授業料等の費用に関する取扱い
- (7) その他の必要事項

(願出手続)

第 3 条 前条により他大学等において授業科目を履修しようとする者は、所属する学科の長の承諾を得て、次の各号に掲げる書類を所定の期間内に学長に提出しなければならない。

- (1) 他大学等の授業科目の履修願い
- (2) 他大学等の要求する書類

2 外国の大学又は短期大学において授業科目を履修しようとする者は、学則第 29 条の定めるところにより、前項各号の書類に加え、留学願いを所定の期間内に学長に提出しなければならない。

(許可)

第 4 条 学長は、前条の願出があったときは、教授会の審議を経て、当該学生の授業科目の履修について当該他大学等に依頼し、その承諾を得たうえ、これを許可する。

(派遣期間)

第 5 条 前条の許可を受けた学生（以下「派遣学生」という。）の他大学等への派遣期間は、1 年以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、教育上特に必要と認めるときは、学長は、教授会の審議を経て、さらに 1 年以内に限り、その期間を延長することができる。

3 派遣学生の他大学等への派遣期間は、在学年数に算入する。

(履修終了の報告)

第 6 条 派遣学生は、他大学等における派遣期間が終了したときは、直ちに履修報告書及び当該他大学等の交付する成績証明書等を学長に提出しなければならない。

(単位認定の範囲)

第 7 条 派遣学生の他大学等における授業科目の履修により修得した単位は、学則第 16 条第 1 項、第 17 条第 2 項及び第 18 条第 3 項に規定する単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(単位認定の申請)

第8条 他大学等における授業科目の履修により修得した単位について、本学の単位認定を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、他大学等における授業科目の履修に係る単位認定申請書に成績証明書、その他必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。

2 単位の認定を受けようとする授業科目には、申請する当該学期に履修している授業科目を含めることはできない。

（単位認定）

第9条 派遣学生から前条第1項の申請があったときは、当該学科において認定の可否について審査する。ただし、教養部が開講する授業科目については、教養部において審査する。

2 学長は、前項の審査結果に基づき、教授会の審議を経て、単位を認定する。

3 前項により単位認定を受けた授業科目の成績の評語は、「認定」とする。

4 学長は、第2項により単位認定を行ったときは、単位認定通知書により当該申請者に通知する。

（学生納付金）

第10条 派遣学生は、派遣期間中においても、学則第35条の2に規定する学生納付金を納付しなければならない。

（災害保険等への加入）

第11条 派遣学生は、学生教育研究災害傷害保険及び学長が加入の必要があると認めたその他の災害保険等に加入しなければならない。

（派遣許可の取消し）

第12条 学長は、派遣学生が次の各号の一に該当する場合は、当該他大学等と協議のうえ、教授会の審議を経て、派遣の許可を取り消すことができる。

（1）成業の見込みがないと認められるとき

（2）当該他大学等の規則等に違反し、学生としての本分に反する行為があると認められるとき

（雑則）

第13条 この規程に定めるもののほか、他の大学等における授業科目の履修等に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、別に定める。

（所管事務）

第14条 他の大学又は短期大学における授業科目の履修等に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学大学以外の教育施設等における学修に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 17 条の規定に基づく大学以外の教育施設等における学修については、この規程の定めるところによる。

(大学以外の教育施設等における学修の範囲)

第 2 条 大学以外の教育施設等における学修は、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修若しくは次の各号に掲げる文部科学大臣が別に定める学修とする。

- (1) 大学の専攻科における学修
- (2) 高等専門学校の課程における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- (3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が 2 年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- (4) 次に掲げる学校以外の教育施設で学校教育に類する教育を行うものにおける学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ア 防衛大学校
 - イ 職業能力開発短期大学校、職業能力開発大学校及び職業能力開発総合大学校(旧職業訓練短期大学校、旧職業訓練大学校及び旧職業訓練短期大学校を含む)
 - ウ 水産大学校(水産講習所を含む)
 - エ 国立看護大学校
 - オ 気象大学校
 - カ 海上保安大学校
- (5) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーション・テスト・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル(以下「TOEFL」という。)及びトイック(以下「TOEIC」という。)における学修のうち、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- (6) 次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であつて、前号に規定する学修と同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ア 審査を行う者が国又は民法(明治 29 年法律第 89 号)第 34 条の規定による法人その他の団体であること
 - イ 審査の内容が、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 52 条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること
 - ウ 審査が全国的な規模において、毎年 1 回以上行われるものであること
 - エ 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

2 前項第 6 号に規定する学修は、次の各号に掲げる学修とする。

- (1) 国際連合公用語・英語検定試験
- (2) ケンブリッジ大学英語能力検定試験
- (3) 実用英語技能検定
- (4) 工業英語能力検定試験又は技術英語能力検定

3 第 1 項第 5 号及び前項に規定する学修に係る単位認定対象授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

4 第 1 項に規定する学修により認定することができる単位は、学則第 17 条第 2 項及び第 18 条第 3 項に規定する単位を超えない範囲とする。

(単位認定の申請)

第 3 条 前条に規定する学修について単位の認定を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、各学期の授業開始後一週間以内に、大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書に成績証明書、その他必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。ただし、前条第 1 項第 5 号及び第 6 号に規定する学修にあつては、成績証明書に代え認定証等の原本を添付するものとする。

2 前項の認定証等の認定等の日付は、申請の日から起算して 2 年以内でなければならない。

3 単位の認定を受けようとする授業科目には、申請する当該学期に履修している授業科目を含めることはできない。

(単位認定)

第 4 条 前条の申請があつたときは、当該学科において単位認定の可否について審査する。ただし、教養部が開講する授業科目については、教養部において審査する。

2 前項の規定にかかわらず、第 2 条第 1 項第 5 号及び同条第 2 項に規定する学修については、第 2 条第 2 項別表及び次の各号に基づき、教養部の外国語系が審査を行う。

(1) 既に認定された単位に係る学修と同等の学修とみなされる学修については、単位を認定することはできない。

(2) 同一の学修について新たな級位又は得点以上を得た場合には、重複分に対して単位を認定することはできない。

3 学長は、前 2 項の審査結果に基づき、教授会の審議を経て、単位を認定する。

4 前項の規定により単位授与の認定を受けた授業科目の成績の評語は、「認定」とする。

5 学長は、第 3 項により単位認定を行つたときは、単位認定通知書により当該申請者に通知する。

(雑則)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、大学以外の教育施設等における学修に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、別に定める。

(所管事務)

第 6 条 大学以外の教育施設等における学修に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

別表 単位認定対象授業科目及び単位数

本学における授業科目の履修とみなす学修の種類		級位又は得点等	認定する単位数の限度	授業科目名	
TOEFL	i B T	101～120 点	8		
		91～100 点	7		
		81～90 点	6		
		71～80 点	5		
		61～70 点	4		
		45～60 点	3		
		32～44 点	2		
TOE I C	945～990 点	8	資格英語 1		
	860～944 点	7			資格英語 2
	730～859 点	6			
	600～729 点	5			
	500～599 点	4			
	400～499 点	2			
国際連合公用語・英語検定試験	特 A 級	8	英語スキル 1		
	A 級	6			英語スキル 2
	B 級	4			
ケンブリッジ 大学英語能力検定試験	CAE	8	英語スキル 3		
	FCE	6			英語スキル 4
実用英語技能検定	1 級	8	実践英語 1		
	準 1 級	6			実践英語 2
	2 級	4			
	準 2 級	2			
工業英語能力検定試験	1 級	8			
	2 級	7			
	準 2 級	5			
	3 級	4			
	4 級	2			
技術英語能力検定	フ ロ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ	8			
	準フ ロ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ	7			
	1 級	5			
	2 級	4			
	3 級	2			

大同大学入学前の既修得単位等の認定に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 18 条の規定に基づく入学前の既修得単位等の認定については、この規程の定めるところによる。

(単位認定することができる入学前の既修得単位等)

第 2 条 単位を認定することができる入学前の既修得単位等は、次の各号のとおりとする。

- (1) 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)
 - (2) 大学以外の教育施設等における学修
- 2 前項第 2 号に規定する学修は、短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修若しくは次の各号に掲げる文部科学大臣が別に定める学修とする。
- (1) 大学の専攻科における学修
 - (2) 高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む)の専攻科の課程における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - (3) 高等専門学校の課程における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - (4) 専修学校の専門課程のうち修業年限が 2 年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - (5) 次に掲げる学校以外の教育施設で学校教育に類する教育を行うものにおける学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ア 防衛大学校
 - イ 職業能力開発短期大学校、職業能力開発大学校及び職業能力開発総合大学校(旧職業訓練短期大学校、旧職業訓練大学校及び旧職業訓練短期大学校を含む)
 - ウ 水産大学校(水産講習所を含む)
 - エ 国立看護大学校
 - オ 気象大学校
 - カ 海上保安大学校
 - (6) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーション・テストング・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル(以下「TOEFL」という。)及びトイック(以下「TOEIC」という。)における学修のうち、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - (7) 次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であつて、前号に規定する学修と同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
 - ア 審査を行う者が国又は民法(明治 29 年法律第 89 号)第 34 条の規定による法人その他の団体であること
 - イ 審査の内容が、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 52 条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること
 - ウ 審査が全国的な規模において、毎年 1 回以上行われるものであること

エ 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

3 前項第 6 号に規定する学修は、次の各号に掲げる学修とする。

- (1) 国際連合公用語・英語検定試験
- (2) ケンブリッジ 大学英語能力検定試験
- (3) 実用英語技能検定
- (4) 工業英語能力検定試験又は技術英語能力検定

4 第 2 項第 5 号及び前項に規定する学修に係る単位認定対象授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

5 第 1 項の規定により認定することのできる単位は、学則第 18 条第 3 項に規定する単位を越えない範囲とする。

(単位認定の申請)

第 3 条 前条に規定する学修について単位の認定を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、入学年度の前期の授業開始後一週間以内に、入学前の既修得単位等の認定に係る単位認定申請書に成績証明書、その他必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。ただし前条第 2 項第 5 号及び第 6 号に規定する学修にあつては、成績証明書に代え認定証等の原本を添付するものとする。

2 前項の認定証等の認定等の日付は、申請の日から起算して 2 年以内でなければならない。

3 単位の認定を受けようとする授業科目には、申請する当該学期に履修している授業科目を含めることはできない。

(単位認定)

第 4 条 前条の申請があつたときは、当該学科において単位認定の可否について審査する。ただし、教養部が開講する授業科目については、教養部において審査する。

2 前条の規定にかかわらず、第 2 条第 2 項第 5 号及び同条第 3 項に規定する学修については、第 2 条第 4 項別表及び次の各号に基づき、教養部の外国語系が審査を行う。

- (1) 既に認定された単位に係る学修と同等の学修とみなされる学修については、単位を認定することはできない。
- (2) 同一の学修について新たな級位又は得点以上を得た場合には、重複分に対して単位を認定することはできない。

3 学長は、前 2 項の審査結果に基づき、教授会の審議を経て、単位を認定する。

4 前項の規定により単位授与の認定を受けた授業科目の成績の評語は、「認定」とする。

5 学長は、第 3 項により単位認定を行ったときは、単位認定通知書により当該申請者に通知する。

(雑則)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、入学前の既修得単位等の認定に必要な事項は、教務委員会の審議を経て、別に定める。

(所管事務)

第 6 条 入学前の既修得単位等の認定に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

別表 単位認定対象授業科目及び単位数

本学における授業科目の履修とみなす学修の種類		級位又は得点等	認定する単位数の限度	授業科目名	
TOEFL	iBT	101～120 点	8		
		91～100 点	7		
		81～90 点	6		
		71～80 点	5		
		61～70 点	4		
		45～60 点	3		
		32～44 点	2		
TOEIC		945～990 点	8		資格英語 1
		860～944 点	7		資格英語 2
		730～859 点	6		
		600～729 点	5		
		500～599 点	4		
		400～499 点	2		
国際連合公用語・英語検定試験		特A級	8		英語スキル 1
		A 級	6		英語スキル 2
		B 級	4		英語スキル 3
ケンブリッジ大学英語能力検定試験		CAE	8		英語スキル 4
		FCE	6		実践英語 1
実用英語技能検定		1 級	8		実践英語 2
		準 1 級	6		
		2 級	4		
		準 2 級	2		
工業英語能力検定試験		1 級	8		
		2 級	7		
		準 2 級	5		
		3 級	4		
		4 級	2		
技術英語能力検定		プロフェッショナル	8		
		準プロフェッショナル	7		
		1 級	5		
		2 級	4		
		3 級	2		

大同大学他の研究所等における卒業研究の実施に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学（以下「本学」という。）の学部学生が、他の研究所等（以下「研究所等」という。）において、大同大学学則（以下「学則」という。）第 10 条の 2 別表(1)及び別表(1)の 2 に規定する各教育課程表における卒業研究を、卒業研究を指導する教員（以下「主指導教員」という。）の下で実施する場合の必要事項については、この規程の定めるところによる。

(対象とする学部学科)

第 2 条 卒業研究を主指導教員の指導の下、研究所等で実施させることができる学部学科は、本学の全ての学部学科とする。

(研究所等)

第 3 条 研究所等は、教授会の審議を経て、学長が認めた研究所等とする。

(協定等の締結)

第 4 条 卒業研究を研究所等で実施させようとするときは、本学と研究所等との間で、次の各号に掲げる事項を定めた協定等を締結する。

- (1) 学生の受入人数等に関する事項
- (2) 研究所等内における学生の指導に関する事項
- (3) 学生の修学に関する事項
- (4) 経費負担に関する事項
- (5) その他卒業研究を実施するうえで必要な事項

2 協定等は、教務委員会の審議を経て、学長が締結する。

(願出手続)

第 5 条 研究所等における卒業研究の実施を認めた学生の主指導教員は、当該学科長の承諾を得たうえ、次の各号に掲げる書類を所定の期間内に学長に提出しなければならない。

- (1) 研究所等卒業研究実施願い
- (2) 研究所等の要求する書類

(許可)

第 6 条 学長は、前条の願い出があったときは、教授会の審議を経て、当該学生の卒業研究の実施について当該研究所等に依頼し、その承諾を得たうえ、これを許可する。

(派遣期間)

第 7 条 前条の許可を受けた学生（以下「卒業研究派遣学生」という。）の研究所等での卒業研究を実施する期間（以下「派遣期間」という。）は、1 年以内とする。

2 卒業研究派遣学生の派遣期間は、在学年数に算入する。

(主指導教員の業務)

第 8 条 卒業研究派遣学生の主指導教員は、当該学生の派遣期間において、次に掲げる業務を行わなければならない。

- (1) 卒業研究派遣学生の修学指導に関すること
- (2) 卒業研究派遣学生の進学又は就職指導に関すること
- (3) その他卒業研究派遣学生の厚生補導に必要な業務に関すること

(卒業研究実施終了の報告)

第 9 条 卒業研究派遣学生は、研究所等における卒業研究の実施が終了したときは、直ちに所定の書類により学長に報告しなければならない。

(学生納付金)

第 10 条 卒業研究派遣学生は、派遣期間中においても、学則第 35 条の 2 第 1 項に規定する学生納付金を納付しなければならない。

(災害保険等への加入)

第 11 条 卒業研究派遣学生は、学生教育研究災害傷害保険及び学長が加入の必要があると認めたその他の災害保険等に参加しなければならない。

(派遣許可の取消し)

第 12 条 学長は、卒業研究派遣学生が次の各号の一に該当する場合は、当該研究所等と協議のうえ、教授会の審議を経て、派遣の許可を取り消すことができる。

(1) 成業の見込みがないと認められるとき

(2) 当該研究所等の規則等に違反し、学生としての本分に反する行為があると認められるとき

(雑則)

第 13 条 この規程に定めるほか、研究所等における卒業研究の実施に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、教務部長が定める。

(所管事務)

第 14 条 研究所等における卒業研究の実施に関する事務取扱主管室は、教務室とする。

附 則

< 省 略 >

転学部及び転学科に関する要項

(平成 15 年 3 月 6 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則（以下「学則」という。）第 27 条の規定に基づく転学部及び転学科（以下「転学部等」という。）については、この要項の定めるところによる。

(受入の要件)

第 2 条 転学部等は、受け入れ先の学科において、教育上支障がないと認めた場合に、これを許可することができる。

(出願資格)

第 3 条 転学部等を出願することができる者は、本学の第 1 年次又は第 2 年次に在籍する者で、所属学科長の承認を得た者とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者にあつては、転学部等を出願することはできない。

(1) 休学中の者

(2) 過去に転学部等を許可された者

(時期)

第 4 条 転学部等の時期は、学年の始めとする。

(出願手続)

第 5 条 転学部等を出願しようとする者は、指定の期日までに検定料を納付のうえ、次の各号に掲げる書類を、所定の期日までに学長に提出しなければならない。

(1) 所定の願書

(2) 所属学科長の承諾書

(3) 理由書

(4) 成績証明書

(5) 検定料納付書（写）

2 前項に規定する出願に当たっては、第 2 条に規定する受入の要件に関して、事前に教務室に相談しなければならない。

(選考)

第 6 条 転学部等の選考は、出願書類及び学力試験又は面接等により、受入年次を含めて、当該受入学科（以下「受入学科」という。）が行うものとする。

(許可)

第 7 条 転学部等の許可は、教務委員会の審議を経て、学長がこれを行う。

2 学長は、転学部等の選考結果を出願者に通知する。

(在学年限)

第 8 条 転学部等を許可された者の残りの在学年限は、学則第 5 条に規定する在学年限から当該者が既に在学した期間を差し引いた期間とする。

(既修得単位の認定及び成績評価)

第 9 条 転学部等を許可された者の在籍学部・学科において既に修得した単位（以下「既修得単位」という。）を受入学科の教育課程表の授業科目として単位認定する場合においては、当該既修得単位の

認定は、受入学科及び教養部の各系で審査の上、教授会の審議を経て、学長がこれを行う。

- 2 転学部等を許可された者の既修得単位を受入学科の教育課程表の授業科目として単位認定しない場合においては、当該既修得単位の取扱は、受入学部の履修規程別表(4)「所属学部他学科、他学部の学科及び同一学科内の他専攻の履修」に規定する「所属学部他学科又は他の学部の学科の授業科目の各取扱」を適用する。
- 3 第1項の規定により単位認定を受けた場合の授業科目の成績評価は、「認定」とする。ただし、次の各号に掲げる授業科目の成績評価は、転載する。

(1) 全学共通科目

(2) 全学共通科目扱いの科目

- 4 第2項の規定による場合の成績評価は、転載する。

(適用学則等)

第10条 転学部等を許可された者は、許可学年次の学生に適用している学則及び諸規程を適用する。

附 則

< 省 略 >

転専攻に関する要項

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この要項は、大同大学工学部履修規程及び大同大学情報学部履修規程（以下「規程」という。）第 5 条の 3 第 4 項の規定に基づく転専攻に関し、必要な事項を定める。

(受入の要件)

第 2 条 転専攻は、当該学科において、教育上支障がないと認めた場合に、これを許可することができる。

(出願資格)

第 3 条 転専攻を出願することができる者は、本学の第 1 年次又は第 2 年次に在籍する者で、所属学科長の承認を得た者とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者にあつては、転専攻を出願することはできない。

- (1) 休学中の者
- (2) 過去に転専攻を許可された者

(時期)

第 4 条 転専攻の時期は、学年の始めとする。

(出願手続)

第 5 条 転専攻を出願しようとする者は、指定の期日までに検定料を納付のうえ、次の各号に掲げる書類を、所定の期日までに学長に提出しなければならない。

- (1) 所定の願書
- (2) 所属学科長の承諾書
- (3) 理由書
- (4) 成績証明書
- (5) 検定料納付書（写）

2 前項に規定する出願に当たっては、第 2 条に規定する受入の要件に関して、事前に教務室に相談しなければならない。

(選考)

第 6 条 転専攻の選考は、出願書類及び学力試験又は面接等により、受入年次を含めて、当該学科が行うものとする。

(許可)

第 7 条 転専攻の許可は、教務委員会の審議を経て、学長がこれを行う。

2 学長は、転専攻の選考結果を出願者に通知する。

(在学年限)

第 8 条 転専攻を許可された者の残りの在学年限は、学則第 5 条に規定する在学年限から当該者が既に在学した期間を差し引いた期間とする。

(既修得単位の認定及び成績評価)

第 9 条 転専攻を許可された者の当該専攻において既に修得した単位（以下「既修得単位」という。）を受入専攻の開講科目一覧の授業科目として単位認定する場合においては、当該既修得単位の認定

は、受入学科及び教養部の各系で審査の上、教授会の審議を経て、学長がこれを行う。

- 2 転専攻を許可された者の既修得単位を受入専攻の開講科目一覧の授業科目として単位認定しない場合においては、当該既修得単位の取扱は、当該学部の履修規程別表(4)「所属学部の他学科、他学部の学科及び同一学科内の他専攻の履修」に規定する「同一学科内の他の専攻の開講する授業科目の各取扱」を適用する。
- 3 第1項の規定により単位認定を受けた授業科目の成績評価は「認定」とする。ただし、次の各号に掲げる授業科目の成績評価は、転載する。

(1) 全学共通科目

(2) 専門基礎科目群及び専門科目群の授業科目のうち当該学科共通の授業科目

- 4 第2項の規定による場合の成績評価は、転載する。

(適用学則等)

第10条 転専攻を許可された者は、許可学年次の学生に適用している学則及び諸規程を適用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学学籍異動に関する取扱規程

(平成 27 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 28 条から第 34 条及び大同大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 31 条から第 37 条に基づく、学部及び大学院の学生の学籍異動(転学、留学、休学、復学、退学、除籍、復籍)の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

(転学)

第 2 条 転学を願い出る者は、所定の期日までに保証人連署による転学願を提出しなければならない。

- 2 転学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(留学)

第 3 条 留学を願い出る者は、所定の期日までに保証人連署による留学願を提出しなければならない。

- 2 留学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(休学)

第 4 条 学則第 30 条及び大学院学則第 33 条に規定するやむを得ない事由は、次の各号のとおりとする。

- (1) 修学心不足
- (2) 精神的事由
- (3) 負傷
- (4) 進路検討
- (5) 経済的困難
- (6) 履修不要
- (7) 学長が特に必要と認めた事由

- 2 休学を願い出る者は、次の各号に掲げる区分及び期限に従い、学部の学生にあっては主指導教員と、大学院の学生にあっては指導教員と面談のうえ、保証人連署による休学願を提出しなければならない。

- (1) 前期又は 1 年の休学を希望する者 原則、前年度の 3 月末日まで
- (2) 後期の休学を希望する者 原則、当該年度の 9 月末日まで

- 3 次の各号に掲げる休学事由に該当する場合は、当該各号に掲げる書類を休学願に添えて提出しなければならない。

- (1) 病気 医師による診断書
- (2) 負傷 医師による診断書
- (3) 学長が特に必要と認めた事由 学長が認めたことを証明する書類

- 4 休学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(復学)

第5条 復学を願い出る者は、次の各号に掲げる区分及び期限に従い、学部学生にあっては主指導教員と、大学院学生にあっては指導教員と面談のうえ、保証人連署による復学願を提出しなければならない。

(1) 前期末に休学期間が終了する者 原則、当該年度の9月末日まで

(2) 後期末に休学期間が終了する者 原則、当該年度の3月末日まで

2 学則第31条又は大学院学則第34条の規定にかかわらず、第4条第3項第1号又は第2号の事由により休学した者にあっては、修学に支障のない旨を証明する医師の診断書を復学願に添えて、提出しなければならない。

3 復学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(退学)

第6条 退学を願い出る者は、次の各号に掲げる区分及び期限に従い、学部学生にあっては主指導教員と、大学院学生にあっては指導教員と面談のうえ、保証人連署による退学願を提出しなければならない。

(1) 前期に退学を希望する者 原則、当該年度の9月末日まで

(2) 後期に退学を希望する者 原則、当該年度の3月末日まで

2 退学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(除籍)

第7条 除籍にかかる事由が発生した場合には、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が決定し、その結果を除籍者に通知するものとする。

(復籍)

第8条 復籍を願い出る者は、所定の期日までに保証人連署による復籍願を提出しなければならない。

2 復籍の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教務委員会及び大学院運営委員会の審議を経るものとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生懲戒規程

(平成 27 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則（以下「学則」という。）第 39 条第 4 項及び大同大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第 42 条第 4 項の規定に基づき、大同大学（以下「本学」という。）の学部及び大学院の学生の懲戒について必要な事項を定める。

(懲戒の内容)

第 2 条 懲戒の種類は学則第 39 条第 2 項及び大学院学則第 42 条第 2 項のとおりとし、その内容は、次の各号のとおりとする。

- (1) 退学 学生の身分を失わせること
- (2) 停学 一定の期間、教育課程の履修及び課外活動を禁止すること
- (3) 訓告 文書又は口頭により注意を与え、将来を戒めること

2 停学は、有期又は無期とし、有期の停学とは、期限を付して命じる停学をいい、無期の停学とは、期限を付さずに命じる停学をいう。

(厳重注意)

第 3 条 学長は、前条に規定する懲戒のほか、教育的指導の観点から、文書又は口頭により、厳重注意を行うことができる。

(懲戒対象行為)

第 4 条 懲戒の対象となる行為は、次の各号のとおりとする。

- (1) 刑罰法規に抵触する行為
- (2) 交通法規に違反する行為
- (3) 人権を侵害する行為
- (4) 情報倫理に反する行為
- (5) 論文等の作成における学問的倫理に反する行為
- (6) 本学の規則に違反する行為
- (7) 大同大学工学部履修規程及び大同大学情報学部履修規程第 10 条第 1 項に規定する試験における不正行為
- (8) 本学の教育研究等の業務を妨害する行為
- (9) その他、学生の本分に反すると認められる行為

(懲戒の量定)

第 5 条 懲戒処分の量定は、次に掲げる行為者の状態等並びに行為の悪質性及び重大性を総合的に判断して行う。

- (1) 非違行為の動機、態様及び結果
- (2) 故意又は過失の別及びその程度
- (3) 過去の非違行為の有無
- (4) 日常における生活態度及び非違行為後の対応

2 退学については、学則第 39 条第 3 項及び大学院学則第 42 条第 3 項の規定を考慮しなければならない。

(懲戒処分の手続)

第 6 条 学長は、学生が第 4 条に該当する行為を行ったと認められるとき、学部の学生にあつては学生委員会に、大学院の学生にあつては大学院運営委員会に、当該学生に対する懲戒処分の当否についての審査を命ずる。

- 2 学生委員会及び大学院運営委員会は、当該事案を調査の上、第4条及び第5条に基づき、懲戒の要否及び懲戒の種類等について審査し、その結果を学長に報告する。
- 3 学長は、当該委員会の報告を受け、懲戒処分を行う。
- 4 学長は、必要があると認めるときは、当該委員会に対して再審査を求めることができる。

(懲戒処分の通知)

- 第7条** 学長は、懲戒処分を行う学生に対して、懲戒通知書(別記様式1)を交付して行うとともに、その保証人に対し当該通知書の写しを送付するものとする。
- 2 学長は、懲戒処分の内容を告示(別記様式2)により学内に公示する。

(異議申し立て)

- 第8条** 懲戒処分を受けた学生は、懲戒通知書の交付日から20日以内に、事実誤認、新事実の発見その他正当な理由がある場合は、その証拠となる資料を添えて、文書により学長に異議申し立てを行うことができる。

(自宅謹慎)

- 第9条** 学長は、当該事案が退学又は停学に該当することが明白であると認めるときは、懲戒処分の決定前に、当該学生に対して自宅謹慎を命ずることができる。
- 2 自宅謹慎の期間は、停学の期間に算入できるものとする。

(指導監督者)

- 第10条** 停学中の学生に対する教育上及び生活上の指導を行うため、指導監督者を置く。
- 2 指導監督者は、学部学生にあつては当該学生の主指導教員とし、大学院学生にあつては、指導教員とする。
 - 3 指導監督者は、当該学生の生活状況を把握し、適宜、学長に報告しなければならない。

(無期停学の解除)

- 第11条** 学生委員会又は大学院運営委員会は、無期停学の学生について、指導監督者の要請に基づき、停学解除の妥当性について審議を行う。
- 2 学長は、学生委員会又は大学院運営委員会の審議を経て停学を解除できる。
 - 3 学長は、無期停学解除の通知を、停学処分解除通知書(別記様式3)により当該学生に行うとともに、その保証人に対し当該通知書の写しを送付するものとする。

(懲戒の記録)

- 第12条** 懲戒処分が行われた場合は、学籍簿に記録するものとする。

(規程の改廃)

- 第13条** この規程の改廃は、学生委員会及び大学院運営委員会の審議を経るものとする。

(雑則)

- 第14条** この規程に定めるもののほか、学生の懲戒の実施に関し必要な事項は、学生委員会及び大学院運営委員会の審議を経て、別に定める。

(所管事務)

- 第15条** 学生の懲戒に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

< 別記様式1・別記様式2・別記様式3は省略 >

大同大学学生の懲戒に係る調査小委員会内規

(平成 27 年 7 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学生委員会規程第 10 条に基づき、学生委員会に、学生の懲戒に係る調査小委員会（以下「小委員会」という。）を置き、小委員会に関することは、この内規の定めるところによる。

(任務)

第 2 条 小委員会は、学生の懲戒の対象となる事案が発生した場合、その事案の調査を行い、学生委員会委員長に報告する。

(組織)

第 3 条 小委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 学生委員会副委員長
- (2) 当該懲戒の対象となる学生（以下「当該学生」という。）が所属する学科の長又は専攻主任
- (3) 当該学生の指導教員
- (4) 学生室長

2 前項の委員のほか主査の必要と認める者を委員とすることができる。

(主査及び副主査)

第 4 条 小委員会に主査及び副主査を置く。

2 主査は、前条第 1 項第 1 号の者をもって充て、副主査は、同第 2 号の者をもって充てる。

(調査)

第 5 条 事案に係る調査は、次の各号のとおり行う。

- (1) 主査は、事案の発生後、直ちに小委員会を招集し、当該学生及び関係者から事情聴取を行う。
- (2) 事情聴取を行う際は、当該学生又は関係者の了解を得た上で、その内容を録音するものとし、かつ、必要と認められる場合は、当該学生又は関係者から資料の提出を求めることができる。
- (3) 主査は、事情聴取した内容を学生の懲戒対象事案調書(別記様式 1)として記録し、当該学生又は関係者から、その内容について承認を得るものとする。
- (4) 主査は、当該学生に弁明書による弁明の機会を与える。ただし、弁明書を提出しなかった場合は、弁明の権利を放棄したものとみなす。

2 前項第 1 号の規定にかかわらず、懲戒対象事案が大同大学学生懲戒規程第 4 条第 7 号に規定する試験等における不正行為の場合にあつては、主査の判断により、複数の小委員会委員により行うことができる。

(報告)

第 6 条 主査は、学生の懲戒対象事案調査報告書(別記様式 2)を作成し、学生の懲戒対象事案調書を付して、学生委員会委員長に提出する。

2 学生委員会委員長は、必要があると認めるときは、小委員会に対して再調査を求めることができる。

(内規の改廃)

第 7 条 この内規の改廃は、学生委員会の審議を経て、学長が行う。

(事務局)

第 8 条 小委員会の事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生納付金の納付手続に関する規程

(平成 5 年 8 月 10 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 35 条の 2 第 5 項及び大同大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 38 条の 2 第 5 項に基づく学生納付金(以下「学納金」という。)の納付手続について、必要な事項を定める。

(納付方法)

第 2 条 学納金の納付方法は、銀行振込とする。

2 前項の規定にかかわらず、休学の場合の学納金の納付方法は、別に定める。

(納付期限)

第 3 条 学納金の納付は、前期及び後期の 2 回とし、それぞれ定められた額を所定の期日までに納付しなければならない。

2 学納金の納付期限は、次のとおりとする。ただし、納付期限の日が銀行休業日にあたる場合は、翌営業日をもってその期限とする。

(1) 前期納付期限 3 月 31 日

ただし、卒業又は大学院修了対象者のうち卒業又は修了できなかった者については、4 月 30 日とする。

(2) 後期納付期限 9 月 30 日

ただし、卒業又は大学院修了対象者のうち卒業又は修了できなかった者については、10 月 31 日とする。

3 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者の学納金に関する納付期限は、当該各号のとおりとする。

(1) 新入生の入学金及び前期分学納金 入学手続時

(2) 休学学生の学納金 休学手続時

(納付期限の延長)

第 4 条 前条第 2 項に規定する納付期限までに学納金の納付ができない学生には、学長が認めた場合に限り、納付期限の延長を許可する。

2 前項の許可を受けようとする者は、保証人と連署のうえ、願いを原則として納付期限までに学長宛に提出しなければならない。

3 納付期限の延長は、次の期日を限度とする。

(1) 前期延長納付期限 5 月 31 日

(2) 後期延長納付期限 11 月 30 日

4 前条第 3 項の規定にかかわらず、特別な事情がある場合には、学長の許可を得て、納付期限の期日を延長することができる。

(催告)

第 5 条 学納金の滞納に対する催告は、次のとおり行う。ただし、前条第 2 項及び第 4 項により、納付期限の延長を許可された者は除く。

(1) 納付期限から 1 週間後に文書により催告する。

(2) 前号の催告を受けてもなお納付がない場合は、納付期限から 3 週間後に配達記録付きの郵便に

より催告する。

(除籍)

第 6 条 次の各号の一に該当する者は、学則第 33 条第 4 号又は大学院学則第 36 条第 4 号により除籍する。

- (1) 前条の催告を受けてもなお納付しない者
- (2) 第 4 条第 2 項に規定する手続を納付期限から 1 か月以内に行わない者
- (3) 第 4 条第 3 項に規定する延長納付期限までに納付しない者

附 則

<省 略>

大同大学提携教育ローン規程

(平成 26 年 10 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 大同大学（以下「本学」という。）に、経済的理由により学生納付金の納付が困難な学生に対し、別に定める金融機関（以下「提携金融機関」という。）と本学が契約する教育ローン（以下「提携教育ローン」という。）制度を設ける。

(資格)

第 2 条 提携教育ローンを利用できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学部又は大学院に在籍する正規学生の保護者（父母又はそれに準ずる者）
- (2) 学部又は大学院の正規課程に入学を予定する者の保護者（父母又はそれに準ずる者）

(利用限度額)

第 3 条 提携教育ローンの一回当たりの利用金額は、前期又は後期の学生納付金額を上限とする。
2 累計利用金額の上限は、提携金融機関との契約による。

(利子)

第 4 条 提携教育ローンの利子は、提携金融機関との契約による。

(返済)

第 5 条 提携教育ローンの利用者は、提携金融機関に元金及び利子を返済しなければならない。

(申請)

第 6 条 提携教育ローンの利用を希望する者は、所定の手続きにより申請し、学長の承認を得なければならない。

(所管事務)

第 7 条 提携教育ローンに関する事務は、学生室が行う。

附 則

<省 略>

大同大学科目等履修生等の納付金等に関する規程

(平成 12 年 10 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学科目等履修生規程第 6 条第 2 項、大同大学特別聴講学生規程第 10 条、大同大学研究生規程第 6 条第 2 項、大同大学大学院科目等履修生規程第 6 条第 2 項、大同大学大学院研究生規程第 6 条第 2 項、大同大学大学院特別聴講学生規程第 9 条第 1 項及び大同大学大学院特別研究学生規程第 7 条第 1 項の規定に基づく入学検定料及び納付金並びに大同大学委託学生及び委託生規程第 7 条第 2 項の規定に基づく入学検定料及び委託費については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 科目等履修生、特別聴講学生及び研究生の納付金とは、登録料及び授業料をいう。
2 委託学生及び委託生の委託費とは、入学金、授業料、及び施設設備費をいう。

(金額)

第 3 条 入学検定料、納付金及び委託費の金額は、別表のとおりとする。

(納付方法)

第 4 条 納付金及び委託費の納付方法は、銀行振込とする。

(納付期限)

第 5 条 納付金及び委託費の納付期限は、前期にあつては 4 月末日、後期にあつては 10 月末日とし、納付期限日が銀行の休業日に当たる場合は、翌営業日をもつてその期限とする。

(入学検定料等の返付)

第 6 条 すでに納付した入学検定料、納付金及び委託費は、原則として返付しない。

(入学検定料及び納付金の免除)

第 7 条 科目等履修生及び研究生について、大同工業大学若しくは大同大学の卒業生又は大同工業大学大学院若しくは大同大学大学院の修了生の場合は、届出により登録料を免除する。

2 大同大学科目等履修生規程第 2 条第 1 項第 2 号に規定する者及び大同大学大学院 学部学生の大学院授業科目の早期履修に関する規程第 2 条第 1 項に規定する者については原則、入学検定料及び納付金を免除する。

附 則

<省略>

別表 入学検定料及び納付金並びに委託費

(1) 科目等履修生

納付金等		金 額	
		学 部	大学院
入学検定料		10,000 円	10,000 円
納付金	登録料	30,000 円	30,000 円
	授業料 (1 単位当たり)	20,000 円	20,000 円

(2) 特別聴講学生

納付金等		金 額	
		学 部	大学院
入学検定料		原則として徴収しない	
納付金	登録料		
	授業料		

(3) 研究生

納付金等		金 額	
		学 部	大学院
入学検定料		10,000 円	10,000 円
納付金	登録料	50,000 円	50,000 円
	授業料	305,000 円	305,000 円

(4) 特別研究学生

納付金等		金 額	
		大学院	
入学検定料		原則として徴収しない	
納付金	登録料		
	授業料		

(5) 委託学生

入学検定料と委託費は、入学年度に係る学部学生の「入学検定料」及び「学生納付金」と同額とする。

(6) 委託生

入学検定料と委託費は、入学年度に係る学部学生の「入学検定料」及び「学生納付金」と同額とする。ただし、「入学金」については、1 年委託生は 4 分の 1、2 年委託生は 2 分の 1 の額とする。

大同大学学位規程

(平成 2 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学位規則(昭和 28 年文部省令第 9 号)第 13 条及び大同大学学則(以下「学則」という。) 第 19 条第 3 項並びに大同大学大学院学則 (以下「大学院学則」という。) 第 22 条第 3 項の規定に基づき、大同大学 (以下「本学」という。) が授与する学位について必要事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

学 部

工学部 工学

情報学部 情報

大学院 工学研究科

修士課程

機械工学専攻 工学

電気・電子工学専攻 工学

建築学専攻 工学

都市環境デザイン学専攻 工学

博士後期課程

材料・環境工学専攻 工学

大学院 情報学研究科

修士課程

情報学専攻 情報

(学士の学位授与の要件)

第 3 条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第 4 条 修士の学位は、本学大学院の修士課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第 4 条の 2 博士の学位は、本学大学院の博士課程後期 3 年の課程(以下「博士後期課程」という。) を修了した者に授与する。

2 前項に定める者のほか、大学院学則第 22 条第 2 項の定めるところにより、学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを認めた者に博士の学位を授与する。

(学位論文の提出)

第 5 条 本学大学院修士課程の学位論文(以下「修士論文」と称する。) 及び博士後期課程の学位論文(以下「博士論文」と称する。) は、学長に提出するものとする。

2 本学大学院修士課程及び博士後期課程における修士論文及び博士論文を提出できる者は、修了に必要な在学期間を満たした者又は見込みの者で課程修了に必要な所定の単位を修得した者又は修得見込みの者で、かつ必要な研究指導を受けた者でなければならない。

3 前条第 2 項の規定により学位の授与を申請する者は、学位審査申請書に履歴書、論文目録、論文内容要旨及び第 13 条第 1 項に定める論文審査手数料を添えて、博士論文を学長に提出するものとする。

4 提出論文は、一編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

5 受理した論文は、返付しない。

(審査の付託)

第 6 条 修士論文及び博士論文を受理したとき大学院教授会は、大学院担当教員より審査委員を選出し、審査委員会を組織する。

(論文審査及び試験)

第 7 条 審査委員会は、修士論文及び博士論文の審査並びに試験を担当する。

(審査結果の報告)

第 8 条 審査委員会は、論文の審査及び試験を終了したとき、その結果を文書をもって大学院教授会に報告しなければならない。

(大学院教授会の議決)

第 9 条 所定の単位を修得し研究指導を受けた者に対して、大学院教授会は、前条の報告に基づいて審議し、学位授与の認定について議決する。

(学位の授与)

第 10 条 学長は、前条に基づいて、学位を授与できると認めた者に対し学位記を授与し、学位を授与できない者に対しては、その旨を本人に通知する。

(学位論文要旨等の公表)

第 10 条の 2 本学において博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から 3 か月以内に、当該博士の学位授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第 10 条の 3 本学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、本学において博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前 2 項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

4 前 3 項の規定により当該学位論文を公表する場合には、本学において審査した論文である旨を明記するものとする。

(学位の名称)

第 11 条 学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、大同大学を付記するものとする。

2 学位記の様式は、別記様式第 1 号、第 2 号、第 3 号及び第 4 号とする。

(学位授与の取消し)

第 12 条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があつたとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、学士の学位にあっては教授会、修士及び博士の学位にあ

っては大学院教授会の審議を経て、学位の授与を取消し、学位記を返付させる。
(論文審査手数料)

第 13 条 第 5 条第 2 項に定める論文審査手数料は、次のとおりとする。

150,000 円

2 納付した論文審査手数料は、返付しない。

(その他)

第 14 条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

別記様式第 1 号 サイズ (A4)

第 号	
学 位 記	
大学印	(氏名)
年 月 日生	
本学〇〇学部〇〇学科所定の課程を 修め本学を卒業したので学士 (〇〇) の 学位を授与する	
年 月 日	
同大学長 氏 名	印

別記様式第 2 号 サイズ (A4)

修第 号	
学 位 記	
大学印	(氏名)
年 月 日生	
本学大学院〇〇学研究科修士課程 〇〇〇専攻の課程を修了したので修士 (〇〇) の学位を授与する	
年 月 日	
大同大学長 氏 名	印

別記様式第 3 号 サイズ (A3)

博第 号	大同大学長 氏 名	印	学位記
年 月 日		大学印	(氏名)
博士 (工学) の学位を授与する		年 月 日生	
本学大学院工学研究科博士後期課程 〇〇〇専攻の課程を修了したので			

別記様式第 4 号 サイズ (A3)

論博第 号	大同大学長 氏 名	印	学位記
年 月 日		大学印	(氏名)
博士 (工学) の学位を授与する		年 月 日生	
本学大学院工学研究科に学位論文を 提出し所定の審査及び試験に合格し たので博士 (工学) の学位を授与する			

大同大学学生の厚生補導に関する規程

(平成 23 年 9 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 50 条の規定に基づく学生の厚生補導については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 学生の厚生補導とは、次の各号に掲げる事項について指導、助言等を行うことをいう。

- (1) 修学に関する事
- (2) 課外活動に関する事
- (3) 保健に関する事
- (4) 学生相談に関する事
- (5) 奨学に関する事
- (6) 福利厚生に関する事
- (7) 就職指導に関する事
- (8) その他厚生補導に関する事

2 指導教員とは、前項に規定する指導、助言等を行う教員をいう。

(指導教員)

第 2 条の 2 本学の学部及び大学院に、学生ごとに指導教員を置く。

2 指導教員は、本学の専任教員をもって充てる。

(学部の指導教員)

第 2 条の 3 学部の指導教員は、主指導教員と副指導教員とする。

(大学院の指導教員)

第 2 条の 4 大学院の指導教員は、研究指導担当教員をもって充てるものとする。ただし、研究指導担当教員が大学院客員教授の場合にあっては、別に定めるところによる。

(学部学生の厚生補導の実施体制)

第 3 条 学部学生の厚生補導は、学長が指名する副学長が統括及び調整する。

2 学部学生の厚生補導は、学生部長が掌理するものとする。

3 学部学生の厚生補導は、指導教員が行うものとする。

4 主指導教員及び副指導教員の役割分担並びに両者が指導する学生の割り振りについては、別に定める。

5 指導教員が行う学部学生の厚生補導に係る支援及び事務取扱は、第 2 条第 1 項第 1 号にあっては教務室が、同第 2 号から第 6 号にあっては学生室が、同第 7 号にあってはキャリア支援室が、それぞれ行う。

(大学院学生の厚生補導の実施体制)

第 3 条の 2 大学院学生の厚生補導は、学長が指名する副学長が統括及び調整する。

2 大学院学生の厚生補導は、大学院研究科長が掌理するものとする。

3 大学院学生の厚生補導は、指導教員が行うものとする。

4 指導教員が指導する学生の割り振りについては、別に定める。

5 指導教員が行う大学院学生の厚生補導に係る支援及び事務取扱は、第 2 条第 1 項第 1 号にあっては教務室が、同第 2 号から第 6 号にあっては学生室が、同第 7 号にあってはキャリア支援室が、それぞれ行う。

(厚生補導の事務取扱主管室)

第 3 条の 3 学生の厚生補導の事務取扱主管室は、学生室とする。

(雑則)

第 4 条 この規程に定めるもののほか、学生の厚生補導に関し必要な事項は、学部学生にあつては大学運営委員会の、大学院学生にあつては大学院運営委員会の審議を経て、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学貸与奨学規程

(平成 9 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 37 条第 2 項に基づく学業奨励のために、修学心が旺盛でありながら経済的事由により修学困難な学生に対し、奨学金を貸与し、学業の継続を支援することを目的とする貸与奨学については、この規程の定めるところによる。

(種類)

第 2 条 奨学貸与の奨学生(以下「奨学生」という。)の種類は、一般貸与奨学生及び緊急時貸与奨学生とする。

(資格)

第 3 条 奨学生の資格は、経済的事由により修学困難のため、奨学金の貸与が必要であると認められる者のうち、次の条件を充たす者とする。

- (1) 一般貸与奨学生:日本学生支援機構又はその他諸団体の奨学生でない者
- (2) 緊急時貸与奨学生:学生納付金の延納が許可されている者で、かつ日本学生支援機構又は大同大学が紹介する教育ローン制度に申請した者のうち、学生納付金の延長納付期限までに納付できないことが見込まれる者

(奨学金及び利息)

第 4 条 奨学金は無利息とし、その貸与額は、次のとおりとする。

- (1) 一般貸与奨学生:月額 30,000 円
- (2) 緊急時貸与奨学生:学則第 35 条の 2 第 2 項別表(5)に定める授業料、施設設備費及び実験実習費の年額の 2 分の 1 相当額

(貸与期間等)

第 5 条 一般貸与奨学生の貸与期間は、採用時から最短修業年限までとする。

2 緊急時貸与奨学生への貸与は、在籍期間中の 1 学期限りとする。

(採用人員)

第 6 条 奨学生の採用人員は、次のとおりとする。

- (1) 一般貸与奨学生:各年次 12 名以内
- (2) 緊急時貸与奨学生:毎年度 12 名程度

(申請手続)

第 7 条 奨学生を希望する者は、所定の申請書及び必要とする書類を添えて、学長に願い出るものとする。

(選考)

第 8 条 奨学生の選考は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

(誓約書)

第 9 条 奨学金の貸与が決定された者は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(借用証書)

第 10 条 奨学生が次の事由に該当するときは、奨学金借用証書を学長に提出しなければならない。

- (1) 一般貸与奨学生:大学を卒業又はその他の事由により奨学生の資格を失ったとき
 - (2) 緊急時貸与奨学生:奨学生決定通知を受けたとき
- (打切)

第 11 条 奨学生が次の各号の一に該当するときは、学長は奨学金の貸与を打ち切ることができる。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき
 - (2) 学則違反をしたとき
 - (3) 学業成績又は性行が不良となつたとき
 - (4) 第 3 条第 1 号の規定により、奨学生となることができなくなつたとき
 - (5) その他奨学生として、適当でないと認められる事由が生じたとき
- (返還)

第 12 条 奨学生は、大学の籍を離れた翌年度から奨学金の返還を行うものとする。

2 返還期間は、次の各号のとおりとする。

- (1) 一般貸与奨学生: 10 年以内
 - (2) 緊急時貸与奨学生: 5 年以内
- (届出)

第 13 条 奨学生又は奨学生であつた者が次の各号に該当するときは、遅滞なく届け出なければならぬ。

- (1) 休学、退学又は復学しようとするとき
 - (2) 奨学金を辞退しようとするとき
 - (3) 本人又は連帯保証人の氏名、住所、その他重要な事項に変更があつたとき
- (免除と猶予)

第 14 条 奨学生が著しい障害その他重大な理由又は死亡により、奨学金を返還することが困難となつた場合には、学長は、本人又は連帯保証人の願い出により、第 12 条の規定にかかわらず、その返還額の全部又は一部を免除又は猶予することができる。

(細則)

第 15 条 この規程の実施に関する必要な細則は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学新型コロナウイルス感染症に係る緊急時貸与奨学規程

(2020 年 5 月 19 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則第 37 条第 2 項及び大同大学大学院学則第 40 条第 2 項に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響によって修学が困難となる大同大学の学部及び大学院の学生に対する貸与奨学（以下「貸与奨学」という。）について、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 貸与奨学は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う家計の急変によって、修学が困難となる大同大学の学部及び大学院の学生に対し奨学金を貸与することにより、当該学生の学業継続を図ることを目的とする。

(資格)

第 3 条 貸与奨学による奨学金（以下「奨学金」という。）を受けることができる者の資格は、新型コロナウイルス感染症の影響による家計急変により修学が困難となると学長が認めた者とする。

(奨学金の額及び利息)

第 4 条 奨学金の額は、次の各号のとおりとする。

(1) 自宅通学者：月額 54,000 円

(2) 自宅外通学者：月額 64,000 円

2 奨学金は、無利息とする。

(支給する期間)

第 5 条 奨学金を支給する期間は、2021 年 4 月から 2022 年 3 月までとする。

(貸与人員)

第 6 条 奨学金の貸与人員は、定めない。

(申請手続)

第 7 条 奨学金の貸与を希望する者は、所定の申請書に必要とする書類を添えて、学長に願い出るものとする。

(選考)

第 8 条 前条により願い出た者の選考は、学部の学生にあつては学生委員会、大学院の学生にあつては大学院運営委員会が行う。

2 学長は、前項の選考結果を踏まえ、奨学金の貸与を受ける者を決定する。

(誓約書)

第 9 条 奨学金の貸与を受ける者（以下「奨学生」という。）は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(借用証書)

第 10 条 奨学生は、卒業又は修了したとき又は次条により奨学金の貸与を打ち切られたときは、奨学金借用証書を学長に提出しなければならない。

(打切)

第 11 条 奨学生が次の各号の一に該当するときは、学長は、第 5 条の規定にかかわらず奨学金の貸与を打ち切ることができる。

(1) 休学、退学又は除籍のとき

(2) 学則に基づく懲戒を受けたとき

(3) その他奨学生として、適当でないと認められる事由が生じたとき

(返還)

第 12 条 奨学生は、大学の籍を離れた翌年度から奨学金の返還を行うものとする。

2 返還期間は、5 年以内とする。

(届出)

第 13 条 奨学生又は奨学生であった者が次の各号に該当するときは、遅滞なく届け出なければならない。

(1) 休学、退学又は復学しようとするとき

(2) 奨学金を辞退しようとするとき

(3) 本人又は連帯保証人の氏名、住所、その他重要な事項に変更があったとき

(免除と猶予)

第 14 条 奨学生が著しい障害その他重大な理由又は死亡により、奨学金を返還することが困難となった場合には、学長は、本人又は連帯保証人の願い出により、第 12 条の規定にかかわらず、その返還額の全部又は一部を免除又は猶予することができる。

(細則)

第 15 条 この規程の施行に際し必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学新型コロナウイルス感染症に係る緊急時貸与奨学規程施行細則

(2020 年 6 月 5 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この細則は、大同大学新型コロナウイルス感染症に係る緊急時貸与奨学規程第 15 条の規定に基づき、同規程の施行に際し必要な事項を定める。

(申請書類及び時期)

第 2 条 所定の申請書及び必要とする書類は、次の各号のとおりとし、申請の時期は、家計急変事由発生日から 3 ヶ月以内とする。

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る緊急時貸与奨学申込書

(2) 事由発生に関する証明書類（国及び地方公共団体が実施する公的支援の受給証明書若しくはこれに類すると認められる公的証明書）

(3) その他大同大学が必要とする書類

(選考方法)

第 3 条 奨学金を願い出た者の選考は、申請書類等に基づき、総合的に行う。

(決定通知)

第 4 条 学長は、奨学金の貸与を受ける者（以下「奨学生」という。）を決定したとき、奨学生及び連帯保証人（以下「奨学生等」という。）に、文書により通知する。

(誓約書等)

第 5 条 奨学生は、前条により通知を受けた日から 10 日以内に、別に定める誓約書及び奨学金振込口座届を学長に提出しなければならない。

2 奨学金振込口座届に記載する口座は、奨学生の名義としなければならない。

(支給方法)

第 6 条 奨学金は、奨学金振込口座届に基づき、毎月 20 日に振り込むものとする。ただし、当日が当該金融機関の休業日に当たるときは、その前日とする。

(打切通知)

第 7 条 学長は、奨学金の支給を打ち切ったときは、奨学生等に文書により通知する。

(返還方法)

第 8 条 奨学金の返還期間及び返還月賦額は、元金均等割とする。ただし、許可を得て返還期間の短縮又は返還時期の繰り上げを行うことができる。

2 奨学金の返還は、金融機関の預金口座振替により、毎月 12 日に振り替えるものとする。当日が当該金融機関の休業日に当たる場合は、翌営業日とする。

3 奨学生は、前項に規定する預金口座振替に当たり、あらかじめ預金口座振替依頼書を提出しなければならない。

4 奨学金の返還を一部免除又は猶予された者の返還方法は、別に定める。

(延滞金)

第 9 条 奨学生であった者が、正当な理由がなく返還額を滞納したときは、返済期日を 6 ヶ月経過する毎に、滞納額に対して年率 5%の延滞金を課すものとする。

2 前項に規定する延滞金は、日割計算とし、利息は課さないこととする。

(返還の督促)

第 10 条 奨学生であった者が、返還額を滞納したときは督促する。

2 前項に規定する督促は、次の各号の一に該当するときは、その者の連帯保証人にも行う。

- (1) 奨学生であった者が所在不明のとき
- (2) 奨学生であった者が返還を行わないとき
- (3) その他学長が必要と認めたとき

3 前 2 項のほか督促に関し必要な事項は、別に定める。

(未返還額の経理処理)

第 11 条 前条により督促を行ってもなお未返還額が徴収できない場合の経理処理については、別に定める。

(所管)

第 12 条 奨学生に関する事務は、学生室が行う。

附 則

第 1 条 この細則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

大同大学貸与奨学規程細則

(平成 9 年 4 月 1 日制定)

(趣 旨)

第 1 条 大同大学貸与奨学規程(以下「奨学規程」という。)第 15 条の規程に基づく貸与奨学の実施に関する必要な事項については、この細則の定めるところによる。

(申請書類)

第 2 条 一般貸与奨学生(以下「一般奨学生」という。)及び緊急時貸与奨学生(以下「緊急時奨学生」という。)の申請に必要な書類は、次のとおりとする。

(1) 貸与奨学申請書

(2) 所得を証する書類

(3) その他大学が必要とする書類

なお、緊急時奨学生は、緊急に貸与を必要とする事実を証する書類を添付するものとする。

(申請時期)

第 3 条 奨学生の申請時期は、次のとおりとする。

(1) 一般奨学生 : 毎年 4 月とする。ただし、採用人員に余裕がある場合は、10 月に実施する。

(2) 緊急時奨学生 : 毎年 5 月及び 11 月とする。

(選考方法)

第 4 条 奨学規程第 8 条に定める奨学生の選考の方法は、次のとおりとする。

(1) 一般奨学生 : 日本学生支援機構奨学生推薦基準を準用する。

(2) 緊急時奨学生 : 日本学生支援機構の選考基準項目に関する評価点の算出方法を準用し、かつ申請書類、成績等を参考に、総合的に判断する。

(決定通知)

第 5 条 学長は、奨学生として採用を決定したときは、本人と連帯保証人に、文書をもって通知する。

(誓約書)

第 6 条 奨学生決定の通知を受けた者は、通知を受けた日から 10 日以内に誓約書を学長に提出しなければならない。

(貸与方法)

第 7 条 奨学金の貸与方法は、次のとおりとする。

(1) 一般奨学生 : 奨学金は、毎月 20 日に学生本人名義の銀行口座に振り込む。ただし、当日が銀行休業日に当たるときは、その前日とする。なお、奨学金の振込口座は必ず学生本人の名義とし、採用決定の際振込口座届を提出しなければならない。

(2) 緊急時奨学生 : 奨学金は、学生納付金納入時に学生納付金に充当することとする。

(打切通知)

第 8 条 学長は、奨学金の貸与を打ち切ったときは、本人と連帯保証人に文書をもって通知する。

(返還方法)

第 9 条 奨学規程第 12 条に定める貸与額(以下「返還額」という。)の返還期間及び返還月賦額は、別表の定めるところにより、元金均等割とし、毎月 16 日に郵便局又は銀行の預貯金口座振替によって返還する。当日が金融機関の休業日の場合は、翌営業日とする。

2 本人の都合により返還期間の短縮又は返還時期の繰り上げを行うことができる。

3 返還を猶予された者の返還方法は、その都度定める。

(振替案内)

第 10 条 本人又は連帯保証人に、毎年 4 月に返還額の残額と次回振替額を記した振替案内を送付する。

(延滞利息)

第 11 条 奨学生であった者が、正当な理由がなく返還額を延滞したときは、返済期日を 6 か月経過する毎に、延滞した額の 5% (年額) 日割計算を延滞利息として徴収する。なお、延滞利息には、利息を課さないこととする。

(返還の督促)

第 12 条 奨学生であった者が、正当な理由がなく返還額を延滞したときは督促する。

2 前項の規定による督促は、次の各号の一に該当するときは、その者の連帯保証人にも行う。

(1) 奨学生であった者の住所の変更の届出がない等の理由により、その所在が不明のとき。

(2) 前項の規定による督促を重ねても奨学生であった者が返還を行わないとき。

(3) その他の事情があるとき。

3 督促に関する事務の詳細は、別の要領に定める。

(返還の強制)

第 13 条 奨学生であった者又は連帯保証人が、前条の規定による督促にも応じず、返還額を著しく延滞したときは、法令の定める手続きにより、未返還額を返還請求するものとする。

(返還額の未納処理))

第 14 条 返還額の未納処理については、別の基準に定める。

(所 管)

第 15 条 奨学生に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学業奨励生規程

(平成9年4月1日制定)

(目的)

第1条 大同大学学生の学業奨励のために学業奨励生規程を定める。

(資格)

第2条 学業奨励生(以下「奨励生」という。)の資格は、大同大学に在学する学生で、学業、人物共に優れ、他の学生の模範とするに足るものとする。

(奨励金)

第3条 奨励金は、1万円とし、相当額の金品を贈る。

(期間)

第4条 奨励生の期間は、1年とし、選考により継続することができる。

(人数)

第5条 奨励生の人数は、別に定める。

(選考)

第6条 奨励生の選考は、第2条の資格を有する者のうちから、学科の推薦により、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

(事務局)

第7条 奨学生に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学業奨励生規程細則

(平成9年4月1日制定)

(対象)

第1条 学業奨励生(以下「奨励生」という。)の対象年次は、2年次生、3年次生、4年次生とする。

(採用人員)

第2条 奨励生の採用人員は、各学科(専攻・コース)、各年次上位1割以内とする。

(選考)

第3条 奨励生は、前年度における学業成績及び人物評価の総合評価により、選考する。成績基準は、別に定める。

(決定時期)

第4条 奨励生の決定時期は、毎年度始めとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学入学時特別奨学規程

(平成 13 年 2 月 26 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づく学業奨励及び優秀な人材の育成を目的とする入学時特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(資格)

第 2 条 入学時特別奨学金(以下「特別奨学金」という。)を受けることができる者(以下「特奨生」という。)の資格は、次のとおりとする。

- (1) 特別奨学生・M 方式入学試験、前期入学試験又は大学入学共通テスト利用入学試験において、特に優秀な成績であること
- (2) 学力が優秀であること
- (3) 心身ともに健康であること

(特別奨学金の額)

第 3 条 特別奨学金は、次のとおりとする。

第 1 種 授業料及び施設設備費の全額

第 2 種 年額 60 万円

(特別奨学金の給付)

第 4 条 特別奨学金の給付期間は、入学年度から最短修業年限とする。

2 給付の方法は、学生納付金納入時に、前条の額を免除することとする。なお、第 2 種においては、施設設備費を優先して免除することとする。

(採用人員)

第 5 条 特奨生の採用人員は、次のとおりとする。

第 1 種 10 名程度

第 2 種 40 名程度

(選考及び採用)

第 6 条 特奨生の選考は、入試委員会が行う。

2 特奨生の採用は、前項の選考結果に基づき、入試委員会の審議を経て、学長が決定する。

3 特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(誓約書)

第 7 条 特奨生として入学が決定した者は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(取消し等)

第 8 条 特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき
- (2) 学則違反をしたとき
- (3) 出席状況が特奨生として不良と判断したとき

2 特奨生の学業成績が特奨生として不振と判断したときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格の取消し等を行うものとする。

(停止・返還)

第 9 条 前条の規程により特奨生の資格を取消したときは奨学金の給付を停止し、事情によつては、当該期の交付額を返還させることがある。

2 特奨生が疾病又は経済的事由等によりやむを得ず休学する場合は、奨学金の給付を停止し、復学したときに奨学金の給付を復活する。

(雑則)

第 10 条 この規程の施行に関し必要な事項は、入試委員会の審議を経て、学長がこれを定める。

(事務)

第 11 条 選考に関する事務は、入試・広報室が行い、以降の事務は学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学入学時スポーツ特別奨学規程

(平成 14 年 11 月 20 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づくスポーツクラブの強化及び活性化を目的とする入学時スポーツ特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(種類)

第 2 条 入学時スポーツ特別奨学の奨学金(以下「入学時スポーツ奨学金」という。)を受けることができる者(以下「入学時スポーツ特奨生」という。)の種類は、次のとおりとする。

- (1) 第 1 種入学時スポーツ特奨生
- (2) 第 2 種入学時スポーツ特奨生

(資格)

第 3 条 入学時スポーツ特奨生の資格は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校におけるスポーツ競技歴が特に優秀であり、かつ学業成績優秀で本学が実施する クラブ 推薦入学試験による入学者
- (2) 人物に優れ、他の学生の模範となる者

(入学時スポーツ奨学金の額)

第 4 条 入学時スポーツ奨学金は、次のとおりとする。

- (1) 第 1 種入学時スポーツ特奨生:年額 60 万円とする。
- (2) 第 2 種スポーツ特奨生:入学金の全額

(入学時スポーツ奨学金の給付)

第 5 条 入学時スポーツ奨学金の給付期間は、次のとおりとする。

- (1) 第 1 種入学時スポーツ特奨生:入学時から最短修業年限
- (2) 第 2 種入学時スポーツ特奨生:入学時

2 給付の方法は、学生納付金納入時に、前条の額を免除することとする。なお、第 1 種においては、施設設備費を優先して免除することとする。

(採用人員)

第 6 条 入学時スポーツ特奨生の採用人員は、毎年若干名とする。

(選考及び採用)

第 7 条 入学時スポーツ特奨生の選考は、入試委員会が行う。

2 入学時スポーツ奨学生の採用は、前項の選考結果に基づき、入試委員会の審議を経て、学長が決定する。

3 入学時スポーツ特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(誓約書)

第 8 条 入学時スポーツ特奨生として採用が決定した者は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(取消)

第 9 条 第 1 種入学時スポーツ特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき

(2) 学則違反をしたとき

(3) 学業成績が入学時ｽﾎｰﾂ特奨生として不振と判断したとき

(4) 当該ｸﾗﾌﾞを退部したとき

(5) 当該ｸﾗﾌﾞの顧問及び監督が入学時ｽﾎｰﾂ特奨生として不適当であると判断したとき

2 前項第1号について、疾病又は経済的事由等によりやむを得ず休学する場合は、入学時ｽﾎｰﾂ奨学金の給付を停止し、復学したときに奨学金の給付を復活する。

(停止・返還)

第10条 前条の規定により入学時ｽﾎｰﾂ特奨生の資格を取消したときは、事情によっては、当該期の交付額を返還させることがある。

(雑則)

第11条 この規程の施行に関し必要な事項は、入試委員会の審議を経て、学長がこれを定める。

(事務)

第12条 選考に関する事務は、入試・広報室が行い、以降の事務は学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学在学生学業特別奨学規程

(平成 18 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づく学業奨励及び優秀な人材の育成を目的とする在 student 学業特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(資格)

第 2 条 在 student 学業特別奨学金(以下「在 student 特別奨学金」という)を受けることができる者(以下「在学特奨生」という)の資格は、次のとおりとする。

- (1) 2 年次、3 年次及び 4 年次に在学する学生で、学業、人物共に優れ、他の学生の模範となるに足ること
- (2) 入学時特別奨学生に採用されていないこと
- (3) 4 年次生については、卒業研究履修基準を充足していること

(在 student 特別奨学金の額)

第 3 条 在 student 特別奨学金は、年間 12 万円とする。

(在 student 特別奨学金の給付)

第 4 条 在 student 特別奨学金の給付期間は 1 年とする。

2 在 student 特別奨学金は採用後に、前条の額を給付する。

(採用人員)

第 5 条 採用人員は、若干名とする。

(選考)

第 6 条 在学特奨生の選考は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

2 在学特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(取消)

第 7 条 在学特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき
- (2) 学則違反をしたとき

(返還)

第 8 条 前条の規定により在学特奨生の資格を取消したときは、事情によっては、当該期の交付額を返還させることがある。

(補則)

第 9 条 この規程の施行に関する必要な事項は、学長がこれを定める。

(事務)

第 10 条 選考に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学在学生スポーツ特別奨学規程

(平成 18 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づくスポーツクラブの強化及び活性化を目的とする在学生スポーツ特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(資格)

第 2 条 在学生スポーツ特別奨学の奨学金(以下「在学生スポーツ奨学金」という)を受けることができる者(以下「在学生スポーツ特奨生」という)の資格は、次のとおりとする。

- (1) 入学後にスポーツ競技成績が特に優秀かつ学業に意欲があり、クラブの顧問及び監督の推薦する者
- (2) 入学時スポーツ特別奨学生に採用されていない者
- (3) 人物に優れ、他の学生の模範となる者

(在学生スポーツ奨学金の額)

第 3 条 在学生スポーツ奨学金は、年間 22 万円とする。

(在学生スポーツ奨学金の給付)

第 4 条 在学生スポーツ奨学金の給付期間は、採用年度から最短修業年限とする。

2 在学生スポーツ奨学金は採用後に、前条の額を給付する。

(採用人員)

第 5 条 在学生スポーツ特奨生の採用人員は、毎年若干名とする。

(選考)

第 6 条 在学生スポーツ特奨生の選考は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

2 在学生スポーツ特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(取消)

第 7 条 在学生スポーツ特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき
- (2) 学則違反をしたとき
- (3) 学業成績が在学生スポーツ特奨生として不振と判断したとき
- (4) 当該クラブを退部したとき
- (5) 当該クラブの顧問及び監督が在学生スポーツ特奨生として不適当であると判断したとき

2 前項第 1 号について、疾病又は経済的事由等によりやむを得ず休学する場合は、在学生スポーツ奨学金の給付を停止し、復学したときに奨学金の給付を復活する。

(返還)

第 8 条 前条の規定により在学生スポーツ特奨生の資格を取消したときは、在学生スポーツ奨学金の給付を停止し、事情によっては、当該期の交付額を返還させることがある。

(補則)

第 9 条 この規程の施行に関する必要な事項は、学長がこれを定める。

(事務)

第 10 条 選考に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学私費外国人留学生学生納付金減免に関する規程

(平成 5 年 4 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 向学の意思を有しながら、経済的理由により修学が困難であると認められる私費外国人留学生(以下「私費留学生」という。)に、経済的負担を軽減することを目的としてこの規程を定める。

(対象者)

第 2 条 大同大学学則第 43 条又は大同大学大学院学則第 45 条により入学を許可された私費留学生を対象とする。ただし、次の各号の一に該当する者を除く。

(1) 学業継続の意思がないと認められる者

(2) 学業成績が不振で、成業の見込みがないと認められる者

(3) 3 年次生から 4 年次生に進級する際に、卒業研究履修基準に満たない者、ただし、病気その他やむを得ない事由により卒業研究履修基準に満たない者は除く。

(4) 経済的に修学が困難と認められない者。

2 前項第 4 号において、経済的に修学が困難と認められない者とは、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 仕送りが平均月額 90,000 円(学生納付金として仕送られた額を除く)を越える者

(2) 在日している扶養者の年収が 500 万円以上の者

(減免額)

第 3 条 学生納付金の減免額は、学部又は大学院の当該授業料年額の 3 割相当額とする。

(期間)

第 4 条 減免期間は、申請した当該年度とする。

(手続)

第 5 条 授業料の減免を受けようとする者は、所定の申請書を学長に提出しなければならない。

2 減免を受けようとする者は、毎年度申請しなければならない。

(選考及び決定)

第 6 条 私費留学生に対する減免の選考は、面接及び書類審査により行う。

2 選考は、学部の場合にあつては学生部長が、大学院の場合にあつては大学院研究科長が、それぞれ行う。

3 減免者の決定は、前項の選考結果に基づき、学部にあつては学生委員会の、大学院にあつては大学院運営委員会の審議を経て、学長が行う。

(取消)

第 7 条 学生としての本分に著しく反した行為があつた場合、減免を取り消す。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生表彰規程

(昭和 63 年 3 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 38 条第 2 項に基づく学生の表彰(以下「表彰」という。)については、この規程の定めるところによる。

(表彰の種類)

第 2 条 表彰の種類は、次の各号のとおりとする。

- (1) 大同大学学長賞
- (2) 大同大学奨励賞

(対象)

第 3 条 大同大学学長賞(以下「学長賞」という。)は、最高年次に在籍する学生で、次の各号の一に該当する個人又は団体に対して授与する。

- (1) 学業、人物共に優れ、他の学生の模範と認められたもの
- (2) 課外活動において、特に優秀な成績をおさめたもの
- (3) 研究活動において、特に顕著な業績をおさめたもの
- (4) 特に顕著な功績、善行があつたもの

2 大同大学奨励賞(以下「奨励賞」という。)は、次の各号の一に該当する個人又は団体に対して授与する。

- (1) 課外活動において、優秀な成績をおさめたもの
- (2) 研究活動において、顕著な業績をおさめたもの
- (3) 顕著な功績、善行があつたもの

(授与人数等の制限)

第 4 条 学長賞は、授与するものの数を制限しない。ただし、前条第 1 項第 1 号については、各学科 2 名以内とし、専攻を有する学科については、各専攻 1 名以内の者に授与する。

2 奨励賞は、授与するものの数を制限しない。

3 賞を授与する回数は、制限しない。ただし、学長賞にあつては在学中 1 回とする。

(決定)

第 5 条 表彰は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

(委任)

第 6 条 前 4 条に規定するほか、表彰の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生表彰規程実施細則

(昭和 63 年 3 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学生表彰規程(以下「表彰規程」という。)第 6 条に基づく大同大学の学生の表彰(以下「表彰」という。)の実施に関し必要な事項については、この細則の定めるところによる。

(表彰の種類等)

第 2 条 表彰の種類は、表彰規程の定めるところにより、次の各号のとおりとする。

- (1) 大同大学学長賞
- (2) 大同大学奨励賞

(対象)

第 3 条 大同大学学長賞(以下「学長賞」という。)は、最高年次に在籍する学生で、表彰規程の定めるところにより、次の各号の一に該当する個人又は団体に対して授与する。

- (1) 学業、人物共に優れ、他の学生の模範と認められたもの
- (2) 課外活動において、特に優秀な成績をおさめたもの
- (3) 研究活動において、特に顕著な業績をおさめたもの
- (4) 特に顕著な功績、善行があつたもの

2 大同大学奨励賞(以下「奨励賞」という。)は、表彰規程の定めるところにより、次の各号の一に該当する個人又は団体に対して授与する。

- (1) 課外活動において、優秀な成績をおさめたもの
- (2) 研究活動において、顕著な業績をおさめたもの
- (3) 顕著な功績、善行があつたもの

(対象とするものの定義)

第 4 条 前条第 1 項第 1 号に規定するものとは、学業奨励生及び在学生学業特別奨学生のいずれかを 2 年次から 4 年次まで継続したものとする。

2 前条第 1 項第 2 号に規定するものとは、在学期間を通じて課外活動の発展に特に貢献したものとする。

3 前条第 1 項第 3 号に規定するものとは、在学期間を通じて研究の発展に特に貢献したものとする。

4 前条第 1 項第 4 号に規定するものとは、在学期間を通じて特に顕著な功績、善行があつたものとする。

5 前条第 2 項第 1 号に規定するものとは、国際大会の出場者又は全国大会の入賞者若しくはこれに準ずる成績をおさめたものとする。

6 前条第 2 項第 2 号に規定するものとは、次の各号のとおりとする。

- (1) 国際的又は全国的な学会等で本学の名誉を高める顕著な業績をおさめたもの
- (2) 卒業後、在学中の研究活動業績により、顕著な功績があつたもの

7 前条第 2 項第 3 号に規定するものとは、次の各号のとおりとする。

- (1) 学内又は学外における社会貢献等の活動実績が、本学の名誉を高める模範的な行為として認められたもの
- (2) 前号及び第 5 項から第 6 項に掲げるほか、優れた業績又は功績があつたもの

(推薦方法)

第5条 表彰の推薦は、第2条から第4条の規定に基づき学科等が行う。

2 推薦者は、次表のとおりとする。

賞の種類と区分	推薦者
第3条第1項第1号	学科又は専攻
第3条第1項第2号	学生部及び所属クラブの顧問又は監督
第3条第1項第3号	学科又は専攻
第3条第1項第4号	学生部
第3条第2項第1号	所属クラブの顧問又は監督
第3条第2項第2号	学科又は専攻
第3条第2項第3号	学科、専攻又は学生部

3 推薦の時期は、次の各号のとおりとする。

(1) 学長賞 原則として、毎年2月とする。

(2) 奨励賞 随時とする。ただし、推薦の事由が発生した日より、原則2ヶ月以内とする。

(表彰時期等)

第6条 表彰の時期は、次の各号のとおりとする。

(1) 学長賞 学位記授与式

(2) 奨励賞 その都度速やかに行う

2 前項の規定にかかわらず、学長が特に必要があると認めた場合は、随時行うことができる。

3 受賞者には、表彰状及び副賞を授与する。

(委任)

第7条 この細則に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学クラブ活動表彰基準要項

(趣旨)

第1条 大同大学表彰規程内規第2条第2号に基づき大同大学クラブ活動表彰基準を設ける。

(対象)

第2条 表彰の対象となる個人又は団体は、大同大学クラブ委員会（以下「クラブ委員会」という。）に認可されたクラブに所属し、クラブ活動実績、人物共に優れ、他の学生の模範とするに足るものとする。

2 表彰対象となる個人又は団体は、クラブ委員会にクラブ活動結果報告書及びその他の書類を提出しているものとする。

(奨励金及び表彰クラブ数)

第3条 団体表彰：最優秀賞3万円、優秀賞2万円、奨励賞1万円、特別賞1万円の、各クラブへクラブ活動費として支給する。

2 個人表彰：個人賞5千円相当の金品を支給する。

3 表彰クラブ数は、特に制限は設けないものとする。

4 団体表彰は各賞を重複せず、基準が重複した場合は、最も上位の内容で表彰することとする。

(表彰基準)

第4条 表彰基準は、原則として、次のようにする。

(1) 最優秀賞

ア 国際大会に出場

イ 全国大会で入賞または全国大会に準ずる大会で入賞（運動系クラブは上位3位までとする）

ウ その他、クラブの発展がめざましく、学生部の推薦のあったクラブ

(2) 優秀賞

ア 下部団体から、最上部団体へ昇格

イ 全国大会に準ずる大会で入賞

ウ 最上部団体に所属し、地区大会で優勝

エ その他、クラブの発展がめざましく、学生部の推薦のあったクラブ

(3) 奨励賞

ア 下部団体から、上部団体へ昇格

イ 地区大会で優勝

ウ 社会貢献活動等の活動が顕著

エ 昨年度の表彰内容よりも好成績を残す

オ その他、クラブの発展がめざましく、学生部の推薦のあったクラブ

(4) 個人表彰

ア 県等で組織する団体の代表選手に選出

イ 各大会等で個人賞の受賞（個人や各店舗などが主催する小規模の大会は除く）

ウ その他、クラブの発展に貢献し、学生部の推薦のあったもの

(選考)

第5条 表彰クラブの選考は、第2条の対象クラブのうちから学生委員会の議を経て学生部長が決定する。

(決定時期)

第 6 条 表彰クラブの決定は 1 2 月の学生委員会とし、表彰は 1 月のクラブ活動報告会とする

(課外活動の発展)

第 7 条 第 6 条に規定するクラブ活動報告会において、在学期間を通じて 2 回以上個人表彰を受賞したものについては、課外活動の発展に特に貢献したものとして、大同大学表彰規程内規第 2 条第 2 号イに基づき、表彰候補者として学生委員会に推薦する。

(事務局)

第 8 条 クラブ表彰に関する事務は、学生室が行う。

大同大学厚生施設使用規則

(昭和 47 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 50 条第 2 項の規定に基づく大同大学の厚生施設(以下「厚生施設」という。)については、この規則の定めるところによる。

(厚生施設)

第 2 条 厚生施設は、次の施設をいう。

- (1) 学生ホール
- (2) 自習室
- (3) ロッカー室
- (4) シャワー室
- (5) 食堂
- (6) 売店
- (7) カフェ&カレー
- (8) ミーティングルーム
- (9) 木曽駒ゼミナールハウス

(使用の目的)

第 3 条 厚生施設は、学生及び職員が研修、休憩、談話、食事、自習その他会合等にそれぞれの目的に沿って使用することができる。

(使用の許可)

第 4 条 前項以外の目的で厚生施設を使用するときは、使用責任者が事前に学生部長の許可を得るものとする。

(使用上の注意事項)

第 5 条 厚生施設を使用するときは、次の事項を守らなければならない。なお、違反した場合には使用を取り消し、許可しないことがある。

- (1) 施設、設備、機器、備品等の保全に努めること
- (2) 施設内外の美化整頓に努めること
- (3) 火気の使用及び喫煙は、所定の場所とし、火災予防に努めること
- (4) 電気、水道を使用するときは、節約に努めること
- (5) 他の使用者に迷惑を及ぼさないこと
- (6) 職員の指示は、必ず守ること
- (7) 上記のほか別に定める各施設の使用に関する心得等を遵守すること

(使用時間)

第 6 条 厚生施設の使用時間は、別表のとおりとする。ただし、休業日及び授業が行われない日は、その都度定める。

(木曽駒ゼミナールハウス)

第 7 条 第 2 条第 9 号の木曽駒ゼミナールハウスの使用規則は、別に定める。

(事務)

第 8 条 厚生施設の運営に関する事務は学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

別 表

平日

施設名	使用時間
学生ホール	8 時 40 分～21 時 00 分
自習室	8 時 40 分～21 時 00 分
ロッカー室	8 時 40 分～17 時 50 分
食堂	10 時 00 分～14 時 00 分 16 時 00 分～18 時 00 分
売店	8 時 30 分～18 時 00 分
カフェ&カレー	9 時 00 分～19 時 00 分

ただし、上記施設の時間外、土曜日、日曜日及び祝祭日等については、学生部長の許可をうけて使用することができる。また、ミーティングルームは、学生部長の許可をうけて使用することができる。

大同大学運動施設使用規則

(昭和 50 年 9 月 8 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 50 条第 2 項の規定に基づく大同大学(以下「本学」という。)の運動施設(以下「運動施設」という。)については、この規則の定めるところによる。

(運動施設)

第 2 条 運動施設は、次の施設をいう。

- (1) 東小山運動場
- (2) 元浜運動場
- (3) 石井記念体育館
- (4) スポーツコート

(使用の順位)

第 3 条 運動施設は、本学の授業及び本学学生の課外活動に使用することとし、本学の授業の使用が優先する。

2 前項の使用に支障をきたさない範囲において、前項以外の目的に使用することができる。

(使用の許可)

第 4 条 運動施設を使用するときは、使用責任者が事前に学生部長の許可を得るものとする。

(使用上の注意事項)

第 5 条 運動施設を使用するときは、次の事項を守らなければならない。なお、違反した場合には使用を取り消し、許可しないことがある。

- (1) 施設、設備、機器、備品等の保全に努めること
- (2) 施設内外の美化整頓に努めること
- (3) 火気の使用及び喫煙は、所定の場所とし、火災予防に努めること
- (4) 電気、水道を使用するときは、節約に努めること
- (5) 他の使用者に迷惑を及ぼさないこと
- (6) 担当職員の指示は、必ず守ること
- (7) 上記のほか別に定める各施設の使用に関する心得等を遵守すること

(事務)

第 6 条 運動施設の運営に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同学園運動施設使用規則

(昭和 55 年 2 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同学園運動施設管理運営委員会規程第 6 条に定める大同学園運動施設(以下「運動施設」という。)の使用は、この規則の定めるところによる。

(使用の目的)

第 2 条 運動施設は、本学園の学生・生徒の正課体育、学校行事及び特別課外活動等に使用することを原則とする。

(使用の許可)

第 3 条 運動施設を使用する時は、使用責任者が事前に運動施設使用願を提出し、管理責任者の許可を得るものとする。

(使用上の注意)

第 4 条 運動施設の使用は、管理責任者の指示に従わなければならない。なお、違反した場合には使用を禁止することがある。

第 5 条 運動施設・器具を破損した時は、速やかに管理責任者に届け出なければならない。なお、故意又は過失により、運動施設又は器具を破損した場合は、相当の弁償をさせることがある。

(運動施設の使用調整)

第 6 条 運動施設を使用するための調整は、次による。

- (1) 正課体育上の場合は、運動施設管理運営委員会において調整を行う。
- (2) その他の場合は、本部総務室で調整を行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学課外活動に関する規程

(昭和 63 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学(以下「本学」という。)における学生の課外活動については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 課外活動とは、学生会執行委員会、その他の学生会諸機関及び下部組織の行う日常活動並びに学生の文化及び体育関係諸団体の活動等、正課外の学生活動をいう。

(制限)

第 3 条 学生は、課外活動を行うにあたり、本学の教育と研究の妨げとならないよう、また学生としての本分を逸脱しないよう活動の節度を守らなければならない。

(諸団体の加入及び脱退)

第 4 条 課外活動団体の学外諸団体への加入、脱退は、学生部長の承認を必要とする。

(顧問等)

第 5 条 部、同好会、研究会(以下「クラブ」という。)の指導及び助言を行うため顧問を置かなければならない。

2 顧問を補佐し技術面の指導を行う技術指導員として、監督を置くことができる。

3 技術指導員補佐として、コーチ、トレーナー、アドバイザー(以下「コーチ等」という。)を置くことができる。

4 顧問、監督、コーチ等に関する細則は、別にこれを定める。

(顧問委員会)

第 6 条 課外活動の健全な発展とその活動の円滑を期するため、顧問会議を置く。

2 顧問会議の内規は、別に定める。

(援助)

第 7 条 課外活動の健全な発展、推進、奨励とその活動の円滑を期するため、本学は、必要な援助をすることができる。

2 課外活動援助に関する内規は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学課外活動援助に関する内規

(昭和 63 年 3 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学課外活動に関する規程第 7 条第 2 項に基づく課外活動援助については、この内規に定めるところによる。

(対象)

第 2 条 援助の対象は、次のとおりとする。

- (1) 学生連盟等の連盟等登録費
- (2) 大会等参加費
- (3) クラブ員の大会参加旅費
- (4) 顧問・監督・コーチ等の旅費
- (5) 物品購入費
- (6) 懇親会費用
- (7) クラブ活動報告会の費用
- (8) 祝勝会等の開催援助については、別に定める。
- (9) スクールバスの運行援助については、別に定める。
- (10) その他学生委員会にて必要と認めたもの
(連盟等登録費)

第 3 条 連盟登録費については、クラブ活動上加入が必須の連盟・団体及び協会等の登録にかかる費用を全額援助する。

2 前項に規定するクラブ活動上加入が必須の連盟・団体及び協会等とは、クラブが県大会、地区大会および全国大会に出場するために登録が必要な連盟・団体及び協会等をいう。

3 前項に規定する連盟・団体及び協会等以外の登録にかかる費用の援助については学生委員会で審議の上、決定する。

(大会等参加費)

第 4 条 大会等参加費については、西日本大会以上又はそれに準ずる規模でおこなわれる公式の大会若しくは発表会等の参加費を全額援助する。

2 申請は原則 1 クラブ 2 大会を限度とする。それ以上に申請する場合は学生部長の承認を必要とする。

(クラブ員の大会参加旅費)

第 5 条 クラブ員の大会参加旅費については、西日本大会以上又はそれに準ずる規模でおこなわれる公式の大会若しくは発表会等への参加にかかる旅費を参加者 1 名につき、1 日あたり 5,000 円を限度として援助する。

2 申請できる期間の範囲は、前日会議及び試合出場期間とする。ただし、片道 100km を超える場所で午前中に試合がある場合はその前日を、試合終了後現地を出発して 21 時までには大学に到着ができないと見込まれる場合その翌日を、申請期間に含めることができる。

3 申請できる人数は、次の各号のいずれかとする。

- (1) 大会要項等に定められている人数
- (2) 大会要項等に定められていない場合、実際に登録した人数

4 申請は原則 1 クラブ 2 大会を限度とする。それ以上に申請する場合は学生部長の承認を必要とする。

(顧問・監督・コーチ等の旅費)

第6条 顧問・監督・コーチ等の旅費については、大同学園旅費規程を準用し、交通費、宿泊費、日当相当を援助する。ただし、引率を必要とする期間に限る。

2 前項に規定する引率とは、学生が学外で活動する際に、指導・助言を目的として活動する場合をいう。

3 第1項に規定する引率を必要とする期間とは、学生が月間活動計画書により届出した学外活動期間とし、次の各号のいずれかとする。

(1)合宿の場合は、月間活動計画書により届出されている期間。

(2)試合の場合は、前日会議及び試合出場期間とする。ただし、試合終了後現地を出発して21時までで大学に到着ができないと見込まれる場合その翌日を含む。

(物品購入費)

第7条 物品購入費については、クラブ活動に要する1基、1個、1組、または1台の取得価格が10万円以上で耐用年数1年以上の物品の購入費を各クラブの活動状況を判断し、60%援助する。

2 ユニフォームの購入については、大会出場用ユニフォームの購入にかかる費用の50%を援助する。ただし、4年に1度申請できるものとする。

(懇親会費用)

第8条 懇親会費用については、次の各号を充たす懇親会の費用を参加者1名につき1,500円を上限に援助する。

(1)月間活動計画書で届出があること。

(2)クラブ活動活性化のため顧問同席のもとで実施していること。

2 懇親会費用の援助申請は、年間に1回限りとする。

3 懇親会費では飲食費・食材費のみを対象とする。

(クラブ活動報告会費用)

第9条 クラブ活動報告会費用については、クラブ委員会主催によるクラブ活動報告会に関わる費用を全額援助する。

(申請)

第10条 援助を希望するクラブ等は、所定の援助申請書類を学生室に提出する。ただし、第8条については、顧問が申請する。

(決定)

第11条 第3条及び第7条第1項の援助金額は、学生委員会で審議し、決定する。

附 則

< 省 略 >

大同大学クラブ顧問・監督・コーチ等に関する細則

(昭和 63 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学課外活動に関する規程第 5 条 2 項に基づく顧問、監督、コーチ等については、この細則の定めるところによる。

(選任)

第 2 条 顧問及び監督は、本学専任職員の中から選任する。コーチ等の選任は、本学専任職員とは限らないものとする。

(任期)

第 3 条 顧問、監督、コーチ等の任期は、2 年を越えないものとする。ただし、再任を妨げない。

(制限)

第 4 条 顧問は、原則として 3 クラブ以上の顧問を兼ねない。

2 監督については、他のクラブの監督を兼ねることはできないものとする。

(委嘱の要請)

第 5 条 顧問、監督、コーチ等の委嘱の要請は、再任、新任に関わらず、クラブ委員会を通じて任期終了一か月前までに学生部長に提出する。

(委嘱)

第 6 条 顧問は、本学専任職員の中から各クラブの要請に基づき、学生部長が委嘱する。

2 監督・コーチ等は、本学専任職員(コーチ等の場合は、本学専任職員とは限らない)から、学生部長が委嘱する。

附 則

< 省 略 >

顧問会議内規

(昭和 63 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学課外活動に関する規程第 6 条 2 項に基づく顧問会議（以下「会議」という。）については、この内規の定めるところによる。

(任務)

第 2 条 会議は、クラブ活動の推進・奨励に関することを協議する。

(組織)

第 3 条 会議は次の構成員をもって組織する。

1. 学生部長
2. 学生部次長
3. 学生室長
4. 顧問
5. クラブ委員会の中から若干名

(議長)

第 4 条 会議に議長を置く。

2 議長は、学生部長とする。

(招集)

第 5 条 会議は、学生部長が必要と認めたとき、これを招集する。

(事務局)

第 6 条 会議の事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学石井記念体育館使用者心得

(平成 11 年 3 月 1 日制定)

1. 休館日は土・日・祝日及び学生部長が必要と認めた日とする。ただし、学生部長の許可を得た場合には使用することができる。
2. 使用時間は、午前 8 時 40 分から午後 8 時 45 分までとする。ただし、学生部長が必要と認めた場合には変更する。
3. 使用は、あらかじめ A 棟学生室へ申し出て許可を受けること。ただし、当日の使用申請は管理室へ申し出て許可を得ること。
4. 館内では、上履き専用の履物(運動靴等)を使用すること。ただし、学生部長が認めた場合には、この限りではない。
5. トレーニングマシンの使用については、必ず各器具備え付けの使用マニュアルに従って使用すること。フリーウェイトについては必ず二人以上で使用すること。
6. 館内では、喫煙を禁止する。
7. 他の使用者に迷惑を及ぼさないこと。
8. 使用後は、整理整頓を心がけ、必ず清掃を行うこと。
9. 建物や施設、器具類を破損した場合は、速やかに体育館管理室へ届け出ること。場合によっては相当の弁償をしなければならない。
10. 使用にあたっては、学生室及び体育館管理室の指示に従うこと。

以上の心得を守らないときは、事後の使用を認めないことがある。

附 則

< 省 略 >

大同大学図書館利用規則

(平成2年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 大同大学図書館規程第7条に基づく大同大学(以下「本学」という。)図書館の利用に関する
とは、この規則の定めるところによる。

(利用者の範囲)

第2条 図書館を利用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学部学生
- (3) 本学の大学院学生
- (4) 本学の卒業生
- (5) 館長の特に許可した者

(開館・休館)

第3条 図書館は、次のとおり開館および休館する。

- (1) 開館時間

8時45分～19時00分ただし、館長が必要と認めた場合は変更することがある。

- (2) 休館日

次の日を休館とする。

ア 本学学則に定める休業日及び土曜日(春、夏、冬季休業日については、その都度これを掲示する。)

イ 館長が必要と認めた日(その都度これを掲示する。)

(閲覧)

第4条 図書館資料は、館内の所定の場所または閲覧室等にて自由に閲覧できる。

2 閲覧後の図書館資料は、必ず所定の位置に戻すこと。

(貸出・返却)

第5条 図書館資料の館外貸出(以下「貸出」という。)を希望する場合は、所定の手続きを取ること。

2 貸出手続きには、学生証等を必ず呈示すること。

第6条 貸出を禁止する図書館資料は、次のとおりとする。

- (1) 参考図書
- (2) 雑誌
- (3) 新聞
- (4) AV資料
- (5) 地図
- (6) その他館長が必要と認めた図書館資料

第7条 貸出対象者、冊数および期間は、次のとおりとし、期間内に返却すること。

- | | | |
|--------------|--------|-----------|
| (1) 本学の職員 | 100冊以内 | 当年度2月末日まで |
| (2) 本学の学部学生 | 10冊以内 | 2週間以内 |
| (3) 本学の大学院学生 | 30冊以内 | 3ヶ月以内 |
| (4) 本学の卒業生 | 3冊以内 | 1週間以内 |

2 貸出期間の更新は、返却期日までに手続きをすること。

- 3 春、夏、冬季休業日の学生の貸出期間は、延長する。その都度これを掲示する。
- 4 館長が特に必要と認めた場合は、冊数の増減および期間の延長・短縮等を行うことがある。
- 5 第2条に定める利用者がその資格を失ったときは、貸出期間中であつても直ちに貸出資料を返却しなければならない。

第8条 貸出中の図書館資料については、貸出または閲覧予約の手続きができる。

第9条 貸出中の図書館資料については、次の注意事項を厳守し、違反した場合にはその責を負うこと。

- (1) 延滞しないこと
- (2) 転貸借しないこと
- (3) 紛失、汚損しないこと

(文献複写)

第10条 図書館における文献複写は、教育又は研究の用に供することを目的とし、所定の手続きを経て行うこと。

2 文献複写は、著作権法に抵触しない範囲で行うものとし、また館長が不適当と認めた資料は複写できない。

(相互利用)

第11条 本学の職員、学部学生及び大学院学生の他大学等図書館利用については、当該機関の定めるところにより、館長が必要に応じ依頼することができる。

2 本学以外の図書館等からの利用申込については、館長が本学における研究及び教育に支障がないと認めた場合、本規則の定めるところにより応ずる。

(施設利用)

第12条 図書館施設の利用については、各施設の目的に応じ自由に利用できる。ただし、所定の手続きを必要とする施設もある。

(情報検索)

第13条 本学所蔵資料の検索については、所定の機器を使用して行うことができる。

第14条 他機関の提供する情報検索システムの利用については、所定の手続きをとること。

(遵守事項および罰則)

第15条 利用者は、諸規則ならびに館長の指示する事項を遵守し、館員の指導に従うこと。

2 前項を遵守できない者については、図書館の利用を制限し、又は学則により罰することがある。

(補則)

第16条 この規則に定めるもののほか図書館の利用に関する必要な事項については、図書委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学図書館利用細則

(平成2年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、大同大学図書館利用規則(以下「利用規則」という。)第16条の規定に基づき、大同大学図書館の円滑な利用を図るため必要な事項を定めることを目的とする。

(利用者の範囲)

第2条 利用規則第2条に定める利用者の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 本学の職員(以下「職員」という。)に含む者
 - ア 招へい研究者
- (2) 本学の学部学生(以下「学生」という。)に含む者
 - ア 学部の科目等履修生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生
- (3) 本学の大学院学生(以下「大学院生」という。)に含む者
 - ア 大学院の科目等履修生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生
- (4) 本学の卒業生(以下「卒業生」という。)に含む者
 - ア 修了生
- (5) 館長の特に許可した者
 - ア 第1号の職員を除く学園職員
 - イ 本学の非常勤講師
 - ウ 本学に在職していた者
 - エ 他大学の学生及び職員
 - オ 諸団体、企業等に所属する者等(その都度審査する。)
 - カ その他の18歳未満を除く社会人(その都度審査する。)
 - キ 高等学校在学学生

2 前項第5号のイからキの利用者は、その都度身分証明書等を提示し、許可を受ける。

イからウの希望者に、利用許可証(兼貸出許可証)を交付する。この許可証の有効期限は1年間とする。

(開館・休館)

第3条 利用規則第3条に定める開館日において、館長が必要と認めた場合、利用細則第2条第2項第5号エ、オ、カ、キに該当する利用者の利用を制限することがある。(その都度掲示する。)

2 利用規則第3条第2号に定める休業日のうち春、夏、冬季休業日については、土曜日を除く平日は開館とし、開館時間は図書委員会の審議を経て、館長が定める。ただし、館長が必要と認めた場合変更することがある。

(閲覧)

第4条 ブラウジングコーナー及びAVラウンジ等の資料は、許可なく所定の場所から持ち出して閲覧することができない。

2 閲覧後の図書館資料は、元の位置に戻すこと。ただし、図書返却台に置くこともできる。

(貸出・返却)

第5条 第2条第1項第5号に該当する者への貸出は、次のとおりとする。

- (1) アの該当者 20冊以内 1か月以内

(2) イ、ウの該当者 10 冊以内 1 か月以内

(3) エ、オ、カの該当者 3 冊以内 1 週間以内

第 6 条 貸出期間の更新は、一回とする。ただし、貸出又は、閲覧予約のない場合に限る。

第 7 条 貸出を禁止する図書館資料の特別貸出は、次のとおりとする。

(1) 参考図書

ア 職員・大学院生 5 冊以内 1 週間以内

(2) 新着雑誌

ア 職員・大学院生 3 冊以内 3 日以内

(3) 製本雑誌

ア 職員・大学院生 5 冊以内 1 週間以内

第 8 条 貸出又は閲覧予約手続者への連絡は、掲示等で行う。なお、予約の効力は、連絡後 5 日間とする。

第 9 条 貸出違反者の責任事項は、原則として次のとおりとする。

(1) 延滞： 超過日数に相当する期間の貸出停止

(2) 転貸借： 1 か月の貸出停止

(3) 紛失、汚損： 指定若しくは代替りの図書又は相当時価による弁償

(文献複写)

第 10 条 文献複写は、所定の機器で行うこと。

2 利用規則第 2 条第 4 号及び第 5 号の利用者の文献複写については、図書館事務室で所定の手続きを経て行うことができる。

第 11 条 文献複写料金は、モノクロ 1 枚 10 円、カラー 1 枚 50 円とする。ただし、他大学等からの文献複写依頼による複写料金は、モノクロ 1 枚 40 円、カラー 1 枚 100 円とする。

(相互利用)

第 12 条 利用規則第 11 条に基づく相互利用を円滑に運用するため、館長は、他大学図書館等と協定を結ぶことができる。

(施設利用)

第 13 条 AV ラウンジは、AV プース備付機器を使用し、配架資料に限り自由に利用できる。

第 14 条 グループ プースは、備付機器及び資料を使用し、定員 5 名以内で所定の手続きを経て利用できる。

第 15 条 ブラウジングコーナーは、新聞・軽雑誌類の閲覧及び休憩に利用できる。

第 16 条 グループ 閲覧室は、定員 8 名以内のグループが図書資料を使用するセミナー等の目的に利用できる。

2 利用者は、利用時間を予約表に記入する。

3 利用時間は、1 回 1 時間 30 分以内とし、他に利用者のない場合には延長することができる。

4 利用予約は、グループの責任者により 1 か月前からすることができる。ただし、職員が責任者の場合は、6 か月前からとする。

第 17 条 グループ AV 室は、定員 30 名以内のグループが備付機器を使用し、AV 資料によるセミナー等の目的に利用できる。

2 利用責任者は職員とし、利用申し込みを行う。

3 利用予約は、利用責任者により 6 か月前からすることができる。

第 18 条 学習閲覧室は、他の利用者の迷惑にならない範囲で、共同学習にも自由に利用できる。

第 19 条 研究者閲覧室は、職員及び大学院生が図書資料の閲覧又は研究等に利用できる。

第 20 条 研究個室は、職員及び大学院生が図書資料の閲覧又は研究等に 1 週間以内継続して利用できる。

る。

2 利用予約は、6 か月前からすることができる。

第 21 条 マイクロ資料室は、職員及び大学院生が備付機器を使用し、マイクロフィルム等の閲覧に利用できる。
(情報検索)

第 22 条 本学図書館と契約している他機関の提供する情報検索システムの利用は、次のとおりとする。

- (1) 利用者は、所定の申込書を提出する。
- (2) 情報検索料金は、当該システム提供機関との契約に基づき、利用者が負担する。
- (3) British Library Document Supply Service(BLDSS)の利用については、別に定める。

(遵守事項)

第 23 条 利用者は、次の事項を遵守する。

- (1) 図書館資料を破損したり、書き込み等により汚損しないこと
- (2) 図書館資料を許可なく館外に持ち出さないこと
- (3) 館内の設備、機器等を破損したり、所定の位置から移動しないこと
- (4) 談笑、音読、集会、娯楽行為等他の利用者に迷惑をかけること
- (5) 館内で喫煙又は飲食しないこと また携帯電話の電源を切ること
- (6) 印刷物を配布したり、貼り紙をしないこと
- (7) 下駄、スリッパ等で入館しないこと

(細則の改廃)

第 24 条 本細則の改廃については、図書委員会の審議を経て、館長がこれを行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学情報センター利用規程

(平成 11 年 4 月 1 日制定)

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 大同大学情報センター規程第 8 条の規定に基づく大同大学（以下「本学」という。）の情報センター（以下、「センター」という。）の施設、教育・研究用電子計算機システム（以下、「電算機システム」という。）及び大同大学キャンパスネットワーク（以下、「キャンパスネットワーク」という。）の利用については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 この規程において、センターの施設とは、センターが管理運営する演習室等をいい、電算機システムとは、センターが管理運営する電算機システムをいい、キャンパスネットワークとは、全学の利用に供する目的で敷設された通信網及び通信サービスシステムをいう。

2 第 1 項に規定する演習室等は次のものをいう。

- (1) コンピュータ演習室
- (2) コンピュータ自習室
- (3) その他施設

3 第 1 項に規定する電算機システムとは、センターの施設及び別に定めるサライに設置された電算機システムをいう。

4 第 1 項に規定するキャンパスネットワークは、次の情報通信にかかわる装置及び設備で構成する。

- (1) 外部機関との接続にかかる回線及び関連機器
- (2) 本学校舎間及び各建物間を接続する基幹ネットワークにかかる通信回線並びにその接続装置
- (3) 各建物内各室に設置する情報コンセントまでの通信回線及びその接続装置
- (4) 前各号の回線上で稼働するネットワークサービスを提供するための機器

(利用範囲)

第 3 条 センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークは、学術研究、教育及び本学の運営上必要な業務以外に利用することはできない。

(利用資格)

第 4 条 センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークを利用できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学生
- (3) 情報センター長（以下、「センター長」という。）が必要と認めた者

(利用申請)

第 5 条 センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークを利用しようとする者は、所定の利用申請手続を行わなければならない。

2 前項の規定にかかわらずセンター長が特に認めた場合には、所定の申請手続を省略することがある。

3 利用者は、申請内容に変更が生じた場合は、速やかに変更の申請手続を行わなければならない。

(利用報告)

第 6 条 センター長は、必要に応じ利用者にセンター利用状況の報告を求めることができる。

(利用者の遵守事項)

第 7 条 利用者は、センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークを利用するにあたって、次のことを遵守しなければならない。

- (1) 他人の正常な使用を阻害してはならない。
- (2) 公序良俗に反してはならない。

(3) センター職員の指示に従わなければならない。

2 利用者は、電算機システムを利用するにあたって、次のことを遵守しなければならない。

(1) ユーザー名、パスワードを厳重に管理し、他に漏らしてはならない。

(2) 電算機システム及び他の利用者のファイル等に障害を与える利用をしてはならない。

3 利用者は、キャンパスネットワークを利用するにあたって、次のことを遵守しなければならない。

(1) 他人の特許権、商標権、著作権等の知的財産権を侵害してはならない。

(2) 他人の名誉を毀損してはならない。

(3) ユーザー名、パスワードを厳重に管理し、他に漏らしてはならない。

(4) 第三者に対するいやがらせ及び脅迫的な情報、不確かな内容の情報を発信してはならない。

(5) Web ページ等を悪用して、社会通念に反する情報を発信してはならない。

(利用違反時の処置)

第 8 条 利用者が、前条の定めに違反した場合、又はセンターの運営に支障を生じせしめた場合、センター長は利用者に利用方法の是正勧告をする。

2 利用者が是正勧告に従わない場合、センター長は利用者の利用承認を取り消すことができる。

第 2 章 センターの施設

(開館時間)

第 9 条 センターの施設は、次のとおり開館、閉館する。

(1) 開館時間

8 時 30 分～18 時 00 分までとする。ただし、自習室については原則 20 時 45 分までとする。なお、センター長が必要と認めた場合は変更することがある。

(2) 休館日

次の日を休館とする。

ア、本学学則に規定する休業日及び土曜日。ただし、春、夏、冬季休業日については、その都度これを掲示する。

イ、センター長が必要と認めた日（その都度これを掲示する。）

第 3 章 電算機システム

(電算機システムを利用できる施設)

第 10 条 電算機システムは、センターの施設及びサテライトにおいて利用することができる。

(電算機システムの利用時間)

第 11 条 電算機システムの利用時間は、次のとおりとする。

(1) センターの施設の電算機システムの利用時間は、その開館時間とする。

(2) サテライトの電算機システムの利用時間は、施設を管理運営する部局が規定する。

第 4 章 キャンパスネットワーク

(利用時間)

第 12 条 キャンパスネットワークは常時利用できる。やむを得ず停止する場合は、事前に掲示するものとする。

第 5 章 雑 則

(細則)

第 13 条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関する細則は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学情報センター利用細則

(平成 11 年 4 月 1 日制定)

第 1 章 総 則

(趣旨)

第 1 条 大同大学情報センター利用規程（以下、「利用規程」という。）第 13 条の規定に基づく情報センター（以下、「センター」という。）の施設、教育・研究用電子計算機システム（以下、「電算機システム」という。）及び大同大学キャンパスネットワーク（以下、「キャンパスネットワーク」という。）の利用に関する細目は、この細則の規定するところによる。

(利用違反時の処置)

第 2 条 利用規程第 8 条第 2 項で規定するところにより利用承認を取り消された者については、次のとおりとする。

- (1) 教育職員の場合は、学長ならびに当該教育教員の所属する学部長、教養部長及び学科長に報告する。
- (2) 事務職員の場合は、法人本部長に報告する。
- (3) 学生の場合は、学生部長に報告する。

第 2 章 センターの施設

(センターの施設)

第 3 条 センターの施設及びその利用目的は、次のとおりとする。

施設名	室番号	利用目的
コンピュータ演習室 1	B0302	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 2	B0303	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 3	B0304	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 4	B0305	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 5	B0306	電算機システムを利用した授業及び自由利用
コンピュータ演習室 6	B0308	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 7	B0307	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 11	X0126	電算機システムを利用した授業及び自由利用
コンピュータ演習室 12	X0127	電算機システムを利用した授業及び自由利用
コンピュータ演習室 13	X0112	電算機システムを利用した授業及び自由利用

- 2 利用者は、第 1 項に規定する利用目的に従い施設を利用しなければならない。
- 3 第 1 項に規定する施設の内、授業として利用目的が規定された施設の利用申請及び変更申請は、教務室が行うものとする。
- 4 講習会、資格検定等で第 1 項に規定する施設を利用する者は、教務室の承認を経て所定の申請手続きを行わなければならない。

第 3 章 電算機システム

(利用申請)

第 4 条 利用規程第 5 条第 1 項に規定する利用申請手続の内、電算機システムの申請手続を行わなければならない者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 本学の非常勤講師
- (2) 本学の学外 TA

(3) 情報センター長（以下、「センター長」という。）が指定する者
(ファイル容量の制限)

第5条 本学の教育職員及び学生が使用できるファイル容量は、次のとおりとする。

- (1) 本学の教育職員 2GB
- (2) 本学の学生 2GB

2 センターおよびサテライト B の施設毎で教育職員と学生が 共有できるファイル容量は 2GB とする。
(電算機システムの利用)

第6条 電算機システムは、第3条第1項に規定する施設及びセンター以外の部局が管理運営する次のサテライトにおいて利用することができる。

- (1) 第3条第1項に規定する施設
- (2) センター以外の部局が管理運営する施設（以下、「サテライト」という。）

2 前項第2号に規定するサテライトは、その利用目的に応じ、次のとおり区分する。

- (1) 自由利用を目的としたサテライト（以下、「サテライト A」という。）
- (2) 授業利用を目的としたサテライト（以下、「サテライト B」という。）

3 サテライト A は、次のとおりとする。

サテライト名	室番号	部屋名等
サテライト A-1	A0214	自習室
サテライト A-2	———	図書館 1F

4 サテライト B は、次のとおりとする。

サテライト名	室番号	部屋名等
サテライト B-1	E0201	情報演習室Ⅱ
サテライト B-2	E0202	情報演習室Ⅲ
サテライト B-3	E0203	情報演習室Ⅳ
サテライト B-4	E0302	情報演習室Ⅵ
サテライト B-5	E0303	情報演習室Ⅶ
サテライト B-7	S0405	ロボット実習室 A
サテライト B-8	S0406	ロボット実習室 B

5 前項に規定する施設の授業利用に係る利用申請及び変更申請は、教務室が行うものとする。

6 第4項に規定するサテライト B にあつては、第2項第2号の規定にかかわらず、授業利用のない場合に限り、その管理運営する部局の定めるところにより、自由利用を認めることができる。

(プリンターの利用)

第7条 本学の学生は、プリンターを次の目的で利用することができる。

- (1) 授業中及び授業に関連する利用
- (2) クラブ活動等学生の諸活動に関連する利用

2 第1項の規定にかかわらずセンター長は、多量に印刷した利用者に対してその理由を確認することができる。

3 第1項第2号の規定にかかわらずカーププリンターの利用については、必要に応じセンター長が印刷の制限を設けることがある。

(アプリケーションソフトの利用)

第8条 次の全ての条件を満たすアプリケーションソフトは、授業に影響を与えないことを条件に、所定の手続きにより研究目的で利用することができる。

- (1) フローティングライセンス契約である
- (2) 販売元が同ライセンス契約において、研究目的での利用を認めている
- 2 アプリケーションソフトを研究目的で使用する場合は、ソフトウェア利用申請書にてセンター長の承認を得る。
- 3 アプリケーションソフトが学部の授業で使用されなくなつた時点で利用者に広報し、次のライセンス契約の更新をしない。

第4章 キャンパスネットワーク

(ネットワークサービス)

第9条 利用規程第2条第4項第4号に規定するネットワークサービスとは、次のものをいう。

- (1) WAN、LAN の利用
 - (2) 電子メール
 - (3) World Wide Web（以下、「Web」という。）を利用した情報公開
 - (4) 遠隔ログインによる接続
 - (5) Web を利用した情報の閲覧
- (機器等の接続)

第10条 キャンパスネットワークに機器等を接続できる者は、本学の職員及びセンター長が必要と認めた者とする。

2 前項に規定するセンター長が認めた者の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 本学の非常勤講師
- (2) 本学の大学院学生
- (3) 本学で開催する学会等の講師

3 キャンパスネットワークに機器等を接続しようとする者は、様式-1によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。ただし、無線ネットワークに接続し、インターネットのみを利用する場合は、様式8によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。ただし、本学の授業用IDを所有している者は申請を省略できる。

4 接続許可を受けた者は次のことを遵守しなければならない。

- (1) コンピュータウイルス感染防止対策等のセキュリティ対策を行うこと。
- (2) キャンパスネットワークまたはキャンパスネットワークに接続されている他の機器へ悪影響を与えないこと。
- (3) キャンパスネットワークに接続した機器についてセンター長から是正指示があつた場合は、その指示に従うこと。
- (4) 検疫システム実施の依頼があつた場合は実施すること。

5 第1項の機器等には、次のものは含めないものとする。

- (1) 本学の非常勤講師の個人所有の機器
- (2) 本学の大学院生の個人所有の機器
- (3) 前2号にかかわらず無線ネットワークに接続し、インターネットのみを利用する場合は個人所有の機器も認める。

(電子メール)

第11条 電子メールを利用しようとする本学の職員は、様式-2によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。

2 本学の学生の電子メールは入学と同時に利用することができる。

3 大同大学名誉教授の称号を授与された者は、退職後も所定の手続きにより電子メールを継続利用することができる。

4 前項の所定の手続きは次のとおりとする。

- (1) 利用期限が切れる前に、継続の意思表示をセンター長に行う。特に様式は定めない。
- (2) 継続期間は1年とする。

(Web を利用した情報公開)

第 12 条 Web を利用し情報公開ができるのは、利用規程第 4 条の規定に関わらず次の者とする。

(1) 学外に公開する場合は、本学の職員

(2) 学内に公開する場合は、本学の職員及び本学の学生

2 Web を利用した情報公開を行おうとする者は、様式-3 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。

3 前項により許可を受けた者は、センター長が指定する情報倫理に関する講習会を受講しなければならない。

4 利用できる Web サーバのファイル容量は、次のとおりとする。

(1) 本学の職員 50MB

(2) 本学の学生 5MB

(遠隔ログインによる接続)

第 13 条 遠隔ログインを行おうとする本学の職員及び学生は、様式-4 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。

(1) キャンパネットワークに接続した機器から、学外の機関に設置してあるコンピュータ等に遠隔ログインするとき。

(2) 学外からインターネットを経由して、キャンパネットワークに接続された機器に遠隔ログインするとき。

(Web を利用した情報の閲覧)

第 14 条 キャンパネットワークの利用者は、キャンパネットワークに接続されている端末から、Web を利用した情報の閲覧をすることができる。

(認証ネットワークの管理)

第 14 条の 2 教育職員の研究室等に敷設した LAN (以下、「認証ネットワーク」という。) をキャンパネットワークに接続する者は、次のことを遵守しなければならない。

(1) 認証ネットワークに接続する端末の MAC アドレス、端末名、端末の状況を認証サーバへ所定の方法で登録し、認証を受けること。

(2) 認証ネットワークに接続する端末の利用者は研究室等の管理者の指示に従うこと。

(3) 特別な理由がある場合を除き、認証ネットワークを利用して独自無線局を構築しないこと。

(4) 前号の特別な理由とは教育、研究などで使用するために情報センターへ申請を行い、センター長が認めた場合をいう。

(プライベート LAN の管理)

第 15 条 教育職員の研究室等に敷設した LAN で前条の認証ネットワークに属さない LAN (以下、「プライベート LAN」という。) をキャンパネットワークに接続する者は、次のことを遵守しなければならない。

(1) プライベート LAN に接続する端末のホスト名は、「室番号+識別番号(自由)」とすること。

(2) プライベート LAN に障害が生じた場合は、キャンパネットワークに影響を及ぼさないように直ちに処置するとともに、センターに連絡しなければならない。

2 前項第 2 号において、キャンパネットワークに影響を及ぼした場合は、障害報告書をセンター長に提出しなければならない。

3 センター長は、障害の状況を情報委員会に報告するものとする。

第 5 章 雑 則

(細則の改廃)

第 16 条 本細則の改廃については、情報委員会の審議を経て、センター長がこれを行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学習支援に関する要項

(平成 30 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学教育開発・学習支援センター規程（以下「センター規程」という。）第 3 条第 3 号及び第 5 号に規定する高校までの学習範囲に係る「数学」、「理科（物理及び化学）」、「外国語（英語）」等の学習支援及び学習全般に係る学生からの相談の実施に関し必要な事項は、この要項の定めるところによる。

(学習支援の目的)

第 2 条 基礎学力不足の大同大学（以下「本学」という。）の学生に対して、大学での授業内容の前提となる高校までの学習範囲を学習指導し、本学の教育課程に規定する授業科目の学習が達成できるよう学習支援を行う。

(学習指導の方針)

第 3 条 学生を自立した学習者に育てることを学習指導の方針とする。

(学習支援の範囲)

第 4 条 前条に規定する学習支援とは、次項に規定する学習指導の対象科目を単元毎に体系的に教授すること（以下「学習指導」という。）及び学習全般に関する相談に応じること（以下「学習相談」という。）をいう。

2 学習指導の対象とする科目は、センター規程第 3 条第 3 号の定めるところにより、数学、物理、化学及び英語とし、「基礎数学セキ」「基礎理科セキ」及び「基礎英語セキ」を除く本学の教育課程に規定する授業科目の指導を目的とした学習指導は含めないものとする。

(学習指導の対象者)

第 5 条 学習指導の対象者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学習指導の対象とする学生は、本学の学部学生の 2 年次生までとする。ただし、教育開発・学習支援センター長（以下「センター長」という。）が必要と認めた場合には、3 年次以上を対象とすることができる。
- (2) 前号に規定するほか、センター長が必要と認めた者。

(学習指導の留意事項等)

第 6 条 学習指導は、通常の教授方法によるほか、次の各号に留意して行うものとする。

- (1) 教育開発・学習支援センター（以下「センター」という。）の講師（以下「講師」という。）は、学習指導を受ける者（以下「受講学生」という。）に自宅学習と自学自習の習慣を定着させるため、毎回受講学生に一定の宿題を与え、必ず次回にその確認と指導を行う。
- (2) 講師は、受講学生の理解度を測るため、随時確認テストを行う。
- 2 第 13 条に規定する講師主任及び各教科チームは、教養部の該当各系と密接に連携し、真に支援を必要とする学生の発掘に努めるものとする。
- 3 講師は、受講学生の学修（単位修得）状況を学期毎に把握し、学習指導の効果測定に努めるものとする。

(学習指導の時間及び期間並びに受講制限等)

第 7 条 学習指導は、第 12 条に規定するセンターの休館日を除き、第 1 時限から第 5 時限までの各時限で行う。

- 2 学習指導は、各学期約 3 カ月に亘り継続的に行うことを原則とする。
- 3 前 2 項に規定するほか、学習指導の時間及び期間に関し必要な事項は、センター長が定める。
- 4 受講学生一人あたりの最大受講コマ数は、週あたり 4 コマとする。
- 5 学習指導時間当たりの受講学生数は、複数人とするを原則とする。

(受講学生の出席義務)

第 8 条 受講学生は、指定された学習指導時間に出席しなければならない。

- 2 受講学生は、前項の学習指導時間に欠席または遅刻する場合は、理由の如何に関わらず、必ずセンターに連絡しなければならない。
- 3 センターに連絡することなく欠席した場合には、受講の許可を取り消すことがある。

(学習指導の欠席の取扱)

第 9 条 受講学生が欠席した場合には、1 回目で注意、2 回目で嚴重注意とし、3 回目で受講の許可を取り消すものとする。

- 2 やむを得ないと認められる事情による欠席については、欠席として取り扱わないものとする。

(受講学生の遵守事項)

第 10 条 受講学生は、次の各号に規定する事項を遵守しなければならない。

- (1) 講師等の指導及び指示に従うこと
- (2) センター内で飲食しないこと
- (3) センター内で携帯電話を使用しないこと

(学習指導の申込)

第 11 条 学習指導を受けようとする学生は、指定された期間に所定の書式により申し込みを行い、センター長の許可を受けなければならない。

- 2 センター長が特に認めた場合には、前項に規定する申し込みを省略することができる。

(センターの開館時間及び休館日)

第 12 条 センターの開館時間及び休館日は、次の各号のとおりとする。

- (1) 開館時間
9 時 00 分～17 時 50 分。ただし、センター長が認めた場合は変更することがある。
- (2) 休館日
(ア) 本学学則に定める休業日及び土曜日。ただし、春季、夏季及び冬季休業日については、センター長がその都度これを定める。
(イ) センター長が必要と認めた日

(講師組織)

第 13 条 講師の組織化を図るため、センターの内部組織として講師主任並びに数学、理科及び英語の各教科にチーフを置く。

- 2 講師主任は、センター長の指示の下、各教科チーフとともに、指導方針、指導内容等の連絡・調整の任にあたる。
- 3 講師主任は、前項の連絡・調整を行うため、各教科チーフとともに、概ね週 1 回定常的な会合を行うものとする。

(雑則)

第 14 条 この要項に定めるもののほか必要な事項が生じた場合は、教育開発・学習支援委員会（以下「委員会」という。）の審議を経て、センター長が定める。

(要項の改廃)

第 15 条 この要項の改廃は、委員会の審議を経て、センター長が行う。

附 則

< 省 略 >

環境美化の心得

平成 15 年 4 月 1 日制定

喫煙について

1. 喫煙は、灰皿の設置された所定の場所ですること。
2. 歩行中の喫煙はしないこと。
3. 吸い殻は、所定の灰皿へ入れること。

ゴミについて

1. ゴミは、所定のゴミ箱へ分別して捨てること。
2. 飲料、麺類の汁等を残したまま捨てないこと。
3. 落ちているゴミは、拾って所定のゴミ箱へ捨てよう。

掲示物等について

1. 掲示物は、各担当部署で承認印を受けて、所定の掲示板に掲示すること。
2. 看板、のぼり旗等は、大学の許可を受けて、許可された場所に設置すること。
3. ビラ、チラシ等は、大学の許可を受けて配布すること。
4. 掲示物等は、大学周辺においても大学の許可を受けること。

施設・設備等について

1. 大学及び大学周辺地域の施設・器具等を破損、汚損しないこと。

施設利用の心得

平成 15 年 4 月 1 日制定

駐 輪 場

1. 自転車の駐輪は、滝春第 2 駐車場内の自転車専用駐輪場を利用すること。所定の場所以外、また、路上等には絶対に止めないこと。
2. バイクの駐輪は、滝春第 1 駐車場内のバイク専用駐輪場を利用すること。所定の場所以外、また、路上等には絶対に止めないこと。
3. 駐輪場内では、喫煙・飲食をしないこと。
4. 不要となった自転車、バイクを放置しないこと。
5. 駐輪場の利用は、整理して駐輪し、他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
6. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

駐 車 場

1. 自動車の駐車は、滝春第 1 駐車場を利用すること。所定の場所以外、また、路上等には絶対に止めないこと。
2. 駐車場内では、喫煙・飲食をしないこと。
3. 車通学は、真に必要なある場合に限るものとし、できる限り自粛するものとする。
4. 駐車場の利用は、事前に学生室で学生証を提示の上、駐車カードを購入すること。
5. 駐車場の長期利用、また、車を放置しないこと。
6. 駐車場の利用は、指定枠内に駐車し、他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
7. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

食堂・学生ホール

1. 飲食は、食堂・学生ホール等の所定の場所ですること。
2. 食堂・学生ホールでは、喫煙をしないこと。
3. 食器類は大切に扱い、使用後は指定場所に返却すること。
4. 食堂・学生ホールの卓上に、ペットボトル、ゴミ等を放置しないこと。
5. 混雑時の利用においては、席の譲り合い等を心がけること。
6. 施設の目的外の利用はしないこと。
7. 他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
8. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

ロッカー室

1. ロッカー室・ロッカーの使用は、清潔・整理・整頓を心がけること。
2. ロッカー室では、喫煙・飲食をしないこと。
3. ロッカー室の備品は、外部へ持ち出さないこと。
4. ロッカーの使用は、当日限りで、翌日まで使用しないこと。
5. 金品等貴重品は、ロッカー内に保管しないこと。
6. ロッカーの上に、傘・靴・ペットボトル等を放置しないこと。
7. ロッカー内に、物品の放置をしないこと。
8. 他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
9. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

自習室・ミーティングルーム

1. 自習室・ミーティングルームの利用は、清潔・整理・整頓を心がけること。
2. 自習室・ミーティングルームでは、喫煙・飲食をしないこと。
3. 自習室・ミーティングルームの備品を外部へ持ち出さないこと。
4. 他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
5. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

環境美化の心得及び施設利用の心得違反に対する処罰要項

平成 15 年 4 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 環境美化の心得及び施設利用の心得(以下「心得」という。)に違反した場合の処罰については、この要項の定めるところによる。

(処罰の対象)

第 2 処罰の対象となる事項は次のとおりとする。

- (1) 心得に著しく違反する行為をした場合。
- (2) 心得に違反する行為を繰り返した場合。

(処罰)

第 3 第 2 に該当する者に対しては、違反の程度に応じて下記のとおり注意、処罰を行う。

- (1) 本人に対して学生部長から嚴重注意を行うとともに、指導教員から直接指導する。
- (2) 本人と保証人を呼び出し、学生部長から嚴重注意を行うとともに、指導教員から直接指導し、保証人連署により反省文を提出させる。
- (3) 学則第 39 条第 4 号の規程に基づく懲戒の対象として、学生委員会にて審議する。

附 則

< 省 略 >

大同学園ハラスメント規程（抜粋）

（平成 21 年 1 月 1 日制定）

第 1 章 総則

（趣旨）

第 1 条 本規程は、学校法人大同学園（以下、「学園」という。）就業規則第 43 条第 11 号に基づき、学園の構成員に関わるハラスメントの発生を防止し、排除するための措置並びにハラスメントに関する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下、「ハラスメントの防止等」という。）に関する必要な事項を定めるものである。

（基本宣言）

第 2 条 ハラスメントは、個人の人権を侵害するものであり、絶対にあつてはならないものである。学園は、すべての構成員が、個人として尊重され、公正で快適な環境の下で勉学に専念し、職務に従事することができるよう、ハラスメントの防止に最大限努めるとともに、万一ハラスメントが発生した場合は、これに対し厳正・適切に対処する。

2 学園は、前項の目的を達成するために、学園及び大同大学（以下、「大学」という。）並びに大同大学大同高等学校（以下、「高校」という。）について、それぞれハラスメントの防止等委員会を設置する。

（定義及び適用範囲）

第 3 条 本規程において「ハラスメント」とは、相手の意に反する不適切な言動（不作為を含む。）により相手を不快にさせ、不利益や損害を与えることによつて、学園で学び、研究し、働く環境を悪化させることをいう。

2 本規程において「構成員」とは、教育職員等（非常勤を含む。以下、「教育職員」という。）、事務職員等（技術職員、用務職員、嘱託職員、臨時補助員等を含む。以下、「事務職員」という。）、学生、生徒をいう。

3 本規程は、学園の構成員に関わるハラスメントの防止等に適用する。

（責務）

第 4 条 理事長は、学園におけるハラスメントの防止等に関し総括し、大学学長及び高校校長は、それぞれ当該組織においてハラスメントの防止等に関し総括する。

2 学園の構成員は、その相互間及び外部関係者（関係業者、就学又は就業上の関係等を有する者を含む。以下、「外部関係者」という。）に対し、ハラスメントを行つてはならない。

3 学園の構成員は、ハラスメントの防止等に努めるとともに、ハラスメントを許してはならない。

（プライバシー等の保護及び守秘義務）

第 5 条 ハラスメントに関する相談・苦情又は対策等の業務に携わる者は、当事者又は関係者のプライバシー、名誉その他の人権に配慮するとともに、知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

第 2 章 学園

< 省 略 >

第 3 章 大学

（適用範囲）

第 16 条 本章は、大学の学生及び教育職員に関わるハラスメントについて適用する。

（ハラスメントへの対応）

第 17 条 大学は、ハラスメントの問題に対して迅速かつ適切に問題の解決にあたるため、次の各号に定める事項について対応するものとする。

- (1) 相談体制に関すること
- (2) 苦情等に関すること
- (3) その他、大学として対応が必要と判断される事項

2 大学は、特に緊急性が高いと判断した場合には、前項各号の規定にかかわらず、緊急対応及び緊急措置を決定し、これを実施するものとする。

(大学ハラスメント委員会)

第 18 条 大学に、ハラスメントの防止等を図るため、ハラスメント防止等委員会(以下、「大学ハラスメント委員会」という。)を設置する。

2 大学ハラスメント委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) ハラスメントの防止等を図る企画及び啓発活動に関すること
- (2) ハラスメントに関する事実の認定及び苦情等措置に関すること
- (3) その他ハラスメントの防止及び排除に関すること

3 大学ハラスメント委員会は、事態が重大で緊急対応が必要な場合には、関係部署と協議のうえ、直ちに対応策を決定するものとする。

(大学ハラスメント委員会の組織)

第 19 条 大学ハラスメント委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 大学院研究科長
- (4) 教務部長
- (5) 学生部長
- (6) 大学事務部長
- (7) 学園総務部長
- (8) 学生室長
- (9) 人事室長
- (10) 本学の専任の職員の中から学長が指名する者 若干名 (性別に配慮する)

2 前項第 10 号の委員は、学長が委嘱し、その任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。また欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前々項の委員のほか、外部を含め委員長が必要と認める者を委員とすることができる。その委員は、学長が委嘱する。ただし、その任期は対象とする事案が終了するまでとする。

4 大学ハラスメント委員会に、委員長及び副委員長を置く。

5 委員長は、学長とする。副委員長は、委員長が大学ハラスメント委員会の同意を得て指名する。

6 委員長は、大学ハラスメント委員会を招集し、その議長となる。

7 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

8 大学ハラスメント委員会は、構成員の過半数の出席によつて成立し、決議は、出席委員の過半数をもつて行う。この場合、議長は議決権を有しない。可否同数の場合は、議長の決するところによる。

9 大学ハラスメント委員会は、外部を含め委員以外の者を必要に応じて出席させることができる。

(相談窓口)

第 20 条 大学は、ハラスメントに関する相談及び苦情等に対応するため、相談窓口として相談員を配置する。

2 相談員の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) ハラスメントに関する相談
- (2) 問題を解決するための方法についての説明及び情報の提供

3 相談員は、大学ハラスメント委員会の委員及び学園の構成員のうちから学長が委嘱した者とする。(性別に配慮する)

4 前項の学園の構成員のうち学長から委嘱された者の任期は、2 年とする、ただし、再任を妨げない。また欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 相談員は、相談の内容を直ちに書面をもつて大学ハラスメント委員会に報告しなければならない。

(苦情及び救済の申立)

第 21 条 構成員からハラスメントを受けた者は、大学に対し、苦情及び救済の申立をすることができる。

2 前項の規定により苦情及び救済の申立を行おうとする者は、書面に記載し、提出するものとする。た

だし、やむを得ず口頭による場合には、相談員が記録した書面に本人が署名するものとする。

(調査・調停部会)

第 22 条 ハラスメントに起因する問題が生じた場合、被害の調査及び苦情等に関して、具体的な措置を講じるため、大学ハラスメント委員会内にハラスメント調査・調停部会(以下、「調査・調停部会」という。)を設置することができる。

2 調査・調停部会は、大学ハラスメント委員会の委員の中から組織する。

3 委員長が必要と認めた場合、調査・調停部会に大学ハラスメント委員会の委員以外の者を加えることができる。

4 委員長は、組織された調査・調停部会の中から主査を指名する。

5 調査・調停部会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) ハラスメントの被害に関する調査及び調停に関すること

(2) その他ハラスメントの被害及び苦情等に関すること

6 調査及び調停の実施に関しては、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 調査は、当事者及びその他の関係者から公正な事情聴取を行うものとする。

(2) 調査は、原則として2か月以内に終了するものとする。

(3) 申立人が調査の途中で打ち切りを申し出た場合は、調査を終了するものとする。

(4) 調停が成立した場合は、書面で合意事項を確認するものとする。

(5) 調停は、当事者間の合意が成立する見込みがないと判断した場合又は当事者が調停の途中で打ち切りを申し出た場合は終了するものとする。

7 調査・調停部会は、調査・調停等の結果を書面でもつて大学ハラスメント委員会に報告し、必要に応じて再発防止に関する事項等を提言することができる。

(再調査)

第 23 条 申立人は、調査・調停部会の結果に対して不服がある場合は、大学ハラスメント委員会に再調査の申立をすることができる。大学ハラスメント委員会は、再調査の申立を審査し措置を協議する。

(ハラスメントの行為に対する措置等)

第 24 条 大学ハラスメント委員会は、修学上及び就労上の環境改善を行うことが必要であると認めた場合は、必要な措置を講じるよう学長に要請する。また、処分の検討が必要であると認めた場合、その手続の開始を、教育職員については理事長、学生については大学院運営委員会又は学生委員会に対し要請する。

(事務局)

第 25 条 大学ハラスメント委員会及び相談窓口の事務は、大学学生室または総務部人事室が行う。

第 4 章 高校

< 省 略 >

第 5 章 雑則

(規程の改廃)

第 36 条 この規程の改廃は、理事会が行う。

(その他)

第 37 条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

